

[保健福祉事業]

医薬品による重篤かつ希少な健康被害者に係る
Q O L 向上等のための調査研究事業報告書

【令和 3 事業年度報告書】

令和 5 年 3 月

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構

はじめに

独立行政法人医薬品医療機器総合機構の保健福祉事業の一環として、平成 17 年度に実施した医薬品の副作用による健康被害実態調査の結果を踏まえ、障害者のための一般施策では必ずしも支援が十分でないと考えられる重篤かつ希少な健康被害者の Q O L の向上策及び必要なサービス提供の在り方等を検討するための資料を得るため、健康被害を受けられた方々の日常生活の様々な取り組み状況を報告していただく調査研究事業を実施するにあたり、有識者の方からご意見をいただくために平成 18 年 4 月に「医薬品による重篤かつ希少な健康被害者に係る Q O L 向上等のための調査研究班」を設置しました。

本報告書は、令和 3 年 4 月から令和 4 年 3 月までの日常生活の状況等について調査を実施してその結果をとりまとめたものです。

日常生活の状況等の調査の実施に当たっては、健康被害を受けた方や家族の方々のご協力をいただき心から感謝を申し上げます。

〔医薬品による重篤かつ希少な健康被害者に
係るQOL向上等のための調査研究班〕

小 澤 温	筑波大学大学院・人間総合科学研究科 教授（生涯発達専攻）
金 子 美 子	京都府立医科大学呼吸器内科・教育センター 講師（呼吸器内科学）
高 橋 孝 雄	慶應義塾大学医学部教授（小児科学）
坪 田 一 男	株式会社坪田ラボ 代表取締役社長（眼科学）
松 永 千恵子	国際医療福祉大学医療福祉学部教授（社会福祉学）

目 次

I 医薬品による重篤かつ希少な健康被害者に係るQOL向上等のための調査研究事業の実施概要	1
1. 目 的	3
2. 事業内容	3
II 生活状況調査結果のとりまとめについて	5
(1) A票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要	8
■ 使用している点眼液について（SJS の健康被害者の方のみに質問）	8
■ 福祉サービスの利用状況について（SJS の健康被害者の方のみに質問）	10
■ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスの利用状況について（SJS の健康被害者の方のみに質問）	11
① 同行援護	11
② 就労移行支援	11
③ 就労継続支援 A 型	12
④ 就労継続支援 B 型	12
⑤ 上記以外のサービス	12
■ 介護保険制度に基づく福祉サービスの利用状況について	14
① 訪問介護	14
② 訪問入浴介護	15
③ 訪問看護	15
④ 訪問リハビリテーション	15
⑤ 居宅療養管理指導	16
⑥ 通所介護	16
⑦ 通所リハビリテーション	16
⑧ 短期入所	17
⑨ 送迎サービス	17
⑩ その他の福祉サービス	18
⑪ 福祉サービスの年間利用状況	19
■ 診察回数の状況について（SJS の健康被害者の方のみに質問）	20
⑫ SJS 専門医への診察回数の状況	20
⑬ SJS 専門医の診察で通院に係る交通費	20
⑭ 入院の有無	21
(2) B票（社会活動を中心とした調査）からみた生活状況の概要	22
■ 健康被害者の外出について	22
① 外出の頻度	22

①-1 外出に当たっての介助者	24
■ 外出に当たって困ること・不満に思うことについて	26
② 外出に当たって困ること・不満に思うことの有無	26
②-1 外出に当たって困ること・不満に思うこと	28
②-2 外出する上で工夫したこと【外出前の準備】（SJS の健康被害者の方のみに質問） ..	30
②-2 外出する上で工夫したこと【服装・持ち物】（SJS の健康被害者の方のみに質問） ..	32
②-2 外出する上で工夫したこと【移動手段】（SJS の健康被害者の方のみに質問）	34
②-2 外出する上で工夫したこと	36
■ 社会参加や社会活動について	37
③ 社会参加・社会活動等の状況	37
③-1 社会参加・社会活動等をしなかった理由（SJS の健康被害者の方のみに質問）	39
③-2 社会参加・社会活動等のきっかけ（SJS の健康被害者の方のみに質問）	41
③-3 社会参加・社会活動等の内容	42
■ 屋内での生活における工夫について	44
④ 屋内での生活における工夫の有無（SJS の健康被害者の方のみに質問）	44
④-1 屋内での生活における工夫【家のづくり等】（SJS の健康被害者の方のみに質問） ..	46
④-1 屋内での生活における工夫【補助用具等】（SJS の健康被害者の方のみに質問）	48
④-1 屋内での生活における工夫【衛生面等】（SJS の健康被害者の方のみに質問）	50
④-1 屋内での生活における工夫【区別方法】（SJS の健康被害者の方のみに質問）	52
④-2 屋内での生活における工夫	54
■ 日常生活について（SJS の健康被害者の方のみに質問）	55
⑤日常生活について	55
⑤-1 新聞や本を読むことの不自由さについて	55
⑤-2 目や目のまわりの痛み・不快感の程度について	57
⑤-3 ものが見えにくいため物事を思いどおりにやりとげられない場合	59
⑤-4 思いどおりにやりとげられないためイライラすることの有無	61
⑤-5 呼吸器領域に関する診断の有無	63
⑤-6 呼吸器に関する症状の有無	65
⑤-7 視力以外の状況【皮膚や爪に関する症状】	67
⑤-7 視力以外の状況【内臓機能に関する症状】	69
⑤-7 視力以外の状況【聴覚に関する症状】	71
⑤-7 視力以外の状況【眼科領域（視力障害以外）に関する症状】	73
⑤-7 視力以外の状況【口腔に関する症状】	75
⑤-7 視力以外の状況【精神的な症状】	77
⑤-7 視力以外の状況（その他の後遺症等）について	79
■ 主たる介護者の状況について	82
◎主たる介護者	82
⑥主たる介護者の健康状態	83

⑥-1 主たる介護者の健康状態 詳細	85
⑦ 介護をしていく中で困ったことの有無	88
⑦-1 介護をしていく中で困ったこと	90
⑦-2 困ったことがあった場合、誰かに相談したか	92
⑦-3 解決策の有無	94
⑦-4 困ったことの解決策	96
⑦-5 困ったことの解決方法	98
⑧ 主たる介護者を支えるものの有無	99
⑧-1 介護者を支えるもの 具体的内容	101
⑨ 介護者の社会参加・社会活動等の状況	102
⑨-1 介護者の社会参加・社会活動等をしなかった理由（SJS の健康被害者の方のみに質問）	104
⑨-2 介護者の社会参加・社会活動のきっかけ（SJS の健康被害者の方のみに質問）	106
⑨-3 介護者の社会参加・社会活動等の内容	107
⑩-1 新しい発見や気分転換について	111
(3) C票（過去1年間の日常生活状況調査）からみた生活状況の概要	112
■ 治療状況	112
① 健康被害を受けた方の治療状況	112
② 副作用の疾患以外で治療を受けるときに注意していること	113
②-1 通院時に注意している点	113
②-2 治療を受けるときに注意している点	115
②-3 治療を受けるときに困ったこと（SJS の健康被害者の方のみに質問）	116
②-4 その他注意している点	117
■ 過去1年間の日常生活について	118
③ 困ったことの有無	118
③-1 困ったことについて	119
③-2 困ったことがあった場合、誰に相談したか	121
③-3 解決策の有無	122
③-4 解決策について	123
③-5 解決方法について	124
④ 日常生活の満足度	125
④-1 満足度の理由について	126
④ 日常生活を満足にするために一番やりたいことについて	128
⑤-1 実現可能性	130
⑤-2 実現可能性の理由について	131
⑥ 日常生活における工夫点	132
⑦ 今後やってみたい余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動について（複数回答） ..	133
⑦-1 今後やってみたい活動についての情報取得元（複数回答）	134

■ 福祉サービスについて.....	135
⑧ 必要な福祉サービスについて（複数回答）	135
■ 必要な情報について.....	136
⑨ 必要な情報について（複数回答）	136
⑨-1 今必要な情報についての情報取得元（複数回答）	138
Ⅲ む す び.....	139
Ⅳ 参 考 資 料.....	143
Ⅴ 用語の解説.....	179
Ⅵ 保健福祉事業の一環として実施する調査研究報告書（生活状況調査票）	185
Ⅶ 健康状態報告書（診断書様式）	235
Ⅷ 自由欄に記載されたお悩み事項についてのFAQ	245

I 医薬品による重篤かつ希少な健康被害者に係るＱＯＬ向上等の ための調査研究事業の実施概要

医薬品による重篤かつ希少な健康被害に係る QOL向上等のための調査研究事業の実施概要

1. 目 的

独立行政法人医薬品医療機器総合機構の保健福祉事業の一環として、平成17年度に実施した医薬品の副作用による健康被害実態調査の結果を踏まえ、障害者のための一般施策では必ずしも支援が十分でないと考えられる重篤かつ希少な健康被害者のQOLの向上策及び必要なサービス提供の在り方等を検討するための資料を得ることを目的として、調査研究事業を実施した。

2. 事業内容

健康被害を受けられた方々の日常生活の様々な取り組み状況等について、調査票等により報告していただき、その内容について集計と解析・評価を行う。

(1) 事業実施時期

令和3年4月1日から令和4年3月31日

(2) 調査研究対象者

医薬品の副作用により重篤(障害年金受給相当)かつ希少な健康被害(ライ症候群及び重度のSJS)を受けた者

(3) 調査票の種別

A票(福祉サービスの利用状況についての調査)

B票(社会活動を中心とした調査)

C票(1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査)

D票(健康状態報告書(医師記入用))

①医薬品副作用被害救済制度における障害年金等受給者は、現況届に添付する診断書の写しを健康状態報告書として取り扱う。

②医薬品副作用被害救済制度の障害年金等受給者以外の者はD票(本調査研究事業用診断書)を提出する。

(4) 調査票の記入時期及び提出時期

調査票	記 入 時 期	提 出 時 期
A票	毎月の状況を末日に記入する。	3ヶ月分まとめて 7月、10月、1月、4月の各月の10日までに提出
B票	3ヶ月間の状況を四半期毎の（6月、9月、12月、3月）末日に記入する。	7月、10月、1月、4月の各月の10日までに提出
C票	1年間の状況を年1回3月末日に記入する。	4月10日までに提出
D票	年1回12月の健康状態を医師が記入する。	1月10日までに本人が提出

Ⅱ 生活状況調査結果のとりまとめについて

生活状況調査結果のとりまとめについて

1. 回答状況（各四半期共通）

各四半期における調査への回答状況（回収率等）は、以下のとおりである。

第1・四半期：65名中53名（回収率81.5%）うちライ症候群：6名、SJS：47名

第2・四半期：65名中52名（回収率80.0%）うちライ症候群：7名、SJS：45名

第3・四半期：65名中51名（回収率78.5%）うちライ症候群：6名、SJS：45名

第4・四半期：65名中54名（回収率83.1%）うちライ症候群：6名、SJS：48名

特段の記載がない限り、各四半期の集計に当たっての母数は上記のとおりである。

また、割合等の集計結果は端数処理（四捨五入）の関係で合計が一致しない場合がある。

2. 基本情報

表－1 男女・年代別（人数）

	10代以下	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	合計
男	0	0	2	1	2	9	4	5	3	26
女	0	0	2	0	3	8	5	8	4	30
合計	0	0	4	1	5	17	9	13	7	56

表－2 男女・疾病別（人数）

	ライ症候群	SJS	合計
男	3	23	26
女	4	26	30
合計	7	49	56

表－3 疾病・年代別（人数）

	10代以下	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	合計
ライ症候群	0	0	4	0	2	1	0	0	0	7
SJS	0	0	0	1	3	16	9	13	7	49
合計	0	0	4	1	5	17	9	13	7	56

3. 調査結果の概要

(1) A票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

■ 使用している点眼液について（SJS の健康被害者の方のみに質問）

○SJS の健康被害者が現在使用している点眼液は、表 1-1 のとおりである。なお、各月の延べの使用人数を示している。

表 1-1 現在使用している点眼液

点眼液	投与	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
① ソフトサンティア	両眼	19	19	20	23	23	23	22	20	21	24	23	22	21.6
	右眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	左眼	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
	合計	20	20	21	24	24	24	23	21	22	25	24	23	22.6
② クラビット	両眼	4	4	5	2	2	2	3	3	3	3	2	2	2.9
	右眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	左眼	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.9
	合計	4	5	6	3	3	3	4	4	4	4	3	3	3.8
③ ヒアレイン	両眼	3	3	3	3	3	3	4	3	4	3	3	2	3.1
	右眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	左眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	合計	3	3	3	3	3	3	4	3	4	3	3	2	3.1
④ フルメトロン	両眼	21	21	21	22	22	22	22	21	21	21	22	22	21.5
	右眼	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1.8
	左眼	1	1	1	1	1	1	0	0	0	1	1	1	0.8
	合計	24	24	24	25	25	25	24	23	23	23	24	24	24.0
⑤ 0.1%ヒアレインミニ	両眼	20	20	20	20	20	20	19	18	18	22	21	21	19.9
	右眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	左眼	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
	合計	21	21	21	21	21	21	20	19	19	23	22	22	20.9
⑥ リンデロン	両眼	3	3	3	2	2	2	2	2	2	4	4	4	2.8
	右眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	左眼	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	2	1.2
	合計	4	4	4	3	3	3	3	3	4	5	5	6	3.9
⑦ 0.3%ヒアレインミニ	両眼	8	8	8	6	6	6	7	7	7	6	6	6	6.8
	右眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	左眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	合計	8	8	8	6	6	6	7	7	7	6	6	6	6.8
⑧ 血清点眼	両眼	8	8	8	6	6	5	6	6	6	6	6	7	6.5
	右眼	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0.9
	左眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	合計	9	9	9	7	7	6	7	7	7	7	7	7	7.4
⑨ その他眼科処方薬	両眼	41	41	40	33	33	33	37	36	35	40	41	40	37.5
	右眼	3	3	3	2	2	2	1	2	4	4	3	4	2.8
	左眼	6	6	6	5	6	6	6	5	5	6	7	8	6.0
	合計	50	50	49	40	41	41	44	43	44	50	51	52	46.3
⑩ 涙点プラグ	両眼	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0.9
	右眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	左眼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	合計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0.9
SJS回答者数		53	53	53	53	53	53	54	54	54	53	53	53	—
点眼液投与患者数		46	46	46	47	46	46	47	47	46	48	46	46	—

□点眼液を使用している平均延べ人数では、フルメトロンが 24.0 人、ソフトサンティアが 22.6 人、0.1%ヒアレインミニが 20.9 人となっている。

○SJS の健康被害者が使用している点眼液の推移は、表 1－2 及び図 1－1 のとおりである。

表 1－2 使用している点眼液の推移

点眼液	平成28年度 平均	平成29年度 平均	平成30年度 平均	令和元年度 平均	令和2年度 平均	令和3年度 平均
① ソフトサンティア	22.6	21.5	21.6	22.8	23.4	22.6
② クラビット	10.3	9.5	7	7.5	5.4	3.8
③ ヒアレイン	3.4	3.4	3.9	4.7	2.1	3.1
④ フルメトロン	22.1	23.8	25.3	24.9	25.5	24.0
⑤ 0.1%ヒアレインミニ	19.7	19.4	21.3	19.1	19.9	20.9
⑥ リンデロン	4.7	4.1	3.6	3.7	3.3	3.9
⑦ 0.3%ヒアレインミニ	8.7	9.3	8.6	7.9	8.7	6.8
⑧ 血清点眼	7.6	7.6	7.2	6.6	7.0	7.4
⑨ その他眼科処方薬	65	64.7	70.2	64.6	43.8	46.3
⑩ 涙点プラグ	7.3	5.8	5.6	5.6	4.0	0.9

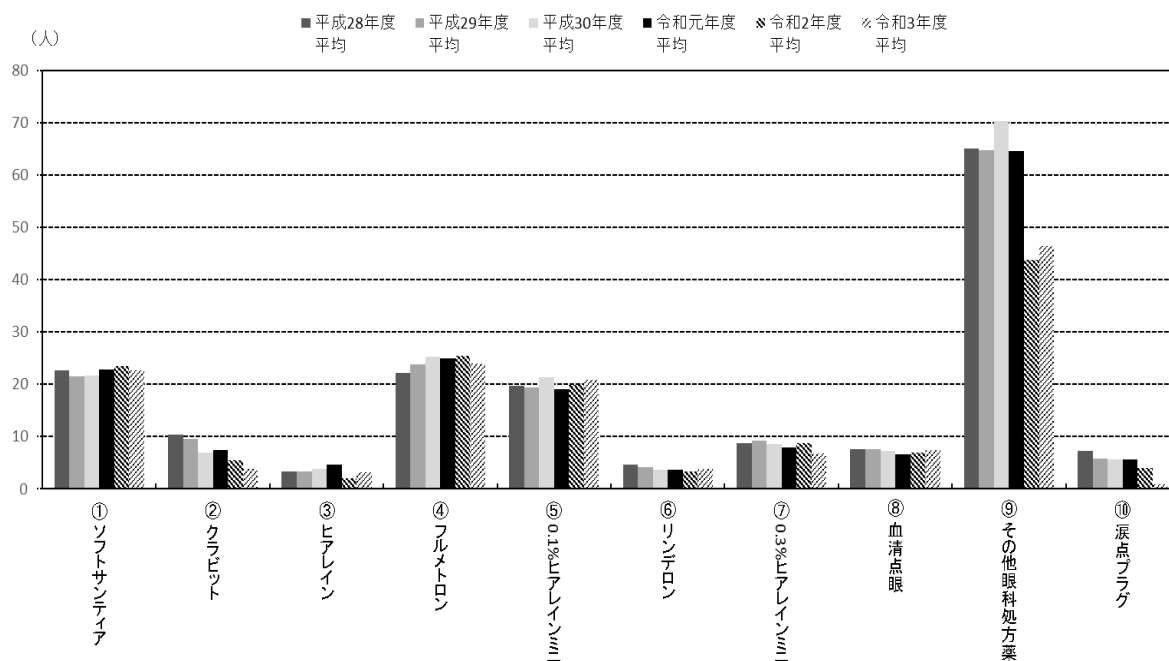


図 1－1 使用している点眼液の推移

■ 福祉サービスの利用状況について（SJS の健康被害者の方のみに質問）

○ 福祉サービスの利用状況は、以下のとおりである。

表 1-3 福祉サービスの月別の利用状況

利用状況(人)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
①障害者総合支援法に基づく福祉サービス	23	23	22	21	21	20	20	20	20	22	22	22	21.3
②介護保険制度に基づく福祉サービス	9	9	9	9	8	8	10	9	9	9	9	9	8.9
③上記①②以外の福祉サービス	4	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4.2

□ 利用者数は「①障害者総合支援法に基づく福祉サービス」は延べ 256 人で、平均では毎月 21.3 人が、「②介護保険制度に基づく福祉サービス」は延べ 107 人で、平均では毎月 8.9 人が、「③上記①②以外の福祉サービス」は延べ 50 人で、平均では毎月 4.2 人が利用している

○ 「③上記①②以外の福祉サービス」の主な具体的内容は、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・サピエ
- ・サピエ、市のタクシーチケット
- ・一部個人負担での福祉特別乗車券の支給
- ・音訳サービス、在宅訪問による P C サポート、国民健康保険制度に基づく在宅訪問介護（2 週間に一度のアレルギー皮下注射のサポート）
- ・音訳サービス、文字サービス、医療保険適用の訪問介護、処方薬の整理整頓やレピクセント皮下注射の介助
- ・音訳サービス、文字サービス、在宅訪問による P C サポート、個人点検サービス、パソコンによるテキストデータ訳サービス
- ・介護支援事業（高齢者支援センター）
- ・緊急介護人制度
- ・福祉特別乗車券の支給、委託事業による生活訓練

■ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスの利用状況について（SJS の健康被害者の方のみに質問）

○ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスの利用状況は、以下のとおりである。

なお、満足度の点数は、「不満」～「満足」を以下の４段階で評価する。

- ・ 満足： 4 点
- ・ やや満足： 3 点
- ・ やや不満： 2 点
- ・ 不満： 1 点

① 同行援護

○ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスのうち、同行援護の利用状況は、表 1-4 のとおりである。

表 1-4 同行援護の月別の利用状況

同行援護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者数（人）	14	13	14	14	13	12	15	13	13	14	15	15	13.8
平均利用日数（日）	5.1	5.2	5.0	6.1	6.3	6.0	6.3	6.2	6.2	6.1	5.3	5.5	5.8
満足度平均（4点満点）	3.5	3.5	3.5	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.6	3.4	3.4	3.3	3.5

□ 利用者数は延べ 165 人で、平均では毎月 13.8 人が利用している

□ 平均利用日数は月に 5.8 日となっている

□ サービスに対する満足度は平均すると 3.5 点となっている

□ 満足度が高い理由としては「安心できる」、「安心して移動ができる」などをあげている

② 就労移行支援

○ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスのうち、就労移行支援の利用状況は、表 1-5 のとおりである。

表 1-5 就労移行支援の月別利用状況

就労移行支援	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者数（人）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
平均利用日数（日）	2.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.0
満足度平均（4点満点）	3.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.0

□ 利用者数は延べ 1 人で、平均 0.1 人が利用している

□ 平均利用日数は月に 2.0 日となっている

□ サービスに対する満足度は平均 3.0 点となっている

③ 就労継続支援 A 型

○ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスのうち、就労継続支援 A 型の利用状況は、表 1-6 のとおりである。

表 1-6 就労継続支援 A 型の月別の利用状況

就労継続支援A型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者数（人）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
平均利用日数（日）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
満足度平均（4点満点）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

☐ 本年度の利用者はなかった

④ 就労継続支援 B 型

○ 障害者総合支援法に基づく福祉サービスのうち、就労継続支援 B 型の利用状況は、表 1-7 のとおりである。

表 1-7 就労継続支援 B 型の月別の利用状況

就労継続支援B型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者数（人）	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0.5
平均利用日数（日）	—	—	—	—	—	—	20.0	20.0	20.0	12.0	12.0	16.0	16.7
満足度平均（4点満点）	—	—	—	—	—	—	3.0	3.0	—	—	—	—	3.0

☐ 利用者数は延べ 6 人で、平均 0.5 人が利用している

☐ 平均利用日数は月に 16.7 日となっている

☐ サービスに対する満足度は平均 3.0 点となっている

⑤ 上記以外のサービス

○ 上記①～④以外の障害者総合支援法に基づく福祉サービスの利用状況は、表 1-8 のとおりである。

表 1-8 その他障害者総合支援法に基づく福祉サービスの利用状況

上記以外のサービス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者数（人）	10	8	7	7	7	7	8	9	8	7	7	8	7.8
平均利用回数（回）	6.2	6.5	7.0	6.9	6.1	5.0	5.1	4.6	5.9	6.3	5.1	5.3	5.8
満足度平均（4点満点）	3.5	3.7	3.6	3.5	3.5	3.8	3.6	3.7	3.8	3.7	3.6	3.6	3.6

☐ 利用者数は延べ 93 人で、平均では毎月 7.8 人が利用している

☐ 平均利用日数は月に 5.8 日となっている

☐ サービスに対する満足度は平均すると 3.6 点となっている

☐ 満足度が高い理由としては「自分でできない事をして頂き助かっている」などをあげている

○具体的な「⑤上記以外のサービス」の内容は、以下のとおりである
(自由記載、順不同、複数記載)。

- ・お菓子教室
- ・フラワー教室
- ・ホームヘルパー
- ・印刷物やP C・スマホ類のサポート
- ・家事援助、印刷物の簡単な読み書き支援
- ・家事支援
- ・家事支援、お弁当配達
- ・家事支援、印刷物の読み書き
- ・家事支援、散歩、散髪、お弁当配達
- ・家事支援、粗大ごみ出し、買物
- ・家事支援、朗読CD貸出
- ・自宅訪問によるモニタリング調査
- ・水回りの掃除、副菜1品調理
- ・代読、代筆、家事援助、生活支援(コロナのため訪問回数を減らした)
- ・通院等介助
- ・同行援護、居宅支援、就労移行支援など全ての受給中の障害者総合支援サービスの利用者モニタリング聞き取り
- ・買物サービス

■ 介護保険制度に基づく福祉サービスの利用状況について

○ 介護保険制度に基づく福祉サービスの利用状況は、以下のとおりである。

なお、満足度の点数は、「不満」～「満足」を以下の４段階で評価する。

- ・ 満足： 4 点
- ・ やや満足： 3 点
- ・ やや不満： 2 点
- ・ 不満： 1 点

○ 併せて、平成 28 年度～令和 2 年度の平均値も示す。

① 訪問介護

○ 介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、訪問介護の利用状況および介護内容は、表 1-9、表 1-10 のとおりである。

表 1-9 訪問介護の月別の利用状況

訪問介護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	R2 平均	R1 平均	H30 平均	H29 平均	H28 平均
利用者数（人）	6	6	5	8	8	7	4	4	5	6	6	6	5.9	3.2	4.6	3.2	3.3	2.6
平均利用日数（日）	15.7	16.0	19.0	16.3	16.0	17.4	22.0	21.5	17.6	17.0	14.8	17.2	17.5	24.9	18.1	22.2	22.4	24.9
満足度平均（4点満点）	3.7	3.8	3.8	3.6	3.7	3.7	4.0	4.0	3.8	3.7	3.7	3.7	3.8	3.9	3.9	3.9	3.7	3.8

表 1-10 介護内容の月別の状況

介護内容（人）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	R2 平均	R1 平均	H30 平均	H29 平均	H28 平均
身体介護中心型	3	3	3	4	4	4	3	3	3	4	4	4	3.5	2.1	2.8	2.1	2.3	2.4
生活援助中心型	5	5	5	5	4	2	3	3	4	4	4	4	4.0	2.3	4.2	2.3	1.7	1.8
通院等乗降介助	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.2	0.1	0.4	0.2	0.8	0.1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1	0.0

□ 利用者数は延べ 71 人で、平均では毎月 5.9 人が利用している

□ 平均利用日数は月に 17.5 日となっている

□ サービスに対する満足度は平均すると 3.8 点となっている

□ 満足度が高い理由としては「安心できる」などをあげている

② 訪問入浴介護

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、訪問入浴介護の利用状況は、表 1-11 のとおりである。

表 1-11 訪問入浴介護の月別の利用状況

訪問入浴介護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	R2 平均	R1 平均	H30 平均	H29 平均	H28 平均
利用者数（人）	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0	2.4	3.0	2.8	2.8	3.0
平均利用日数（日）	16.5	15.0	18.5	19.5	19.0	17.0	13.0	19.0	18.5	18.0	17.5	16.0	17.3	18.9	19.4	18.6	18.3	17.3
満足度平均（4点満点）	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.3	3.4	3.4	3.5	3.4

- 利用者数は延べ 24 人で、平均では毎月 2.0 人が利用している
- 平均利用日数は月に 17.3 日となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 3.0 点となっている
- 満足度が高い理由としては「ヘルパーさんが慣れている」などをあげている

③ 訪問看護

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、訪問看護の利用状況は、表 1-12 のとおりである。

表 1-12 訪問看護の月別の利用状況

訪問看護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	R2 平均	R1 平均	H30 平均	H29 平均	H28 平均
利用者数（人）	3	3	3	4	4	4	4	4	3	4	4	4	3.7	3.0	3.3	2.7	2.9	1.8
平均利用日数（日）	5.3	5.0	5.0	4.5	4.0	4.3	4.8	4.8	5.7	4.5	4.0	4.8	4.7	4.8	5.0	4.6	5.7	5.8
満足度平均（4点満点）	3.7	3.7	3.7	3.3	3.5	3.5	3.8	3.8	3.7	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.4	3.8

- 利用者数は延べ 44 人で、平均では毎月 3.7 人が利用している
- 平均利用日数は月に 4.7 日となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 3.7 点となっている
- 満足度が高い理由としては「体調確認してもらい安心」などをあげている

④ 訪問リハビリテーション

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、訪問リハビリテーションの利用状況は、表 1-13 のとおりである。

表 1-13 訪問リハビリテーションの月別の利用状況

訪問リハビリテーション	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	R2 平均	R1 平均	H30 平均	H29 平均	H28 平均
利用者数（人）	4	4	4	4	4	4	5	5	5	4	4	5	4.3	3.7	4.4	4.7	4.8	4.4
平均利用日数（日）	8.0	6.8	7.5	7.3	7.0	7.3	5.6	7.6	7.0	6.3	6.3	6.4	6.9	7.6	7.6	7.3	6.7	7.4
満足度平均（4点満点）	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.4	3.4	3.4	3.5	3.5	3.4	3.4	3.3	3.2	3.2	3.2	3.3

- 利用者数は延べ 52 人で、平均では毎月 4.3 人が利用している
- 平均利用日数は月に 6.9 日となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 3.4 点となっている
- 満足度が高い理由としては「膝、腰の痛みの緩和」などをあげている

⑤ 居宅療養管理指導

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、居宅療養管理指導の利用状況は、表 1-14 のとおりである。

表 1-14 居宅療養管理指導の月別の利用状況

居宅療養管理指導	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	R2 平均	R1 平均	H30 平均	H29 平均	H28 平均
利用者数（人）	4	4	4	4	4	4	4	4	4	5	5	5	4.3	3.0	2.9	4.8	3.0	2.4
平均利用回数（回）	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.7	1.7	1.7	1.4	1.3	1.3	0.9	1.3	1.4
満足度平均（4点満点）	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.6	3.5	3.9	3.7	3.7

- 利用者数は延べ 51 人で、平均では毎月 4.3 人が利用している
- 平均利用回数は月に 1.4 回となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 3.7 点となっている
- 満足度が高い理由としては「血压、脈、SPO2、体温測定、脱水や熱中症対策や助言、体調確認をしてもらえる」などをあげている

⑥ 通所介護

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、通所介護の利用状況は、表 1-15 のとおりである。

表 1-15 通所介護の月別の利用状況

通所介護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	R2 平均	R1 平均	H30 平均	H29 平均	H28 平均
利用者数（人）	4	4	4	5	5	5	4	4	4	4	3	4	4.2	2.9	3.1	2.9	2.0	1.5
平均利用回数（回）	13.3	12.8	14.3	14.8	15.0	13.6	12.3	15.3	14.5	12.5	13.3	13.3	13.8	15.7	14.6	15.2	12.8	10.1
満足度平均（4点満点）	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.4	3.8	3.8	3.8	3.8	3.7	3.8	3.8	3.6	3.5	3.6	3.5	3.9

- 利用者数は延べ 50 人で、平均では毎月 4.2 人が利用している
- 平均利用回数は月に 13.8 回となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 3.8 点となっている
- 満足度が高い理由としては「食事、入浴が楽しみ」などをあげている

⑦ 通所リハビリテーション

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、通所リハビリテーションの利用状況は、表 1-16 のとおりである。

表 1-16 通所リハビリテーションの月別の利用状況

通所リハビリテーション	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	R2 平均	R1 平均	H30 平均	H29 平均	H28 平均
利用者数（人）	5	5	5	5	5	5	4	4	4	3	3	3	4.3	3.3	4.3	4.0	4.0	3.3
平均利用回数（回）	6.8	6.8	7.6	6.6	7.6	8.0	6.8	7.0	6.3	5.3	5.3	6.0	6.7	6.7	6.2	6.1	5.8	6.3
満足度平均（4点満点）	3.4	3.4	3.4	3.5	3.2	3.4	3.0	3.0	3.0	3.3	3.3	3.3	3.3	3.5	3.7	3.6	3.4	3.6

- 利用者数は延べ 51 人で、平均では毎月 4.3 人が利用している
- 平均利用回数は 6.7 回となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 3.3 点となっている

□満足度が高い理由としては「運動機能の訓練」、「介護予防のための体操のサービス」などをあげている

⑧ 短期入所

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、短期入所の利用状況および入所内容は、表 1-17、表 1-18 のとおりである。

表 1-17 短期入所の月別の利用状況

短期入所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	R2 平均	R1 平均	H30 平均	H29 平均	H28 平均
利用者数（人）	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0.6	1.4	1.1	1.5
平均利用回数（回）	—	1.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.0	1.0	2.3	3.0	1.0	1.1
満足度平均（4点満点）	—	3.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.0	3.0	3.3	3.3	2.7	2.5

表 1-18 入所内容の月別の利用状況

入所内容（人）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	R2 平均	R1 平均	H30 平均	H29 平均	H28 平均
短期入所療養介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.3	0.2	0.0	0.0
短期入所生活介護（ショートステイ）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.1	0.3	1.1	1.1	0.0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

- 利用者数は延べ1人で、平均では毎月0.1人が利用している
- 平均利用回数は月に1.0回となっている
- サービスに対する満足度は平均すると3.0点となっている
- 満足度が高い理由としては「家庭事情、慣れていないので少し不安」などをあげている

⑨ 送迎サービス

○介護保険制度に基づく福祉サービスのうち、送迎サービスの利用状況は、表 1-19 のとおりである。

表 1-19 送迎サービスの月別の利用状況

送迎サービス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	R2 平均	R1 平均	H30 平均	H29 平均	H28 平均
利用者数（人）	5	6	5	8	7	6	6	5	5	5	4	5	5.6	4.3	5.7	6.3	5.6	5.0
平均利用回数（回）	7.2	5.8	7.6	5.6	6.4	6.8	7.5	9.0	8.2	8.2	7.3	8.8	7.4	8.2	5.1	5.2	6.0	8.3
満足度平均（4点満点）	4.0	3.7	3.8	3.7	3.6	3.7	3.6	3.6	3.7	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.4	3.4	3.4

- 利用者数は延べ67人で、平均では毎月5.6人が利用している
- 平均利用回数は月に7.4回となっている
- サービスに対する満足度は平均すると3.7点となっている
- 満足度が高い理由としては「安全に移動が出来ている」などをあげている

⑩ その他の福祉サービス

○ 上記①～⑨以外の介護保険制度に基づく福祉サービスの利用状況は、表 1-20 のとおりである。

表 1-20 その他の福祉サービスの月別の利用状況

その他の福祉サービス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	R2 平均	R1 平均	H30 平均	H29 平均	H28 平均	H27 平均
利用者数（人）	1	1	2	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1.2	0.9	2.8	2.3	4.0	4.7	5.8
平均利用回数（回）	5	5	3	5	5	5	5	3	5	5	5	5	4.7	4.2	5.4	5.5	9.0	8.8	6.0
満足度平均（4点満点）	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3.1	3.0	3.4	3.1	3.3	3.3	3.2

- 利用者数は延べ 14 人で、平均では毎月 1.2 人が利用している
- 平均利用回数は月に 4.7 回となっている
- サービスに対する満足度は平均すると 3.1 点となっている
- 具体的なサービス内容としては「デイジー図書」をあげている
- 満足度が高い理由としては「楽しみにしている」などをあげている

⑪ 福祉サービスの年間利用状況

○ 上記①～⑩に示した各福祉サービスの年間の平均利用状況（日数または回数）及び満足度の平均点数をとりまとめると、図 1-2 及び図 1-3 のとおりである。

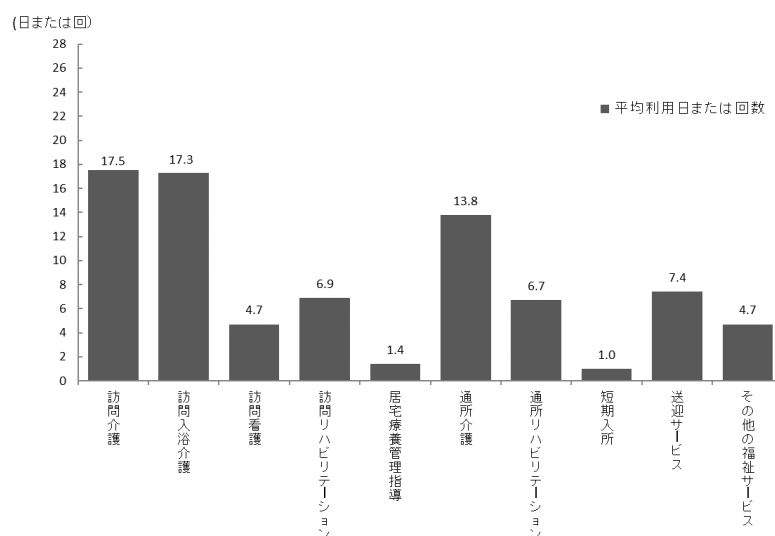


図 1-2 福祉サービスの年間利用状況

□ 1 年間、福祉サービスを利用して満足度が高かったサービスは、「訪問介護」、「通所介護」が 3.8 点となっている。

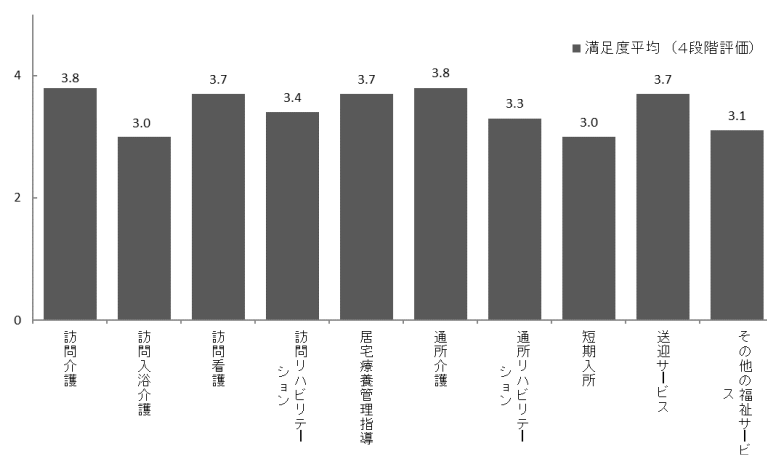


図 1-3 福祉サービスの満足度平均

■ 診察回数の状況について（SJS の健康被害者の方のみに質問）

⑫ SJS 専門医への診察回数の状況

○SJS 専門医に受診した回数についてたずねた結果は、表 1-21 のとおりである。

表 1-21 SJS 専門医への診察回数の状況

利用状況(人)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
月に2回以上	10	9	10	7	8	8	9	8	9	9	9	7	8.6
月に1回程度	12	12	12	11	9	10	9	8	7	12	12	13	10.6
2ヶ月に1回程度	6	6	6	5	5	5	5	6	6	4	4	4	5.2
3ヶ月に1回程度	4	4	4	4	4	4	5	5	5	4	4	5	4.3
半年に1回程度	3	2	2	2	2	1	3	3	3	3	3	3	2.5
1年に1回程度	1	1	1	2	2	2	1	2	2	1	1	1	1.4
その他	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0.8
行けていない	9	9	9	12	13	12	8	8	7	14	14	13	10.7
回答なし	1	3	2	1	1	2	4	4	5	1	1	2	2.3

□通院回数は平均で「月に1回程度」と回答した人が10.6人、「月に2回以上」が8.6人となっている

□一方で、「行けていない」と回答した人は平均で月に10.7人となっている

⑬ SJS 専門医の診察で通院に係る交通費

○SJS 専門医の診察で通院する際にかかる、1回の往復交通費についてたずねた結果は、表 1-22 のとおりである。

表 1-22 SJS 専門医の診察で通院する際の往復交通費の状況

利用状況(金額)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1,000円未満	10	11	10	5	5	5	6	6	6	7	9	8	7.3
1,000円～10,000円	18	16	17	20	19	19	20	17	19	21	19	19	18.7
10,000円～30,000円	8	7	8	6	6	6	5	5	5	5	5	5	5.9
30,000円～50,000円	1	1	1	1	1	1	1	3	2	0	0	0	1.0
50,000円以上	1	1	1	1	1	1	1	2	1	3	3	3	1.6
その他	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0.1
回答なし	9	11	10	12	13	13	12	11	12	12	12	13	11.7

□1回の往復交通費は平均で「1,000円～10,000円」と回答した人が18.7人、「1,000円未満」が7.3人となっている

⑭ 入院の有無

○SJSに係る治療での入院有無についてたずねた結果は、表 1-23 のとおりである。

表 1-23 SJSに係る治療での入院有無の状況

利用状況(人)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入院した	2	0	0	0	0	0	1	1	2	0	1	1	0.7
入院していない	42	44	44	43	42	41	40	38	38	46	44	45	42.3
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
回答なし	3	3	3	2	3	4	4	6	5	2	3	2	3.3

□「入院した」と回答した人数は延べ8人で、平均では月に0.7人が入院している

□「入院していない」と回答した人は平均で月に42.3人となっている

(2) B票（社会活動を中心とした調査）からみた生活状況の概要

■ 健康被害者の外出について

① 外出の頻度

ア 第1・四半期（回答者 51 人）

○ 第1・四半期における健康被害者の外出頻度については、表 2-1 及び図 2-1 のとおりである。

□ ほぼ毎日が 25.5%、週に 4～5 回が 11.8%、週に 2～3 回が 31.4%となっている

□ 一方、月に 2～3 回が 17.6%、まったく外出していないが 13.7%となっている

イ 第2・四半期（回答者 50 人）

○ 第2・四半期における健康被害者の外出頻度については、表 2-1 及び図 2-1 のとおりである。

□ ほぼ毎日が 26.0%、週に 4～5 回が 10.0%、週に 2～3 回が 36.0%となっている

□ 一方、月に 2～3 回が 16.0%、まったく外出していないが 12.0%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 49 人）

○ 第3・四半期における健康被害者の外出頻度については、表 2-1 及び図 2-1 のとおりである。

□ ほぼ毎日が 28.6%、週に 4～5 回が 6.1%、週に 2～3 回が 32.7%となっている

□ 一方、月に 2～3 回が 20.4%、まったく外出していないが 12.2%となっている

エ 第4・四半期（回答者 53 人）

○ 第4・四半期における健康被害者の外出頻度については、表 2-1 及び図 2-1 のとおりである。

□ ほぼ毎日が 22.6%、週に 4～5 回が 13.2%、週に 2～3 回が 37.7%となっている

□ 一方、月に 2～3 回が 18.9%、まったく外出していないが 7.5%となっている

オ 四半期ごとの推移

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-1 及び図 2-1 のとおりである。

□ 年間の平均では、ほぼ毎日外出している人が 25.6%、週に 4～5 回外出している人が 10.3%、週に 2～3 回外出している人が 34.5%、月に 2～3 回外出している人が 18.2%、まったく外出していないが 11.3%となっている

表 2-1 健康被害者の外出頻度の推移

	ほぼ毎日	週に4から5回	週に2から3回	月に2から3回	まったく外出していない	回答なし	合 計
第1・四半期	13 25.5%	6 11.8%	16 31.4%	9 17.6%	7 13.7%	2 —	51 100.0%
第2・四半期	13 26.0%	5 10.0%	18 36.0%	8 16.0%	6 12.0%	2 —	50 100.0%
第3・四半期	14 28.6%	3 6.1%	16 32.7%	10 20.4%	6 12.2%	2 —	49 100.0%
第4・四半期	12 22.6%	7 13.2%	20 37.7%	10 18.9%	4 7.5%	1 —	53 100.0%
年間単純平均	13.0 25.6%	5.3 10.3%	17.5 34.5%	9.3 18.2%	5.8 11.3%	1.8 —	50.8 100.0%
R2年度平均	9.8 18.7%	7.5 14.4%	16.0 30.6%	13.3 25.4%	5.8 11.0%	1.3 —	52.4 100.0%
R1年度平均	13.0 24.5%	10.5 19.8%	14.0 26.4%	12.0 22.6%	3.5 6.6%	0.3 —	53.0 100.0%
H30年度平均	14.3 25.9%	12.3 22.3%	15.0 27.3%	10.3 18.6%	3.3 5.9%	0.0 —	52.5 100.0%
H29年度平均	13.0 24.8%	11.8 22.4%	13.0 24.8%	12.8 24.3%	2.0 3.8%	1.0 —	55.3 100.0%
H28年度平均	13.8 24.9%	12.0 21.7%	12.8 23.1%	14.0 25.3%	2.8 5.0%	0.8 —	56.0 100.0%

注：上段は人数、下段は割合

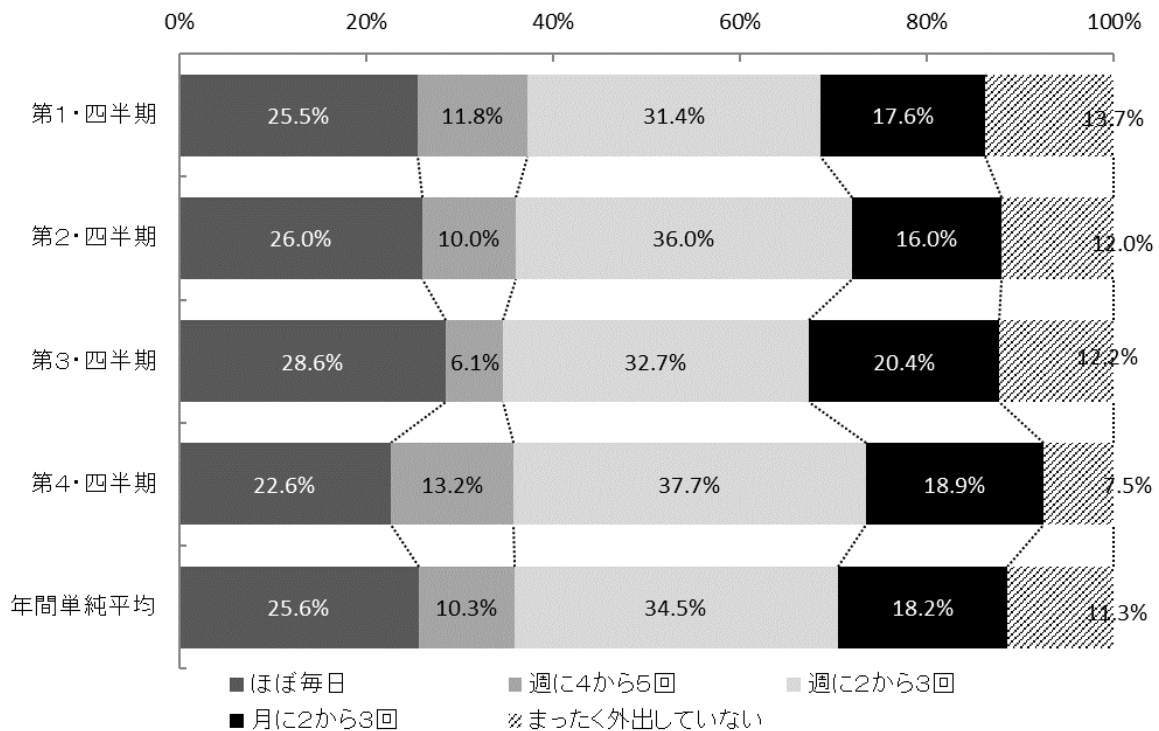


図 2-1 健康被害者の外出頻度の推移

①ー1 外出に当たっての介助者

ア 第1・四半期（回答者 43 人）

- 外出したとする人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期における健康被害者の外出時の主たる介助者については、表 2-2 及び図 2-2 のとおりである（複数回答）。
- 主たる介助者は「配偶者」が 41.9%、「親」「ホーム（ガイド）ヘルパー」が 25.6%、「子供」が 23.3%となっている
- 「介助なし」で外出している健康被害者は 34.9%となっている
- その他の外出時の介助者としては、「盲導犬」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 44 人）

- 第2・四半期における健康被害者の外出時の主たる介助者については、表 2-2 及び図 2-2 のとおりである（複数回答）。
- 主たる介助者は「配偶者」「子供」が 31.8%、「親」が 22.7%、「ホーム（ガイド）ヘルパー」が 18.2%となっている
- 「介助なし」で外出している健康被害者は 45.5%となっている
- その他の外出時の介助者としては、「盲導犬」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 43 人）

- 第3・四半期における健康被害者の外出時の主たる介助者については、表 2-2 及び図 2-2 のとおりである（複数回答）。
- 主たる介助者は「配偶者」が 32.6%、「子供」が 30.2%、「親」が 25.6%、「ホーム（ガイド）ヘルパー」が 23.3%となっている
- 「介助なし」で外出している健康被害者は 39.5%となっている
- その他の外出時の介助者としては、「デイサービスの送迎」「盲導犬」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 49 人）

- 第4・四半期における健康被害者の外出時の主たる介助者については、表 2-2 及び図 2-2 のとおりである（複数回答）。
- 主たる介助者は「配偶者」が 34.7%、「子供」が 26.5%、「親」が 24.5%、「ホーム（ガイド）ヘルパー」が 20.4%となっている
- 「介助なし」で外出している健康被害者は 36.7%となっている
- その他の外出時の介助者としては、「盲導犬」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-2及び図2-2のとおりである（複数回答）。

□外出時の主な介助者の年間の平均では「配偶者」が35.2%、「子供」が27.9%、「親」が24.6%、「ホーム（ガイド）ヘルパー」が21.8%、「隣人・知人」が10.6%となっている

□一方、「介助なし」で外出している人は39.1%となっている

表2-2 健康被害者の外出時の主たる介助者の推移

	介助なし	配偶者	親	子供	その他の家族	親戚	ホーム(ガイド)ヘルパー	隣人・知人	雇人	ボランティア	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	15	18	11	10	6	4	11	4	1	1	8	1	43
	34.9%	41.9%	25.6%	23.3%	14.0%	9.3%	25.6%	9.3%	2.3%	2.3%	18.6%	—	—
第2・四半期	20	14	10	14	3	3	8	3	0	2	10	0	44
	45.5%	31.8%	22.7%	31.8%	6.8%	6.8%	18.2%	6.8%	0.0%	4.5%	22.7%	—	—
第3・四半期	17	14	11	13	3	4	10	5	1	3	11	0	43
	39.5%	32.6%	25.6%	30.2%	7.0%	9.3%	23.3%	11.6%	2.3%	7.0%	25.6%	—	—
第4・四半期	18	17	12	13	5	4	10	7	1	1	10	0	49
	36.7%	34.7%	24.5%	26.5%	10.2%	8.2%	20.4%	14.3%	2.0%	2.0%	20.4%	—	—
年間単純平均	17.5	15.8	11.0	12.5	4.3	3.8	9.8	4.8	0.8	1.8	9.8	0.3	44.8
	39.1%	35.2%	24.6%	27.9%	9.5%	8.4%	21.8%	10.6%	1.7%	3.9%	21.8%	—	—
R2年度平均	16.0	18.5	11.5	11.0	3.5	3.0	13.3	6.3	1.3	1.8	2.5	0.0	46.5
	34.4%	39.8%	24.7%	23.7%	7.5%	6.5%	28.5%	13.4%	2.7%	3.8%	5.4%	—	—
R1年度平均	18.3	21.8	14.8	12.8	5.5	3.5	12.3	8.8	1.0	12.8	6.0	2.0	47.5
	38.4%	45.8%	31.1%	26.8%	11.6%	7.4%	25.8%	18.4%	2.1%	26.8%	12.6%	—	—
H30年度平均	25.8	23.5	14.5	15.0	5.5	3.3	12.8	7.3	0.3	3.0	7.0	3.0	48.8
	52.8%	48.2%	29.7%	30.8%	11.3%	6.7%	26.2%	14.9%	0.5%	6.2%	14.4%	—	—
H29年度平均	19.3	22.8	13.8	13.5	4.5	3.3	11.5	7.5	0.8	3.0	7.5	0.3	50.3
	38.3%	45.3%	27.4%	26.9%	9.0%	6.5%	22.9%	14.9%	1.5%	6.0%	14.9%	—	—
H28年度平均	17.8	24.5	13.5	15.0	5.5	3.8	11.8	7.8	1.5	1.5	6.5	0.3	52.3
	34.0%	46.9%	25.8%	28.7%	10.5%	7.2%	22.5%	14.8%	2.9%	2.9%	12.4%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

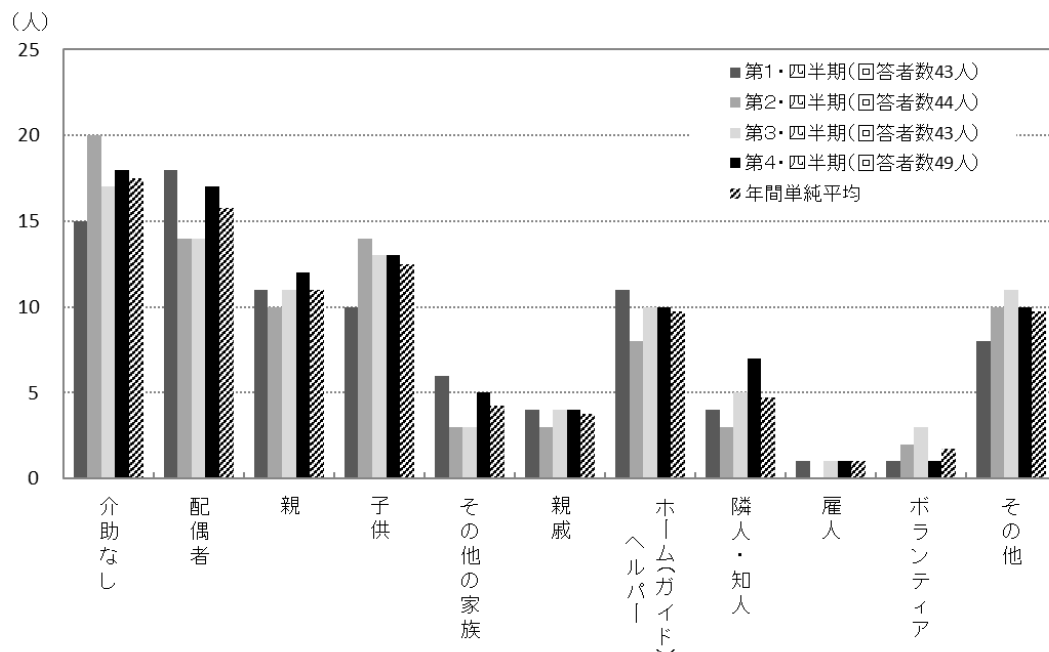


図2-2 健康被害者の外出時の主たる介助者の推移

■ 外出に当たって困ること・不満に思うことについて

② 外出に当たって困ること・不満に思うことの有無

ア 第1・四半期（回答者 46 人）

○ 第1・四半期において、健康被害者が外出する場合に困ることや不満に思うことの有無については、表 2-3 及び図 2-3 のとおりである。

□ 91.3%の人が外出する場合に困ることや不満に思うことがあると回答している

イ 第2・四半期（回答者 47 人）

○ 第2・四半期において、健康被害者が外出する場合に困ることや不満に思うことの有無については、表 2-3 及び図 2-3 のとおりである。

□ 85.1%の人が外出する場合に困ることや不満に思うことがあると回答している

ウ 第3・四半期（回答者 48 人）

○ 第3・四半期において、健康被害者が外出する場合に困ることや不満に思うことの有無については、表 2-3 及び図 2-3 のとおりである。

□ 81.3%の人が外出する場合に困ることや不満に思うことがあると回答している

エ 第4・四半期（回答者 52 人）

○ 第4・四半期において、健康被害者が外出する場合に困ることや不満に思うことの有無については、表 2-3 及び図 2-3 のとおりである。

□ 82.7%の人が外出する場合に困ることや不満に思うことがあると回答している

オ 四半期ごとの推移

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-3 及び図 2-3 のとおりである。

□ 外出時に困ることや不満に思うことがあると回答した人は、年間の平均では、85.0%となっている

表 2-3 外出時の困難・不満の有無の推移

	困ることや 不満に思う ことがある	困ることや 不満に思う ことがない	回答なし	合 計
第1・四半期	42	4	7	46
	91.3%	8.7%	—	100.0%
第2・四半期	40	7	5	47
	85.1%	14.9%	—	100.0%
第3・四半期	39	9	3	48
	81.3%	18.8%	—	100.0%
第4・四半期	43	9	2	52
	82.7%	17.3%	—	100.0%
年間単純平均	41.0	7.3	4.3	48.3
	85.0%	15.0%	—	100.0%
R2年度平均	42.3	8.0	3.3	50.3
	84.1%	15.9%	—	100.0%
R1年度平均	46.5	5.8	2.5	52.3
	89.0%	11.0%	—	100.0%
H30年度平均	46.0	5.3	3.8	51.3
	89.8%	10.2%	—	100.0%
H29年度平均	47.5	5.0	1.0	52.5
	90.5%	9.5%	—	100.0%
H28年度平均	47.8	6.3	2.0	54.0
	88.4%	11.6%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

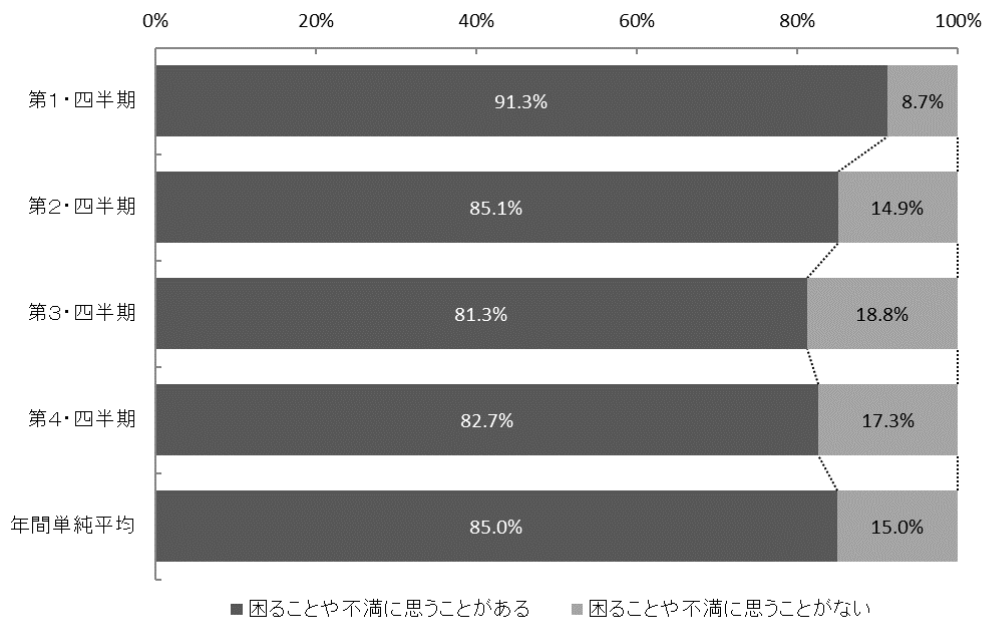


図 2-3 外出時の困難・不満の有無の推移

②-1 外出に当たって困ること・不満に思うこと

ア 第1・四半期（回答者 42 人）

- 外出に当たって困ること・不満に思うことがあると答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期における健康被害者の外出に当たって困ること・不満に思うことの具体的な内容については、表2-4及び図2-4のとおりである（複数回答）。
- 「人の混雑や車に身の危険を感じる」が54.8%、「利用する建物の設備の利用が不便」が47.6%、「電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便」が42.9%となっている
- その他としては、「歩道の段差が気になる」「対人恐怖症」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 40 人）

- 第2・四半期における健康被害者の外出に当たって困ること・不満に思うことの具体的な内容については、表2-4及び図2-4のとおりである（複数回答）。
- 「利用する建物の設備の利用が不便」が60.0%、「人の混雑や車に身の危険を感じる」が55.0%、「道路や駅などの公共の場所の利用が不便」が40.0%となっている
- その他としては、「道路がきれいに整備されていない」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 39 人）

- 第3・四半期における健康被害者の外出に当たって困ること・不満に思うことの具体的な内容については、表2-4及び図2-4のとおりである（複数回答）。
- 「人の混雑や車に身の危険を感じる」が66.7%、「利用する建物の設備の利用が不便」が59.0%、「電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便」が48.7%となっている
- その他としては、「コロナ禍において、外出は恐怖」「ヘルパーが見つからない時がある」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 43 人）

- 第4・四半期における健康被害者の外出に当たって困ること・不満に思うことの具体的な内容については、表2-4及び図2-4のとおりである（複数回答）。
- 「人の混雑や車に身の危険を感じる」が58.1%、「利用する建物の設備の利用が不便」が53.5%、「電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便」「道路や駅などの公共の場所の利用が不便」が46.5%となっている
- その他としては、「音が出ない信号」「体力が必要」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-4及び図2-4のとおりである（複数回答）。
- 「人の混雑や車に身の危険を感じる」が58.5%、「利用する建物の設備の利用が不便」が54.9%、「電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便」が43.9%、が「道路や駅などの公共の場所の利用が不便」41.5%となっている

表2-4 外出に当たって困ること・不満に思うことの推移

	介護者がいない	経費がかかる	人の目が気にかかる	人と話をすることが困難	外出に必要な情報が得られない	電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便	道路や駅などの公共の場所の利用が不便	利用する建物の設備の利用が不便	人の混雑や車に身の危険を感じる	駅などにおける人間関係のトラブル	その他	回答者数
第1・四半期	9	15	9	7	8	18	17	20	23	4	9	42
	21.4%	35.7%	21.4%	16.7%	19.0%	42.9%	40.5%	47.6%	54.8%	9.5%	21.4%	—
第2・四半期	7	12	7	7	4	15	16	24	22	4	10	40
	17.5%	30.0%	17.5%	17.5%	10.0%	37.5%	40.0%	60.0%	55.0%	10.0%	25.0%	—
第3・四半期	6	11	10	11	8	19	15	23	26	6	10	39
	15.4%	28.2%	25.6%	28.2%	20.5%	48.7%	38.5%	59.0%	66.7%	15.4%	25.6%	—
第4・四半期	11	15	9	7	7	20	20	23	25	4	9	43
	25.6%	34.9%	20.9%	16.3%	16.3%	46.5%	46.5%	53.5%	58.1%	9.3%	20.9%	—
年間単純平均	8.3	13.3	8.8	8.0	6.8	18.0	17.0	22.5	24.0	4.5	9.5	41.0
	20.1%	32.3%	21.3%	19.5%	16.5%	43.9%	41.5%	54.9%	58.5%	11.0%	23.2%	—
R2年度平均	6.5	14.0	9.0	6.8	8.0	18.8	18.5	22.5	26.0	4.8	9.5	42.3
	15.4%	33.1%	21.3%	16.0%	18.9%	44.4%	43.8%	53.3%	61.5%	11.2%	22.5%	—
R1年度平均	9.8	15.3	8.3	8.8	9.3	25.0	23.5	29.0	31.8	12.0	7.3	46.5
	21.0%	32.8%	17.7%	18.8%	19.9%	53.8%	50.5%	62.4%	68.3%	25.8%	15.6%	—
H30年度平均	21.3	15.8	7.5	8.5	9.3	25.3	22.3	26.5	31.0	5.5	10.3	46.0
	46.2%	34.2%	16.3%	18.5%	20.1%	54.9%	48.4%	57.6%	67.4%	12.0%	22.3%	—
H29年度平均	6.8	14.5	10.3	8.0	10.3	25.0	21.8	29.0	33.5	2.3	9.0	47.5
	14.2%	30.5%	21.6%	16.8%	21.6%	52.6%	45.8%	61.1%	70.5%	4.7%	18.9%	—
H28年度平均	4.8	12.8	9.8	8.8	10.0	25.0	25.0	28.3	32.8	3.8	15.0	47.5
	9.9%	26.7%	20.4%	18.3%	20.9%	52.4%	52.4%	59.2%	68.6%	7.9%	31.4%	—

注：上段は人数、下段は割合

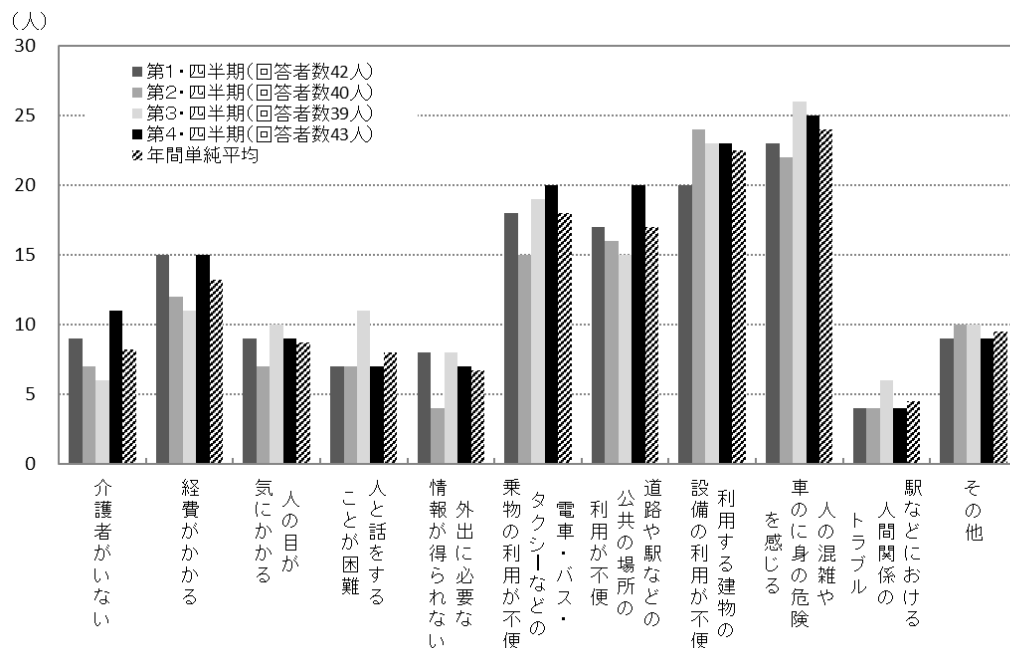


図2-4 外出に当たって困ること・不満に思うことの推移

②-2 外出する上で工夫したこと【外出前の準備】（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第 1・四半期（回答者 39 人）

- 第 1・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「外出前の準備」の具体的な内容については、表 2-5 及び図 2-5 のとおりである（複数回答）。
- 「予め、交通機関や経路について調べておく」が 66.7%、「コースを事前に決めておく」が 64.1%、「介助者を依頼する」が 56.4%となっている
- その他としては、「コロナ禍で夫の車で移動することが多い」などをあげている

イ 第 2・四半期（回答者 39 人）

- 第 2・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「外出前の準備」の具体的な内容については、表 2-5 及び図 2-5 のとおりである（複数回答）。
- 「コースを事前に決めておく」が 69.2%、「予め、交通機関や経路について調べておく」が 66.7%、「介助者を依頼する」が 56.4%となっている
- その他としては、「事前に子供に頼んでおく」などをあげている

ウ 第 3・四半期（回答者 38 人）

- 第 3・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「外出前の準備」の具体的な内容については、表 2-5 及び図 2-5 のとおりである（複数回答）。
- 「予め、交通機関や経路について調べておく」が 68.4%、「介助者を依頼する」が 65.8%、「コースを事前に決めておく」が 55.3%となっている
- その他としては、「ガイドヘルパーに連絡を取っておく」などをあげている

エ 第 4・四半期（回答者 40 人）

- 第 4・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「外出前の準備」の具体的な内容については、表 2-5 及び図 2-5 のとおりである（複数回答）。
- 「予め、交通機関や経路について調べておく」が 70.0%、「コースを事前に決めておく」が 65.0%、「介助者を依頼する」が 52.5%となっている
- その他としては、「友人に依頼する」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-5及び図2-5のとおりである（複数回答）。

□外出する上で工夫した「外出前の準備」の年間の平均では「予め、交通機関や経路について調べておく」が67.9%、「コースを事前に決めておく」が63.5%、「介助者を依頼する」が57.7%となっている

表2-5 外出する上で工夫したこと【外出前の準備】の推移

	予め、 交通機関や 経路について 調べておく	介助者を 依頼する	コースを 事前に 決めておく	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	26	22	25	2	8	39
	66.7%	56.4%	64.1%	5.1%	—	—
第2・四半期	26	22	27	1	6	39
	66.7%	56.4%	69.2%	2.6%	—	—
第3・四半期	26	25	21	1	7	38
	68.4%	65.8%	55.3%	2.6%	—	—
第4・四半期	28	21	26	2	8	40
	70.0%	52.5%	65.0%	5.0%	—	—
年間単純平均	26.5	22.5	24.8	1.5	7.3	39.0
	67.9%	57.7%	63.5%	3.8%	—	—
R2年度平均	25.8	18.8	21.8	2.5	10.8	36.8
	70.1%	51.0%	59.2%	6.8%	—	—
R1年度平均	31.8	21.5	23.3	2.8	7.5	40.5
	78.4%	53.1%	57.4%	6.8%	—	—
H30年度平均	32.5	22.5	24.5	3.0	4.5	44.0
	73.9%	51.1%	55.7%	6.8%	—	—
H29年度平均	31.8	15.8	23.0	3.5	7.0	40.8
	77.9%	38.7%	56.4%	8.6%	—	—
H28年度平均	31.8	17.3	21.0	2.8	8.5	39.3
	80.9%	43.9%	53.5%	7.0%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

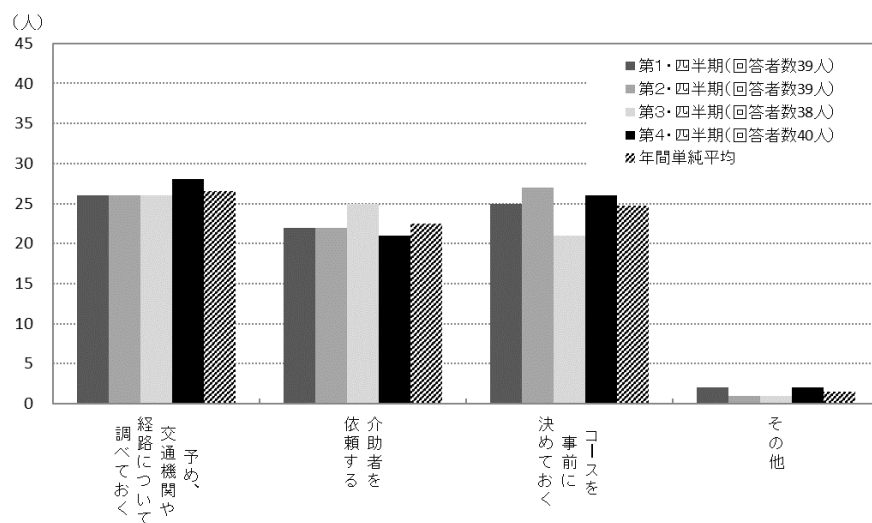


図2-5 外出する上で工夫したこと【外出前の準備】の推移

②-2 外出する上で工夫したこと【服装・持ち物】（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第 1・四半期（回答者 41 人）

○第 1・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「服装・持ち物」の具体的な内容については、表 2-6 及び図 2-6 のとおりである（複数回答）。

□「目の保護のためサングラス、帽子を着用」が 78.0%、「白杖の使用」が 73.2%、「両手が使えるよう、リュックサックを使用」が 61.0%となっている

□その他としては、「歩きやすく滑りにくい靴」「携帯用アルコール、飲み物を持つ」などをあげている

イ 第 2・四半期（回答者 42 人）

○第 2・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「服装・持ち物」の具体的な内容については、表 2-6 及び図 2-6 のとおりである（複数回答）。

□「目の保護のためサングラス、帽子を着用」が 83.3%、「白杖の使用」が 73.8%、「両手が使えるよう、リュックサックを使用」が 57.1%となっている

□その他としては、「LED ライトを点滅させている（夜間）」「盲導犬同伴」などをあげている

ウ 第 3・四半期（回答者 37 人）

○第 3・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「服装・持ち物」の具体的な内容については、表 2-6 及び図 2-6 のとおりである（複数回答）。

□「白杖の使用」が 78.4%、「目の保護のためサングラス、帽子を着用」が 75.7%、「両手が使えるよう、リュックサックを使用」が 62.2%となっている

□その他としては、「盲導犬同伴」「マスク、アルコール、スマホ」などをあげている

エ 第 4・四半期（回答者 45 人）

○第 4・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「服装・持ち物」の具体的な内容については、表 2-6 及び図 2-6 のとおりである（複数回答）。

□「目の保護のためサングラス、帽子を着用」が 75.6%、「白杖の使用」が 71.1%、「両手が使えるよう、リュックサックを使用」が 60.0%となっている

□その他としては、「押し車」「歩きやすく滑りにくい靴。飲み物持参（買うのが不便）マスク着用（以前から感染対策と呼吸器保護）」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-6及び図2-6のとおりである（複数回答）。

□外出する上で工夫した「服装・持ち物」の年間の平均では「目の保護のためサングラス、帽子を着用」が78.2%、「白杖の使用」が73.9%、「両手が使えるよう、リュックサックを使用」が60.0%、「目立つ服装」が30.3%となっている

表2-6 外出する上で工夫したこと【服装・持ち物】の推移

	目立つ服装	目の保護のためサングラス、帽子を着用	白杖の使用	両手が使えるよう、リュックサックを使用	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	14	32	30	25	4	6	41
	34.1%	78.0%	73.2%	61.0%	9.8%	—	—
第2・四半期	12	35	31	24	4	3	42
	28.6%	83.3%	73.8%	57.1%	9.5%	—	—
第3・四半期	10	28	29	23	5	8	37
	27.0%	75.7%	78.4%	62.2%	13.5%	—	—
第4・四半期	14	34	32	27	5	3	45
	31.1%	75.6%	71.1%	60.0%	11.1%	—	—
年間単純平均	12.5	32.3	30.5	24.8	4.5	5.0	41.3
	30.3%	78.2%	73.9%	60.0%	10.9%	—	—
R2年度平均	14.0	32.5	30.8	22.5	5.3	5.8	41.8
	33.5%	77.8%	73.7%	53.9%	12.6%	—	—
R1年度平均	13.0	36.5	29.3	24.8	5.5	5.3	42.8
	30.4%	85.4%	68.4%	57.9%	12.9%	—	—
H30年度平均	13.3	35.5	32.0	26.3	5.0	3.8	44.8
	29.6%	79.3%	71.5%	58.7%	11.2%	—	—
H29年度平均	13.8	36.0	29.3	25.0	8.3	4.3	43.5
	31.6%	82.8%	67.2%	57.5%	19.0%	—	—
H28年度平均	11.5	36.5	29.5	23.0	7.5	4.8	43.0
	26.7%	84.9%	68.6%	53.5%	17.4%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

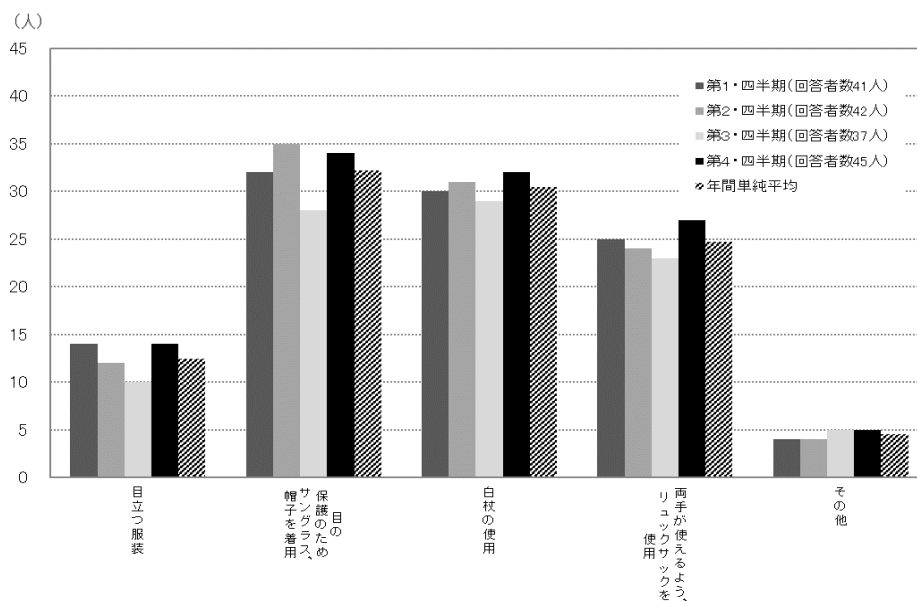


図2-6 外出する上で工夫したこと【服装・持ち物】の推移

②-2 外出する上で工夫したこと【移動手段】（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第 1・四半期（回答者 43 人）

○ 第 1・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「移動手段」の具体的な内容については、表 2-7 及び図 2-7 のとおりである（複数回答）。

□ 「自家用車を利用」が 62.8%、「公共交通機関を利用」が 60.5%、「介護タクシーを利用」が 4.7%となっている

□ その他としては、「近隣は徒歩」「コロナ禍のためタクシー」などをあげている

イ 第 2・四半期（回答者 44 人）

○ 第 2・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「移動手段」の具体的な内容については、表 2-7 及び図 2-7 のとおりである（複数回答）。

□ 「自家用車を利用」が 56.8%、「公共交通機関を利用」が 54.5%、「介護タクシーを利用」が 11.4%となっている

□ その他としては、「徒歩」「タクシー利用」などをあげている

ウ 第 3・四半期（回答者 42 人）

○ 第 3・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「移動手段」の具体的な内容については、表 2-7 及び図 2-7 のとおりである（複数回答）。

□ 「自家用車を利用」が 64.3%、「公共交通機関を利用」が 61.9%、「介護タクシーを利用」が 9.5%となっている

□ その他としては、「徒歩」「タクシー利用」などをあげている

エ 第 4・四半期（回答者 47 人）

○ 第 4・四半期における健康被害者の外出する上で工夫した「移動手段」の具体的な内容については、表 2-7 及び図 2-7 のとおりである（複数回答）。

□ 「自家用車を利用」「公共交通機関を利用」が 63.8%、「介護タクシーを利用」が 4.3%となっている

□ その他としては、「徒歩」「タクシー利用」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○ 第 1・四半期から第 4・四半期までの推移をみると、表 2-7 及び図 2-7 のとおりである（複数回答）。

□ 外出する上で工夫した「移動手段」の年間の平均では「自家用車を利用」が 61.9%、「公共交通機関を利用」が 60.2%、「介護タクシーを利用」が 7.4%となっている

表 2-7 外出する上で工夫したこと【移動手段】の推移

	自家用車 を利用	介護タクシー を利用	公共交通機関 を利用	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	27	2	26	5	4	43
	62.8%	4.7%	60.5%	11.6%	—	—
第2・四半期	25	5	24	9	1	44
	56.8%	11.4%	54.5%	20.5%	—	—
第3・四半期	27	4	26	5	3	42
	64.3%	9.5%	61.9%	11.9%	—	—
第4・四半期	30	2	30	7	1	47
	63.8%	4.3%	63.8%	14.9%	—	—
年間単純平均	27.3	3.3	26.5	6.5	2.3	44.0
	61.9%	7.4%	60.2%	14.8%	—	—
R2年度平均	25.8	18.8	21.8	2.5	10.8	36.8
	70.1%	51.0%	59.2%	6.8%	—	—
R1年度平均	30.3	4.3	34.3	5.0	1.8	46.3
	65.4%	9.2%	74.1%	10.8%	—	—
H30年度平均	30.5	5.0	34.8	4.8	7.0	41.5
	73.5%	12.0%	83.7%	11.4%	—	—
H29年度平均	29.0	5.8	33.5	7.3	2.0	45.8
	63.4%	12.6%	73.2%	15.8%	—	—
H28年度平均	29.3	4.3	34.3	5.0	2.0	45.8
	63.9%	9.3%	74.9%	10.9%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

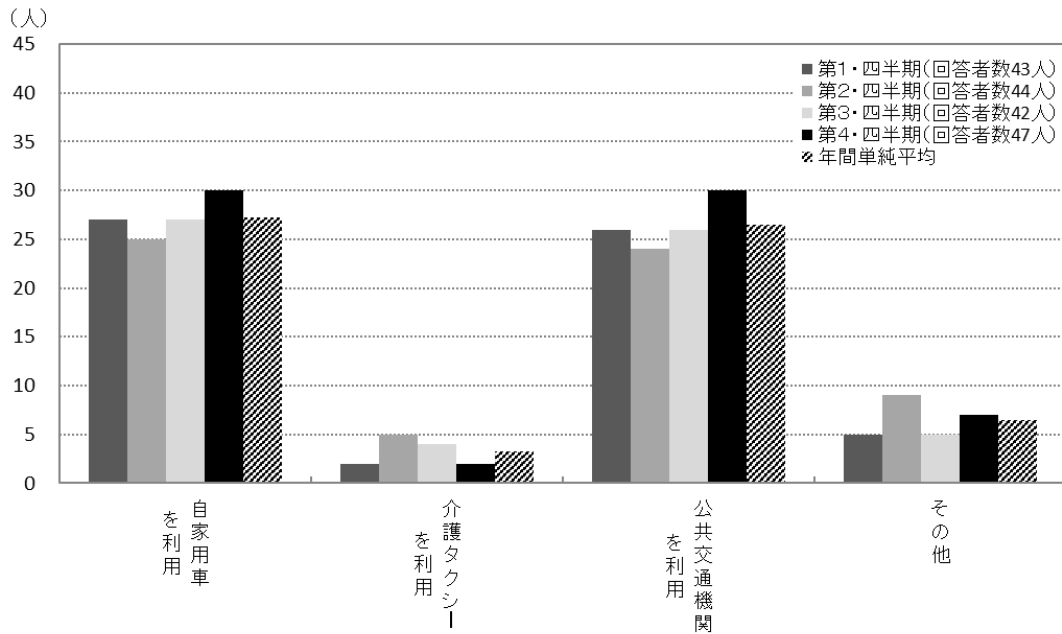


図 2-7 外出する上で工夫したこと【移動手段】の推移

②-2 外出する上で工夫したこと

○ 本人または介護者にたずねた外出する上で工夫したことの主な具体的内容は、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・杖（体を支えられる）
- ・杖を使用しているので日傘が持てず帽子をかぶる
- ・体が大きくなってトイレ介助が大変であるので、パッドを二重にして1回分はすぐに取りれるようにしている
- ・コロナ禍のためタクシー
- ・歩きやすく滑りにくい靴。飲み物持参（買うのが不便）マスク着用（以前から感染対策と呼吸器保護）白杖使うのでキャリーケースを使えないのは不便
- ・必ず予約してタクシーを呼ぶ
- ・タクシー、地下鉄、バス、車椅子の利用
- ・LED ライトを点滅させている（夜間）
- ・盲導犬同伴
- ・施設の送迎
- ・タクシー利用時は予約して、時間を伝えに来てもらっている
- ・押し車
- ・初めていく道や、食堂によっては段差があります。つまづかない様に、先に教えてあげています
- ・父親の入居老人施設間移動時に従兄弟の車送迎を依頼。高速道路を使用する必要があり、事前に調べて、障害福祉課で高速道路料金の障害者同行時の割引手続きをしておいて費用負担的に助かった
- ・ガイドヘルパーにいつも予め可否のアポ連絡・内諾を取っておく
- ・眩しさや障害物から目の保護のために遮光メガネをかけて外出するようにしている
- ・事前に子供に頼んでおく
- ・携帯用アルコール、スマホ、飲み物を持つ
- ・体が大きいのでおむつ交換が大変だが二重にしたりして本人の移乗を減らしている
- ・車内で流動食ができるようにしている
- ・人出の少ない早朝に出かける（音声チックの声が大きいため）
- ・ずれていくので車椅子に体を固定し結わえている

■ 社会参加や社会活動について

③ 社会参加・社会活動等の状況

ア 第1・四半期（回答者 51 人）

○第1・四半期における健康被害者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-8 及び図 2-8 のとおりである。

□社会参加や社会活動などを行っている人が 49.0%、行っていない人が 51.0%となっている

イ 第2・四半期（回答者 51 人）

○第2・四半期における健康被害者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-8 及び図 2-8 のとおりである。

□社会参加や社会活動などを行っている人が 49.0%、行っていない人が 51.0%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 47 人）

○第3・四半期における健康被害者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-8 及び図 2-8 のとおりである。

□社会参加や社会活動などを行っている人が 51.1%、行っていない人が 48.9%となっている

エ 第4・四半期（回答者 53 人）

○第4・四半期における健康被害者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-8 及び図 2-8 のとおりである。

□社会参加や社会活動などを行っている人が 47.2%、行っていない人が 52.8%となっている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-8 及び図 2-8 のとおりである。

□社会参加や社会活動などを行っている人と行っていない人の割合は、年間の平均では、行っている人が 49.0%、行っていない人が 51.0%となっている

表 2-8 社会参加・社会活動等の状況の推移

	参加(活動)した	まったくしていない	回答なし	合 計
第1・四半期	25	26	2	51
	49.0%	51.0%	—	100.0%
第2・四半期	25	26	1	51
	49.0%	51.0%	—	100.0%
第3・四半期	24	23	4	47
	51.1%	48.9%	—	100.0%
第4・四半期	25	28	1	53
	47.2%	52.8%	—	100.0%
年間単純平均	24.8	25.8	2.0	50.5
	49.0%	51.0%	—	100.0%
R2年度平均	25.0	25.3	3.3	50.3
	49.8%	50.2%	—	100.0%
R1年度平均	35.8	17.5	1.5	53.3
	67.1%	32.9%	—	100.0%
H30年度平均	39.0	14.3	1.8	53.3
	73.2%	26.8%	—	100.0%
H29年度平均	38.3	15.3	0.0	53.5
	71.5%	28.5%	—	100.0%
H28年度平均	38.0	16.8	1.3	54.8
	69.4%	30.6%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

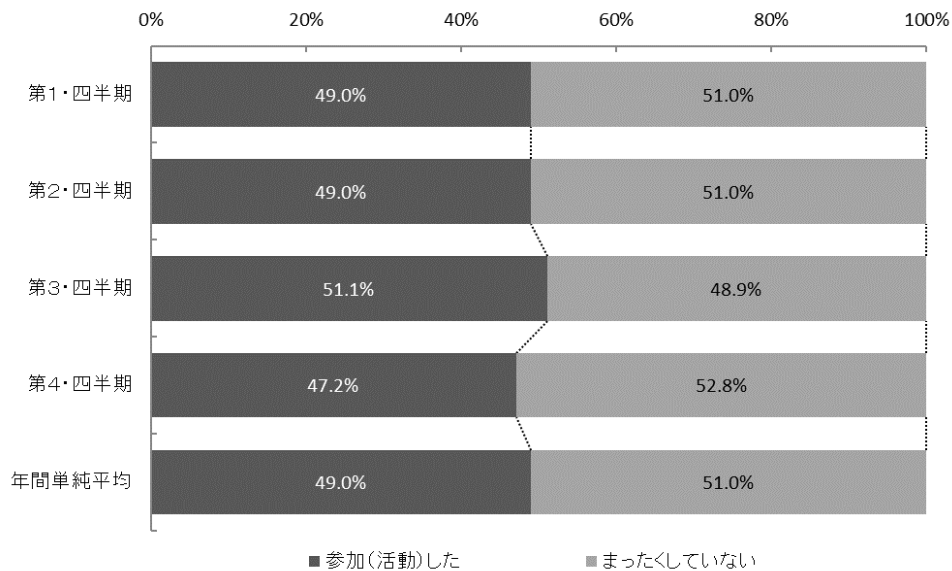


図 2-8 社会参加・社会活動等の状況の推移

③-1 社会参加・社会活動等をしなかった理由（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第1・四半期（回答者 22 人）

- 社会参加や社会活動などを行っていないと答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。
第1・四半期において健康被害者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表 2-9 及び図 2-9 のとおりである（複数回答）。
- 「体力的に余裕なし」が 54.5%、「介助なし」が 13.6%、「時間的・経済的余裕なし」が 9.1%となっている
- その他としては、「コロナで自粛している」「メンタルの低下」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 21 人）

- 第2・四半期において健康被害者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表 2-9 及び図 2-9 のとおりである（複数回答）。
- 「体力的に余裕なし」が 38.1%、「介助なし」が 19.0%、「時間的・経済的余裕なし」が 14.3%となっている
- その他としては、「コロナ禍のため外出を控えた」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 19 人）

- 第3・四半期において健康被害者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表 2-9 及び図 2-9 のとおりである（複数回答）。
- 「体力的に余裕なし」が 63.2%、「時間的・経済的余裕なし」が 26.3%、「介助なし」が 15.8%となっている
- その他としては、「眼の具合が悪く、出かける気にならなかった」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 22 人）

- 第4・四半期において健康被害者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表 2-9 及び図 2-9 のとおりである（複数回答）。
- 「体力的に余裕なし」が 54.5%、「時間的・経済的余裕なし」が 22.7%、「介助なし」が 18.2%となっている
- その他としては、「コロナ感染予防のため、通院以外は外出できず」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-9 及び図 2-9 のとおりである（複数回答）。

社会参加や社会活動などを行わなかった理由の年間の平均では「体力的に余裕なし」が52.4%、「時間的・経済的余裕なし」が17.9%、「介助なし」が16.7%となっている

表 2-9 社会参加・社会活動等をしなかった理由の推移

	介助なし	時間的・経済的 余裕なし	体力的に 余裕なし	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	3 13.6%	2 9.1%	12 54.5%	9 40.9%	2 —	22 —
第2・四半期	4 19.0%	3 14.3%	8 38.1%	10 47.6%	1 —	21 —
第3・四半期	3 15.8%	5 26.3%	12 63.2%	8 42.1%	1 —	19 —
第4・四半期	4 18.2%	5 22.7%	12 54.5%	8 36.4%	2 —	22 —
年間単純平均	3.5 16.7%	3.8 17.9%	11.0 52.4%	8.8 41.7%	1.5 —	21.0 —
R2年度平均	3.0 14.6%	2.8 13.4%	9.8 47.6%	10.3 50.0%	2.3 —	20.5 —
R1年度平均	3.0 25.5%	1.5 12.8%	7.5 63.8%	5.5 46.8%	1.5 —	11.8 —
H30年度平均	3.5 29.8%	1.0 8.5%	5.3 44.7%	1.3 10.6%	3.8 —	11.8 —
H29年度平均	2.5 21.3%	2.0 17.0%	3.8 31.9%	3.0 25.5%	3.0 —	11.8 —
H28年度平均	1.3 10.6%	2.8 23.4%	2.0 17.0%	5.8 48.9%	2.8 —	11.8 —

注：上段は人数、下段は割合

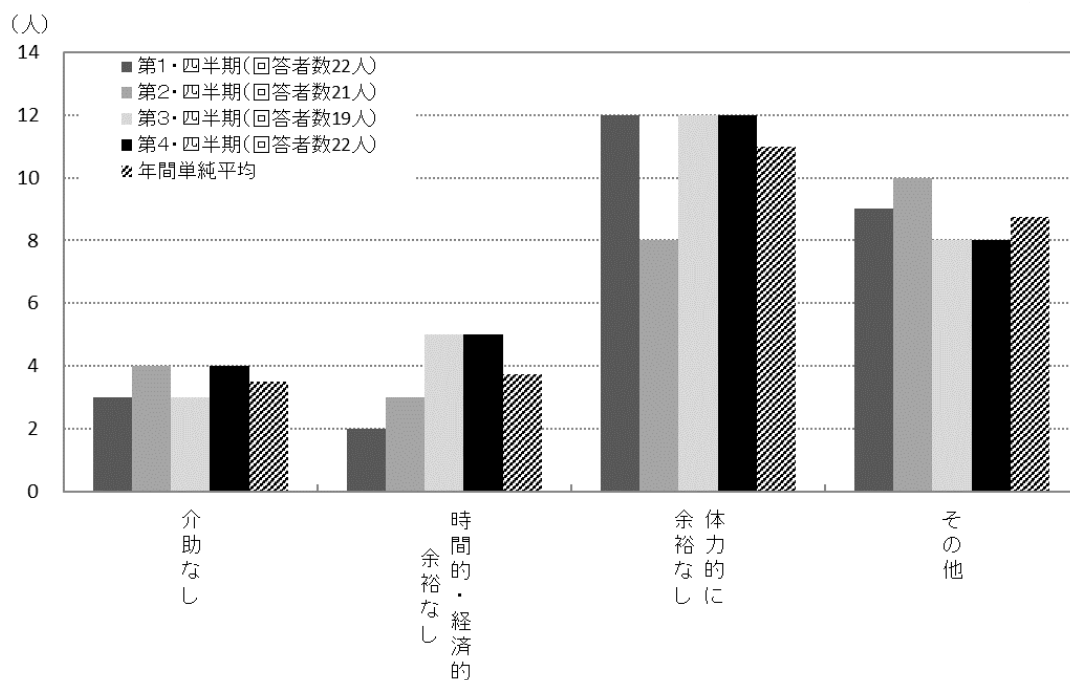


図 2-9 社会参加・社会活動等をしなかった理由の推

③-2 社会参加・社会活動等のきっかけ（SJS の健康被害者の方のみに質問）

○ 本人または介護者にたずねた社会参加・社会活動等のきっかけの主な内容は、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

◇家族、親類

- ・ 家族で旅行
- ・ 家族で外食。外に連れ出しています

◇友人、知人等

- ・ 友人からの誘い

◇患者団体、同好会等

- ・ 地域の方から誘いを受けた
- ・ 障害者スポーツセンターでスポーツ教室の募集があったため

◇情報誌や広告等

- ・ 障害者団体主催の講演会やスポーツ教室のお知らせを見て
- ・ 情報収集し、介助者が見つかった

◇自発的な活動

- ・ 定期的にライトハウスでゴールボールの練習をしている
- ・ リフレッシュ
- ・ コロナ禍で外出が減り運動不足解消のため
- ・ 体力・健康維持のため、スポーツセンターでトレーニングやウォーキングをしている
- ・ 散歩、買い物
- ・ 運動不足でほかの病気にならないように
- ・ 活動することによって生活のリズムを整えたかった。楽しむこと

◇その他

- ・ プレイクストークミニの給付によって読書を実現できる

③-3 社会参加・社会活動等の内容

ア 第1・四半期（回答者 25 人）

- 社会参加や社会活動などを行ったと答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期において健康被害者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-10及び図2-10のとおりである（複数回答）。
- 「パソコンを利用した社会参加」が36.0%、「スポーツ教室、大会などへの参加」「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が28.0%、「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」「障害者団体の活動」が24.0%となっている
- その他としては、「楽器演奏」「視力障害者のためのスマホ教室」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 25 人）

- 第2・四半期において健康被害者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-10及び図2-10のとおりである（複数回答）。
- 「趣味の同好会活動」が32.0%、「スポーツ教室、大会などへの参加」「パソコンを利用した社会参加」が28.0%、「障害者団体の活動」が24.0%、「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が20.0%となっている
- その他としては、「ヨガ」「外食」「散歩、買い物」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 24 人）

- 第3・四半期において健康被害者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-10及び図2-10のとおりである（複数回答）。
- 「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が41.7%、「障害者団体の活動」が37.5%、「パソコンを利用した社会参加」が33.3%、「友人との遊び」が29.2%となっている
- その他としては、「入院中の親への差し入れ物届のための病院訪問」「友人との会食」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 25 人）

- 第4・四半期において健康被害者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-10及び図2-10のとおりである（複数回答）。
- 「スポーツ教室、大会などへの参加」「障害者団体の活動」が32.0%、「パソコンを利用した社会参加」が28.0%、「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」「趣味の同好会活動」「友人との遊び」が24.0%となっている
- その他としては、「図書館より音楽CDを借り聞く」「自宅に先生を呼んでヨガ」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-10及び図2-10のとおりである（複数回答）。

□社会参加・社会活動などの内容の年間の平均では「パソコンを利用した社会参加」が31.3%、「障害者団体の活動」が29.3%、「スポーツ教室、大会などへの参加」が28.3%となっている

表2-10 社会参加・社会活動等の内容の推移

	コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学	スポーツ教室、大会などへの参加	旅行・キャンプ・つりなどの活動	趣味の同好会活動	ボランティアなどの社会活動	障害者団体の活動	地域活動	パソコンを利用した社会参加	友達との遊び	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	6 24.0%	7 28.0%	7 28.0%	5 20.0%	3 12.0%	6 24.0%	4 16.0%	9 36.0%	4 16.0%	4 16.0%	0	25
第2・四半期	4 16.0%	7 28.0%	5 20.0%	8 32.0%	2 8.0%	6 24.0%	4 16.0%	7 28.0%	4 16.0%	5 20.0%	0	25
第3・四半期	10 41.7%	6 25.0%	5 20.8%	4 16.7%	2 8.3%	9 37.5%	4 16.7%	8 33.3%	7 29.2%	7 29.2%	0	24
第4・四半期	6 24.0%	8 32.0%	3 12.0%	6 24.0%	2 8.0%	8 32.0%	3 12.0%	7 28.0%	6 24.0%	6 24.0%	0	25
年間単純平均	6.5 26.3%	7.0 28.3%	5.0 20.2%	5.8 23.2%	2.3 9.1%	7.3 29.3%	3.8 15.2%	7.8 31.3%	5.3 21.2%	5.5 22.2%	0.0	24.8
R2年度平均	3.5 14.0%	6.5 26.0%	4.8 19.0%	4.8 19.0%	1.5 6.0%	5.8 23.0%	2.3 9.0%	7.0 28.0%	5.5 22.0%	6.0 24.0%	0.0	25.0
R1年度平均	14.3 40.1%	9.0 25.4%	13.3 37.3%	10.5 29.6%	4.5 12.7%	12.8 35.9%	5.5 15.5%	10.0 28.2%	14.0 39.4%	1.8 4.9%	0.3	35.5
H30年度平均	21.3 64.9%	8.8 26.7%	15.0 45.8%	10.5 32.1%	4.0 12.2%	15.0 45.8%	5.0 15.3%	9.5 29.0%	13.8 42.0%	5.5 16.8%	6.3	32.8
H29年度平均	15.0 39.2%	6.8 17.6%	13.8 35.9%	12.0 31.4%	3.5 9.2%	11.8 30.7%	4.5 11.8%	8.8 22.9%	15.0 39.2%	6.0 15.7%	0.0	38.3
H28年度平均	15.0 39.5%	5.3 13.8%	13.3 34.9%	11.5 30.3%	4.0 10.5%	13.3 34.9%	4.5 11.8%	8.0 21.1%	13.3 34.9%	7.5 19.7%	0.0	38.0

注：上段は人数、下段は割合

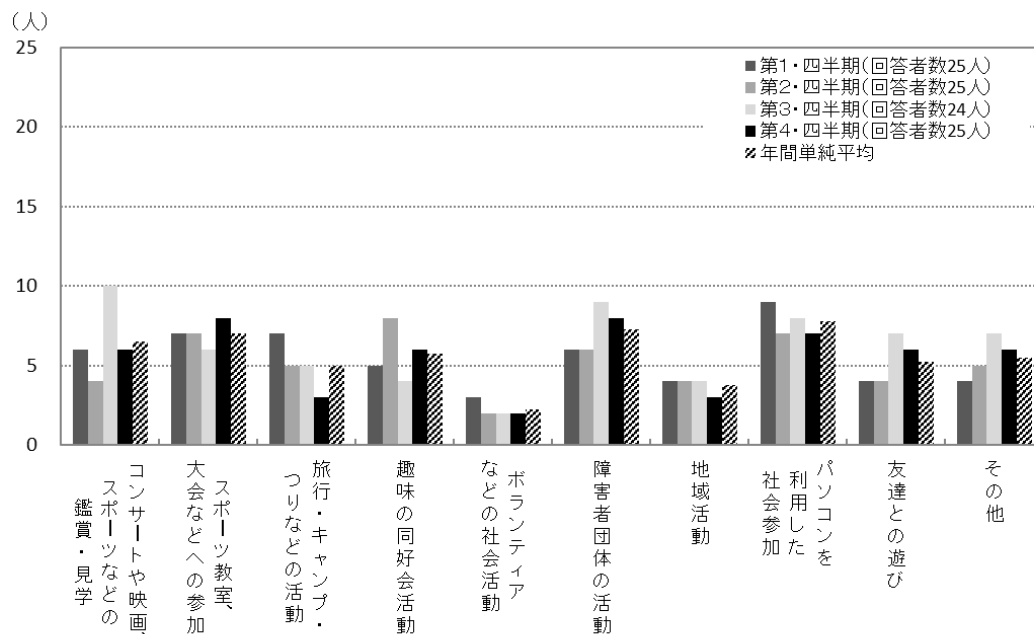


図2-10 社会参加・社会活動等の内容の推移

■ 屋内での生活における工夫について

④ 屋内での生活における工夫の有無（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第 1・四半期（回答者 47 人）

○ 第 1・四半期における屋内での生活の工夫の有無については、表 2-11 及び図 2-11 のとおりである。

□ 屋内での生活に工夫がある人が 91.5%、工夫がない人が 8.5%となっている

イ 第 2・四半期（回答者 43 人）

○ 第 2・四半期における屋内での生活の工夫の有無については、表 2-11 及び図 2-11 のとおりである。

□ 屋内での生活に工夫がある人が 95.3%、工夫がない人が 4.7%となっている

ウ 第 3・四半期（回答者 44 人）

○ 第 3・四半期における屋内での生活の工夫の有無については、表 2-11 及び図 2-11 のとおりである。

□ 屋内での生活に工夫がある人が 100.0%となっている

エ 第 4・四半期（回答者 48 人）

○ 第 4・四半期における屋内での生活の工夫の有無については、表 2-11 及び図 2-11 のとおりである。

□ 屋内での生活に工夫がある人が 100.0%となっている

オ 四半期ごとの推移

○ 第 1・四半期から第 4・四半期までの推移をみると、表 2-11 及び図 2-11 のとおりである。

□ 屋内での生活の工夫の有無の割合は、年間の平均では、工夫がある人が 96.7%、ない人が 3.3%となっている

表 2－11 屋内での生活における工夫の有無の推移

	ある	ない	回答なし	合 計
第1・四半期	43	4	0	47
	91.5%	8.5%	—	100.0%
第2・四半期	41	2	2	43
	95.3%	4.7%	—	100.0%
第3・四半期	44	0	1	44
	100.0%	0.0%	—	100.0%
第4・四半期	48	0	0	48
	100.0%	0.0%	—	100.0%
年間単純平均	44.0	1.5	0.8	45.5
	96.7%	3.3%	—	100.0%
R2年度平均	44.8	2.3	0.5	47.0
	95.2%	4.8%	—	100.0%
R1年度平均	39.3	4.5	4.3	43.8
	89.7%	10.3%	—	100.0%
H30年度平均	44.0	2.3	8.8	46.3
	95.1%	4.9%	—	100.0%
H29年度平均	44.8	2.0	1.0	46.8
	95.7%	4.3%	—	100.0%
H28年度平均	39.0	4.3	5.3	43.3
	90.2%	9.8%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

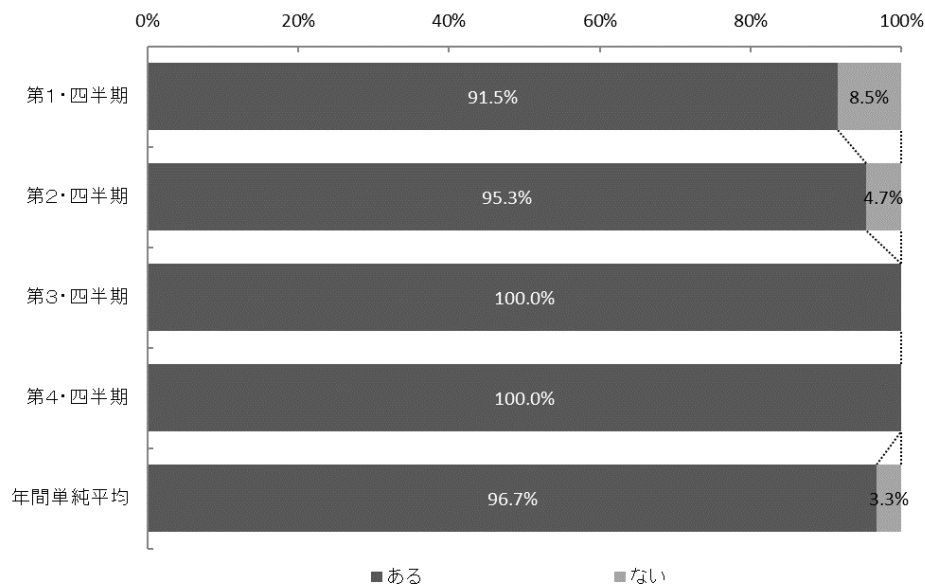


図 2－11 屋内での生活における工夫の有無の推移

④-1 屋内での生活における工夫【家のつくり等】（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第 1・四半期（回答者 42 人）

- 屋内での生活における工夫があると答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第 1・四半期において、屋内での生活の工夫で「家のつくり等」に関する具体的な内容については、表 2-12 及び図 2-12 のとおりである（複数回答）。
- 「よく使う物は同じ場所に置く」が 95.2%、「通路や床に物を置かない」が 81.0%、「移動の妨げにならないよう部屋の扉は開けたまま」が 57.1%、「段差がないように敷物などで調整」が 33.3%となっている
- その他としては、「手すりの設置」などをあげている

イ 第 2・四半期（回答者 40 人）

- 第 2・四半期において、屋内での生活の工夫で「家のつくり等」に関する具体的な内容については、表 2-12 及び図 2-12 のとおりである（複数回答）。
- 「よく使う物は同じ場所に置く」が 100.0%、「通路や床に物を置かない」が 80.0%、「移動の妨げにならないよう部屋の扉は開けたまま」が 57.5%、「段差がないように敷物などで調整」が 17.5%となっている
- その他としては、「階段にペンキで黄線を塗る」などをあげている

ウ 第 3・四半期（回答者 42 人）

- 第 3・四半期において、屋内での生活の工夫で「家のつくり等」に関する具体的な内容については、表 2-12 及び図 2-12 のとおりである（複数回答）。
- 「よく使う物は同じ場所に置く」が 95.2%、「通路や床に物を置かない」が 85.7%、「移動の妨げにならないよう部屋の扉は開けたまま」が 38.1%、「段差がないように敷物などで調整」が 28.6%となっている
- その他としては、「風呂、トイレ、食事をなるべく近くにするため生活は 1 階のみにした」などをあげている

エ 第 4・四半期（回答者 46 人）

- 第 4・四半期において、屋内での生活の工夫で「家のつくり等」に関する具体的な内容については、表 2-12 及び図 2-12 のとおりである（複数回答）。
- 「よく使う物は同じ場所に置く」が 97.8%、「通路や床に物を置かない」が 78.3%、「移動の妨げにならないよう部屋の扉は開けたまま」が 47.8%、「段差がないように敷物などで調整」が 30.4%となっている
- その他としては、「段差のところにオレンジのテープをはっている」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-12及び図2-12のとおりである（複数回答）。

屋内での生活の工夫で「家のつくり等」に関する具体的な内容の年間の平均では「よく使う物は同じ場所に置く」が97.1%、「通路や床に物を置かない」が81.2%、「移動の妨げにならないよう部屋の扉は開けたまま」が50.0%、「段差がないよう敷物などで調整」が27.6%となっている

表2-12 屋内での生活における工夫【家のつくり等】の推移

	通路や床に物を置かない	よく使う物は同じ場所に置く	段差がないよう敷物などで調整	移動の妨げにならないよう部屋の扉は開けたまま	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	34	40	14	24	1	1	42
	81.0%	95.2%	33.3%	57.1%	2.4%	—	—
第2・四半期	32	40	7	23	3	1	40
	80.0%	100.0%	17.5%	57.5%	7.5%	—	—
第3・四半期	36	40	12	16	3	2	42
	85.7%	95.2%	28.6%	38.1%	7.1%	—	—
第4・四半期	36	45	14	22	1	2	46
	78.3%	97.8%	30.4%	47.8%	2.2%	—	—
年間単純平均	34.5	41.3	11.8	21.3	2.0	1.5	42.5
	81.2%	97.1%	27.6%	50.0%	4.7%	—	—
R2年度平均	30.5	41.0	11.3	19.3	4.3	2.5	42.3
	72.2%	97.0%	26.6%	45.6%	10.1%	—	—
R1年度平均	29.8	37.0	8.8	16.3	5.0	1.0	38.3
	77.8%	96.7%	22.9%	42.5%	13.1%	—	—
H30年度平均	32.0	41.3	9.3	18.0	7.0	1.5	42.5
	75.3%	97.1%	21.8%	42.4%	16.5%	—	—
H29年度平均	34.3	40.8	11.0	16.8	6.5	2.0	42.8
	80.1%	95.3%	25.7%	39.2%	15.2%	—	—
H28年度平均	31.8	36.3	9.0	12.5	5.0	1.0	38.0
	83.6%	95.4%	23.7%	32.9%	13.2%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

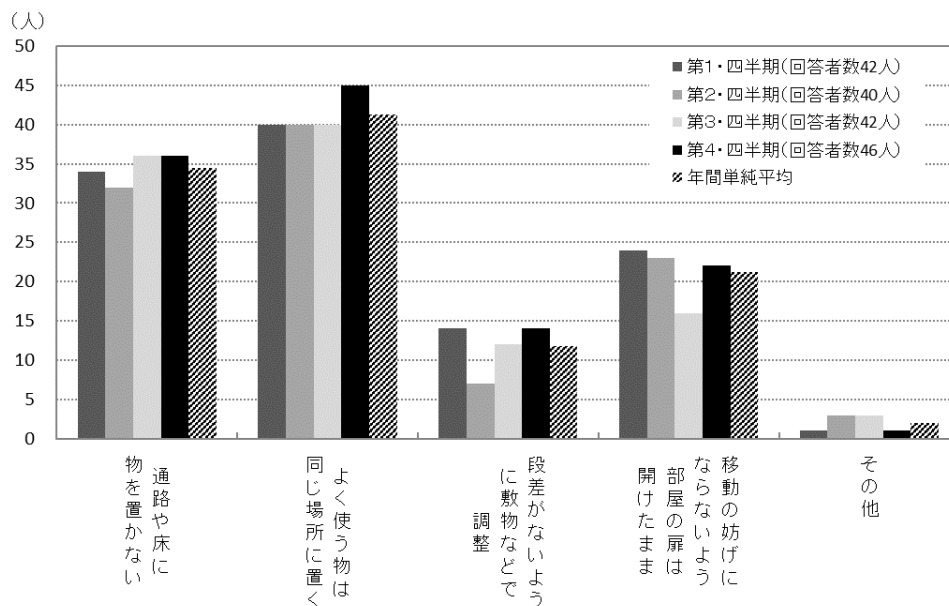


図2-12 屋内での生活における工夫【家のつくり等】の推移

④ー1 屋内での生活における工夫【補助用具等】（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第1・四半期（回答者 41 人）

- 屋内での生活における工夫があると答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期において、屋内での生活の工夫で「補助用具等」に関する具体的な内容については、表 2-13 及び図 2-13 のとおりである（複数回答）。
- 「音声ガイドや朗読サービスの活用」が 61.0%、「拡大読書器・ルーペの活用」が 53.7%となっている
- その他としては、「各種音声付機器」「PC、スマホ」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 38 人）

- 第2・四半期において、屋内での生活の工夫で「補助用具等」に関する具体的な内容については、表 2-13 及び図 2-13 のとおりである（複数回答）。
- 「音声ガイドや朗読サービスの活用」が 57.9%、「拡大読書器・ルーペの活用」が 55.3%、となっている
- その他としては、「音訳ボランティア、パソコン・携帯の読み上げ機能、録音図書」「ラジオ」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 40 人）

- 第3・四半期において、屋内での生活の工夫で「補助用具等」に関する具体的な内容については、表 2-13 及び図 2-13 のとおりである（複数回答）。
- 「音声ガイドや朗読サービスの活用」が 70.0%、「拡大読書器・ルーペの活用」が 52.5%となっている
- その他としては、「音声パソコン、各種音声付機器」「スマホ」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 44 人）

- 第4・四半期において、屋内での生活の工夫で「補助用具等」に関する具体的な内容については、表 2-13 及び図 2-13 のとおりである（複数回答）。
- 「音声ガイドや朗読サービスの活用」が 63.6%、「拡大読書器・ルーペの活用」が 52.3%となっている
- その他としては、「音訳ボランティア、パソコン・携帯の読み上げ機能、録音図書」「スマートフォンによる音声ガイド機能」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-13及び図2-13のとおりである（複数回答）。

屋内での生活の工夫で「補助用具等」に関する具体的な内容の年間の平均では「音声ガイドや朗読サービスの活用」が63.2%、「拡大読書器・ルーペの活用」が53.4%となっている

表2-13 屋内での生活における工夫【補助用具等】の推移

	拡大読書器・ ルーペの活用	音声ガイドや 朗読サービスの 活用	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	22	25	7	2	41
	53.7%	61.0%	17.1%	—	—
第2・四半期	21	22	8	3	38
	55.3%	57.9%	21.1%	—	—
第3・四半期	21	28	7	4	40
	52.5%	70.0%	17.5%	—	—
第4・四半期	23	28	6	4	44
	52.3%	63.6%	13.6%	—	—
年間単純平均	21.8	25.8	7.0	3.3	40.8
	53.4%	63.2%	17.2%	—	—
R2年度平均	23.8	24.5	8.5	4.0	40.8
	58.3%	60.1%	20.9%	—	—
R1年度平均	20.8	23.0	6.8	2.3	37.0
	56.1%	62.2%	18.2%	—	—
H30年度平均	22.8	21.0	5.5	2.8	41.3
	55.2%	50.9%	13.3%	—	—
H29年度平均	21.3	25.0	8.8	4.8	40.0
	53.1%	62.5%	21.9%	—	—
H28年度平均	19.0	22.0	6.8	3.5	35.5
	53.5%	62.0%	19.0%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

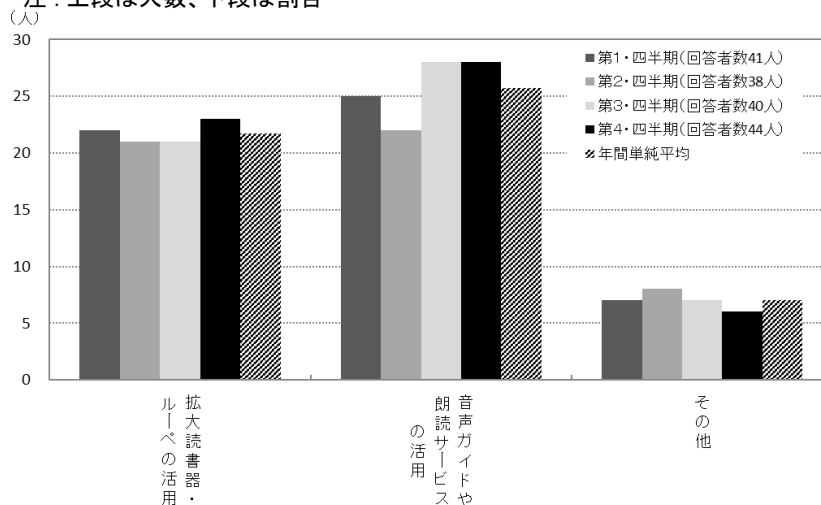


図2-13 屋内での生活における工夫【補助用具等】の推移

④ー1 屋内での生活における工夫【衛生面等】（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第 1・四半期（回答者 30 人）

- 屋内での生活における工夫があると答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第 1・四半期において、屋内での生活の工夫で「衛生面等」に関する具体的な内容については、表 2-14 及び図 2-14 のとおりである（複数回答）。
- 「こまめな温度調節」が 73.3%、「ハウスダストの徹底した除去」が 43.3%、「乾燥予防のため加湿器を利用」が 36.7%となっている
- その他としては、「眼の乾燥には点眼、体の乾燥には保湿剤塗布、呼吸器にはマスク着用・空気清浄機を使用」などをあげている

イ 第 2・四半期（回答者 27 人）

- 第 2・四半期において、屋内での生活の工夫で「衛生面等」に関する具体的な内容については、表 2-14 及び図 2-14 のとおりである（複数回答）。
- 「こまめな温度調節」が 77.8%、「ハウスダストの徹底した除去」が 40.7%、「乾燥予防のため加湿器を利用」が 29.6%となっている
- その他としては、「手洗い、うがいをする」「空気清浄機使用」などをあげている

ウ 第 3・四半期（回答者 30 人）

- 第 3・四半期において、屋内での生活の工夫で「衛生面等」に関する具体的な内容については、表 2-14 及び図 2-14 のとおりである（複数回答）。
- 「こまめな温度調節」が 83.3%、「乾燥予防のため加湿器を利用」が 56.7%、「ハウスダストの徹底した除去」が 36.7%となっている
- その他としては、「晴れの日には布団や洗濯物を天日干しするようにしている」「こまめに手洗いうがい」などをあげている

エ 第 4・四半期（回答者 34 人）

- 第 4・四半期において、屋内での生活の工夫で「衛生面等」に関する具体的な内容については、表 2-14 及び図 2-14 のとおりである（複数回答）。
- 「こまめな温度調節」が 70.6%、「乾燥予防のため加湿器を利用」が 50.0%、「ハウスダストの徹底した除去」が 41.2%となっている
- その他としては、「来客がある時には窓を開け換気をする様に工夫している」「こまめにお茶を飲む」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-14及び図2-14のとおり（複数回答）。

屋内での生活の工夫で「衛生面等」に関する具体的な内容の年間の平均では「こまめな温度調節」が76.0%、「乾燥予防のため加湿器を利用」が43.8%、「ハウスダストの徹底した除去」が40.5%となっている

表2-14 屋内での生活における工夫【衛生面等】の推移

	乾燥予防のため加湿器を利用	こまめな温度調節	ハウスダストの徹底した除去	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	11	22	13	6	13	30
	36.7%	73.3%	43.3%	20.0%	—	—
第2・四半期	8	21	11	8	14	27
	29.6%	77.8%	40.7%	29.6%	—	—
第3・四半期	17	25	11	4	14	30
	56.7%	83.3%	36.7%	13.3%	—	—
第4・四半期	17	24	14	4	14	34
	50.0%	70.6%	41.2%	11.8%	—	—
年間単純平均	13.3	23.0	12.3	5.5	13.8	30.3
	43.8%	76.0%	40.5%	18.2%	—	—
R2年度平均	15.0	23.3	9.8	5.0	14.0	30.8
	48.8%	75.6%	31.7%	16.3%	—	—
R1年度平均	16.3	21.5	10.5	4.8	8.5	30.8
	52.8%	69.9%	34.1%	15.4%	—	—
H30年度平均	17.3	19.5	7.5	3.3	12.5	31.5
	54.8%	61.9%	23.8%	10.3%	—	—
H29年度平均	18.8	21.3	9.8	6.5	12.8	32.0
	58.6%	66.4%	30.5%	20.3%	—	—
H28年度平均	17.8	18.3	9.3	4.5	9.8	29.3
	60.7%	62.4%	31.6%	15.4%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

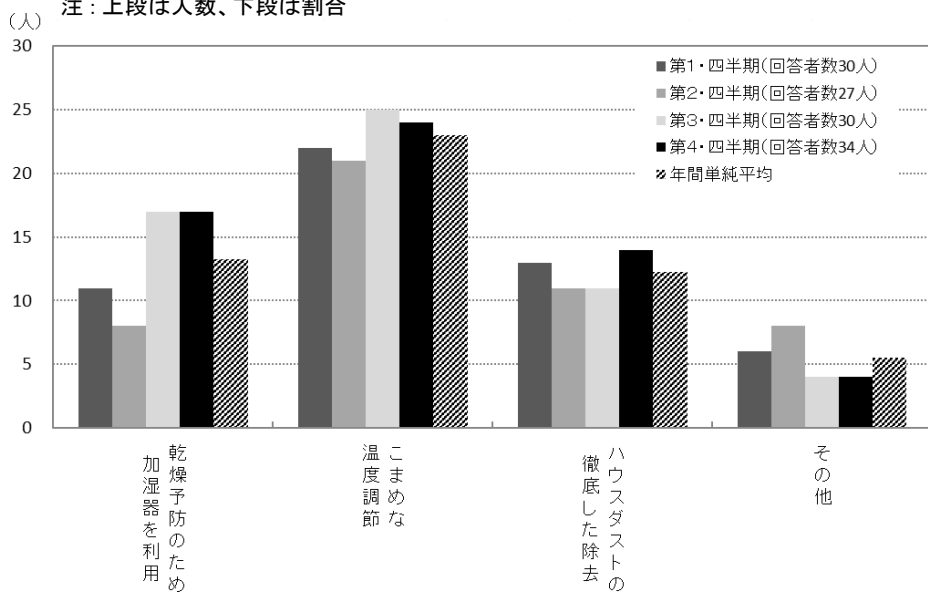


図2-14 屋内での生活における工夫【衛生面等】の推移

④ー1 屋内での生活における工夫【区別方法】（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第1・四半期（回答者 25 人）

- 屋内での生活における工夫があると答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。第1・四半期において、屋内での生活の工夫で「区別方法」に関する具体的な内容については、表 2-15 及び図 2-15 のとおりである（複数回答）。
- 「点字シールをつける」が 48.0%、「カラーテープで目印」が 36.0%、「室内の動線にカラーテープや蛍光塗料で目印」が 12.0%となっている
 - その他としては、「室内に屋内用点字ブロックを貼る」「凸凹の印をつける、紐・糸などで印をつける。配色を工夫」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 25 人）

- 第2・四半期において、屋内での生活の工夫で「区別方法」に関する具体的な内容については、表 2-15 及び図 2-15 のとおりである（複数回答）。
- 「点字シールをつける」が 44.0%、「カラーテープで目印」が 28.0%、「室内の動線にカラーテープや蛍光塗料で目印」が 16.0%となっている
 - その他としては、「収納ケースの活用」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 26 人）

- 第3・四半期において、屋内での生活の工夫で「区別方法」に関する具体的な内容については、表 2-15 及び図 2-15 のとおりである（複数回答）。
- 「点字シールをつける」が 42.3%、「カラーテープで目印」が 30.8%、「室内の動線にカラーテープや蛍光塗料で目印」が 23.1%となっている
 - その他としては、「物探しタグや音声識別タグなどを各専用スマホアプリと連動させたアイテムを活用している」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 27 人）

- 第4・四半期において、屋内での生活の工夫で「区別方法」に関する具体的な内容については、表 2-15 及び図 2-15 のとおりである（複数回答）。
- 「点字シールをつける」が 51.9%、「カラーテープで目印」が 33.3%、「室内の動線にカラーテープや蛍光塗料で目印」が 18.5%となっている
 - その他としては、「タッチメモ（つけたシールの内容を音声で読み上げる）カラーオン（洋服の色を音声でいう）の使用」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-15及び図2-15のとおりである（複数回答）。

屋内での生活の工夫で「区別方法」に関する具体的な内容の年間の平均では「点字シールをつける」が46.6%、「カラーテープで目印」が32.0%、「室内の動線にカラーテープや蛍光塗料で目印」が17.5%となっている

表2-15 屋内での生活における工夫【区別方法】の推移

	点字シール をつける	カラーテープ で目印	室内の動線に カラーテープ や蛍光塗料 で目印	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	12 48.0%	9 36.0%	3 12.0%	7 28.0%	18 —	25 —
第2・四半期	11 44.0%	7 28.0%	4 16.0%	9 36.0%	16 —	25 —
第3・四半期	11 42.3%	8 30.8%	6 23.1%	8 30.8%	18 —	26 —
第4・四半期	14 51.9%	9 33.3%	5 18.5%	9 33.3%	21 —	27 —
年間単純平均	12.0 46.6%	8.3 32.0%	4.5 17.5%	8.3 32.0%	18.3 —	25.8 —
R2年度平均	12.8 49.0%	11.3 43.3%	6.3 24.0%	5.0 19.2%	18.8 —	26.0 —
R1年度平均	12.3 45.4%	9.0 33.3%	6.0 22.2%	7.8 28.7%	12.3 —	27.0 —
H30年度平均	11.0 40.4%	9.8 35.8%	4.0 14.7%	7.5 27.5%	16.8 —	27.3 —
H29年度平均	10.8 41.3%	8.3 31.7%	4.3 16.3%	7.3 27.9%	18.8 —	26.0 —
H28年度平均	10.5 42.4%	9.8 39.4%	4.3 17.2%	4.0 16.2%	14.3 —	24.8 —

注：上段は人数、下段は割合

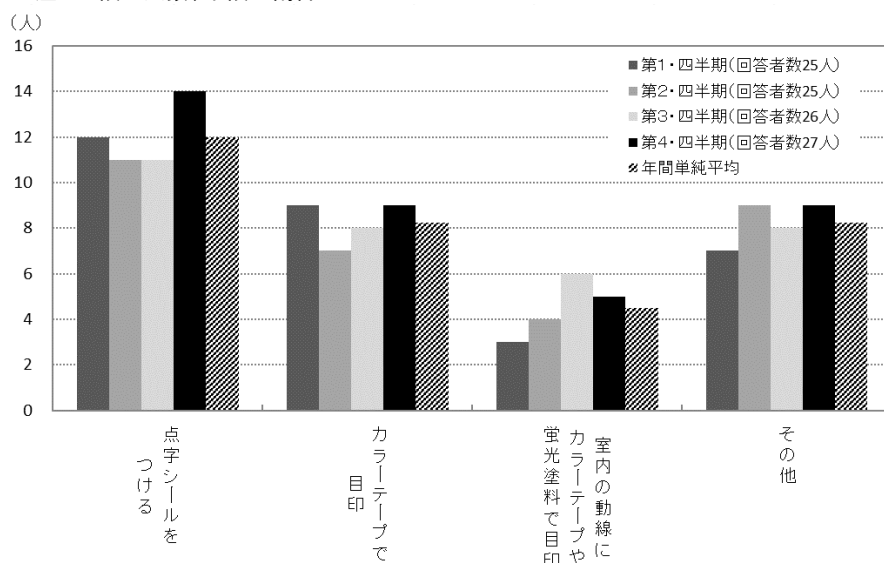


図2-15 屋内での生活における工夫【区別方法】の推移

④ー2 屋内での生活における工夫

○ 本人または介護者にたずねた屋内での生活における工夫の主な具体的内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・物を減らし、歩きやすいよう見つけやすいようにした
- ・室内の廊下等に照明をつけている
- ・太陽光を入れる、照明をつけるなど、部屋は常に明るくしている
- ・常に部屋の中は明るくしていく
- ・電気のスイッチがすぐわかるようにスポンジ等をつけている。ご飯の白がわかるようにお茶碗を黒いものに変えた
- ・採光、照明の調節
- ・スマホ、タブレットなど活用することが多くなった
- ・全然見えなくなったので階段の手すりを右左につけた。玄関の外にもスロープと手すりをつけた
- ・扉は開けておく
- ・スマホのアプリを活用しカメラ機能でテキストを読ませたり拡大して物を見ている
- ・AI スピーカーと家電リモコンアプリを活用してエアコンテレビの簡単に調節をしていたが最近は調子が悪く専用リモコンを使用している
- ・全盲なので凸凹シールや音で場所がわかるようにしている
- ・以前階段から転落し胸椎を骨折した為、それ以降は屋内ではほとんど素足で足裏の感覚で歩くようにしている
- ・ガラス食器は使用後洗ったらすぐに元の場所に戻す
- ・スリッパは床とのコントラストかはっきりしたものを選んでいく
- ・食器棚は分かりやすいようにしておく
- ・透明のガラス食器は使用後すぐに洗浄して片付ける
- ・物を置くときは色のコントラストがはっきりするところに置く（白いものは白い敷物の上には置かない等）
- ・以前、家をリフォームしてバリアフリーにした以来は特に変わらず生活できている
- ・寝たきりなので、できるだけ車いすに乗せる様に心掛けている
- ・DVD、音楽を聴くなど、楽しめるものを身のまわりに置いて気分を安定させた

■ 日常生活について（SJS の健康被害者の方のみに質問）

⑤日常生活について

⑤-1 新聞や本を読むことの不自由さについて

ア 第1・四半期（回答者 41 人）

○第1・四半期において、ものが見えにくいために、新聞や本を読むことがどの程度不自由であるかをたずねた結果は、表 2-16 及び図 2-16 のとおりである。

□新聞や本を読むことについては「見えにくいのでやめた」が 73.2%、「とても不自由」が 22.0%となっている

イ 第2・四半期（回答者 39 人）

○第2・四半期において、ものが見えにくいために、新聞や本を読むことがどの程度不自由であるかをたずねた結果は、表 2-16 及び図 2-16 のとおりである。

□新聞や本を読むことについては「見えにくいのでやめた」が 76.9%、「とても不自由」が 20.5%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 41 人）

○第3・四半期において、ものが見えにくいために、新聞や本を読むことがどの程度不自由であるかをたずねた結果は、表 2-16 及び図 2-16 のとおりである。

□新聞や本を読むことについては「見えにくいのでやめた」が 70.7%、「とても不自由」が 24.4%となっている

エ 第4・四半期（回答者 45 人）

○第4・四半期において、ものが見えにくいために、新聞や本を読むことがどの程度不自由であるかをたずねた結果は、表 2-16 及び図 2-16 のとおりである。

□新聞や本を読むことについては「見えにくいのでやめた」が 71.1%、「とても不自由」が 24.4%となっている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-16 及び図 2-16 のとおりである。

□ものが見えにくいため新聞や本を読むことの不自由さについては、年間の平均では「見えにくいのでやめた」が 72.9%、「とても不自由」が 22.9%となっている

表 2-16 新聞や本を読むことの不自由さの推移

	全く不自由 はない	あまり不自由 はない	とても不自由	見えにくいので やめた	回答なし	合 計
第1・四半期	0	2	9	30	6	41
	0.0%	4.9%	22.0%	73.2%	—	100.0%
第2・四半期	0	1	8	30	6	39
	0.0%	2.6%	20.5%	76.9%	—	100.0%
第3・四半期	0	2	10	29	4	41
	0.0%	4.9%	24.4%	70.7%	—	100.0%
第4・四半期	0	2	11	32	3	45
	0.0%	4.4%	24.4%	71.1%	—	100.0%
年間単純平均	0.0	1.8	9.5	30.3	4.8	41.5
	0.0%	4.2%	22.9%	72.9%	—	100.0%
R2年度平均	0.3	1.0	12.0	31.8	2.5	45.0
	0.6%	2.2%	26.7%	70.6%	—	100.0%
R1年度平均	0.8	1.5	14.5	26.3	5.0	43.0
	1.7%	3.5%	33.7%	61.0%	—	100.0%
H30年度平均	1.0	2.3	12.8	28.5	10.5	44.5
	2.2%	5.1%	28.7%	64.0%	—	100.0%
H29年度平均	0.8	2.0	13.3	26.0	5.8	42.0
	1.8%	4.8%	31.5%	61.9%	—	100.0%
H28年度平均	0.5	0.8	15.3	27.8	4.3	44.3
	1.1%	1.7%	34.5%	62.7%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

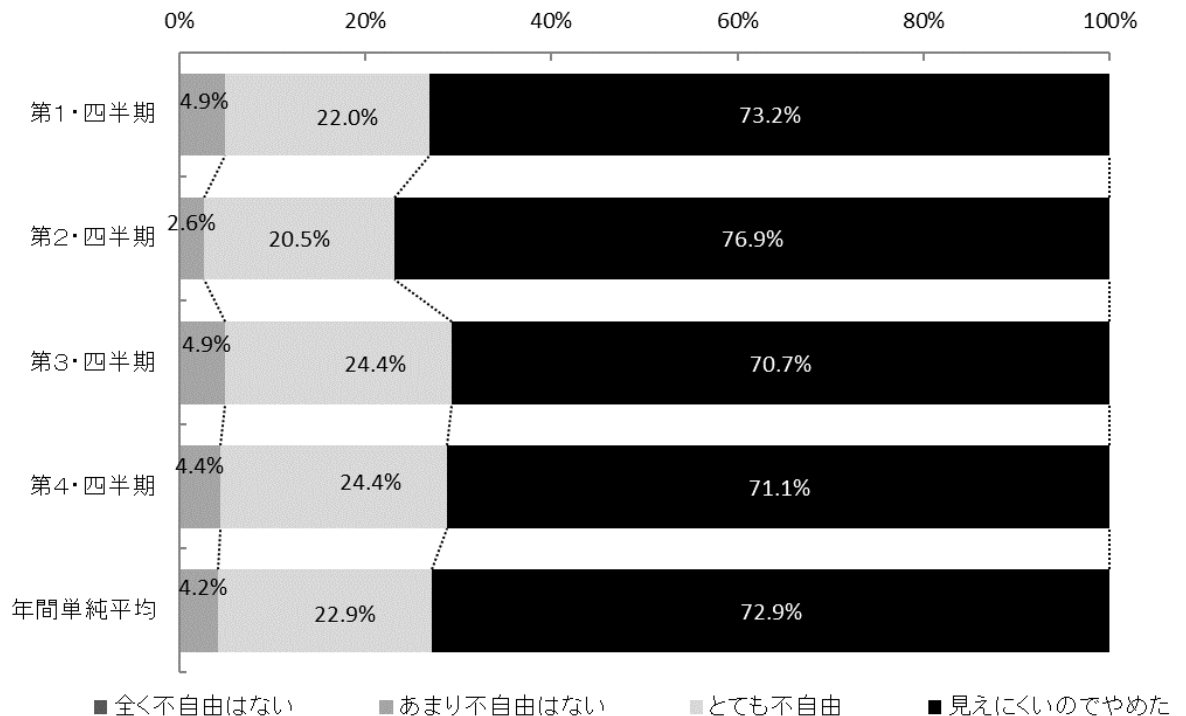


図 2-16 新聞や本を読むことの不自由さの推移

⑤-2 目や目のまわりの痛み・不快感の程度について

ア 第1・四半期（回答者 46 人）

○第1・四半期において、目や目のまわりの痛み・不快感の程度についてたずねた結果は、表 2-17 及び図 2-17 のとおりである。

□目や目のまわりの痛みや不快感については「かなりある」が 65.2%、「中くらいある」が 23.9%となっている

イ 第2・四半期（回答者 44 人）

○第2・四半期において、目や目のまわりの痛み・不快感の程度についてたずねた結果は、表 2-17 及び図 2-17 のとおりである。

□目や目のまわりの痛みや不快感については「かなりある」が 61.4%、「中くらいある」が 20.5%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 44 人）

○第3・四半期において、目や目のまわりの痛み・不快感の程度についてたずねた結果は、表 2-17 及び図 2-17 のとおりである。

□目や目のまわりの痛みや不快感については「かなりある」が 54.5%、「中くらいある」が 29.5%となっている

エ 第4・四半期（回答者 46 人）

○第4・四半期において、目や目のまわりの痛み・不快感の程度についてたずねた結果は、表 2-17 及び図 2-17 のとおりである。

□目や目のまわりの痛みや不快感については「かなりある」が 52.2%、「中くらいある」が 32.6%となっている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-17 及び図 2-17 のとおりである。

□目や目のまわりの痛み・不快感の程度については、年間の平均では「かなりある」が 58.3%、「中くらいある」が 26.7%となっている

表 2-17 目や目のまわりの痛み・不快感の程度の推移

	かなりある	中くらいある	かすかにある	まったくない	回答なし	合 計
第1・四半期	30	11	4	1	1	46
	65.2%	23.9%	8.7%	2.2%	—	100.0%
第2・四半期	27	9	8	0	1	44
	61.4%	20.5%	18.2%	0.0%	—	100.0%
第3・四半期	24	13	7	0	1	44
	54.5%	29.5%	15.9%	0.0%	—	100.0%
第4・四半期	24	15	7	0	2	46
	52.2%	32.6%	15.2%	0.0%	—	100.0%
年間単純平均	26.3	12.0	6.5	0.3	1.3	45.0
	58.3%	26.7%	14.4%	0.6%	—	100.0%
R2年度平均	27.5	11.8	7.0	0.0	1.3	46.3
	59.5%	25.4%	15.1%	0.0%	—	100.0%
R1年度平均	25.3	14.3	7.3	0.0	1.3	46.8
	54.0%	30.5%	15.5%	0.0%	—	100.0%
H30年度平均	25.0	13.3	8.5	0.0	8.3	46.8
	53.5%	28.3%	18.2%	0.0%	—	100.0%
H29年度平均	23.5	13.5	8.0	0.3	2.5	45.3
	51.9%	29.8%	17.7%	0.6%	—	100.0%
H28年度平均	26.3	13.0	7.8	0.0	1.5	47.0
	55.9%	27.7%	16.5%	0.0%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

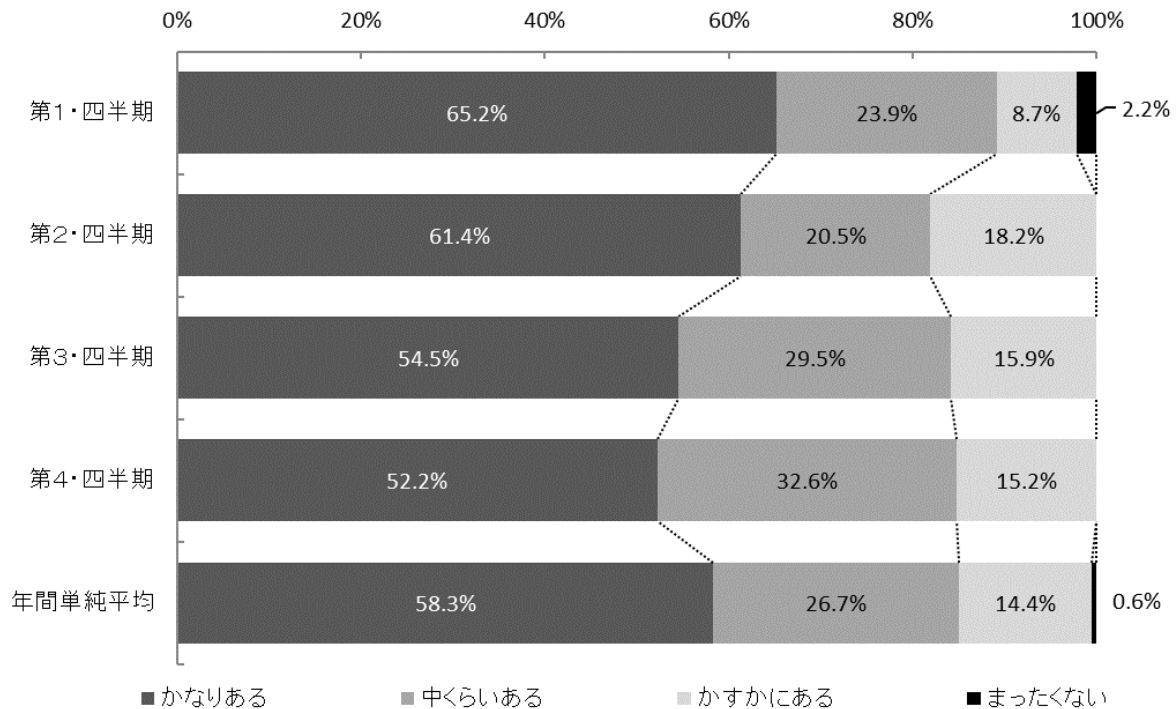


図 2-17 目や目のまわりの痛み・不快感の程度の推移

⑤-3 ものが見えにくいため物事を思いどおりにやりとげられない場合

ア 第1・四半期（回答者 44 人）

- 第1・四半期において、ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについてたずねた結果は、表 2-18 及び図 2-18 のとおりである。
- ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについては「ある」が 95.5%、「ない」が 4.5%となっている

イ 第2・四半期（回答者 42 人）

- 第2・四半期において、ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについてたずねた結果は、表 2-18 及び図 2-18 のとおりである。
- ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについては「ある」が 90.5%、「ない」が 9.5%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 43 人）

- 第3・四半期において、ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについてたずねた結果は、表 2-18 及び図 2-18 のとおりである。
- ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについては「ある」が 95.3%、「ない」が 4.7%となっている

エ 第4・四半期（回答者 47 人）

- 第4・四半期において、ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについてたずねた結果は、表 2-18 及び図 2-18 のとおりである。
- ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがあるかについては「ある」が 93.6%、「ない」が 6.4%となっている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-18 及び図 2-18 のとおりである。
- ものが見えにくいために物事を思いどおりにやりとげられない場合については、年間の平均では「ある」が 93.8%、「ない」が 6.3%となっている

表 2-18 ものが見えにくいため物事を思いどおりにやりとげられない場合の推移

	ある	ない	回答なし	合 計
第1・四半期	42	2	3	44
	95.5%	4.5%	—	100.0%
第2・四半期	38	4	3	42
	90.5%	9.5%	—	100.0%
第3・四半期	41	2	2	43
	95.3%	4.7%	—	100.0%
第4・四半期	44	3	1	47
	93.6%	6.4%	—	100.0%
年間単純平均	41.3	2.8	2.3	44.0
	93.8%	6.3%	—	100.0%
R2年度平均	42.0	2.3	3.3	45.3
	94.5%	5.5%	—	100.0%
R1年度平均	42.8	2.5	2.8	45.3
	94.5%	5.5%	—	100.0%
H30年度平均	43.5	2.0	9.0	45.5
	95.6%	4.4%	—	100.0%
H29年度平均	41.8	2.8	3.3	44.5
	93.8%	6.2%	—	100.0%
H28年度平均	44.3	2.5	1.8	48.5
	94.7%	5.3%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

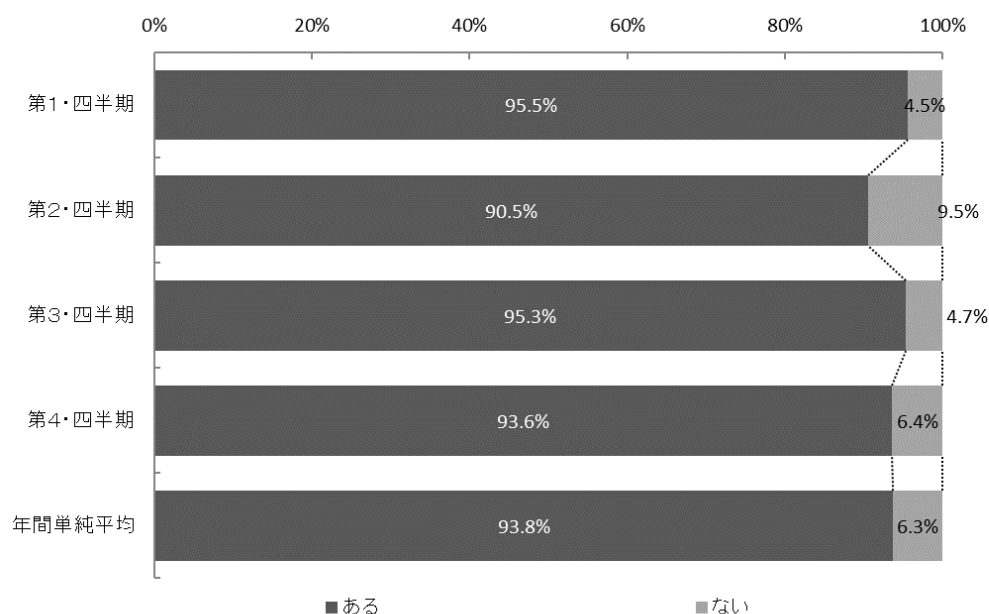


図 2-18 ものが見えにくいため物事を思いどおりにやりとげられない場合の推移

⑤-4 思いどおりにやりとげられないためイライラすることの有無

ア 第1・四半期（回答者 44 人）

○第1・四半期において、物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについてたずねた結果は、表 2-19 及び図 2-19 のとおりである。

□物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについては「ある」が 88.6%、「ない」が 11.4%となっている

イ 第2・四半期（回答者 43 人）

○第2・四半期において、物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについてたずねた結果は、表 2-19 及び図 2-19 のとおりである。

□物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについては「ある」が 86.0%、「ない」が 14.0%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 44 人）

○第3・四半期において、物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについてたずねた結果は、表 2-19 及び図 2-19 のとおりである。

□物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについては「ある」が 88.6%、「ない」が 11.4%となっている

エ 第4・四半期（回答者 45 人）

○第4・四半期において、物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについてたずねた結果は、表 2-19 及び図 2-19 のとおりである。

□物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがあるかについては「ある」が 86.7%、「ない」が 13.3%となっている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-19 及び図 2-19 のとおりである。

□物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることの有無については、年間の平均では「ある」が 87.5%、「ない」が 12.5%となっている

表 2-19 思いどおりにやりとげられないためイライラすることの有無の推移

	ある	ない	回答なし	合 計
第1・四半期	39	5	3	44
	88.6%	11.4%	—	100.0%
第2・四半期	37	6	2	43
	86.0%	14.0%	—	100.0%
第3・四半期	39	5	1	44
	88.6%	11.4%	—	100.0%
第4・四半期	39	6	3	45
	86.7%	13.3%	—	100.0%
年間単純平均	38.5	5.5	2.3	44.0
	87.5%	12.5%	—	100.0%
R2年度平均	38.5	5.8	3.3	44.3
	87.0%	13.0%	—	100.0%
R1年度平均	40.3	5.3	2.5	45.5
	88.5%	11.5%	—	100.0%
H30年度平均	40.0	5.8	9.3	45.8
	87.4%	12.6%	—	100.0%
H29年度平均	36.8	7.3	3.8	44.0
	83.5%	16.5%	—	100.0%
H28年度平均	40.5	5.3	2.8	47.3
	88.5%	11.5%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

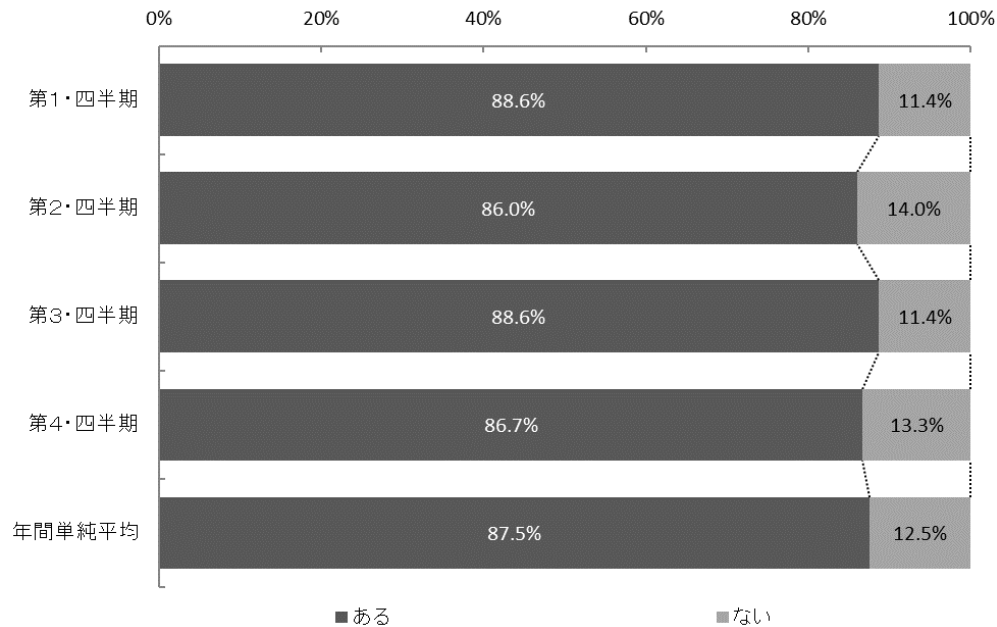


図 2-19 思いどおりにやりとげられないためイライラすることの有無の推移

⑤-5 呼吸器領域に関する診断の有無

ア 第1・四半期（回答者 19 人）

- 第1・四半期において、呼吸器領域に関する診断の有無についてたずねた結果は、表 2-20 及び図 2-20 のとおりである（複数回答）。
- 「気管支炎」が 52.6%、「閉塞性細気管支炎」「気管支喘息」が 15.8%、「肺気腫」が 10.5%となっている
- その他としては、「肺マック症」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 14 人）

- 第2・四半期において、呼吸器領域に関する診断の有無についてたずねた結果は、表 2-20 及び図 2-20 のとおりである（複数回答）。
- 「気管支炎」が 42.9%、「気管支喘息」が 28.6%、「閉塞性細気管支炎」「肺気腫」が 21.4%となっている
- その他としては、「肺マック症」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 18 人）

- 第3・四半期において、呼吸器領域に関する診断の有無についてたずねた結果は、表 2-20 及び図 2-20 のとおりである（複数回答）。
- 「気管支炎」が 55.6%、「閉塞性細気管支炎」「気管支喘息」が 22.2%、「肺気腫」が 11.1%となっている
- その他としては、「肺マック症」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 19 人）

- 第4・四半期において、呼吸器領域に関する診断の有無についてたずねた結果は、表 2-20 及び図 2-20 のとおりである（複数回答）。
- 「気管支炎」が 47.4%、「気管支喘息」が 36.8%、「閉塞性細気管支炎」「肺気腫」が 15.8%となっている
- その他としては、「慢性気管支炎」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-20及び図2-20のとおりである（複数回答）。

呼吸器領域に関する診断の有無についてたずねた結果の年間の平均では「気管支炎」が50.0%、「気管支喘息」が25.7%、「閉塞性細気管支炎」が18.6%、「肺気腫」が14.3%となっている

表2-20 呼吸器領域に関する診断の有無

	閉塞性細気管支炎	気管支喘息	肺気腫	気管支炎	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	3 15.8%	3 15.8%	2 10.5%	10 52.6%	4 21.1%	28	19
第2・四半期	3 21.4%	4 28.6%	3 21.4%	6 42.9%	3 21.4%	31	14
第3・四半期	4 22.2%	4 22.2%	2 11.1%	10 55.6%	4 22.2%	27	18
第4・四半期	3 15.8%	7 36.8%	3 15.8%	9 47.4%	5 26.3%	29	19
年間単純平均	3.3 18.6%	4.5 25.7%	2.5 14.3%	8.8 50.0%	4.0 22.9%	28.8	17.5

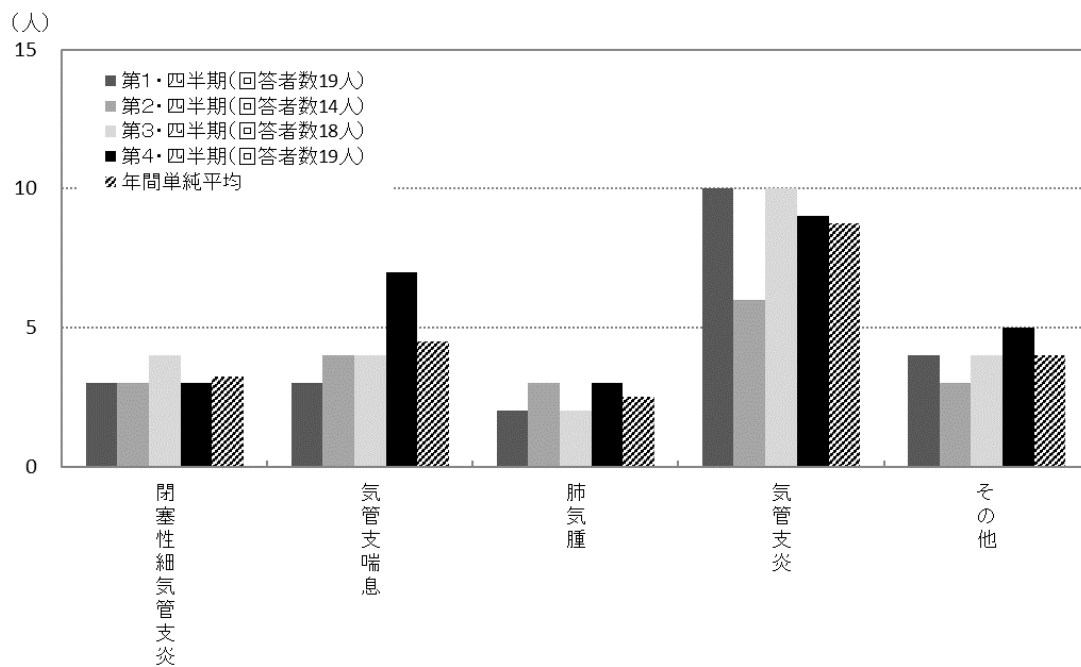


図2-20 呼吸器領域に関する診断の有無

⑤-6 呼吸器に関する症状の有無

ア 第1・四半期（回答者 26 人）

- 第1・四半期において、呼吸器に関する症状の有無についてたずねた結果は、表2-21 及び図2-21 のとおりである（複数回答）。
- 「咳、たん」が 88.5%、「息切れ」が 26.9%、「酸素の使用」が 3.8%となっている
- その他の呼吸器に関する症状の有無についての回答はなかった

イ 第2・四半期（回答者 28 人）

- 第2・四半期において、呼吸器に関する症状の有無についてたずねた結果は、表2-21 及び図2-21 のとおりである（複数回答）。
- 「咳、たん」が 96.4%、「息切れ」が 39.3%となっている
- その他としては、「気管支喘息による小発作」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 24 人）

- 第3・四半期において、呼吸器に関する症状の有無についてたずねた結果は、表2-21 及び図2-21 のとおりである（複数回答）。
- 「咳、たん」が 95.8%、「息切れ」が 33.3%となっている
- その他の呼吸器に関する症状の有無についての回答はなかった

エ 第4・四半期（回答者 28 人）

- 第4・四半期において、呼吸器に関する症状の有無についてたずねた結果は、表2-21 及び図2-21 のとおりである（複数回答）。
- 「咳、たん」が 96.4%、「息切れ」が 42.9%、「酸素の使用」が 3.6%となっている
- その他の呼吸器に関する症状の有無についての回答はなかった

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-21 及び図2-21 のとおりである（複数回答）。
- 呼吸器に関する症状の有無についてたずねた結果の年間の平均では「咳、たん」が 94.3%、「息切れ」が 35.8%、「酸素の使用」が 3.8%となっている

表 2-21 呼吸器に関する症状の有

	咳、たん	息切れ	酸素の使用	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	23	7	1	1	21	26
	88.5%	26.9%	3.8%	3.8%	—	—
第2・四半期	27	11	0	3	17	28
	96.4%	39.3%	0.0%	10.7%	—	—
第3・四半期	23	8	0	3	21	24
	95.8%	33.3%	0.0%	12.5%	—	—
第4・四半期	27	12	1	1	20	28
	96.4%	42.9%	3.6%	3.6%	—	—
年間単純平均	25.0	9.5	0.5	2.0	19.8	26.5
	94.3%	35.8%	1.9%	7.5%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

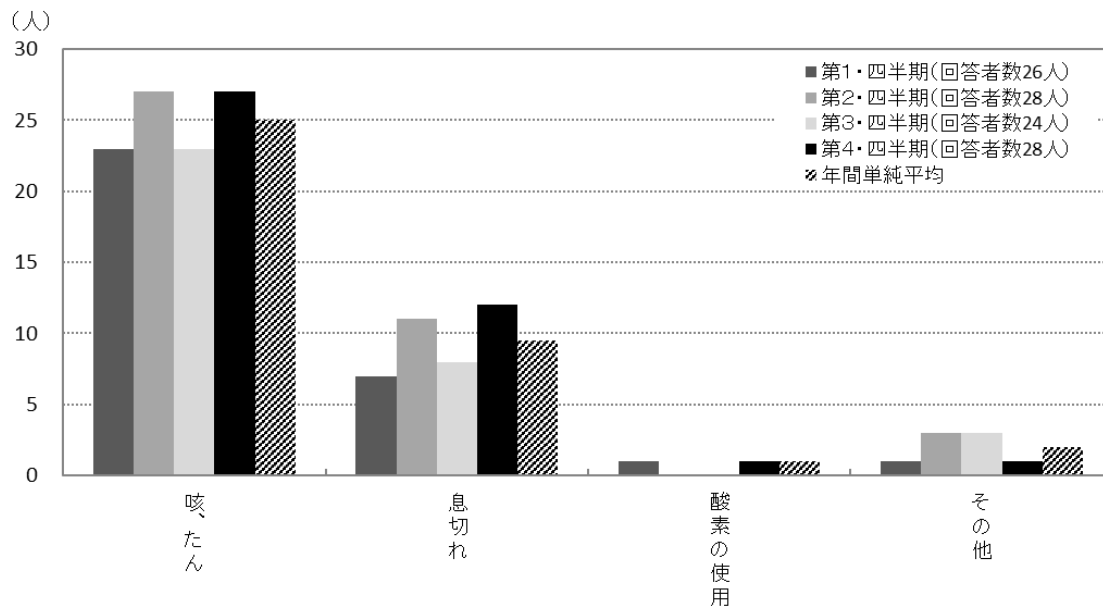


図 2-21 呼吸器に関する症状の有無

⑤ー7 視力以外の状況【皮膚や爪に関する症状】

ア 第1・四半期（回答者 43 人）

○第1・四半期において、皮膚や爪に関する症状についてたずねた結果は、表 2-22 及び図 2-22 のとおりである（複数回答）。

□「爪の変更、剥離」が 86.0%、「皮膚のかゆみ、乾燥」が 74.4%、「瘢痕が残る」が 53.5%となっている

□その他としては、「目の周りがかぶれる」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 43 人）

○第2・四半期において、皮膚や爪に関する症状についてたずねた結果は、表 2-22 及び図 2-22 のとおりである（複数回答）。

□「爪の変更、剥離」が 83.7%、「皮膚のかゆみ、乾燥」が 72.1%、「瘢痕が残る」が 55.8%となっている

□その他としては、「指の爪の生え際のいぼ」「手足の指先の硬化」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 42 人）

○第3・四半期において、皮膚や爪に関する症状についてたずねた結果は、表 2-22 及び図 2-22 のとおりである（複数回答）。

□「爪の変更、剥離」が 85.7%、「皮膚のかゆみ、乾燥」が 76.2%、「瘢痕が残る」が 52.4%となっている

□その他としては、「アトピー性皮膚炎」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 44 人）

○第4・四半期において、皮膚や爪に関する症状についてたずねた結果は、表 2-22 及び図 2-22 のとおりである（複数回答）。

□「皮膚のかゆみ、乾燥」「爪の変更、剥離」が 79.5%、「瘢痕が残る」が 50.0%となっている

□その他としては、「手指の潰瘍」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-22 及び図 2-22 のとおりである（複数回答）。

皮膚や爪に関する症状についてたずねた結果の年間の平均では「爪の変更、剥離」が 83.7%、「皮膚のかゆみ、乾燥」が 75.6%、「瘢痕が残る」が 52.9%となっている

表 2-22 視力以外の状況【皮膚や爪に関する症状】の推移

	皮膚のかゆみ、乾燥	癒痕が残る	爪の変更、剥離	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	32 74.4%	23 53.5%	37 86.0%	3 7.0%	4 —	43 —
第2・四半期	31 72.1%	24 55.8%	36 83.7%	2 4.7%	2 —	43 —
第3・四半期	32 76.2%	22 52.4%	36 85.7%	3 7.1%	3 —	42 —
第4・四半期	35 79.5%	22 50.0%	35 79.5%	2 4.5%	4 —	44 —
年間単純平均	32.5 75.6%	22.8 52.9%	36.0 83.7%	2.5 5.8%	3.3 —	43.0 —
R2年度平均	36.0 81.4%	25.0 56.5%	37.3 84.2%	1.5 3.4%	3.3 —	44.3 —
R1年度平均	36.5 80.7%	20.5 45.3%	36.0 79.6%	3.0 6.6%	2.8 —	45.3 —
H30年度平均	36.8 82.1%	20.8 46.4%	37.5 83.8%	2.3 5.0%	10.3 —	44.8 —
H29年度平均	35.0 80.9%	21.8 50.3%	37.5 86.7%	2.5 5.8%	4.5 —	43.3 —
H28年度平均	35.8 81.7%	22.0 50.3%	35.8 81.7%	4.3 9.7%	4.8 —	43.8 —

注：上段は人数、下段は割合

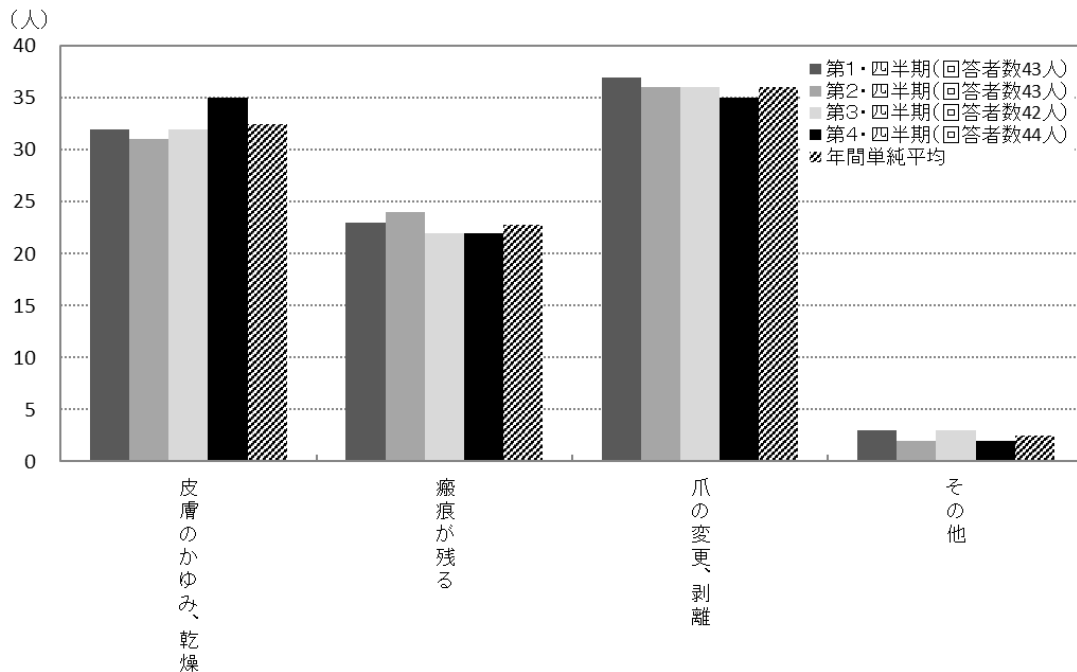


図 2-22 視力以外の状況【皮膚や爪に関する症状】の推移

⑤ー7 視力以外の状況【内臓機能に関する症状】

ア 第1・四半期（回答者 25 人）

○第1・四半期において、内臓機能に関する症状についてたずねた結果は、表 2-23 及び図 2-23 のとおりである（複数回答）。

□「高血圧」が 68.0%、「粘膜不全」が 40.0%、「心肺機能の低下・異常」「肝機能の低下・異常」が 24.0%となっている

□その他としては、「骨粗しょう症、貧血症」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 23 人）

○第2・四半期において、内臓機能に関する症状についてたずねた結果は、表 2-23 及び図 2-23 のとおりである（複数回答）。

□「高血圧」が 60.9%、「心肺機能の低下・異常」が 34.8%、「粘膜不全」が 30.4%となっている

□その他としては、「栄養不良」「便秘」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 23 人）

○第3・四半期において、内臓機能に関する症状についてたずねた結果は、表 2-23 及び図 2-23 のとおりである（複数回答）。

□「高血圧」が 56.5%、「粘膜不全」が 39.1%、「心肺機能の低下・異常」が 34.8%となっている

□その他としては、「貧血」「便秘」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 27 人）

○第4・四半期において、内臓機能に関する症状についてたずねた結果は、表 2-23 及び図 2-23 のとおりである（複数回答）。

□「高血圧」が 59.3%、「肝機能の低下・異常」が 29.6%、「粘膜不全」「心肺機能の低下・異常」が 25.9%となっている

□その他としては、「高脂血症」「便秘」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-23 及び図 2-23 のとおりである（複数回答）。

内臓機能に関する症状についてたずねた結果の年間の平均では「高血圧」が 61.2%、「粘膜不全」が 33.7%、「心肺機能の低下・異常」が 29.6%となっている

表 2-23 視力以外の状況【内臓機能に関する症状】の推移

	高血圧	粘膜不全	心肺機能の低下・異常	肝機能の低下・異常	腎機能の低下・異常	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	17	10	6	6	2	3	22	25
	68.0%	40.0%	24.0%	24.0%	8.0%	12.0%	—	—
第2・四半期	14	7	8	5	3	4	22	23
	60.9%	30.4%	34.8%	21.7%	13.0%	17.4%	—	—
第3・四半期	13	9	8	6	3	3	22	23
	56.5%	39.1%	34.8%	26.1%	13.0%	13.0%	—	—
第4・四半期	16	7	7	8	5	3	21	27
	59.3%	25.9%	25.9%	29.6%	18.5%	11.1%	—	—
年間単純平均	15.0	8.3	7.3	6.3	3.3	3.3	21.8	24.5
	61.2%	33.7%	29.6%	25.5%	13.3%	13.3%	—	—
R2年度平均	16.5	12.3	9.3	5.0	4.8	2.8	20.0	27.5
	60.0%	44.5%	33.6%	18.2%	17.3%	10.0%	—	—
R1年度平均	17.5	10.8	10.5	5.5	5.3	4.5	20.8	27.3
	64.2%	39.4%	38.5%	20.2%	19.3%	16.5%	—	—
H30年度平均	15.5	10.8	9.3	5.8	3.3	5.0	27.8	27.3
	56.9%	39.4%	33.9%	21.1%	11.9%	18.3%	—	—
H29年度平均	14.3	10.8	8.5	6.8	3.5	4.5	22.3	25.5
	55.9%	42.2%	33.3%	26.5%	13.7%	17.6%	—	—
H28年度平均	13.8	10.3	8.0	7.8	3.8	4.8	22.0	26.5
	51.9%	38.7%	30.2%	29.2%	14.2%	17.9%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

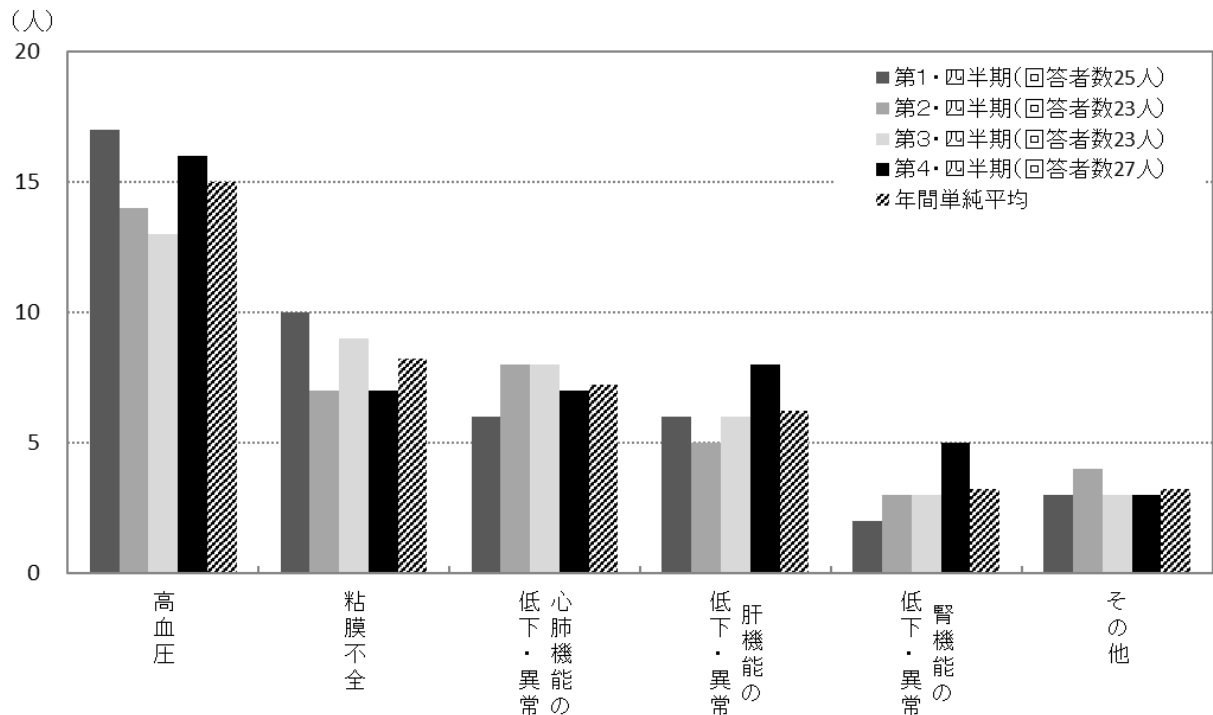


図 2-23 視力以外の状況【内臓機能に関する症状】の推移

⑤ー7 視力以外の状況【聴覚に関する症状】

ア 第1・四半期（回答者 19 人）

- 第1・四半期において、聴覚に関する症状についてたずねた結果は、表 2-24 及び図 2-24 のとおりである（複数回答）。
- 「音声が聞き取りにくい」が 73.7%となっている
- その他としては、「耳鳴り、めまい」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 17 人）

- 第2・四半期において、聴覚に関する症状についてたずねた結果は、表 2-24 及び図 2-24 のとおりである（複数回答）。
- 「音声が聞き取りにくい」が 88.2%となっている
- その他としては、「慢性鼓膜炎、外耳炎」「耳鳴り」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 18 人）

- 第3・四半期において、聴覚に関する症状についてたずねた結果は、表 2-24 及び図 2-24 のとおりである（複数回答）。
- 「音声が聞き取りにくい」が 88.9%となっている
- その他としては、「慢性鼓膜炎、外耳炎、音がこもる」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 17 人）

- 第4・四半期において、聴覚に関する症状についてたずねた結果は、表 2-24 及び図 2-24 のとおりである（複数回答）。
- 「音声が聞き取りにくい」が 88.2%となっている
- その他としては、「慢性鼓膜炎、外耳炎、音がこもる」「耳鳴り、めまい」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-24 及び図 2-24 のとおりである（複数回答）。
- 聴覚に関する症状についてたずねた結果の年間の平均では「音声が聞き取りにくい」が 84.5%となっている

表 2-24 視力以外の状況【聴覚に関する症状】の推移

	音声が聞き取りにくい	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	14	7	28	19
	73.7%	36.8%	—	—
第2・四半期	15	4	28	17
	88.2%	23.5%	—	—
第3・四半期	16	2	27	18
	88.9%	11.1%	—	—
第4・四半期	15	2	31	17
	88.2%	11.8%	—	—
年間単純平均	15.0	3.8	28.5	17.8
	84.5%	21.1%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

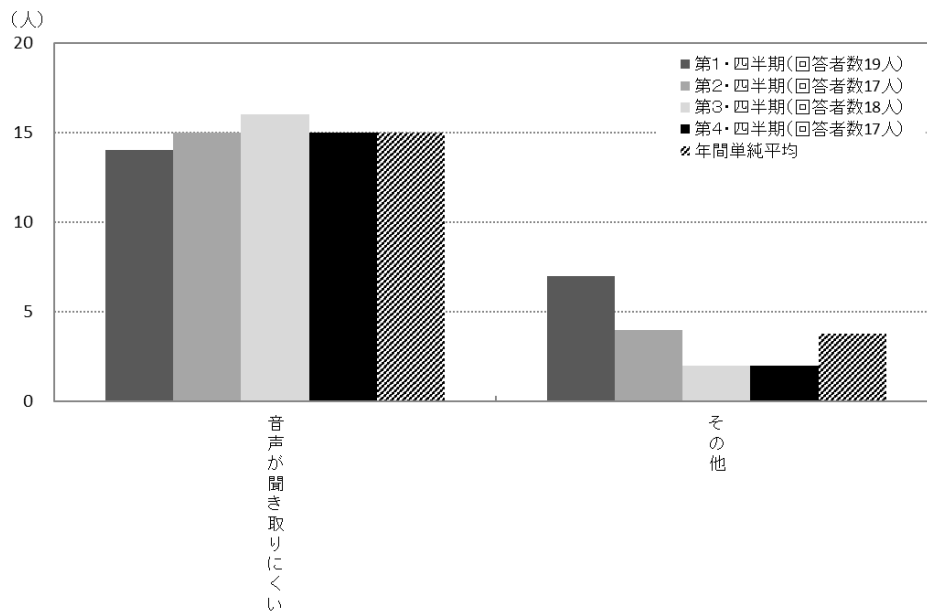


図 2-24 視力以外の状況【聴覚に関する症状】の推移

⑤ー7 視力以外の状況【眼科領域（視力障害以外）に関する症状】

ア 第1・四半期（回答者 45 人）

○第1・四半期において、眼科領域（視力障害以外）に関する症状についてたずねた結果は、表2-25及び図2-25のとおりである（複数回答）。

□「さかさまつげ」が95.6%、「ドライアイ」が93.3%、「角膜の炎症」が66.7%となっている

□その他としては、「眼球、粘膜の癒着」「結膜炎」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 45 人）

○第2・四半期において、眼科領域（視力障害以外）に関する症状についてたずねた結果は、表2-25及び図2-25のとおりである（複数回答）。

□「ドライアイ」が95.6%、「さかさまつげ」が93.3%、「角膜の炎症」が62.2%となっている

□その他としては、「結膜炎、癒着」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 44 人）

○第3・四半期において、眼科領域（視力障害以外）に関する症状についてたずねた結果は、表2-25及び図2-25のとおりである（複数回答）。

□「ドライアイ」が97.7%、「さかさまつげ」が93.2%、「角膜の炎症」が72.7%となっている

□その他としては、「緑内障、高眼圧症」「結膜炎」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 48 人）

○第4・四半期において、眼科領域（視力障害以外）に関する症状についてたずねた結果は、表2-25及び図2-25のとおりである（複数回答）。

□「ドライアイ」が95.8%、「さかさまつげ」が89.6%、「角膜の炎症」が70.8%となっている

□その他としては、「眼痛、頭痛」「眼球、粘膜の癒着」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-25及び図2-25のとおりである（複数回答）。

眼科領域（視力障害以外）に関する症状についてたずねた結果の年間の平均では「ドライアイ」が95.6%、「さかさまつげ」が92.9%、「角膜の炎症」が68.1%となっている

表 2-25 視力以外の状況【眼科領域（視力障害以外）に関する症状】の推移

	さかさまつげ	ドライアイ	角膜の炎症	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	43	42	30	8	2	45
	95.6%	93.3%	66.7%	17.8%	—	—
第2・四半期	42	43	28	11	0	45
	93.3%	95.6%	62.2%	24.4%	—	—
第3・四半期	41	43	32	5	1	44
	93.2%	97.7%	72.7%	11.4%	—	—
第4・四半期	43	46	34	8	0	48
	89.6%	95.8%	70.8%	16.7%	—	—
年間単純平均	42.3	43.5	31.0	8.0	0.8	45.5
	92.9%	95.6%	68.1%	17.6%	—	—
R2年度平均	41.3	44.3	31.0	9.8	1.5	46.0
	89.7%	96.2%	67.4%	21.2%	—	—
R1年度平均	41.5	45.8	30.8	10.0	0.5	47.5
	87.4%	96.3%	64.7%	21.1%	—	—
H30年度平均	44.3	45.5	33.5	8.3	7.3	47.8
	92.7%	95.3%	70.2%	17.3%	—	—
H29年度平均	41.5	45.0	34.3	9.0	1.5	46.3
	89.7%	97.3%	74.1%	19.5%	—	—
H28年度平均	42.5	46.0	32.5	8.3	0.3	48.3
	88.1%	95.3%	67.4%	17.1%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

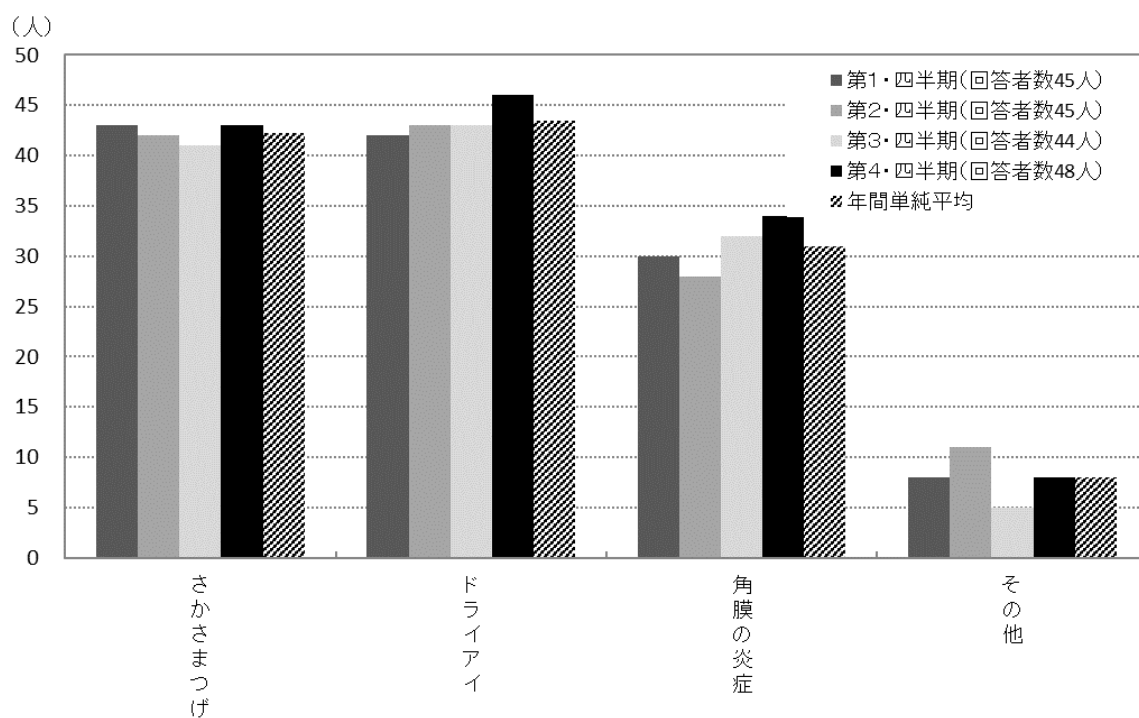


図 2-25 視力以外の状況【眼科領域（視力障害以外）に関する症状】の推移

⑤-7 視力以外の状況【口腔に関する症状】

ア 第1・四半期（回答者 30 人）

○第1・四半期において、口腔に関する症状についてたずねた結果は、表 2-26 及び図 2-26 のとおりである（複数回答）。

□「口の中が乾く」が 86.7%、「口内炎」が 50.0%、「味覚障害」が 23.3%となっている

□その他としては、「唾液が出ない」「アフタ性潰瘍」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 33 人）

○第2・四半期において、口腔に関する症状についてたずねた結果は、表 2-26 及び図 2-26 のとおりである（複数回答）。

□「口の中が乾く」が 78.8%、「口内炎」が 51.5%、「味覚障害」が 15.2%となっている

□その他としては、「口唇ヘルペス」「口角炎」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 34 人）

○第3・四半期において、口腔に関する症状についてたずねた結果は、表 2-26 及び図 2-26 のとおりである（複数回答）。

□「口の中が乾く」が 82.4%、「口内炎」が 55.9%、「味覚障害」が 20.6%となっている

□その他としては、「咽頭部の炎症、声がれ」「アフタ性潰瘍」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 33 人）

○第4・四半期において、口腔に関する症状についてたずねた結果は、表 2-26 及び図 2-26 のとおりである（複数回答）。

□「口の中が乾く」が 84.8%、「口内炎」が 48.5%、「味覚障害」が 18.2%となっている

□その他としては、「唾液が出ない」「喉の異常感」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-26 及び図 2-26 のとおりである（複数回答）。

口腔に関する症状についてたずねた結果の年間の平均では「口の中が乾く」が 83.1%、「口内炎」が 51.5%、「味覚障害」が 19.2%となっている

表 2-26 視力以外の状況【口腔に関する症状】の推移

	口内炎	味覚障害	口の中が乾く	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	15	7	26	7	17	30
	50.0%	23.3%	86.7%	23.3%	—	—
第2・四半期	17	5	26	7	12	33
	51.5%	15.2%	78.8%	21.2%	—	—
第3・四半期	19	7	28	5	11	34
	55.9%	20.6%	82.4%	14.7%	—	—
第4・四半期	16	6	28	6	15	33
	48.5%	18.2%	84.8%	18.2%	—	—
年間単純平均	16.8	6.3	27.0	6.3	13.8	32.5
	51.5%	19.2%	83.1%	19.2%	—	—
R2年度平均	13.8	5.5	29.0	5.8	14.0	33.5
	41.0%	16.4%	76.6%	17.2%	—	—
R1年度平均	15.8	6.3	29.8	6.8	11.5	35.5
	44.4%	17.6%	83.8%	19.0%	—	—
H30年度平均	17.3	6.3	29.5	6.8	19.8	34.3
	50.4%	18.2%	86.1%	19.7%	—	—
H29年度平均	16.3	6.3	27.3	7.5	15.0	34.0
	47.8%	18.4%	80.1%	22.1%	—	—
H28年度平均	18.0	5.5	27.3	5.0	15.0	35.0
	51.4%	15.7%	77.9%	14.3%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

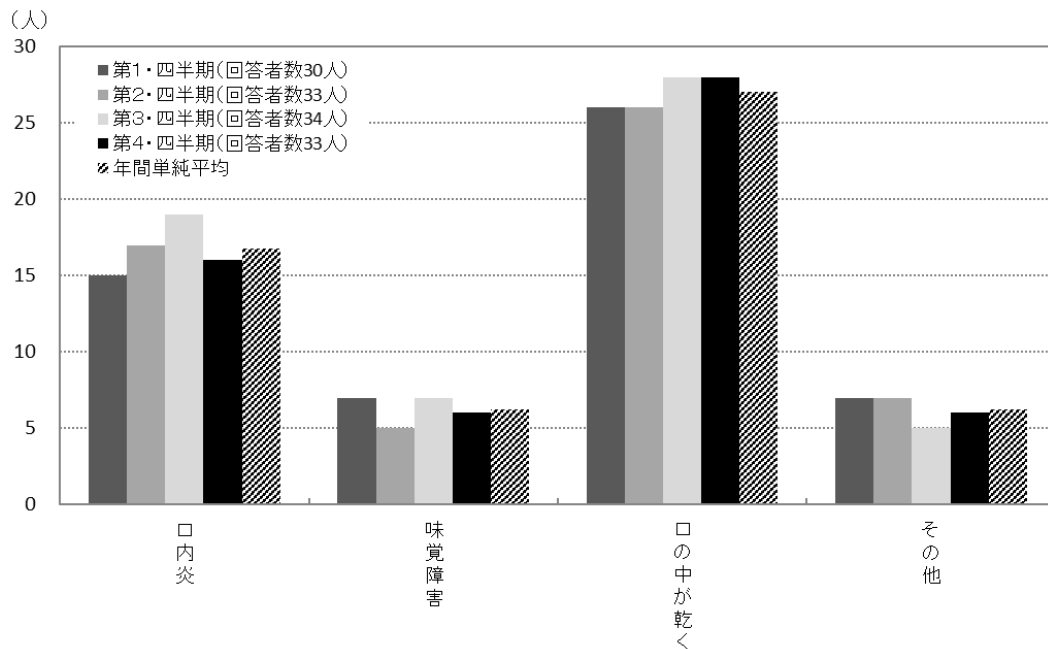


図 2-26 視力以外の状況【口腔に関する症状】の推移

⑤-7 視力以外の状況【精神的な症状】

ア 第1・四半期（回答者 21 人）

○第1・四半期において、精神的な症状についてたずねた結果は、表 2-27 及び図 2-27 のとおりである（複数回答）。

□「不安障害」が 81.0%、「睡眠障害」が 66.7%、「うつ」が 38.1%となっている

□その他としては、「医師の診断はないが、対人関係で疎外感を感じることがあり、人と会うのが辛いことも多くなっている」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 22 人）

○第2・四半期において、精神的な症状についてたずねた結果は、表 2-27 及び図 2-27 のとおりである（複数回答）。

□「不安障害」が 72.7%、「睡眠障害」が 68.2%、「うつ」が 27.3%となっている

□その他としては、「精神不安定」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 24 人） 第3・四半期において、精神的な症状についてたずねた結果は、表 2-27 及び図 2-27 のとおりである（複数回答）。

□「睡眠障害」が 79.2%、「不安障害」が 54.2%、「うつ」が 20.8%となっている

□その他としては、「視力状態が悪く、生活がしづらく苛立つことがある」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 26 人）

○第4・四半期において、精神的な症状についてたずねた結果は、表 2-27 及び図 2-27 のとおりである（複数回答）。

□「睡眠障害」が 76.9%、「不安障害」が 53.8%、「うつ」が 19.2%となっている

□その他としては、「精神不安定」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-27 及び図 2-27 のとおりである（複数回答）。

精神的な症状についてたずねた結果の年間の平均では「睡眠障害」が 73.1%、「不安障害」が 64.5%、「うつ」が 25.8%となっている

表 2-27 視力以外の状況【精神的な症状】の推移

	不安障害	睡眠障害	うつ	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	17	14	8	1	26	21
	81.0%	66.7%	38.1%	4.8%	—	—
第2・四半期	16	15	6	3	23	22
	72.7%	68.2%	27.3%	13.6%	—	—
第3・四半期	13	19	5	3	21	24
	54.2%	79.2%	20.8%	12.5%	—	—
第4・四半期	14	20	5	2	22	26
	53.8%	76.9%	19.2%	7.7%	—	—
年間単純平均	15.0	17.0	6.0	2.3	23.0	23.3
	64.5%	73.1%	25.8%	9.7%	—	—
R2年度平均	15.5	17.8	6.8	1.8	24.5	23.0
	67.4%	77.2%	29.3%	7.6%	—	—
R1年度平均	15.3	18.0	6.5	2.5	23.0	25.0
	61.0%	72.0%	26.0%	10.0%	—	—
H30年度平均	15.3	16.0	4.8	2.3	32.8	22.3
	68.5%	71.9%	21.3%	10.1%	—	—
H29年度平均	14.5	14.3	4.8	2.5	26.5	21.3
	68.2%	67.1%	22.4%	11.8%	—	—
H28年度平均	14.8	15.3	4.8	2.5	27.8	20.8
	71.1%	73.5%	22.9%	12.0%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

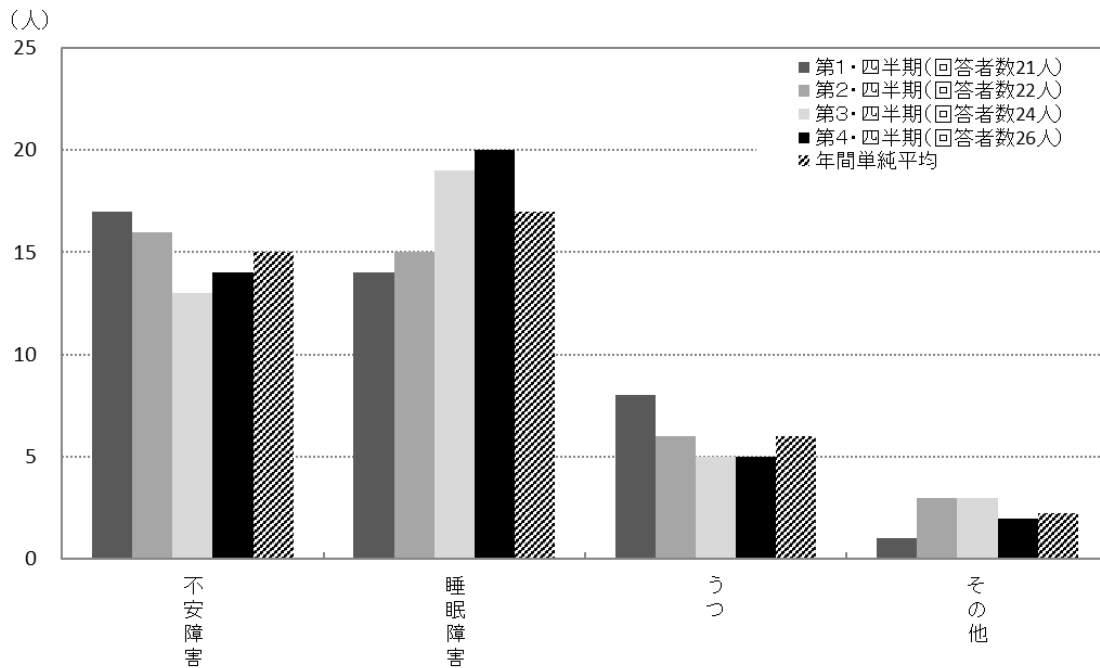


図 2-27 視力以外の状況【精神的な症状】の推移

⑤ー7 視力以外の状況（その他の後遺症等）について

○ 本人または介護者にたずねた視力以外の状況などについて主な内容は、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 目の周りがかぶれる
- ・ 聞き返すことが多くなった
- ・ 目ヤニで目が開かない
- ・ 眼痛、頭痛
- ・ 爪がないため指先に力が入りにくい、感覚がわかりづらい
- ・ 頻脈
- ・ 爪がないため指先の感覚もあまりなく力も入らない。食道が細くなったのか食べ物を飲み込みづらくなったり、詰まったりする。
- ・ SJS になってから舌や校内の粘膜、食道や胃の粘膜がなくなったため、常に痛くしみて薬は欠かせません
- ・ 唾が出ない。舌が常にただれている。アズノール薬
- ・ 角膜の角化がすごい
- ・ 呼吸器（のど）が不安です
- ・ 眼球とまぶたの癒着
- ・ 疲れやすい、歩行困難
- ・ 婦人科の方も粘膜が弱いです
- ・ 結膜の癒着
- ・ 慢性鼓膜炎、外耳炎、音がこもる、眩暈
- ・ まぶた（縁）の角化、まばたきで眼球に傷がつく
- ・ 口腔粘膜一部癒着、歯肉が落ち知覚過敏がひどい
- ・ 膣委縮（粘膜癒着）肛門粘膜、骨密度減少（皮膚におけるビタミン D 生成機能低下とのこと）
- ・ 血糖値が高い
- ・ 鼓膜の手術をしたがまだよく聞こえない
- ・ パニック障害
- ・ 便秘、耳鳴り
- ・ 高脂血症
- ・ 強い頭痛、起き上がれないほどの倦怠感、関節痛
- ・ 化学物質過敏症
- ・ 少しだけテレビの音が聞こえにくい時がある
- ・ 口腔粘膜に炎症があり熱いもの辛いものがしみる
- ・ 視力状態が悪く、生活がしづらく苛立つことがある
- ・ 脳梗塞の後遺症による嚥下障害
- ・ 聞こえるが理解できないことがある

- ・脳梗塞の予防薬（バイアスピリン 100m g、イコサペント酸エチル 300m g）
- ・歳とともに唾液の分泌が少なくなってきた
- ・便秘、腰痛
- ・耳鳴り、めまい
- ・栄養不良
- ・食事が少ないためカルシウム、ナトリウム、亜鉛なども少なくなり、食べることが大変です
- ・3月に転倒して、また少し歩くのが大変になった
- ・指の爪の生え際のいぼ、皮膚科で液体窒素治療中
- ・6年前に急性虫垂炎による腹膜炎（腹腔内膿瘍）開腹手術の既往
- ・相手の話が聞き取れないことが多いが、耳鼻科では中経度難聴の診断しか下りず補聴器使用時の公的支援を受けられない。
- ・眼瞼の内反症により眉間がよく切れたり荒れたりしているので、ステロイド軟膏を塗ることがあり眼内に入らない様に気を付ける
- ・歯周病治療中、唇のできもの
- ・医師の診断はないが、対人関係で疎外感を感じることがあり、人と会うのが辛いことも多くなっている
- ・坐骨神経痛が長年にわたり有るので時々、整形外科でのリハビリ中
- ・PTSD 症状（毎月1回心療内科受診時のカウンセリング、抗うつ剤内服）
- ・腰痛、坐骨神経痛治療、PTSD の後遺症からくる左手関節の捻挫が痛むことがあり、湿布や補装具などで固定するなどしている
- ・アトピー性皮膚炎
- ・両眼の縁辺りのまぶたが点眼液などで荒れやすい
- ・乾燥などによる眼球癒着、内反症
- ・爪が生えてこない
- ・反応が悪くなってきた（聴覚）
- ・唾液が出ない
- ・癒着で目が開かない
- ・結膜の炎症、角膜混濁の悪化
- ・アフタ性潰瘍
- ・片頭痛、てんかん
- ・骨粗しょう症結膜炎、癒着貧血症
- ・副腎に異常あり、貧血
- ・手足の指先の硬化
- ・咽頭部の炎症、声がれ
- ・泌尿器の炎症
- ・喉の異常感運動不足、関節痛
- ・喉の異常感

- ・昨年9月から顔に湿疹ができ、ステロイド系の軟膏でよくはなるが繰り返す。目じりのかぶれた状態も続いており、原因を探すためパッチテストをしている。目じりのかぶれは10か月以上改善されず、その後あざになって残るかどうか不安
- ・顔に湿疹ができ、その後あざになり、ドクターより治らないと告げられショックを受けている。とても目立つので気になる
- ・口角炎
- ・口唇ヘルペス
- ・側弯形成不全
- ・緑内障、高眼圧症、角膜白濁

■ 主たる介護者の状況について

◎主たる介護者

○主たる介護者は以下のとおりである。

□年間平均では、「主として介護をしている配偶者」が 50.3%、「主として介護をしている親」が 26.8%となっている

表 2-28 主たる介護者の推移

	主として介護 をしている配 偶者	主として介護 をしている親	主として介護 をしている兄 弟姉妹	その他	回答なし	合 計
第1・四半期	20	12	0	9	12	41
	48.8%	29.3%	0.0%	22.0%	—	100.0%
第2・四半期	20	12	1	7	12	40
	50.0%	30.0%	2.5%	17.5%	—	100.0%
第3・四半期	20	9	1	8	13	38
	52.6%	23.7%	2.6%	21.1%	—	100.0%
第4・四半期	19	9	0	10	16	38
	50.0%	23.7%	0.0%	26.3%	—	100.0%
年間単純平均	19.8	10.5	0.5	8.5	13.3	39.3
	50.3%	26.8%	1.3%	21.7%	—	100.0%
R2年度平均	20.0	12.0	1.0	8.8	11.8	41.8
	47.9%	28.7%	2.4%	21.0%	—	100.0%
R1年度平均	20.3	12.0	1.5	8.8	12.3	42.5
	47.6%	28.2%	3.5%	20.6%	—	100.0%
H30年度平均	21.8	12.3	1.0	7.5	12.8	42.5
	51.2%	28.8%	2.4%	17.6%	—	100.0%
H29年度平均	21.3	12.3	1.8	7.0	11.3	42.3
	50.3%	29.0%	4.1%	16.6%	—	100.0%
H28年度平均	22.0	13.8	1.3	6.0	13.0	43.0
	51.2%	32.0%	2.9%	14.0%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

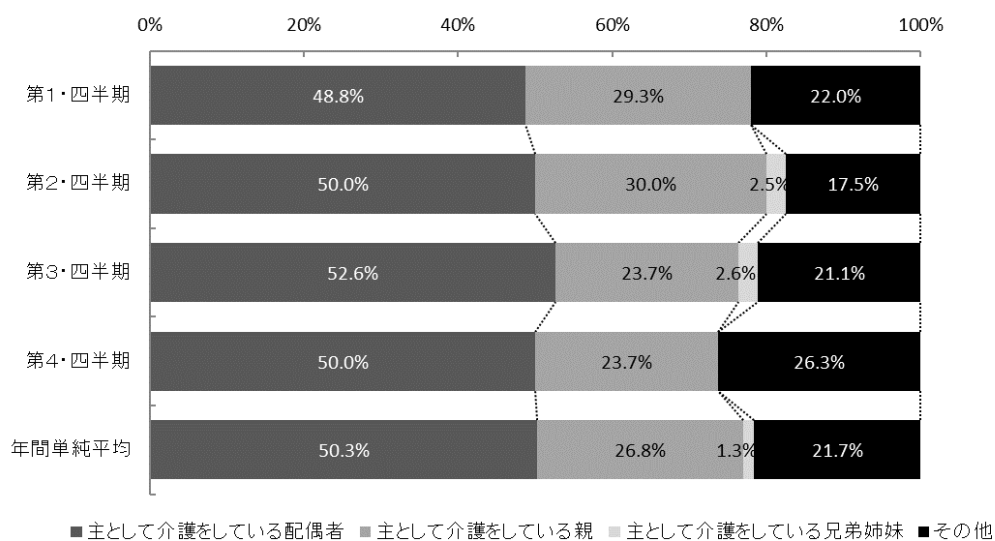


図 2-28 主たる介護者の推移

⑥主たる介護者の健康状態

ア 第1・四半期（回答者 41 人）

- 第1・四半期において、主な介護者の健康状態をたずねた結果は、表 2-29 及び図 2-29 のとおりである。
- 健康状態が「たいへん良好」が 12.2%、「まあ良好」が 46.3%となっている
- 一方で、「たいへん悪い」が 19.5%、「やや悪い」が 22.0%である

イ 第2・四半期（回答者 38 人）

- 第2・四半期において、主な介護者の健康状態をたずねた結果は、表 2-29 及び図 2-29 のとおりである。
- 健康状態が「たいへん良好」が 10.5%、「まあ良好」が 47.4%となっている
- 一方で、「たいへん悪い」が 26.3%、「やや悪い」が 15.8%である

ウ 第3・四半期（回答者 38 人）

- 第3・四半期において、主な介護者の健康状態をたずねた結果は、表 2-29 及び図 2-29 のとおりである。
- 健康状態が「たいへん良好」が 7.9%、「まあ良好」が 52.6%となっている
- 一方で、「たいへん悪い」が 23.7%、「やや悪い」が 15.8%である

エ 第4・四半期（回答者 36 人）

- 第4・四半期において、主な介護者の健康状態をたずねた結果は、表 2-29 及び図 2-29 のとおりである。
- 健康状態が「たいへん良好」が 11.1%、「まあ良好」が 52.8%となっている
- 一方で、「たいへん悪い」が 13.9%、「やや悪い」が 22.2%である

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-29 及び図 2-29 のとおりである。
- 主な介護者の健康状態については年間の平均では「たいへん良好」が 10.5%、「まあ良好」が 49.7%となっている
- 一方で、「たいへん悪い」が 20.9%、「やや悪い」が 19.0%である

表 2-29 主たる介護者の健康状態の推移

	たいへん良好	まあ良好	やや悪い	たいへん悪い	回答なし	合 計
第1・四半期	5 12.2%	19 46.3%	9 22.0%	8 19.5%	12 —	41 100.0%
第2・四半期	4 10.5%	18 47.4%	6 15.8%	10 26.3%	14 —	38 100.0%
第3・四半期	3 7.9%	20 52.6%	6 15.8%	9 23.7%	13 —	38 100.0%
第4・四半期	4 11.1%	19 52.8%	8 22.2%	5 13.9%	18 —	36 100.0%
年間単純平均	4.0 10.5%	19.0 49.7%	7.3 19.0%	8.0 20.9%	14.3 —	38.3 100.0%
R2年度平均	4.3 10.5%	20.5 50.6%	8.3 20.4%	7.5 18.5%	13.0 —	40.5 100.0%
R1年度平均	3.5 8.3%	21.5 51.2%	9.8 23.2%	7.3 17.3%	12.5 —	42.0 100.0%
H30年度平均	2.0 5.0%	20.8 51.6%	10.8 26.7%	6.8 16.8%	14.8 —	40.3 100.0%
H29年度平均	1.0 2.5%	23.3 57.4%	10.0 24.7%	6.3 15.4%	13.0 —	40.5 100.0%
H28年度平均	1.3 3.0%	22.0 52.4%	12.0 28.6%	6.8 16.1%	14.0 —	42.0 100.0%

注：上段は人数、下段は割合

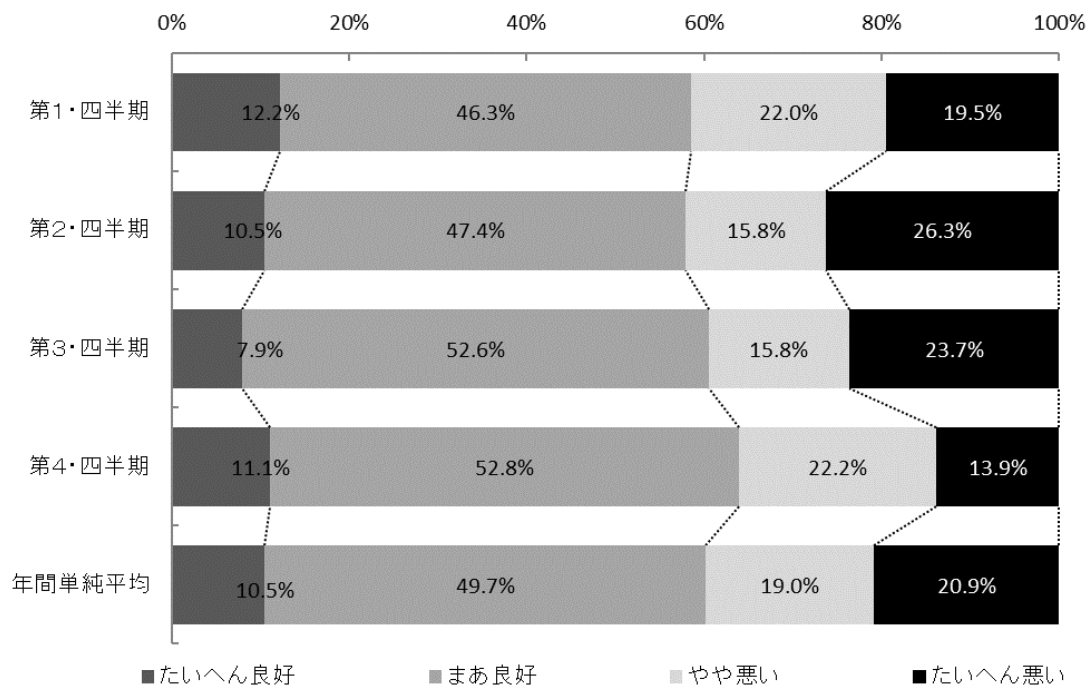


図 2-29 主たる介護者の健康状態の推移

⑥-1 主たる介護者の健康状態 詳細

○主たる介護者の健康状態についての主な具体的理由については、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

◇たいへん良好

- ・自分自身で体調管理をしている
- ・高齢食事、睡眠をしっかりとする
- ・特に病気もなく良好
- ・沢山の協力者理解者に恵まれている為
- ・若く持病がないため
- ・皆若いので元気ですが、コロナの予防接種では熱を出し大変でした

◇まあ良好

- ・皆が助けてくれるから
- ・出来ることはしてもらいが、手伝うのが当然と思っている
- ・悪いというほどでもないと思う
- ・介護を必要としない
- ・コロナが少し落ち着き実家に久しぶりに（2年ぶり）帰ることができました
- ・食事、運動、休養に気を付けている。コロナでストレスがあったのか1回熱を出して寝込んでしまった。その後精神面にも気をつけて生活する様にしている
- ・気を付けているので
- ・介護の負担はあまり感じていない
- ・介護の負担はあまり感じていないが将来のことが不安になる事がある
- ・定期検診を受けている
- ・腰ひざ等痛みはあるが、日常生活の大きな障害はない
- ・食欲も適度で生活も変わりなし
- ・食事と運動に気を付けている
- ・沢山の協力者理解者に恵まれている為
- ・仕事での疲労
- ・ヘルパーさんに託せる時間も人も増えてきたので、自分ひとりで全てを見る状態が少なくなった
- ・加齢による体力の衰え
- ・娘が安定した生活をしてきているので自分も活力がわいてくる
- ・寝込むことはなかった

◇やや悪い

- ・主人の付き添いで病院に長時間いる
- ・高齢

- ・天疱瘡診断 2020 年 9 月～に対してステロイドパルス療法が続いている
- ・コロナに気を付けているつもりですが不安が色々つきません。夜よく眠れません
- ・コロナ禍、精神的に重く、何とか生活している感じです
- ・コロナの収束が見通せず心配が絶えません。3 回目ワクチンも副反応あり、これから先続くと思うと心配です。蔓延防止が続き地域活動ができない状態でした
- ・仕事が忙しい
- ・介助者がいないので負担が増えた。でもしごととは増えて時間も余裕もない
- ・11 月末膀胱がんが判明して入院手術をした
- ・前立腺、膀胱に出血があり手術したので術後の体調がすっきりしなかった
- ・ストレス
- ・コロナ禍でマスク着用、言葉で生活が成り立っているので互いに聞き取りづらくストレス。アルコール消毒使用による皮膚炎
- ・付き添っている時間が増え、気が休まる暇がなく、体調が悪い
- ・毎日の母と父の介護の関わりで精神的にもいっぱいです
- ・常に介護が必要なため
- ・自身も障害があり悪化している常に介護が必要なため
- ・介護負担増による疲労蓄積
- ・更年期にかかり、心身ともにしんどい時期です

◇たいへん悪い

- ・足腰悪く、歩くのがつらい
- ・体調がよくない
- ・眼も見えにくく、足腰も大変悪く、医者にも通っている
- ・間質性肺炎で呼吸が苦しい。まだ酸素ボンベまでいかない。緊急時にボタンを押すと電話がつながり、病院にも連絡できる
- ・介護疲れ
- ・足の調子が悪い為
- ・お互いに聞き取れなくてコミュニケーションが取れずストレスです
- ・介助者本人も耳と足が悪く、娘が行っていない間が大変
- ・常に介護が必要なため
- ・夫の入院手術施設入所などの介護疲れや本人の心筋梗塞、脊椎圧迫骨折症状、円背による食欲不振、体力低下、ストレス。多忙のため休養を取りつつもかなり疲労している
- ・今年の 9 月に股関節の骨折、手術リハビリを続けてきた夫が終末期を過ごすための遠方の老人ホーム入所し、その際の荷作り作業の過労などで腰椎部の圧迫骨折を起こした事による激痛があった
- ・体調がよくない
- ・自分の病気と母の介護、仕事と、年々忙しくなるようで体力的にもきつくなっています

- ・心筋梗塞と胸椎圧迫骨折で自分の用を足すだけでも大変な中で、夫と息子の介護をしている
- ・常に介護が必要なため
- ・視覚障害の進行
- ・母の老化

⑦ 介護をしていく中で困ったことの有無

ア 第1・四半期（回答者 41 人）

○第1・四半期において、介護をしていく中で困ったことがあったかについてたずねた結果は、表 2-30 及び図 2-30 のとおりである。

□困ったことが「増えた」と回答した人は 31.7%、「減った」と回答した人は 4.9%、
「変わらない」と回答した人は 58.5%であった

□一方で 4.9%の人は、困ったことは「ない」と回答している

イ 第2・四半期（回答者 39 人）

○第2・四半期において、介護をしていく中で困ったことがあったかについてたずねた結果は、表 2-30 及び図 2-30 のとおりである。

□困ったことが「増えた」と回答した人は 25.6%、「減った」と回答した人は 2.6%、
「変わらない」と回答した人は 61.5%であった

□一方で 10.3%の人は、困ったことは「ない」と回答している

ウ 第3・四半期（回答者 37 人）

○第3・四半期において、介護をしていく中で困ったことがあったかについてたずねた結果は、表 2-30 及び図 2-30 のとおりである。

□困ったことが「増えた」と回答した人は 32.4%、「変わらない」と回答した人は 54.1%であった

□一方で 13.5%の人は、困ったことは「ない」と回答している

エ 第4・四半期（回答者 36 人）

○第4・四半期において、介護をしていく中で困ったことがあったかについてたずねた結果は、表 2-30 及び図 2-30 のとおりである。

□困ったことが「増えた」と回答した人は 36.1%、「減った」と回答した人は 5.6%、
「変わらない」と回答した人は 47.2%であった

□一方で 11.1%の人は、困ったことは「ない」と回答している

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-30 及び図 2-30 のとおりである。

□困ったことが「増えた」と回答した人は 31.4%、「減った」と回答した人は 3.3%、
「変わらない」と回答した人は 55.6%である

□また、困ったことは「ない」と回答した人は 9.8%である

表 2-30 介護をしていく中で困ったことの有無の推移

	困ったことが 増えた	困ったことが 減った	困ったことが 変わらない	困ったことは ない	回答なし	合 計
第1・四半期	13	2	24	2	12	41
	31.7%	4.9%	58.5%	4.9%	—	100.0%
第2・四半期	10	1	24	4	13	39
	25.6%	2.6%	61.5%	10.3%	—	100.0%
第3・四半期	12	0	20	5	14	37
	32.4%	0.0%	54.1%	13.5%	—	100.0%
第4・四半期	13	2	17	4	18	36
	36.1%	5.6%	47.2%	11.1%	—	100.0%
年間単純平均	12.0	1.3	21.3	3.8	14.3	38.3
	31.4%	3.3%	55.6%	9.8%	—	100.0%
R2年度平均	14.5	2.3	17.3	4.8	14.8	38.8
	37.4%	5.8%	44.5%	12.3%	—	100.0%
R1年度平均	14.0	2.8	19.3	4.0	14.8	40.0
	35.0%	6.9%	48.1%	10.0%	—	100.0%
H30年度平均	13.8	1.5	20.0	4.3	15.5	39.5
	34.8%	3.8%	50.6%	10.8%	—	100.0%
H29年度平均	13.5	1.3	21.8	3.8	13.3	40.3
	33.5%	3.1%	54.0%	9.3%	—	100.0%
H28年度平均	13.8	1.5	17.8	8.3	14.8	41.3
	33.3%	3.6%	43.0%	20.0%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

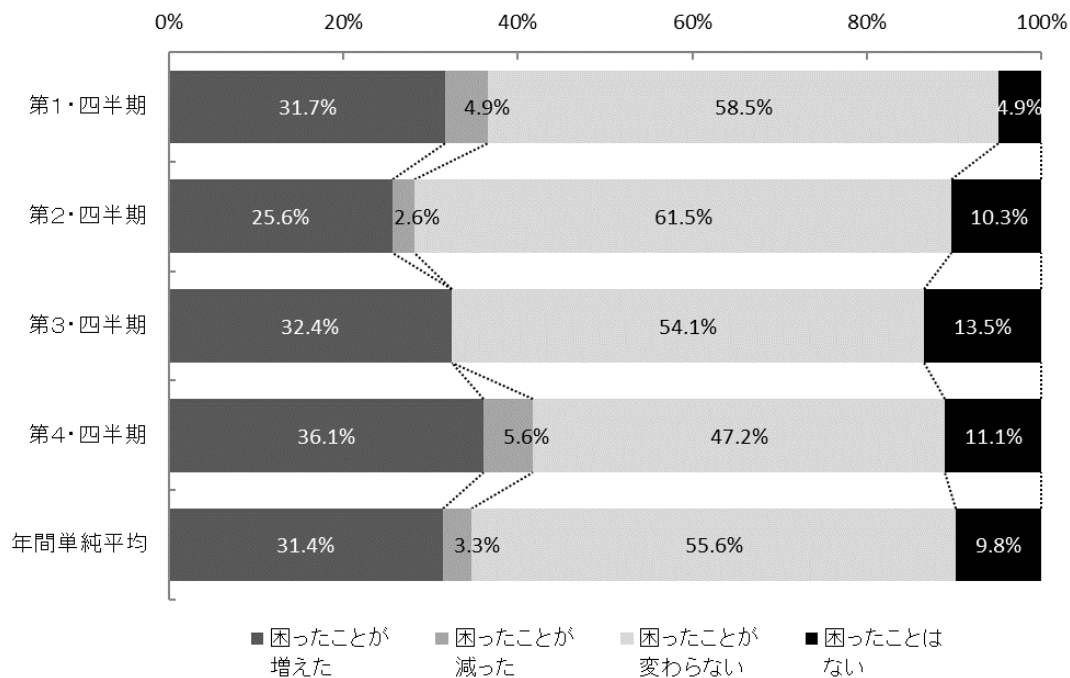


図 2-30 介護をしていく中で困ったことの有無の推移

⑦-1 介護をしていく中で困ったこと

○「介護をしていく中で困ったことがある」と回答した方の具体的な内容は以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・何もかも手助けが多くなった
- ・一緒に暮らしていないので毎日のコンタクトレンズ交換に行くのが大変
- ・買い物など送迎が必要な時、必ずできるとは限らない
- ・コロナで病院以外は出かけることが少なくなり、家の中ばかりでストレスもたまり、気分が晴れない気がする
- ・買い物が多くなった。家屋の修理など依頼が多くなった
- ・視力低下が進んで日常生活が心配
- ・コロナ禍で今まで以上に気を付けなければいけない事が増えた
- ・母の視力の低下が進んでいるようで外出が減っている
- ・今年4月に某病院にて羊膜移植してから視力が前より悪くなり、世話をする回数が増え大変だ
- ・歩行困難（ふらつく、歩みが遅い）
- ・様々に介護の再検討を重ねた。できることをやる。できないことを捨てる
- ・66日間の入院に際してどちらが介護者であるかわからない状況下におかれた
- ・健康被害者の目が見えにくくなっていき、サポートしなくてはいけないことが増えた
- ・身体がだんだん悪くなる
- ・主として介護をするようになったため
- ・入院手術があったため
- ・体調が今一つ良くない時に、いつも通りのサポートが出来なかった
- ・感染予防に気を付ける作業が増えたので
- ・介護にかかる金銭面がきびしい
- ・料理を作ること
- ・時々精神的に不安定になることがある
- ・視力の改善が見られない
- ・イライラすることが多くなった
- ・毎日、色々な事で急に電話があり、行かないといけないことが多い
- ・母が体調がしんどいと言うことが増えて、月に何度か行かなければならなくなりました
- ・話を聞いてくれない
- ・本人が自分のことをしなくなったので、周りがしなければならなくなることが増えた
- ・急な用事の際、すぐに代わりの介護者が見つからなかった
- ・夫の介護施設入所でプライベートの時間を確保し様子を見ていた最中、4月6月に突発的に体調悪化し救急を受診した
- ・夫の認知的身体的に自立能力が低下し、家事介護家計などに追われ多忙。遺産相続問題なども発生し、疲労が蓄積

- ・夫が在宅期間、多方面での直接介助や人間関係の悪化、腰椎圧迫骨折による激痛により 10 月後半から 12 月後半まで 2 か月間リハビリ入院、費用負担も増えた
- ・常に介護が必要なため
- ・全く見えなくなってしまったこと
- ・代りがいないこと
- ・急な用事や介助者の都合がつかない時
- ・心も時間も余裕なくなり疲労困憊
- ・全盲になってしまい家族みんなでフォローしています
- ・加齢による体力の衰え
- ・コロナ禍で感染対策に相当気を遣った
- ・母の老化
- ・当事者も親も互いに歳をとり、共に主張することが増えて、ぶつかることも多くなった。
- ・親本人自身の管理状態が大変なうえに子供の面倒もみていくのに不安を感じるようになってきた

⑦-2 困ったことがあった場合、誰かに相談したか

ア 第1・四半期（回答者 23 人）

- 介護をしていく中で困ったことがあったと答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。
第1・四半期において、誰かに相談したかについてたずねた結果は、表 2-31 及び図 2-31 のとおりである（複数回答）。
 - 「子ども」が 34.8%、「配偶者」が 30.4%、「兄弟姉妹」「友人・知人」が 17.4% となっている
 - 「相談する人はいない」は 21.7%であった

イ 第2・四半期（回答者 22 人）

- 第2・四半期において、誰かに相談したかについてたずねた結果は、表 2-31 及び図 2-31 のとおりである（複数回答）。
 - 「配偶者」が 36.4%、「子ども」が 31.8%、「友人・知人」が 18.2%となっている
 - 「相談する人はいない」は 22.7%であった

ウ 第3・四半期（回答者 19 人）

- 第3・四半期において、誰かに相談したかについてたずねた結果は、表 2-31 及び図 2-31 のとおりである（複数回答）。
 - 「配偶者」「子ども」が 31.6%、「医師」が 21.1%、「兄弟姉妹」が 15.8%となっている
 - 「相談する人はいない」は 15.8%となっている

エ 第4・四半期（回答者 17 人）

- 第4・四半期において、誰かに相談したかについてたずねた結果は、表 2-31 及び図 2-31 のとおりである（複数回答）。
 - 「配偶者」「子ども」が 41.2%、「友人・知人」が 23.5%、「親」が 11.8%となっている
 - 「相談する人はいない」は 17.6%となっている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-31 及び図 2-31 のとおりである（複数回答）。
 - 「配偶者」「子ども」が 34.6%、「友人・知人」が 17.3%となっている
 - 「相談する人はいない」は 19.8%となっている

表 2-31 困ったときの相談の有無の推移

	親	配偶者	子ども	兄弟姉妹	祖父母	友人・知人	会社の上司・同僚	学校の先生	医師	看護師・保健師	公的機関の職員等	PMDAの保健福祉相談窓口	障害者の団体	障害者相談支援センター	地域包括支援センター	その他	相談する人はいない	回答なし	回答者数
第1・四半期	3	7	8	4	0	4	1	0	2	0	1	0	1	2	1	2	5	16	23
	13.0%	30.4%	34.8%	17.4%	0.0%	17.4%	4.3%	0.0%	8.7%	0.0%	4.3%	0.0%	4.3%	8.7%	4.3%	8.7%	21.7%	—	—
第2・四半期	3	8	7	2	1	4	1	0	0	2	2	0	1	1	1	4	5	13	22
	13.6%	36.4%	31.8%	9.1%	4.5%	18.2%	4.5%	0.0%	0.0%	9.1%	9.1%	0.0%	4.5%	4.5%	4.5%	18.2%	22.7%	—	—
第3・四半期	1	6	6	3	0	2	1	0	4	0	2	0	1	1	0	3	3	13	19
	5.3%	31.6%	31.6%	15.8%	0.0%	10.5%	5.3%	0.0%	21.1%	0.0%	10.5%	0.0%	5.3%	5.3%	0.0%	15.8%	15.8%	—	—
第4・四半期	2	7	7	1	0	4	1	0	1	0	1	0	1	1	1	1	3	15	17
	11.8%	41.2%	41.2%	5.9%	0.0%	23.5%	5.9%	0.0%	5.9%	0.0%	5.9%	0.0%	5.9%	5.9%	5.9%	5.9%	17.6%	—	—
年間単純平均	2.3	7.0	7.0	2.5	0.3	3.5	1.0	0.0	1.8	0.5	1.5	0.0	1.0	1.3	0.8	2.5	4.0	14.3	20.3
	11.1%	34.6%	34.6%	12.3%	1.2%	17.3%	4.9%	0.0%	8.6%	2.5%	7.4%	0.0%	4.9%	6.2%	3.7%	12.3%	19.8%	—	—
R2年度平均	1.0	5.5	4.3	2.5	0.5	3.5	0.8	0.0	1.8	0.8	1.5	0.3	0.8	1.0	0.3	2.3	4.8	14.8	20.0
	5.0%	27.5%	21.3%	12.5%	2.5%	17.5%	3.8%	0.0%	8.8%	3.8%	7.5%	1.3%	3.8%	5.0%	1.3%	11.3%	23.8%	—	—
R1年度平均	1.5	5.0	4.5	1.3	0.5	2.3	0.5	0.0	3.3	2.8	3.0	0.5	1.3	0.8	1.0	1.3	5.3	11.8	25.5
	5.9%	19.6%	17.6%	4.9%	2.0%	8.8%	2.0%	0.0%	12.7%	10.8%	11.8%	2.0%	4.9%	2.9%	3.9%	4.9%	20.6%	—	—
H30年度平均	0.5	5.5	6.5	1.5	0.3	3.5	0.0	0.0	2.5	0.8	2.0	0.3	1.3	1.0	0.5	1.0	5.0	17.5	17.8
	2.8%	31.0%	36.6%	8.5%	1.4%	19.7%	0.0%	0.0%	14.1%	4.2%	11.3%	1.4%	7.0%	5.6%	2.8%	5.6%	28.2%	—	—
H29年度平均	2.0	6.3	6.8	1.5	0.8	4.0	0.0	0.3	2.0	0.8	2.5	0.0	2.3	0.8	1.0	1.5	4.5	14.5	22.0
	9.1%	28.4%	30.7%	6.8%	3.4%	18.2%	0.0%	1.1%	9.1%	3.4%	11.4%	0.0%	10.2%	3.4%	4.5%	6.8%	20.5%	—	—
H28年度平均	2.0	6.8	8.0	1.8	0.8	4.5	0.0	2.3	2.8	1.8	2.3	0.5	1.8	1.8	1.0	1.5	5.8	10.0	23.0
	8.7%	29.3%	34.8%	7.6%	3.3%	19.6%	0.0%	9.8%	12.0%	7.6%	9.8%	2.2%	7.6%	7.6%	4.3%	6.5%	25.0%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

(人)

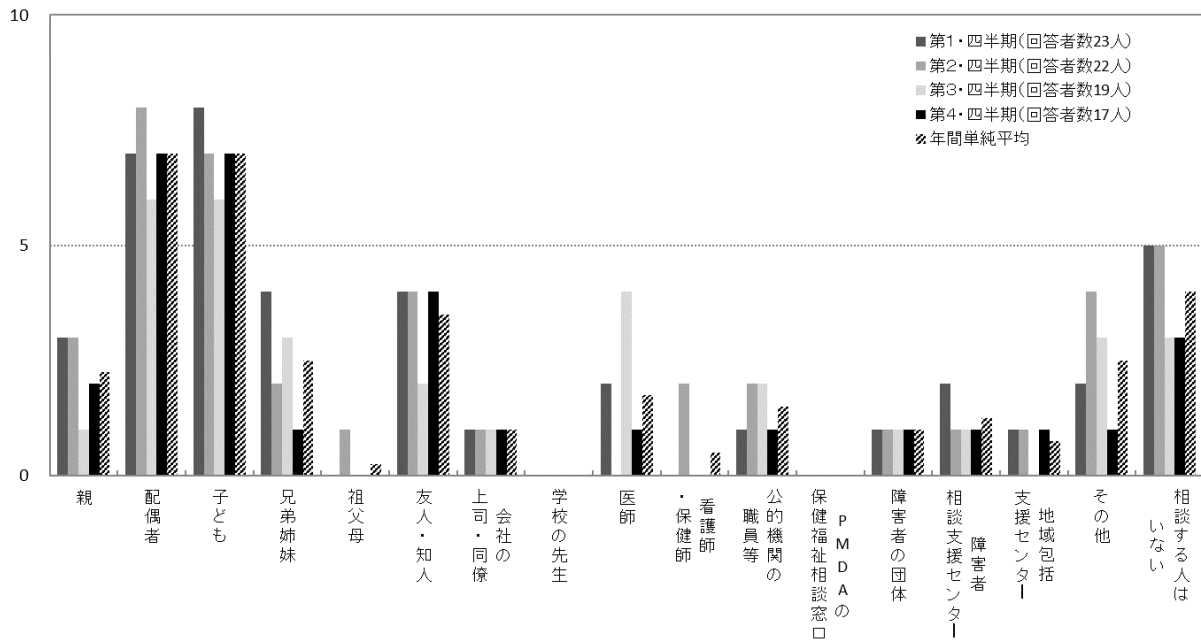


図 2-31 困ったときの相談の有無の推移

⑦-3 解決策の有無

ア 第1・四半期（回答者 19 人）

- 介護をしていく中で困ったことがあったと答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。
第1・四半期において、解決策の有無をたずねた結果は、表 2-32 及び図 2-32 のとおりである。
- 「解決した」と回答した人は 36.8%、「解決していない」と回答した人は 63.2%であった

イ 第2・四半期（回答者 18 人）

- 第2・四半期において、解決策の有無をたずねた結果は、表 2-32 及び図 2-32 のとおりである。
- 「解決した」と回答した人は 33.3%、「解決していない」と回答した人は 66.7%であった

ウ 第3・四半期（回答者 20 人）

- 第3・四半期において、解決策の有無をたずねた結果は、表 2-32 及び図 2-32 のとおりである。
- 「解決した」と回答した人は 30.0%、「解決していない」と回答した人は 70.0%であった

エ 第4・四半期（回答者 20 人）

- 第4・四半期において、解決策の有無をたずねた結果は、表 2-32 及び図 2-32 のとおりである。
- 「解決した」と回答した人は 35.0%、「解決していない」と回答した人は 65.0%であった

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-32 及び図 2-32 のとおりである。
- 「解決した」と回答した人は 33.8%、「解決していない」と回答した人は 66.2%であった

表 2-32 解決策の有無の推移

	解決した	解決していない	回答なし	合 計
第1・四半期	7	12	20	19
	36.8%	63.2%	—	100.0%
第2・四半期	6	12	17	18
	33.3%	66.7%	—	100.0%
第3・四半期	6	14	12	20
	30.0%	70.0%	—	100.0%
第4・四半期	7	13	12	20
	35.0%	65.0%	—	100.0%
年間単純平均	6.5	12.8	15.3	19.3
	33.8%	66.2%	—	100.0%
R2年度平均	5.5	13.0	15.5	18.5
	29.7%	70.3%	—	100.0%
R1年度平均	6.5	13.5	16.0	20.0
	32.5%	67.5%	—	100.0%
H30年度平均	5.8	14.0	15.5	19.8
	29.1%	70.9%	—	100.0%
H29年度平均	6.5	13.0	17.0	19.5
	33.3%	66.7%	—	100.0%
H28年度平均	5.5	15.3	12.3	20.8
	26.5%	73.5%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

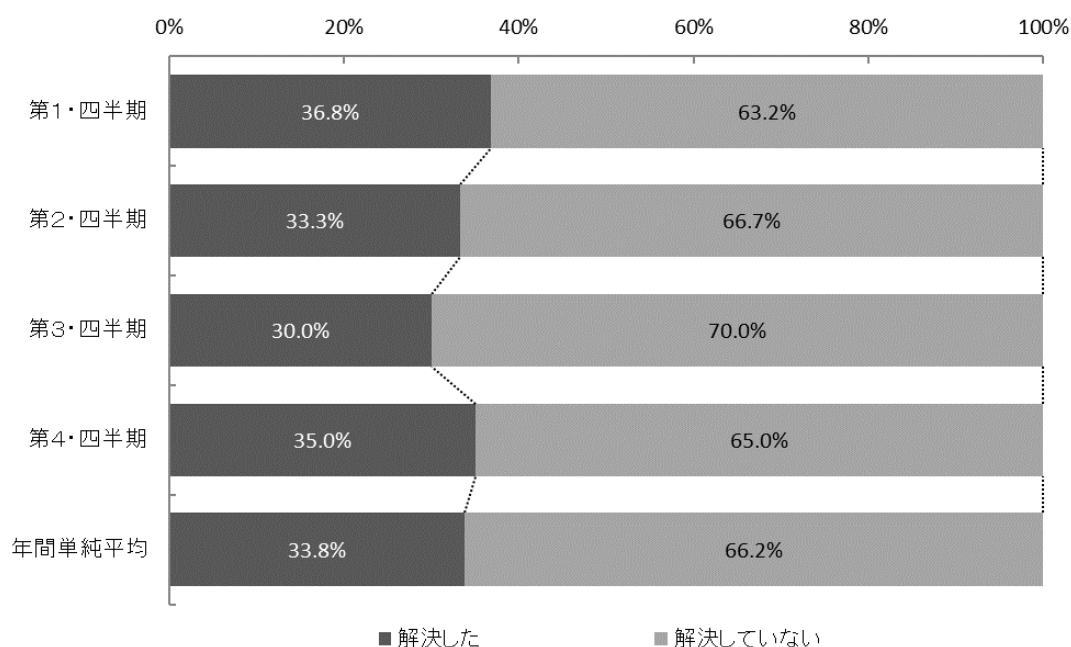


図 2-32 解決策の有無の推移

⑦-4 困ったことの解決策

○介護をしていく中での主な具体的解決策については、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

困ったこと	解 決 策
買い物など送迎が必要な時、必ずできるとは限らない	夫に代わってもらった
母の視力の低下が進んでいるようで外出が減っている	地域の高齢者支援センターのケアマネジャーと介護士に相談をし、本人へ負担が余りかからないようにしました
今年 4 月に某病院にて羊膜移植してから視力が前より悪くなり、世話をする回数が増え大変だ	介護者（娘）自身の生活もあり、親の私を常に介護となると負担が大きくなり大変だと思う
入院手術があったため	夫が入院中は障害者本人の生活のサポートにつきスケジュール化できた。ケアマネが介護保険の中での手配等
体調が今一つ良くない時に、いつも通りのサポートが出来なかった	子供達に相談し、サポート不足を補う。ケアマネに相談し介護保険で短時間ながらヘルパーを派遣してもらった
急な用事の際、すぐに変わりの介護者が見つからなかった	身内の者に頼んだり、公的な介護制度を利用した
夫が認知的身体的に自立能力が低下し、家事介護家計などに追われ多忙。遺産相続問題なども発生し、疲労が蓄積	遺産相続問題は知人や親せきのアドバイス、行政書士にも事情を聴き必要手続きができた。夫の老人ホーム入居も公的支援の連携、尽力により夫の収入内での利用料支払いの目処がたった
夫が在宅期間、多方面での直接介助や人間関係の悪化、腰椎圧迫骨折による激痛により 10 月後半から 12 月後半まで 2 か月間リハビリ入院、費用負担も増えた	以前から痛めていた胸椎圧迫骨折に加えての腰椎圧迫骨折による激痛や体幹部の筋力低下でふらつき症状があったので、約 2 か月間リハビリ病院で入院、集中的に歩行訓練、心理ケア、休息による骨折部の治癒が図れたので、痛みの軽減、日常生活を送るための筋力アップができた
外出時の要望に応えられない事がある心も時間も余裕なくなり疲労困憊	とりあえずストレス、不安、不満を人に話していく

コロナ禍で感染対策に相当気を遣った	皆さんも同じ思いをされてると共感しあえたので、少し気分が落ち着きました。
当事者も親も互いに歳をとり、共に主張することが増えて、ぶつかることも多くなった。	話せる人が居ると気分的に助かる

⑦-5 困ったことの解決方法

○主たる介護者にたずねた、困ったことの主な具体的解決方法については、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

困ったこと	解 決 方 法
一緒に暮らしていないので毎日のコンタクトレンズ交換に行くのが大変	他にコンタクトレンズを交換してあげる人が必要
コロナで病院以外は出かけることが少なくなり、家の中ばかりでストレスもたまり、気分が晴れない気がする	コロナが落ち着けばみんなの行動も変わると思う
今年 4 月に某病院にて羊膜移植してから視力が前より悪くなり、世話をする回数が増え大変だ	視力改善、同居する
様々に介護の再検討を重ねた。できることをやる。できないことを捨てる。	高齢化が進むので（双方 70 代）挑戦する意思を持つ
主として介護をするようになったため	新たなサービスを入れる
時々精神的に不安定になることがある	お金をかける
イライラすることが多くなった	刺激しないようにすること
夫が在宅期間、多方面での直接介助や人間関係の悪化、腰椎圧迫骨折による激痛により 10 月後半から 12 月後半まで 2 か月間リハビリ入院、費用負担も増えた	家族資産である賃貸住宅をリフォーム売却するかしないと経済的工面方法がないので、健康被害者が実家に戻る形で同居する予定
心も時間も余裕なくなり疲労困憊	副作用被害者の視力の回復により介護者の負担も減る
全盲になってしまい家族みんなでフォローしています	国の定めた法を検討し直し、主人も該当出来ればありがたい
加齢による体力の衰え	訪問リハビリ等々の充実など
親本人自身の管理状態が大変なうえに子供の面倒もみていくのに不安を感じるようになってきた	気持ち的には楽になったが建設的な解決には程遠い。福祉の仕事をする若い方がいないので、今支援して下さっている方も親とともに年齢を重ねていくので、先の不安がある

⑧ 主たる介護者を支えるものの有無

ア 第1・四半期（回答者 27 人）

○第1・四半期において、主たる介護者を支えるものがあるかについてたずねた結果は、表 2-33 及び図 2-33 のとおりである。

□「あった」と回答した人は 51.9%、「なかった」と回答した人は 48.1%であった

イ 第2・四半期（回答者 30 人）

○第2・四半期において、主たる介護者を支えるものがあるかについてたずねた結果は、表 2-33 及び図 2-33 のとおりである。

□「あった」と回答した人は 50.0%、「なかった」と回答した人は 50.0%であった

ウ 第3・四半期（回答者 21 人）

○第3・四半期において、主たる介護者を支えるものがあるかについてたずねた結果は、表 2-33 及び図 2-33 のとおりである。

□「あった」と回答した人は 66.7%、「なかった」と回答した人は 33.3%であった

エ 第4・四半期（回答者 27 人）

○第4・四半期において、主たる介護者を支えるものがあるかについてたずねた結果は、表 2-33 及び図 2-33 のとおりである。

□「あった」と回答した人は 59.3%、「なかった」と回答した人は 40.7%であった

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-33 及び図 2-33 のとおりである。

□「あった」と回答した人は 56.2%、「なかった」と回答した人は 43.8%であった

表 2-33 主たる介護者を支えるものの有無の推移

	あった	なかった	回答なし	合 計
第1・四半期	14	13	26	27
	51.9%	48.1%	—	100.0%
第2・四半期	15	15	22	30
	50.0%	50.0%	—	100.0%
第3・四半期	14	7	30	21
	66.7%	33.3%	—	100.0%
第4・四半期	16	11	27	27
	59.3%	40.7%	—	100.0%
年間単純平均	14.8	11.5	26.3	26.3
	56.2%	43.8%	—	100.0%
R2年度平均	14.8	14.5	24.3	29.3
	50.4%	49.6%	—	100.0%
R1年度平均	17.5	11.3	26.0	28.8
	60.9%	39.1%	—	100.0%
H30年度平均	17.8	10.5	26.8	28.3
	62.8%	37.2%	—	100.0%
H29年度平均	16.0	11.8	25.8	27.8
	57.7%	42.3%	—	100.0%
H28年度平均	16.5	13.0	26.5	29.5
	55.9%	44.1%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

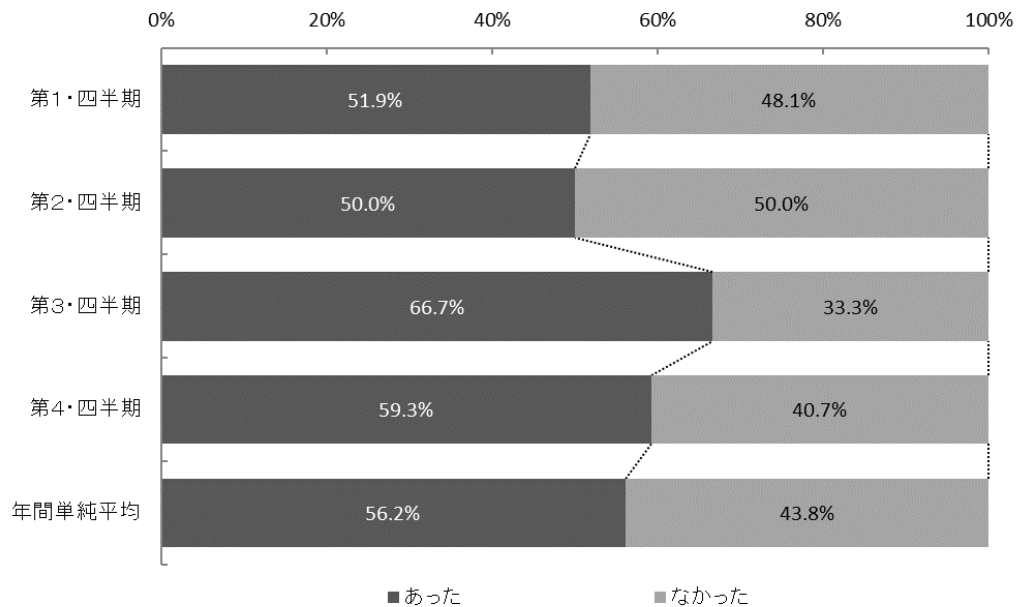


図 2-33 主たる介護者を支えるものの有無の推移

⑧-1 介護者を支えるもの 具体的内容

○主たる介護者を支える主な具体的内容については、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

◇家族

- ・娘達が愚痴を聞いてくれる
- ・子供が代わりに行ってくれている
- ・父、娘、孫と交代で見守っています
- ・息子や主人に助けられた
- ・一部の親戚や担当ケアマネージャー、息子などからそれぞれの問題解決時のアドバイス、支援があった
- ・普段受診している整形外科主治医による配慮のおかげで入院時集中的に日常生活上、最低限必要な筋力回復指導を受けられた。退院後もケアマネージャー、ホームヘルパー派遣、訪問リハビリ訓練継続、自宅内の転倒防止対策も介護保険や医療保険利用をしている
- ・副作用被害者の生きて頑張っている姿
- ・長女の結婚が決まったこと

◇知人・友人

- ・友人との交流
- ・知人などが代わりに行ってくれた
- ・友人、知人に恵まれている
- ・4月より勤務している職場の人間関係が楽しく、おしゃべりやリモート飲み会をしていると聞いています
- ・友人との談話
- ・友人との食事
- ・友達と愚痴を言い合い解決できた

◇患者会

- ・患者の会で病院や介護施設の情報交換をした
- ・気持ちの上で楽になるのは、当事者を持つ親同士の会話

◇公的な機関・制度

- ・公的サービス（ヘルパー派遣）
- ・ホームヘルパーさん、デイの職員の方々

◇趣味・外出など

- ・趣味

◇その他

- ・仕事を持っていることが支えです

⑨ 介護者の社会参加・社会活動等の状況

ア 第1・四半期（回答者 38 人）

○ 第1・四半期における介護者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-34 及び図 2-34 のとおりである。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人が 50.0%、行っていない人が 50.0%となっている

イ 第2・四半期（回答者 38 人）

○ 第2・四半期における介護者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-34 及び図 2-34 のとおりである。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人が 52.6%、行っていない人が 47.4%となっている

ウ 第3・四半期（回答者 35 人）

○ 第3・四半期における介護者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-34 及び図 2-34 のとおりである。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人が 57.1%、行っていない人が 42.9%となっている

エ 第4・四半期（回答者 33 人）

○ 第4・四半期における介護者の余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などの実施（参加）状況については、表 2-34 及び図 2-34 のとおりである。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人が 57.6%、行っていない人が 42.4%となっている

オ 四半期ごとの推移

○ 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-34 及び図 2-34 のとおりである。

□ 社会参加や社会活動などを行っている人と行っていない人の割合は、年間平均では、行っている人が 54.2%、行っていない人が 45.8%となっている

表 2-34 介護者の社会参加・社会活動等の実施状況の推移

	参加(活動)した	まったくしていない	回答なし	合 計
第1・四半期	19	19	15	38
	50.0%	50.0%	—	100.0%
第2・四半期	20	18	14	38
	52.6%	47.4%	—	100.0%
第3・四半期	20	15	16	35
	57.1%	42.9%	—	100.0%
第4・四半期	19	14	21	33
	57.6%	42.4%	—	100.0%
年間単純平均	19.5	16.5	16.5	36.0
	54.2%	45.8%	—	100.0%
R2年度平均	19.0	18.3	16.3	37.3
	51.0%	49.0%	—	100.0%
R1年度平均	27.0	11.5	16.3	38.5
	70.1%	29.9%	—	100.0%
H30年度平均	28.5	11.3	15.3	39.8
	71.7%	28.3%	—	100.0%
H29年度平均	28.0	12.3	13.3	40.3
	69.6%	30.4%	—	100.0%
H28年度平均	28.5	12.3	15.3	40.8
	69.9%	30.1%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

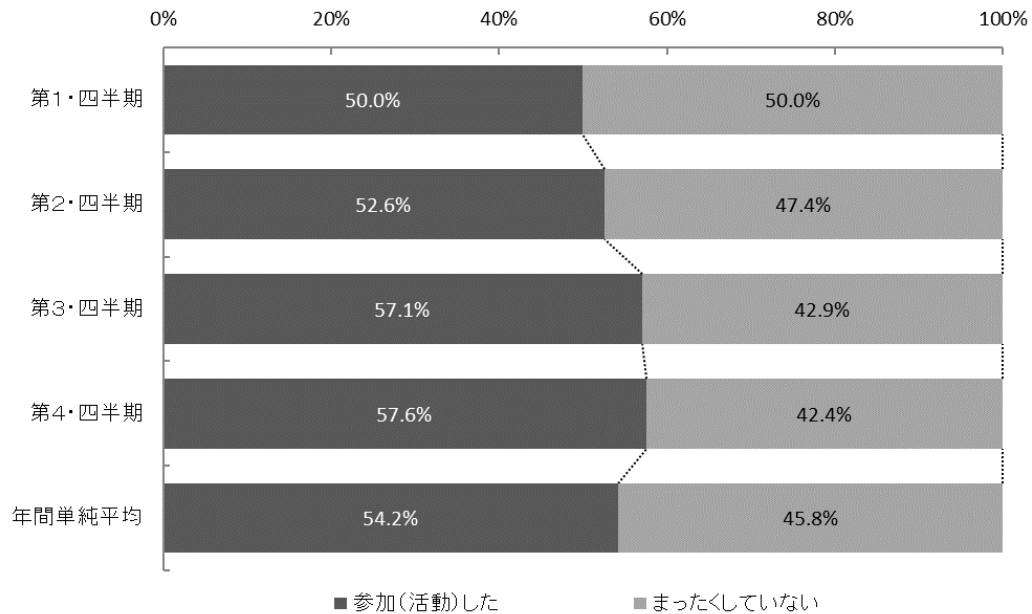


図 2-34 介護者の社会参加・社会活動等の実施状況の推移

⑨-1 介護者の社会参加・社会活動等をしなかった理由（SJS の健康被害者の方のみに質問）

ア 第1・四半期（回答者 20 人）

- 社会参加や社会活動などを行わなかったと答えた人にその理由を求めた（以下、同じ）。第1・四半期において介護者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表 2-35 及び図 2-35 のとおりである。
- 「体力的に余裕なし」が 30.0%、「時間的・経済的に余裕なし」が 25.0%、となっている
- その他としては、「コロナだから無理できない」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 20 人）

- 第2・四半期において介護者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表 2-35 及び図 2-35 のとおりである。
- 「体力的に余裕なし」が 40.0%、「時間的・経済的に余裕なし」が 20.0%、となっている
- その他としては、「コロナ禍で外出を控えた」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 15 人）

- 第3・四半期において介護者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表 2-35 及び図 2-35 のとおりである。
- 「時間的・経済的に余裕なし」が 40.0%、「体力的に余裕なし」が 26.7%となっている
- その他としては、「コロナで活動していない」などをあげている

エ 第4・四半期（回答者 15 人）

- 第4・四半期において介護者が社会参加や社会活動などを行わなかった理由については、表 2-35 及び図 2-35 のとおりである。
- 「時間的・経済的に余裕なし」が 46.7%、「体力的に余裕なし」が 26.7%となっている
- その他としては、「コロナ感染拡大で活動を縮小」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-35 及び図 2-35 のとおりである。
- 社会参加・社会活動などを行わなかった理由の年間平均では、「時間的・経済的に余裕なし」「体力的に余裕なし」が 31.4%となっている

表 2-35 介護者の社会参加・社会活動等をしなかった理由の推移

	時間的・経済的に余裕なし	体力的に余裕なし	その他	回答なし	合 計
第1・四半期	5 25.0%	6 30.0%	9 45.0%	1 —	20 100.0%
第2・四半期	4 20.0%	8 40.0%	8 40.0%	0 —	20 100.0%
第3・四半期	6 40.0%	4 26.7%	5 33.3%	0 —	15 100.0%
第4・四半期	7 46.7%	4 26.7%	4 26.7%	0 —	15 100.0%
年間単純平均	5.5 31.4%	5.5 31.4%	6.5 37.1%	0.3 —	17.5 100.0%
R2年度平均	4.3 25.8%	5.0 30.3%	7.3 43.9%	0.5 —	16.5 100.0%
R1年度平均	2.8 26.8%	4.5 43.9%	3.0 29.3%	0.5 —	10.3 100.0%
H30年度平均	2.5 26.3%	5.0 52.6%	2.0 21.1%	3.0 —	9.5 100.0%
H29年度平均	4.0 45.7%	3.3 37.1%	1.5 17.1%	3.0 —	8.8 100.0%
H28年度平均	3.0 32.4%	2.0 21.6%	4.3 45.9%	1.3 —	9.3 100.0%

注：上段は人数、下段は割合

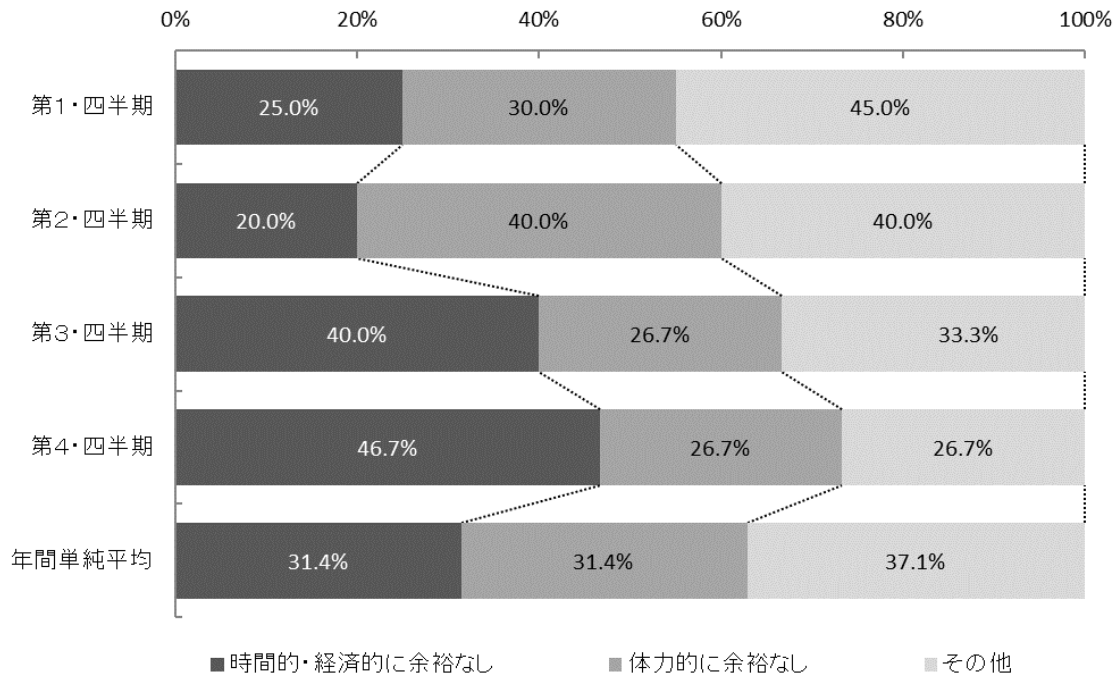


図 2-35 介護者の社会参加・社会活動等をしなかった理由の推移

⑨ー２ 介護者の社会参加・社会活動のきっかけ（SJS の健康被害者の方のみに質問）

○主たる介護者の社会参加・社会活動の主なきっかけについては、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・友人からの紹介
- ・親子でカーブスに 10 年ぐらい行っている（週 2 回程度）
- ・家族と旅行
- ・母の趣味に影響されて
- ・以前から継続して行っている
- ・コロナで中止されていた卓球を楽しむ会が再開
- ・以前から趣味（音楽）で活動していた
- ・若いころ生け花を習っていたので教室に行きました
- ・健康のため 10 年ぐらい続けている
- ・体力維持、ストレス解消のため
- ・老後の生活をエンジョイしたいから
- ・特にきっかけはない。今までの生活スタイル
- ・体力を保つため
- ・体力づくりとリフレッシュ
- ・元々ライブに行くのが好きだから
- ・長年行っている
- ・文字教室
- ・健康の回復状況を見ながら活動再開した
- ・散歩、買い物
- ・オリンピックトーチランナーに（被害者が応募当選）なり 1 人 50m ずつであったが良い思い出になったと喜んでいます

⑨-3 介護者の社会参加・社会活動等の内容

ア 第1・四半期（回答者 16 人）

- 社会参加や社会活動などを行ったと答えた人に回答を求めた（以下、同じ）。
第1・四半期において介護者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-36 及び図2-36 のとおりである（複数回答）。
- 「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」「友達との遊び」が43.8%、「趣味の同好会活動」が37.5%となっている
- その他としては、「ヨガ」「華道教室」などをあげている

イ 第2・四半期（回答者 14 人）

- 第2・四半期において介護者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-36 及び図2-36 のとおりである（複数回答）。
- 「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が42.9%、「趣味の同好会活動」が35.7%となっている
- その他としては、「家庭菜園、庭いじり」「散歩」などをあげている

ウ 第3・四半期（回答者 15 人）

- 第3・四半期において介護者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-36 及び図2-36 のとおりである（複数回答）。
- 「旅行・キャンプ・つりなどの活動」「趣味の同好会活動」が40.0%、「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」「スポーツ教室、大会などへの参加」が33.3%となっている
- その他としては、「山歩きなど」をあげている

エ 第4・四半期（回答者 17 人）

- 第4・四半期において介護者が行った社会参加や社会活動などの内容については、表2-36 及び図2-36 のとおりである（複数回答）。
- 「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が41.2%「趣味の同好会活動」「友達との遊び」が35.3%となっている
- その他としては、「ヨガ」「習い事」などをあげている

オ 四半期ごとの推移

- 第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表2-36 及び図2-36 のとおりである（複数回答）。
- 「趣味の同好会活動」が37.1%、「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が35.5%となっている

表 2-36 社会参加・社会活動等の内容の推移

	コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学	スポーツ教室、大会などへの参加	旅行・キャンプ・つりなどの活動	趣味の同好会活動	ボランティアなどの社会活動	障害者団体の活動	地域活動	パソコンを利用した社会参加	友達との遊び	その他	回答なし	回答者数
第1・四半期	7 43.8%	5 31.3%	5 31.3%	6 37.5%	0 0.0%	1 6.3%	5 31.3%	4 25.0%	7 43.8%	1 6.3%	3 —	16 —
第2・四半期	3 21.4%	4 28.6%	6 42.9%	5 35.7%	0 0.0%	0 0.0%	3 21.4%	3 21.4%	4 28.6%	4 28.6%	6 —	14 —
第3・四半期	5 33.3%	5 33.3%	6 40.0%	6 40.0%	1 6.7%	0 0.0%	4 26.7%	2 13.3%	4 26.7%	1 6.7%	5 —	15 —
第4・四半期	7 41.2%	5 29.4%	5 29.4%	6 35.3%	0 0.0%	0 0.0%	3 17.6%	2 11.8%	6 35.3%	3 17.6%	2 —	17 —
年間単純平均	5.5 35.5%	4.8 30.6%	5.5 35.5%	5.8 37.1%	0.3 1.6%	0.3 1.6%	3.8 24.2%	2.8 17.7%	5.3 33.9%	2.3 14.5%	4.0 —	15.5 —
R2年度平均	3.8 20.3%	4.3 23.0%	5.5 29.7%	5.0 27.0%	1.0 5.4%	1.3 6.8%	3.8 20.3%	2.8 14.9%	4.8 25.7%	3.0 16.2%	0.5 —	18.5 —
R1年度平均	11.0 41.5%	6.5 24.5%	13.5 50.9%	6.3 23.6%	3.5 13.2%	2.5 9.4%	7.5 28.3%	2.5 9.4%	9.8 36.8%	11.3 42.5%	0.5 —	26.5 —
H30年度平均	13.5 53.5%	5.3 20.8%	13.8 54.5%	7.5 29.7%	3.0 11.9%	3.0 11.9%	8.0 31.7%	3.5 13.9%	10.3 40.6%	2.5 9.9%	3.3 —	25.3 —
H29年度平均	11.0 39.3%	5.8 20.5%	11.0 39.3%	8.0 28.6%	5.3 18.8%	3.8 13.4%	8.0 28.6%	4.0 14.3%	9.3 33.0%	2.5 8.9%	0.0 —	28.0 —
H28年度平均	12.3 43.4%	8.5 30.1%	12.5 44.2%	7.5 26.5%	4.0 14.2%	2.5 8.8%	8.5 30.1%	3.5 12.4%	9.8 34.5%	4.8 16.8%	0.3 —	28.3 —

注：上段は人数、下段は割合

(人)

10

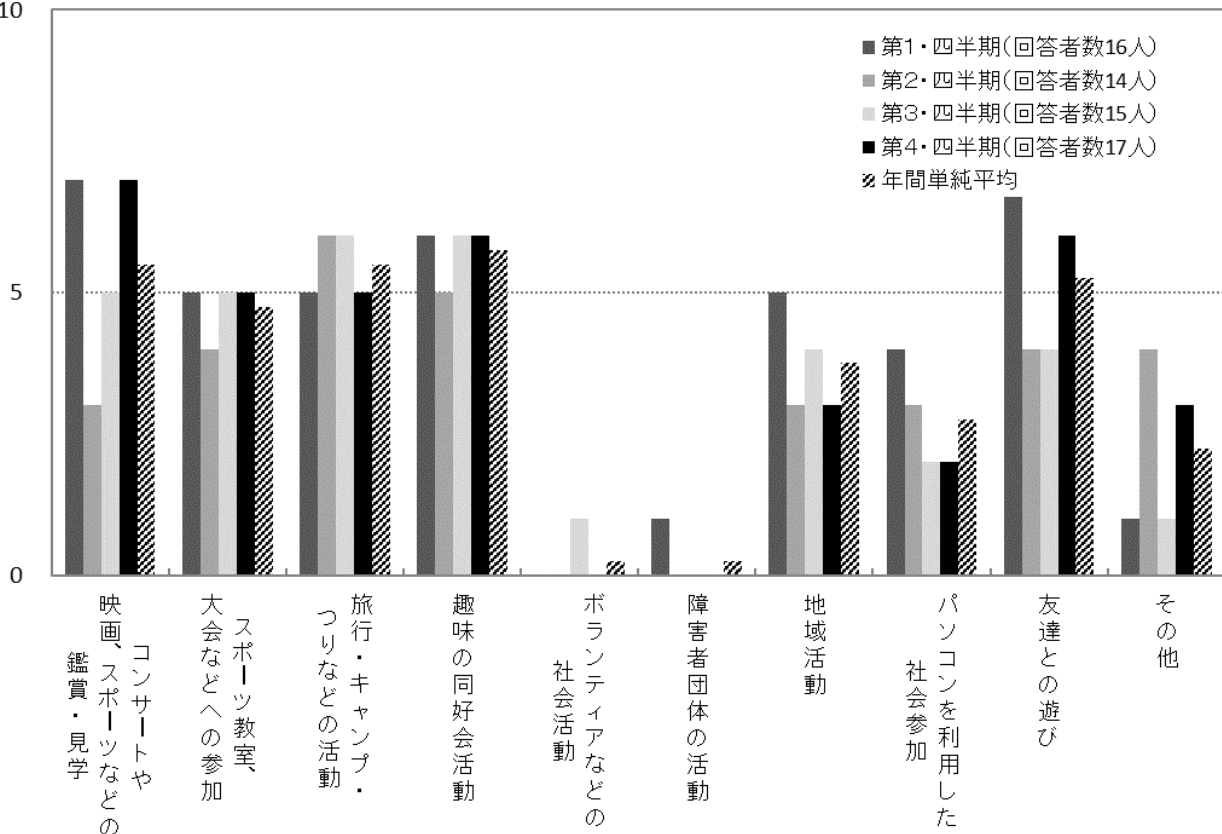


図 2-36 社会参加・社会活動等の内容の推移

⑩ 新しい発見や気分転換などの有無

ア 第1・四半期（回答者 31 人）

○第1・四半期において、介護をしていく中で新しい発見や気分転換などがはかれたかについてたずねた結果は、表 2-37 及び図 2-37 のとおりである。

□「あった」と回答した人は 19.4%、「なかった」と回答した人は 80.6%であった

イ 第2・四半期（回答者 30 人）

○第2・四半期において、介護をしていく中で新しい発見や気分転換などがはかれたかについてたずねた結果は、表 2-37 及び図 2-37 のとおりである。

□「あった」と回答した人は 23.3%、「なかった」と回答した人は 76.7%であった

ウ 第3・四半期（回答者 30 人）

○第3・四半期において、介護をしていく中で新しい発見や気分転換などがはかれたかについてたずねた結果は、表 2-37 及び図 2-37 のとおりである。

□「あった」と回答した人は 30.0%、「なかった」と回答した人は 70.0%であった

エ 第4・四半期（回答者 27 人）

○第4・四半期において、介護をしていく中で新しい発見や気分転換などがはかれたかについてたずねた結果は、表 2-37 及び図 2-37 のとおりである。

□「あった」と回答した人は 33.3%、「なかった」と回答した人は 66.7%であった

オ 四半期ごとの推移

○第1・四半期から第4・四半期までの推移をみると、表 2-37 及び図 2-37 のとおりである。

□介護をしていく中で新しい発見や気分転換などの有無については、年間の平均では「あった」が 26.3%、「なかった」が 73.7%であった

表 2-37 介護をしていく中で新しい発見や気分転換の有無の推移

	あった	なかった	回答なし	合 計
第1・四半期	6	25	22	31
	19.4%	80.6%	—	100.0%
第2・四半期	7	23	22	30
	23.3%	76.7%	—	100.0%
第3・四半期	9	21	21	30
	30.0%	70.0%	—	100.0%
第4・四半期	9	18	27	27
	33.3%	66.7%	—	100.0%
年間単純平均	7.8	21.8	23.0	29.5
	26.3%	73.7%	—	100.0%
R2年度平均	9.0	22.5	22.0	31.5
	28.6%	71.4%	—	100.0%
R1年度平均	12.3	20.3	22.3	32.5
	37.7%	62.3%	—	100.0%
H30年度平均	12.5	21.3	21.3	33.8
	37.0%	63.0%	—	100.0%
H29年度平均	13.3	19.3	21.0	32.5
	40.8%	59.2%	—	100.0%
H28年度平均	13.8	21.5	20.8	35.3
	39.0%	61.0%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

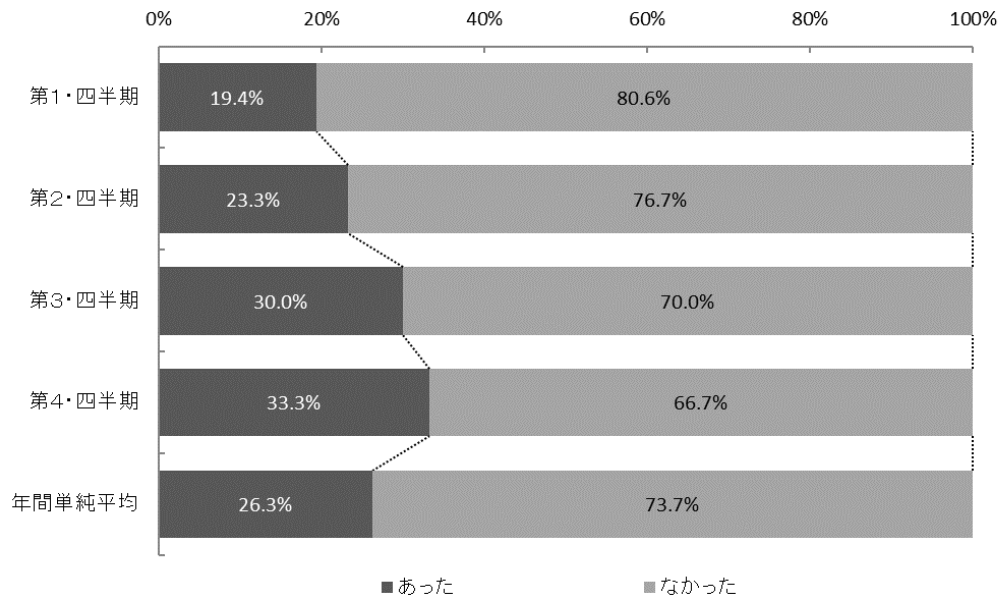


図 2-37 介護をしていく中で新しい発見や気分転換の有無の推移

⑩ー1 新しい発見や気分転換について

○⑩で「あった」と回答した本人または介護者にたずねた主な具体的内容は、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・よく一緒に旅行をしたり食事に行きおしゃべりを沢山する
- ・副作用被害者の笑顔や一緒に外出散歩
- ・一緒に出掛ける時間を作ることができること
- ・花を見たり、音楽鑑賞、テレビを見ることで気分転換につながった
- ・散歩で公園を通るときに季節ごとの草花を見て季節を感じることで気分転換になっている
- ・命があったこと
- ・コロナ禍で制約があるが散歩、買い物をする
- ・老夫婦の支えあい
- ・新しい発見はこれと言っていないが、常にどれも気分転換になる
- ・友人たちとゴルフをしたり、談笑しているとき
- ・友達達とおしゃべりや運動をする
- ・友人との食事
- ・伯母の生活状態が以前よりわかるようになった
- ・料理がうまくなった
- ・入院前は体調不良のため在宅生活の継続が困難で前向きな心境になれなかったが、リハビリ入院、退院後の親戚宅での静養の気遣いがあり、体力回復してきた
- ・友人たちと会うことで気分転換でき助けてもらえた
- ・健康被害者からの感謝の言葉
- ・親（健康被害者）が人を頼らず（買い物以外）なんでも一人でするようになり安心です

(3) C票（過去1年間の日常生活状況調査）からみた生活状況の概要

■ 治療状況

① 健康被害を受けた方の治療状況

○健康被害を受けた方の治療状況については表3-1及び図3-1のとおりである。

□通院中が100.0%となっている

表3-1 治療状況

入院中	通院中 (往診含む)	回答なし	合 計
0	43	11	43
0.0%	100.0%	—	100.0%

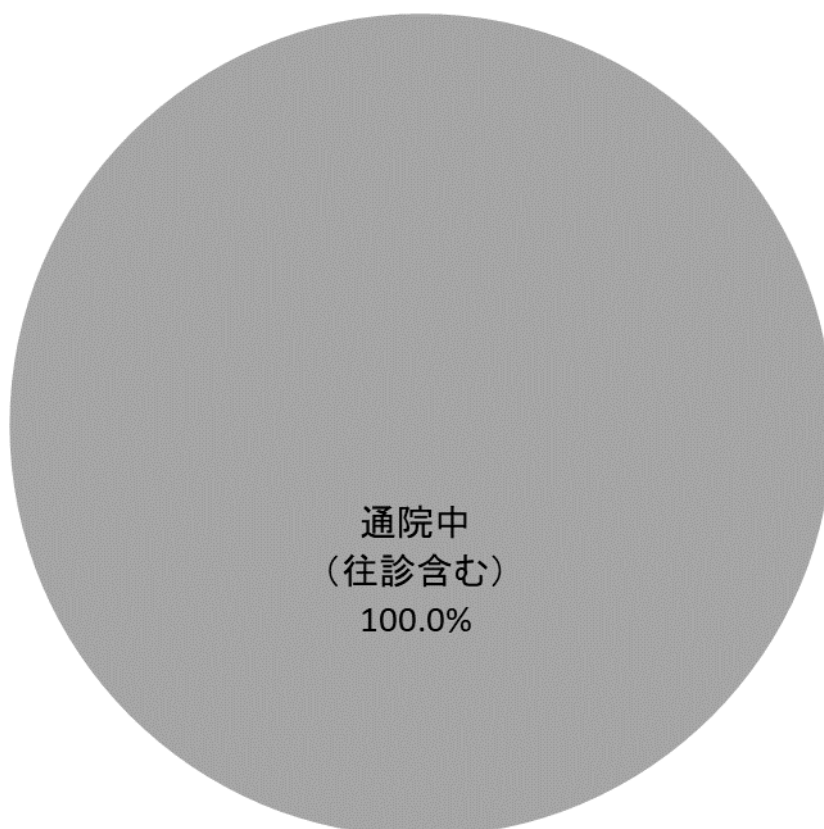


図3-1 治療状況

② 副作用の疾患以外で治療を受けるときに注意していること

②-1 通院時に注意している点

○ 通院時に注意をしている点についてたずねた結果は、表 3-2 及び図 3-2 のとおりである（複数回答）。

□ 「家族などによる送迎」が 58.3%、「事前に交通機関やルートを確認」が 56.3%、「ヘルパー等に同行を依頼」が 25.0%となっている

表 3-2 通院時に注意している点

事前に交通機関やルートを確認	ヘルパー等に同行を依頼	家族などによる送迎	介護タクシーの利用	その他	回答なし	回答者数
27	12	28	1	5	6	48
56.3%	25.0%	58.3%	2.1%	10.4%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

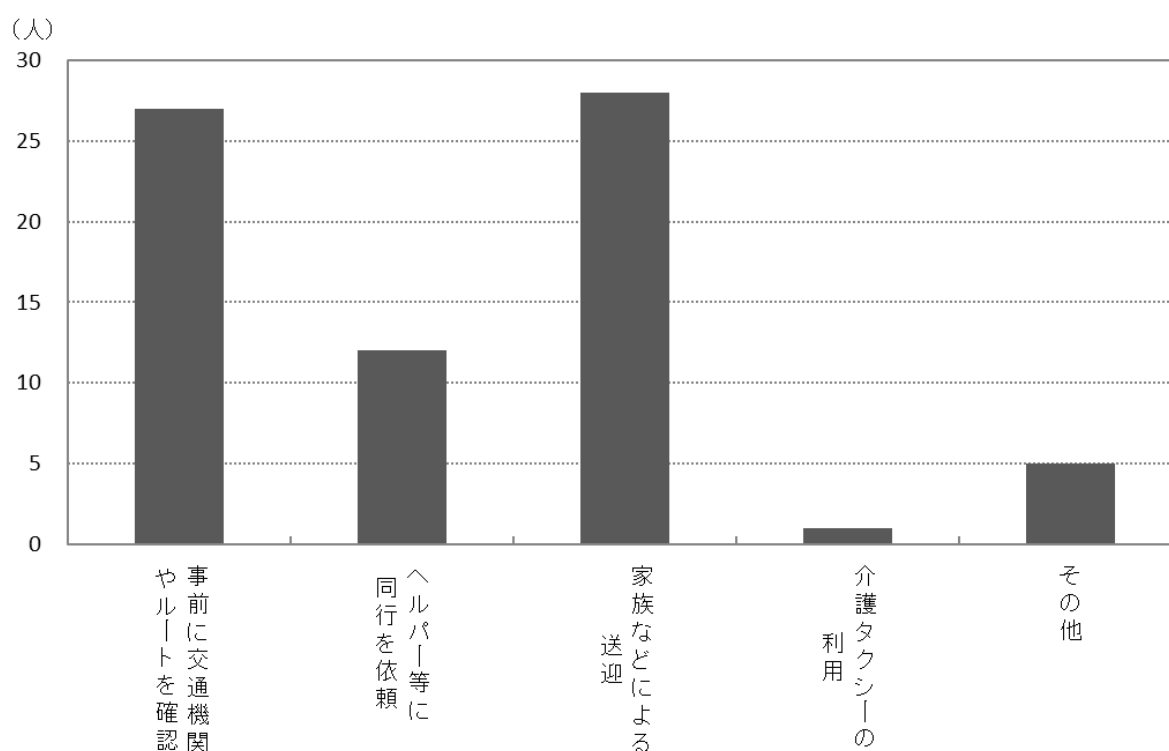


図 3-2 通院時に注意している点

○具体的な「その他」の主な内容は、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・特に呼吸器や胃腸の具合が悪く通院が多く、子供かヘルパーに同行支援頼む
- ・タクシーを利用している
- ・以前は私一人で通院していたが、先のことを考え、私と同行ヘルパーさんからヘルパーさんと本人で通院するように移行しているところです
- ・電車利用の時は駅員の誘導サポートを依頼することもある
- ・妻の運転で通院同行する
- ・盲導犬を利用している

②-2 治療を受けるときに注意している点

○治療を受けるときに注意をしている点についてたずねた結果は、表 3-3 及び図 3-3 のとおりである（複数回答）。

□「既往歴を告げる」「お薬手帳を持参」が 76.6%、「受けている医療について分からないことは医療スタッフに聞く」が 72.3%となっている

表 3-3 治療を受けるときに注意している点

既往歴を告げる	お薬手帳を持参	受けている医療について分からないことは医療スタッフに聞く	その他	回答なし	回答者数
36	36	34	3	7	47
76.6%	76.6%	72.3%	6.4%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

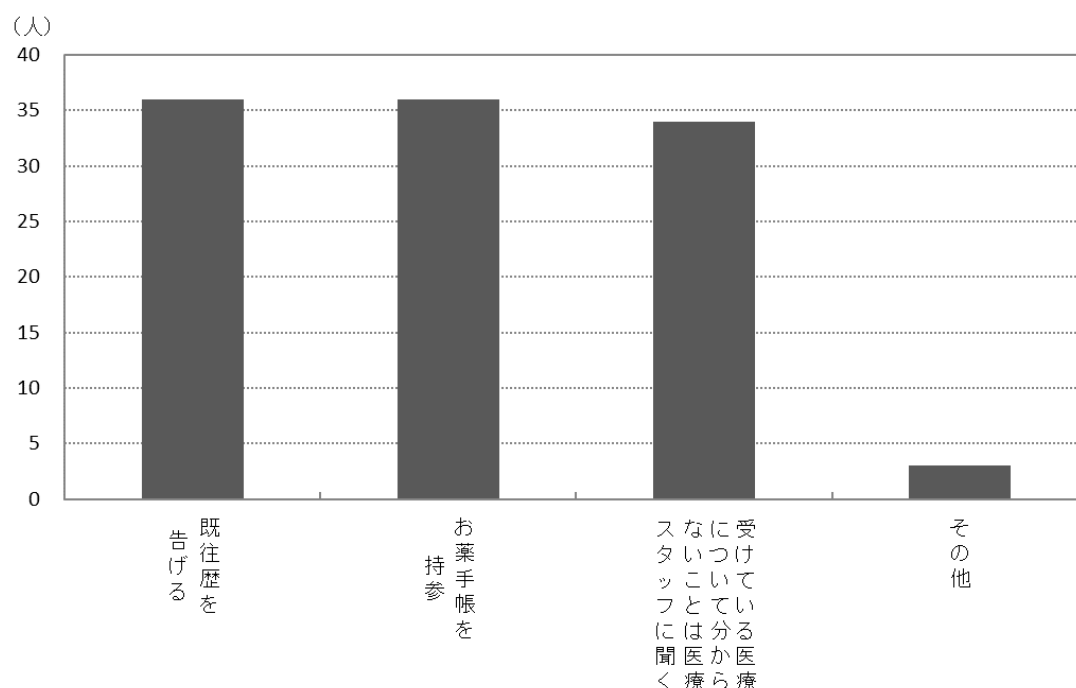


図 3-3 治療を受けるときに注意している点

○具体的な「その他」の主な内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・PMDA が発行しているカードを見せる
- ・複数科を受診するため各担当医師の間で情報共有と治療方針の統一をお願い、確認している
- ・娘に任せてます
- ・良く知ってくださっている病院に行く

②-3 治療を受けるときに困ったこと（SJS の健康被害者の方のみに質問）

○ 治療を受けるときに困ったことについてたずねた結果は、表 3-4 及び図 3-4 のとおりである（複数回答）。

□ 「SJS であることを告げたら診療を拒まれた」「SJS について医師が理解していない」が 50.0%となっている

表 3-4 治療を受けるときに困ったこと

SJSについて 医師が理解 していない	SJSであること を告げたら診 療を拒まれた	その他	回答なし	回答者数
9	9	7	30	18
50.0%	50.0%	38.9%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

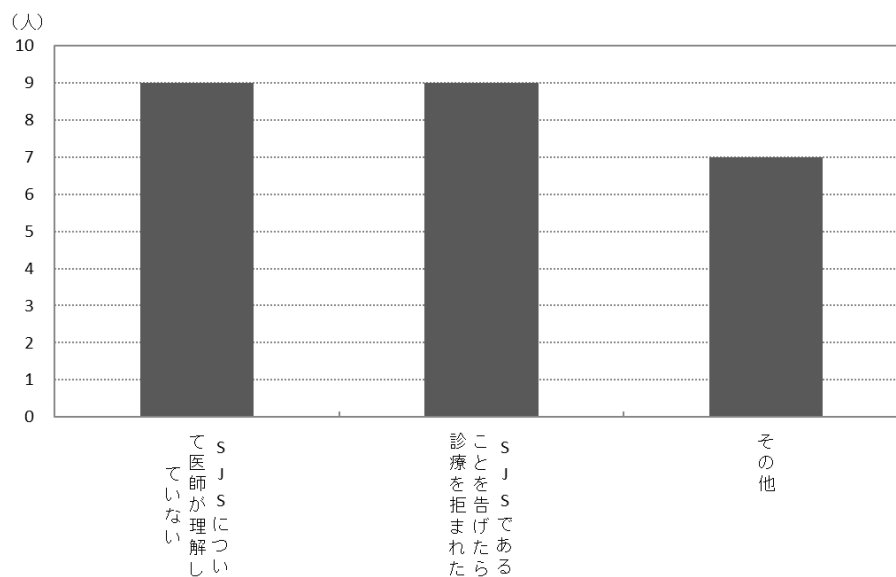


図 3-4 治療を受けるときに困ったこと

○具体的な「その他」の主な内容は、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

◇処方や治療がない

- ・手術や治療を断られる
- ・手の手術に際し、SJS の原因と推定される各種の鎮痛剤にアレルギー反応があり、医師が痛み止めを処方できない
- ・何に反応するかがわからない

◇医療機関の知識不足

- ・SJS について軽く見ている医師もいる
- ・SJS の既往を聞いて診療（対応）できないといわれたことがある。投薬に慎重になりすぎる医師も感じられる。ワクチン接種の際、かなりリスクの説明をされて、もちろん決めるのは自分自身だが何が起きても対応できるかわからないなどと言われ決断を躊躇した

◇その他

- ・常に薬剤の処方について言われる
- ・体力的に病院へ行くのが大変

②-4 その他注意している点

○その他注意している点の主な内容は以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・以前より SJS を知っている医師、薬剤師は増えたと思います
- ・コロナワクチンを受けられない為、交通機関を利用するときは特に気を付けて手袋などをして出かける
- ・今まで服用したことがない薬が処方される場合はその薬の副作用などを質問する
- ・常に目薬を付ける必要がある

■ 過去1年間の日常生活について

③ 困ったことの有無

○過去1年間における困ったことの有無については、表3-5及び図3-5のとおりである。

□困ったことが「増えた」51.0%、「減った」が3.9%、「変わらない」が43.1%であった。一方、困ったことは「ない」とする人は2.0%となっている。

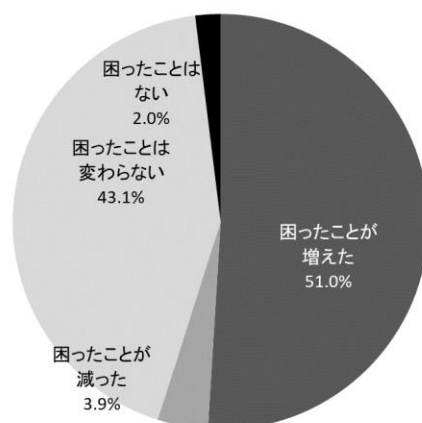


表3-5 困ったことの有無

困ったことが増えた	困ったことが減った	困ったことは変わらない	困ったことはない	回答なし	合 計
26	2	22	1	3	51
51.0%	3.9%	43.1%	2.0%	—	100.0%

図3-5 困ったことの有無

注：上段は人数、下段は割合

③-1 困ったことについて

○過去に困ったことがあったと回答した本人または介護者にたずねた「困ったこと」の主な具体的内容は、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

◇外出に関すること

- ・コロナの影響でイベントが中止になったり、仕事が自宅待機になったりと行動の制限があった
- ・買い物や散歩などで外出する際に介助者が必要なこと
- ・買い物の際、盲導犬が入れない店がある

◇日常生活に関すること

- ・眼があきづらく白っぽく見える
- ・キッチン洗剤の移し替えて残ったものをコップに入れ、間違えて飲んでしまい、救急車で運ばれた。火傷、角で頭部や足をぶつける
- ・症状が安定しない
- ・高齢の両親と自分自身の日常生活
- ・音声チックの音が大きいのと回数が増えた
- ・歳をかさねるごとに記憶力も衰え、勘も鈍り、家の中でも方向がわからなくなる事が多くなった。物（家具）にぶつかったりする
- ・常に介護、介助が必要なため
- ・日常生活全般において
- ・視力低下とそれに伴う日常生活への支障
- ・瘍の発症、眼圧上昇

◇その他

- ・昨年、父親が亡くなり、色々と忙しかったため、体も心も疲れている
- ・一年前、羊膜移植手術を受けましたがまぶたが下がり視力もかなり落ち、先生は目の中に血管が入りだんだん見えなくなるとの事で心配です
- ・12月20日主人が亡くなりました
- ・肺移植手術後、全身の筋力低下で一時は寝たきりに。現在もリハビリ中。悪性リンパ腫の発症
- ・痙攣が多くなってきた
- ・昨年後半から手根管症候群を発症し、痛みが激しく、結局今年になって手術をした。痛みは除かれたが痺れが残っている
- ・コロナ感染の不安
- ・視力の回復が見られず、イライラすることが多くなった
- ・一人暮らしなので、急な体調変化時、ヘルパーさんを頼むのが難しかった
- ・消化器系の痛み
- ・身体が思うように動かない

- ・両親の入所入院介護等での同行ヘルパー利用頻度が急増し公費負担による支援時間を超えるほどになり切迫感を感じ自身も体調不良を感じる
- ・眼の状態が悪化、痛みかゆみなどの不快感。呼吸の苦しさが増した
- ・コロナワクチンの不安、感染の不安、専門医はどなたかになるのか
- ・視力の低下が著しい。顔の皮膚炎が治らない

③-2 困ったことがあった場合、誰に相談したか

○過去に困ったことがあったと答えた人に回答を求めた。誰かに相談したかについてたずねた結果は、表3-6及び図3-6のとおりである（複数回答）。

□「医師」が38.2%、「子ども」が35.3%、「配偶者」が23.5%となっている

□「相談する人はいない」は8.8%であった

表3-6 困ったときの相談の有無

親	配偶者	子ども	兄弟姉妹	祖父母	友人・知人	会社の上司・同僚	学校の先生	医師	
3	8	12	4	0	7	1	0	13	
8.8%	23.5%	35.3%	11.8%	0.0%	20.6%	2.9%	0.0%	38.2%	
看護師・保健師	公的機関の職員等	PMDAの保健福祉相談窓口	障害者の団体	障害者相談支援センター	地域包括支援センター	その他	相談する人はいない	回答なし	回答者数
6	4	2	3	3	4	9	3	16	34
17.6%	11.8%	5.9%	8.8%	8.8%	11.8%	26.5%	8.8%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

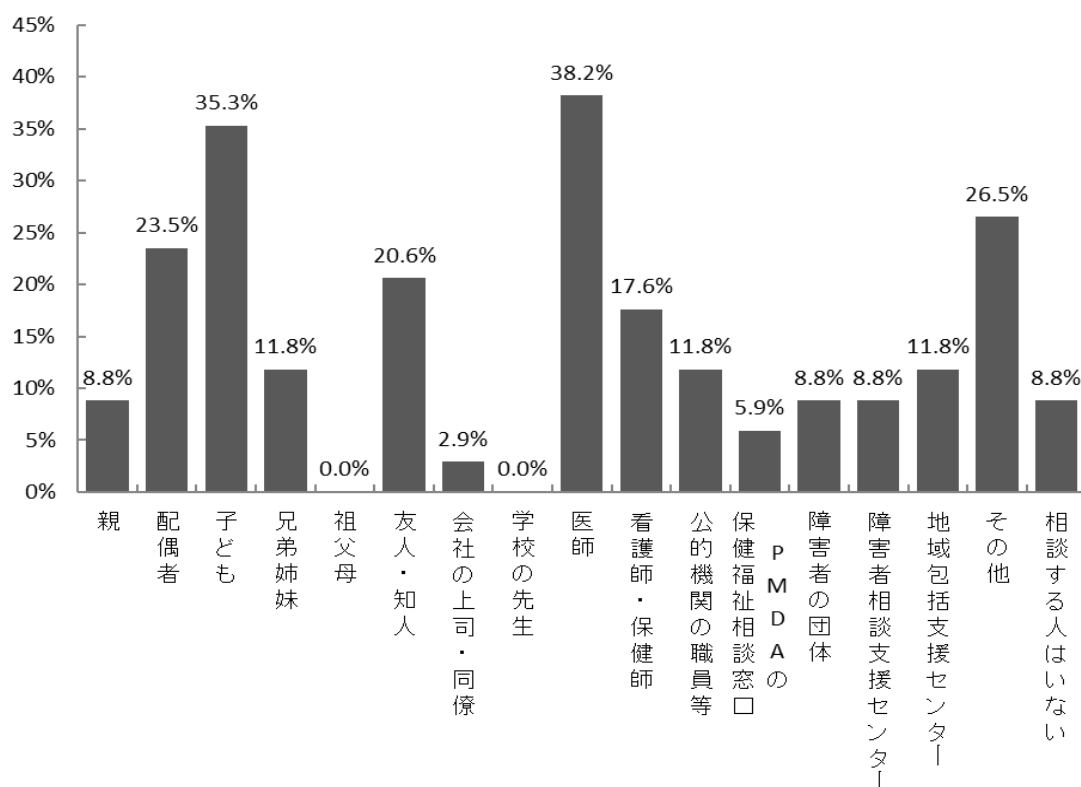


図3-6 困ったときの相談の有無

③-3 解決策の有無

○ 困ったことがあったとする人に、解決策の有無についてたずねた結果は、表 3-7 及び図 3-7 のとおりである。

□ 困ったことに対して解決したと回答した人は 21.9%、一方、解決していないと回答した人は 78.1%であった

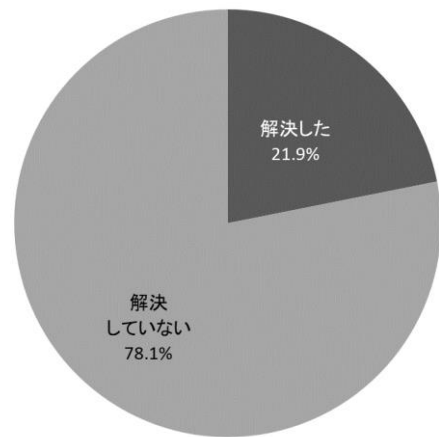


表 3-7 解決策の有無

解決した	解決していない	回答なし	合 計
7	25	18	32
21.9%	78.1%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

図 3-7 解決策の有無

③-4 解決策について

○③-3で「解決した」と回答した本人または介護者の困ったことと解決策の主な内容は、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

困ったこと	解 決 策
音声チックの音が大きいのと回数が増えた	直接的な解決はないが、気分は楽になる
コロナ感染の不安	SJS 自体が重症のアレルギー反応なのでコロナワクチンの副反応が心配
キッチン洗剤の移し替えで残ったものをコップに入れ、間違えて飲んでしまい、救急車で運ばれた。火傷、角で頭部や足をぶつける	1 日入院して治った
昨年後半から手根管症候群を発症し、痛みが激しく、結局今年になって手術をした。痛みは除かれたが痺れが残っている	家事等、嫁の来宅、ヘルパーの派遣等をしてもらい切り抜けた
一人暮らしなので、急な体調変化時、ヘルパーさんを頼むのが難しかった	身内の者やヘルパーの方に同伴してもらうことで解決できた
視力低下とそれに伴う日常生活への支障	サービス提供窓口の紹介

③-5 解決方法について

○③-3で「解決していない」と回答した本人または介護者に、どのような方法で解決できると思うか解決方法をたずねた。主な内容は以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

困ったこと	解 決 方 法
コロナウイルス、コロナワクチンの副反応	我慢する
視力の低下が著しい。顔の皮膚炎が治らない	全盲になってしまった今、ぼんやりでも良いから見えるようになればと思います
体調不良の悪化	with コロナが進み行動の制限が大幅に解除されないと難しい
消化器系の痛み	既存の公的地域福祉サービス制度内では同行ヘルパーでも居宅ヘルパーにも頼めないような事が多く、知人で信頼できるボランティアにしか頼めない事も多いが頻繁には頼めず、家庭内の財産管理やプライバシーサポートについての公的サービスの設置を強く望む
両親の入所入院介護等での同行ヘルパー利用頻度が急増し公費負担による支援時間を超えるほどになり切迫感を感じ自身も体調不良を感じる	視力の回復や、空気の良いところへの引っ越しなど
眼の状態が悪化、痛みかゆみなどの不快感。呼吸の苦しさが増した	コロナで専門医に受診できないため、専門医を見つけること
買い物の際、盲導犬が入れない店がある	盲導犬への理解を広める
視力低下とそれに伴う日常生活への支障	医療の進歩があれば

④ 日常生活の満足度

○過去1年間の日常生活における満足度についてたずねた結果は、表 3-8 及び図 3-8 のとおりである。

- 「満足」が 9.5%、「やや満足」が 40.5% となっている
- 「やや不満」を 16.7%、「不満」を 33.3% となっている

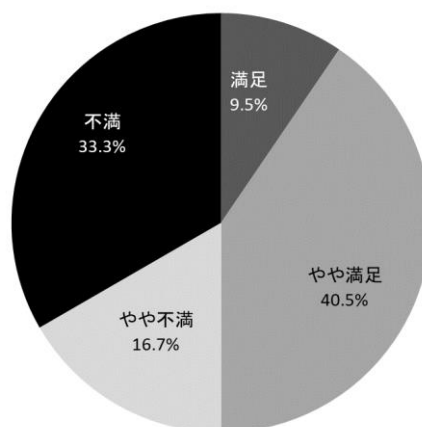


図 3-8 日常生活の満足度

表 3-8 日常生活の満足度

満足	やや満足	やや不満	不満	回答なし	合 計
4	17	7	14	12	42
9.5%	40.5%	16.7%	33.3%	—	100.0%

注：上段は人数、下段は割合

④-1 満足度の理由について

○④の回答に至った具体的な理由の満足度別の主な内容は、以下のとおりとなっている（自由記載、順不同、複数記載）。

1. 満足

- ・各サービス事業所が連携して日常生活を支えてもらっている
- ・楽しいことがたくさんあるから
- ・眼の調子も落ち着いており仕事もプライベートも楽しく過ごせているから

2. やや満足

- ・家の中ではある程度動ける
- ・人と話したり、ヨガをしたりすることができるようになったから
- ・周囲の人たちが積極的に協力してくれる
- ・現状維持
- ・自分のことはだいたい出来るので、あまり不便ではない
- ・制限がありながらも仕事も日常生活も戻りつつあるから
- ・健康上の問題はあったが、まあまあの生活が維持できた
- ・外出する際、周囲に対して不安感や不便を感じることもあるがその他は特に不便さを感じずに過ごせたため
- ・食に関して食べたいものを自由に食べる
- ・コロナで外出がままならないので、それがなければ満足。アクリル板が前にあり困る

3. やや不満

- ・視力が悪くて精神的に辛くなっている
- ・目が不自由なことに満足できないため
- ・コロナで人に会えなくなった。外出（セミナー含む）もできない
- ・コロナ禍で外出がままならない
- ・ADL の低下
- ・QOL、AOL が低い
- ・親と折り合いが悪い
- ・眼が痛くて寝たきりのような日も多いから
- ・コロナ禍で外出がままならない
- ・ADL の低下

4. 不満

- ・QOL、AOL が低い
- ・親と折り合いが悪い

- ・眼が痛くて寝たきりのような日も多いから
- ・見えないから
- ・視力の改善が見られない
- ・視力が悪く日常生活を送るのに思い通りにならないことが多々ある。いつも緊張し、神経を張り詰めている
- ・障害を持っている自分が家庭のキーパーソンにならざるを得ず、既存の公的福祉サービスに無理をさせたり、不正を考えなければならないほどに精神的に追い込まれ、人間関係信頼関係を悪化させている
- ・日々の体調が安定しない
- ・不平等と不公平（副作用救済制度、公的なコロナに対する事業給付金と情報不備）
- ・日々の体調が安定しない
- ・視覚障害

○ B票（社会活動を中心とした調査）及びC票（1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査）からみた生活状況の概要は以下のとおりである。

日常生活の満足度と外出の頻度(第4・四半期)との関係(人数)

	ほぼ毎日	週に4から5回	週に2から3回	月に2から3回	全く外出していない	回答なし	合計
満足	0	2	1	1	0	0	4
やや満足	3	5	1	7	1	0	17
やや不満	1	0	4	2	0	0	7
不満	4	4	0	5	1	0	14
回答なし	3	1	1	4	2	1	12
合計	11	12	7	19	4	1	54

日常生活の満足度と現在行っている社会参加・社会活動等(第4・四半期)との関係(人数)

	コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学	スポーツ教室、大会などへの参加	旅行・キャンプ・つりなどの活動	趣味の同好会活動	ボランティアなどの社会活動	障害者団体の活動	地域活動	パソコンを利用した社会参加	友達との遊び	その他	回答なし	合計
満足	3	0	0	2	0	1	1	1	1	0	1	9
やや満足	1	3	1	2	0	2	1	3	2	1	11	16
やや不満	0	1	0	0	1	1	0	1	0	1	4	5
不満	1	3	1	0	1	2	1	1	2	2	7	14
回答なし	1	1	1	2	0	1	0	1	1	2	7	10
合計	6	8	3	6	2	7	3	7	6	6	30	54

④ 日常生活を満足にするために一番やりたいことについて

○ 日常生活を満足にするために一番やりたいことについてたずねた結果は、表 3-9 及び図 3-9 のとおりである（複数回答）。

□ 「旅行・外出」が 53.5%、「コンサートや映画鑑賞、スポーツ観戦」「趣味」が 18.6%となっている

表 3-9 日常生活を満足にするために一番やりたいこと

コンサートや 映画鑑賞、 スポーツ観戦	旅行・外出	趣味	社会活動・ 団体活動	その他	回答なし	回答者数
8	23	8	2	7	11	43
18.6%	53.5%	18.6%	4.7%	16.3%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

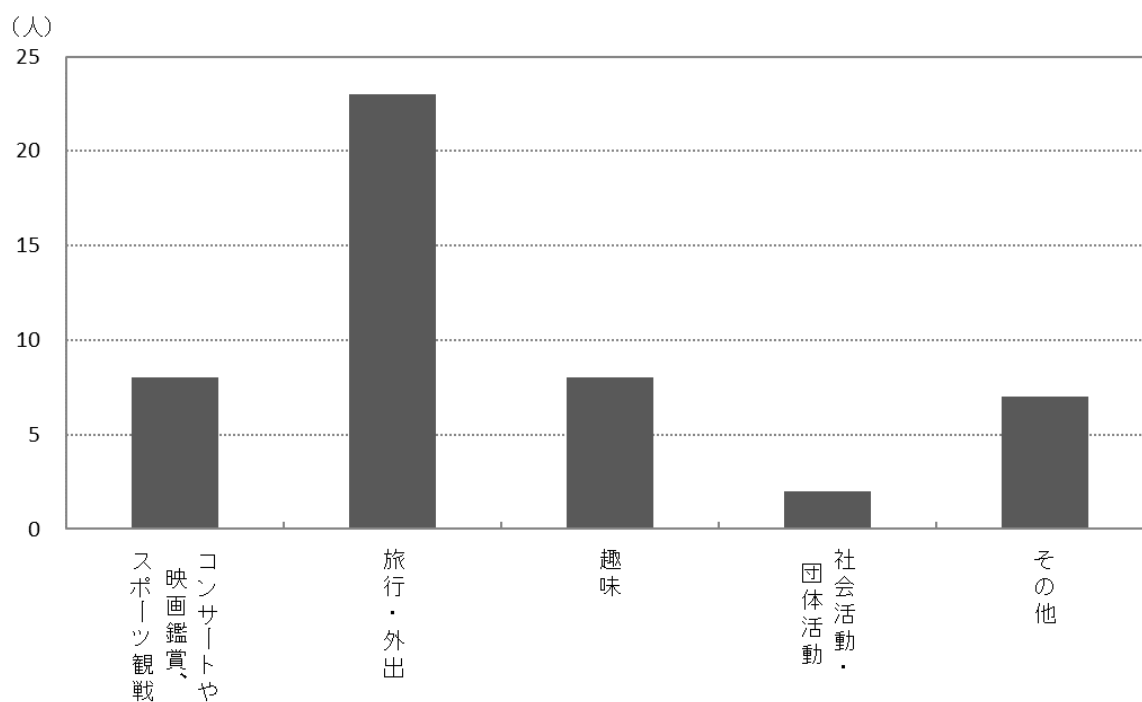


図 3-9 日常生活を満足にするために一番やりたいこと

○具体的な「その他」の主な内容は、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

◇食事、休暇、趣味

- ・旅行（遠くなくても）が趣味でしたが同行してもらるのが難しく出かけられないです
- ・家でゆっくりしている事
- ・セミナー受講
- ・家族と温泉に行きたい

◇その他

- ・外出する事にも勇気がいるため、少しずつ外出できるようになりたいと思う
- ・親と別居
- ・あまり人に頼らず自立した生活を送りたい
- ・世の中の制度や社会の不公平が少なくなるといいと思う
- ・上手くヘルパーを利用しきれていない。気の合うヘルパーが少ない。家族と温泉に行きたい
- ・視支援眼鏡の試用

⑤-1 実現可能性

○ 日常生活に満足するために一番やりたいことの実現可能性についてたずねた結果は、表 3-10 及び図 3-10 のとおりである。

□ 「出来ると思う」が 22.0%、「やや出来ると思う」が 29.3%となっている

□ 一方、「出来ないと思う」が 14.6%、「あまり出来ないと思う」が 34.1%となっている

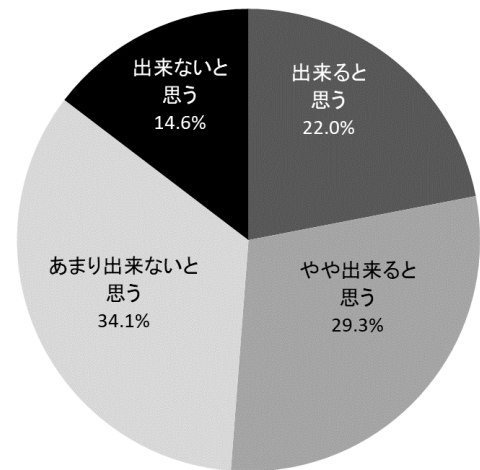


表 3-10 実現可能性

出来ると思う	やや出来ると思う	あまり出来ないと思う	出来ないと思う	回答なし	合 計
9	12	14	6	13	41
22.0%	29.3%	34.1%	14.6%	—	100.0%

図 3-10 実現可能性

注：上段は人数、下段は割合

⑤-2 実現可能性の理由について

○⑤-1 の日常生活に満足するために一番やりたいことの実現可能性及びその理由の主な具体的内容は、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

◇実現が可能な理由

- ・子供に相談して、音声器のある映画館が有るようなので行ってみたい
- ・少し体調が良くなってきたので
- ・趣味が生活の最優先だから
- ・県内から少しずつ外出出来ると思うよう、ポジティブに考える
- ・寝込むほど体調が悪くなる事がなかった
- ・移動する際の交通機関利用時にサポートしてくれる友人などの気を許せる人が同伴してくれれば実現できると思う
- ・子供達がイベントを考えてくれる
- ・点字を習っていて少しずつ読めるようになったから

◇実現が難しい理由

- ・コロナ禍で外出しにくい
- ・介護してくれる人のスケジュールと自分の都合がなかなか合わない。コロナ禍である
- ・旅行先でのトイレや転倒の心配
- ・体調と経済的な面
- ・ヘルパーが少ない、事業所が限られる等
- ・体力と視力の低下
- ・古い制度のきまりや古い考えがあると無理
- ・ADL の低下

⑥ 日常生活における工夫点

○ 日常の生活で工夫していることの主な具体的内容は、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・ 段差がわかりづらいので印をつけている
- ・ 家で段差のあるところは目印をつけておく。危ないので軽い食器を使うようにしている
- ・ ぶつかってケガをしない様にドアは必ず閉める様にしている
- ・ スイッチの場所を区別するための凸凹シールの貼り付け。液体の容量を図るためのボトル「さじかげん」の利用
- ・ 毎日がいっぱいいっぱい。相談員さんに相談しても解決策が見つからない
- ・ スマホ、動画配信サービスなどを利用して室内で楽しむ
- ・ 宅配の食事を利用した
- ・ 見え方を補うために iPad、iPhone を積極的に活用しています
- ・ 消費期限の古いものはシールなど目印をつける。入れ物（ケースごと）分ける
- ・ 柱、ドアにぶつかりけがをするので夏も長袖を着て手を保護する
- ・ 食に気をつけた。自然なもの
- ・ 日々、変化に合わせて工夫している為、たくさんありすぎて書けない
- ・ 工夫は色々としているつもりだ

⑦ 今後やってみたい余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動について（複数回答）

○健康被害者が今後やってみたい余

暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動の内容については、表 3-11 及び図 3-11 のとおりである（複数回答）。

□「旅行・キャンプ・つりなどの活動」が 57.8%、「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」が 48.9%「友達との遊び」が 46.7%、「趣味の同好会活動」「障害者団体の活動」が 24.4%となっている

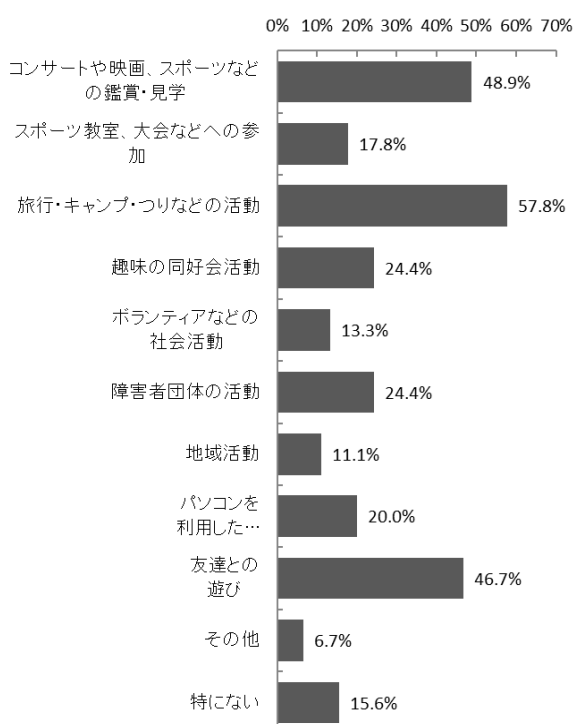


図 3-11 今後やってみたい活動等について

表 3-11 今後やってみたい活動等について

コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学	スポーツ教室、大会などへの参加	旅行・キャンプ・つりなどの活動	趣味の同好会活動	ボランティアなどの社会活動	障害者団体の活動	地域活動	パソコンを利用した社会参加	友達との遊び	その他	特にない	回答なし	回答者数
22	8	26	11	6	11	5	9	21	3	7	9	45
48.9%	17.8%	57.8%	24.4%	13.3%	24.4%	11.1%	20.0%	46.7%	6.7%	15.6%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

⑦ー1 今後やってみたい活動についての情報取得元（複数回答）

○健康被害者が今後やってみたい活動の情報について、どこから情報を得るかをたずねた結果は、表 3-12 及び図 3-12 のとおりである（複数回答）。

□「家族・友人」が 66.7%、「テレビ」「インターネット・情報サイト」が 52.8%、「ラジオ」が 36.1%となっている

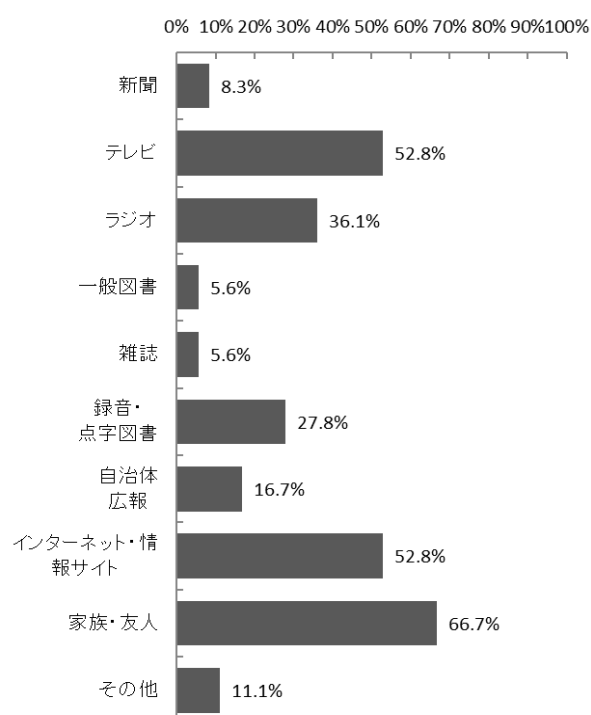


図 3-12 今後やってみたい活動等についての情報取得元

表 3-12 今後やってみたい活動等についての情報取得元

新聞	テレビ	ラジオ	一般図書	雑誌	録音・点字図書	自治体広報	インターネット・情報サイト	家族・友人	その他	回答なし	回答者数
3	19	13	2	2	10	6	19	24	4	2	36
8.3%	52.8%	36.1%	5.6%	5.6%	27.8%	16.7%	52.8%	66.7%	11.1%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

■ 福祉サービスについて

⑧ 必要な福祉サービスについて（複数回答）

○必要な福祉サービスについての主な具体的内容は、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

◇介護サービス（介助者関連）

- ・入院時にヘルパーさんなどと交代できるような支援（必ず付き添いがいるので）
- ・介護サービス、福祉サービスの利用で一人暮らしを送っている。今の現状のままで生活がしたい

◇制度の充実

- ・金融機関、各種手続きの際、ATMの利用相手側で代筆してもらえない時とても困ります。視覚障害者は介護タクシーを利用できない問題。どうしてなのでしょう。ヘルパーの人員不足
- ・親亡き後、暮らしていけるグループホームの支援者の人材不足が課題
- ・コロナのため、契約している事務所のショートステイが中止のまま。親が体調悪くなった場合、どうしたらよいか不安
- ・現時点での同行援護は仕事上での利用ができません。仕事での移動でも利用できるようにして頂きたい
- ・利用時間（支給量）が少ない。自己負担分がないようにしてもらいたい
- ・経済的に困難なため支援を希望します。これから更に障害年金だけの生活は困難なため
- ・サピエシステムは年2回くらい協力金を募っていますが、これらは国が負担すべきではないのか
- ・自営の仕事や通勤通学にも使えたらよいと思う（事故や事件が多いから）
- ・手当や日常生活用具の給付に地方差がある
- ・機能訓練の期間を1年半以上に延長してほしい

◇その他

- ・障害者総合支援及び、介護保険制度の福祉サービスの仕組みがしばしば変わり理解しにくい
- ・生活費の融資や給付金について知りたい
- ・福祉サービスを受けるために必要な書類が多すぎる
- ・既存の定年制の職業システムに留まらず、本人のやる気、能力、障害程度に応じた職業訓練システムを公共施設に設置すべき。現行の障害者総合支援法内の居宅サービス制度では制度上の制約やマンパワー不足により実現できず、すごく困っている
- ・何をするにも書類を提出しなければならないのが不便。急遽の予定に対応してもらえない

■ 必要な情報について

⑨ 必要な情報について（複数回答）

○ 現在必要な情報についてたずねた結果は、表 3-13 及び図 3-13 のとおりである（複数回答）。

□ 「医療」が 53.2%、「福祉サービス」が 51.1%、「年金」が 25.5%、「趣味・娯楽」が 23.4%となっている

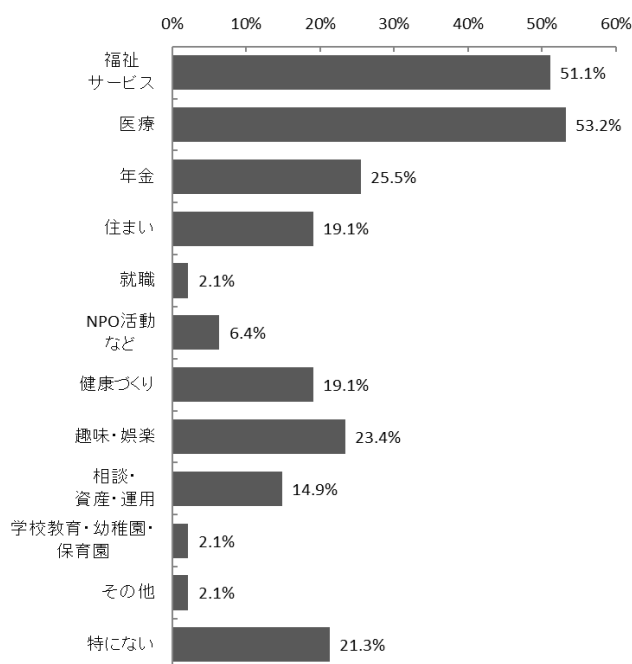


図 3-13 必要な情報について

表 3-13 必要な情報について

福祉サービス	医療	年金	住まい	就職	NPO活動など	健康づくり	趣味・娯楽	相談・資産・運用	学校教育・幼稚園・保育園	その他	特にない	回答なし	回答者数
24	25	12	9	1	3	9	11	7	1	1	10	7	47
51.1%	53.2%	25.5%	19.1%	2.1%	6.4%	19.1%	23.4%	14.9%	2.1%	2.1%	21.3%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

○ 具体的に知りたいことの主な内容は、以下のとおりである（自由記載、順不同、複数記載）。

- ・1人暮らしになったので先のことがわかりません。周りの人たちに助けてもらっていますが、不安で心細いです。ルーペを使って書いております。病気、けがをしない様に祈るばかりです
- ・視覚障害者（SJS 患者）がどのように日々生活しているのか。この冊子の記入、何とかならないでしょうか。個人的な内容が含まれるので、ヘルパーには頼みたくない。回答したくないとかではなく、他にメールでの回答等の方法はどうでしょうか
- ・老後の住まい、一人になった場合、視覚障害者の老人ホームに入れるのか
- ・先端医療について
- ・治療に関すること
- ・サービスがあっても人手不足が心配です
- ・定年後の働き方
- ・IPS の治療など最新の医学情報が知りたい
- ・どのような情報があるかわからない
- ・PMDA が発行しているカードとは何ですか。どこで発行しているのでしょうか。又、SJS とはスチーブン症候群の略語ですか
- ・就職については仕事に関して問題解決に向けて親身に相談にのってもらえる助言指示のできる人物の紹介。NPO 活動など法人を立ち上げ起業するしかない様にも思っており、資料集めのやり方について知りたい。個人の引きこもりや鬱、無理のないトレーニング食生活について
- ・サービス付高齢者住宅について
- ・症状が色々あるので、総合的に治療できる病院が地方にもあるのかどうかを知りたい
- ・SJS に関する再生医療の情報

⑨ー1 今必要な情報についての情報取得元（複数回答）

○今必要としている情報について、どこから情報を得るかをたずねた結果は、表 3ー14 及び図 3ー14 のとおりである（複数回答）。

- 「家族・友人」が 58.8%、「インターネット・情報サイト」が 55.9%、「テレビ」が 50.0%、「ラジオ」が 35.3%、「自治体広報」が 29.4%となっている
- その他としては「患者会」などをあげている

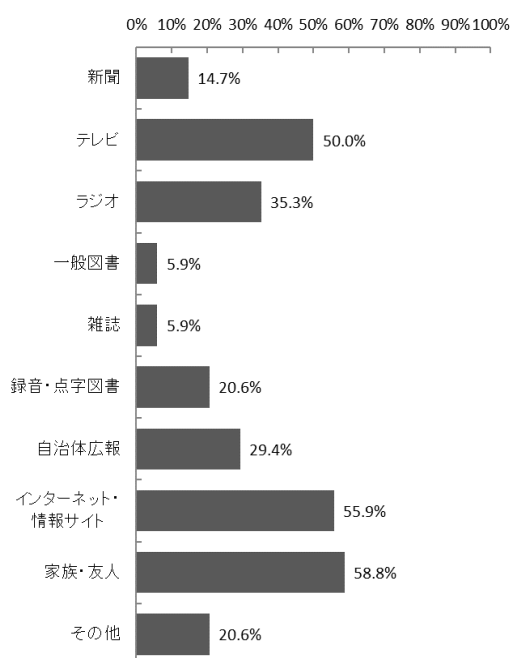


図 3ー14 必要な情報についての情報取得元

表 3ー14 必要な情報についての情報取得元

新聞	テレビ	ラジオ	一般図書	雑誌	録音・点字図書	自治体広報	インターネット・情報サイト	家族・友人	その他	回答なし	回答者数
5	17	12	2	2	7	10	19	20	7	3	34
14.7%	50.0%	35.3%	5.9%	5.9%	20.6%	29.4%	55.9%	58.8%	20.6%	—	—

注：上段は人数、下段は割合

Ⅲ む す び

むすび

本報告書は、平成17年度に実施した医薬品の副作用による健康被害実態調査の結果を踏まえ、障害者のための一般施策では必ずしも支援が十分でないと考えられる重篤かつ希少な健康被害者のQOLの向上策及び必要なサービス提供のあり方等を検討するための資料を得るため、令和3年4月1日から令和4年3月31日までの1年間に健康被害を受けられた方々の日常生活の様々な取り組み状況等を調査集計したものです。

日常生活の具体的な工夫事例等については、国際生活機能分類に基づいたライフサイクル（生活環境）ごとにとりまとめています。

今回を含め、16回に亘り調査を実施してきたところですが、本報告書では、医薬品の副作用による健康被害を受けられた調査研究対象者の方々における、日常生活の様々な工夫の実態が明らかとなっております。

その一方で、スティーヴンス・ジョンソン症候群（SJS）の方にあっては、視機能障害に対するケアが、ライ症候群の方にあっては、四肢機能改善、拘縮予防目的のリハビリのほか、全介助を必要とする場合は、介助を行うご家族の高齢化も懸念されており、患者家族の肉体的、精神的負担に対する医療的な介入が必要となっている状況が視えます。

これらの健康被害を受けられた調査研究対象者及び介助を行うご家族のQOL向上の実現のためには、日常生活における工夫だけではなく、更なる医療的な介入、肉体面・精神面でのケアも必要です。

今後もさらに、実態を把握するために、現在の調査項目については、継続して調査を実施することとしております。

IV 参 考 資 料

■ A 票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「2 現在、受けている①②以外の福祉サービス」

内 容	性別	年代
介護支援事業	女	80 代
緊急介護人制度	女	70 代
リハビリ（運動、トレーニング）	女	80 代
音訳サービス、文字サービス、在宅訪問による PC サポート	男	50 代
音訳サービス、文字サービス、在宅訪問による PC サポート、個人点検サービス、パソコンによるテキストデータ訳サービス	男	50 代
音訳サービス、在宅訪問による PC サポート、国民健康保険制度に基づく在宅訪問介護（2 週間に一度のアレルギー皮下注射のサポート）	男	50 代
サピエ、タクシーチケット	女	60 代
一部個人負担での福祉特別乗車券の支給広報等ボランティアグループに読んでもらう	女	50 代
福祉特別乗車券の支給、委託事業による生活訓練	女	50 代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■ A 票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「3 障害者総合支援法に基づく福祉サービスで①～④以外のサービス名」

内 容	性別	年代
居宅介護支援事業所	女	80 代
居宅介護	女	50 代
家事支援	男	50 代
回復リハビリ	女	80 代
居住サービス	女	60 代
デイジー図書	女	80 代
居宅支援、計画相談支援	男	50 代
居宅支援、家事支援、計画相談（1 回）	男	50 代
水回りの掃除、副菜 1 品調理	女	60 代
家事支援、朗読 CD 貸出	女	80 代
家事支援、散歩、散髪、お弁当配達	女	80 代
ホームヘルパー	女	50 代
通院等介助	男	70 代
お菓子教室、フラワー教室	女	70 代
代読、代筆、家事援助、生活支援	女	50 代
家事支援、粗大ごみ出し、買物	女	50 代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■ A 票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「4 介護保険制度に基づく福祉サービスで①～⑩以外のサービス名」

内 容	性別	年代
デイジー図書	女	80 代
移動支援ヘルパー、余暇活動、買い物などの付き添い	男	20 代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■B票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「②－２ 外出するうえで工夫したこと」

内 容	性別	年代
杖（体を支えられる）	女	70 代
杖を使用しているので日傘が持てず帽子をかぶる	女	70 代
コロナ禍のためタクシー	女	70 代
歩きやすく滑りにくい靴。飲み物持参（買うのが不便）マスク着用（以前から感染対策と呼吸器保護）白杖使うのでキャリーケースを使えないのは不便	女	50 代
タクシー、地下鉄、バス、車椅子の利用	男	80 代
LED ライトを点滅させている（夜間）	男	50 代
盲導犬同伴	女	70 代
施設の送迎	女	70 代
タクシー利用時は予約して、時間を伝えに来てもらっている	女	80 代
押し車	女	80 代
初めていく道や、食堂によっては段差があります。つまづかない様に、先に教えてあげています	女	70 代
父親の入居老人施設間移動時に従兄弟の車送迎を依頼。高速道路を使用する必要があり、事前に調べて、障害福祉課で高速道路料金の障害者同行時の割引手続きをしておいて費用負担的に助かった	男	50 代
ガイドヘルパーにいつも予め可否のアポ連絡・内諾を取っておく	男	50 代
眩しさや障害物から目の保護のために遮光メガネをかけて外出するようにしている	男	50 代
事前に子供に頼んでおく	女	60 代
携帯用アルコール、スマホ、飲み物を持つ	女	60 代
体が大きいのでおむつ交換が大変だがを二重にしたりして本人の移乗を減らしている	男	20 代
車の車内で流動食ができるようにしている	女	40 代
人出の少ない早朝に出かける（音声チックの声が大きいため）	男	20 代
ずれていくので車椅子に体を固定し結わえている	女	50 代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■B票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「③－2 社会参加・社会活動等のきっかけ」

（1. 家族、親類 2. 友人、知人等 3. 患者団体、同好会等 4. 情報誌や広告等 5. テレビ、ラジオ
6. インターネット 7. 自発的な活動 8. その他）

区分	内 容	性別	年代
1	家族と旅行	女	50 代
1	家族で外食。外に連れ出しています	女	80 代
2	友人からの誘い	男	50 代
3	地域の方から誘いを受けた	女	70 代
3	スチューブンス症候群になる前から参加していたので声がかかった	女	80 代
4	障害者団体主催の講演会やスポーツ教室のお知らせを見て	男	50 代
4	情報収集し、介助者が見つかった	男	50 代
7	定期的にライトハウスでゴールボールの練習をしている	男	30 代
7	リフレッシュ	男	50 代
7	運動不足ではかの病気にならないように	女	40 代
7	コロナ禍で外出が減り運動不足解消のため	男	50 代
7	体力・健康維持のため、スポーツセンターでトレーニングやウォーキングをしている	男	50 代
7	散歩、買い物	男	50 代
7	活動することによって生活のリズムを整えたかった。楽しむこと。	女	60 代
8	対面朗読が再開されたから	女	60 代
8	プレイクストークミニの給付によって読書を実現できる	女	60 代

注) 内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■B票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「④－2 屋内での生活における工夫」

内 容	性別	年代
物を減らし、歩きやすいよう見つけやすいようにした	女	70 代
室内の廊下等に照明をつけている	女	80 代
太陽光を入れる、照明をつけるなど、部屋は常に明るくしている	女	80 代
電気のスイッチがすぐわかるようにスポンジ等をつけている。ご飯の白がわかるようにお茶碗を黒いものに変えた	男	70 代
採光、照明の調節	女	50 代
スマホ、タブレットなど活用することが多くなった	女	40 代
全然見えなくなったので階段の手すりを右左につけた。玄関の外にもスロープと手すりをつけた	女	40 代
扉は開けておく	男	80 代
スマホのアプリを活用しカメラ機能でテキストを読ませたり拡大して物を見ている	男	50 代
AI スピーカーと家電リモコンアプリを活用してエアコンテレビの簡単に調節をしていたが最近は調子が悪く専用リモコンを使用している	男	50 代
全盲なので凸凹シールや音で場所がわかるようにしている	男	50 代
以前階段から転落し胸椎を骨折した為、それ以降は屋内ではほとんど素足で足裏の感覚で歩くようにしている	女	50 代
ガラス食器は使用後洗ったらすぐに元の場所に戻す	女	50 代
以前、家をリフォームしてバリアフリーにした以来は特に変わらず生活できている	男	20 代
寝たきりなので、できるだけ車いすに乗せる様に心掛けている	女	40 代
DVD、音楽を聴くなど、楽しめるものを身のまわりに置いて気分を安定させた	男	20 代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■B票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑤－5 視力以外の状況」

内 容	性別	年代
目の周りがかぶれる 聞き返すことが多くなった 目ヤニで目が開かない	女	70 代
眼痛、頭痛 頻脈	女	70 代
爪がないため指先の感覚もあまりなく力も入らない。食道が細くなったのか食べ物を飲み込みづらくなったり、詰まったりする	男	60 代
SJS になってから舌や校内の粘膜、食道や胃の粘膜がなくなったため、常に痛くしみて薬は欠かせません	女	80 代
唾が出ない。舌が常にただれている。アズノール薬	女	80 代
年齢も高齢になり日常生活も 1 人で暮らしているので常に明日の事が心配です。今現在、支援も一つの助けと考えて利用しています	女	80 代
角膜の角化がすごい	女	80 代
呼吸器（のど）が不安です	女	80 代
眼球とまぶたの癒着	女	80 代
婦人科の方も粘膜が弱いです	女	70 代
結膜の癒着	男	30 代
慢性鼓膜炎、外耳炎、音がこもる、眩暈 まぶた（縁）の角化、まばたきで眼球に傷がつく 口腔粘膜一部癒着、歯肉が落ち知覚過敏がひどい 膣委縮（粘膜癒着）肛門粘膜、骨密度減少（皮膚におけるビタミン D 生成機能低下とのこと） 血糖値が高い	女	50 代
パニック障害	男	60 代
便秘	男	80 代
高脂血症	女	70 代
強い頭痛、起き上がれないほどの倦怠感、関節痛 化学物質過敏症	女	50 代
少しだけテレビの音が聞こえにくい時がある 口腔粘膜に炎症があり熱いもの辛いものがしみる 視力状態が悪く、生活がしづらく苛立つことがある	女	80 代
脳梗塞の後遺症による嚥下障害 聞こえるが理解できないことがある 脳梗塞の予防薬（バイアスピリン 100m g、イコサペント酸エチル 300m g）	女	70 代
歳とともに唾液の分泌が少なくなってきた 便秘、腰痛	女	80 代
耳鳴り、めまい 眼神経炎	女	60 代
栄養不良 食事量が少ないためカルシウム、ナトリウム、亜鉛なども少なくなり、食 べるが大変です	女	80 代

3月に転倒して、また少し歩くのが大変になった	女	80代
耳鳴り、めまい	男	60代
指の爪の生え際のいぼ、皮膚科で液体窒素治療 6年前に急性虫垂炎による腹膜炎（腹腔内膿瘍）開腹手術の既往 相手の話が聞き取れないことが多いが、耳鼻科では中重度難聴の診断しか 下りず補聴器使用時の公的支援を受けられない 眼瞼の内反症により眉間がよく切れたり荒れたりしているので、ステロイ ド軟膏を塗ることがあり眼内に入らない様に気を付ける 歯周病治療中、唇のできもの 医師の診断はないが、対人関係で疎外感を感じることがあり、人と会うの が辛いことも多くなっている 坐骨神経痛が長年にわたり有るので時々、整形外科でのリハビリ中 PTSD 症状（毎月1回専門心療内科受診時のカウンセリング、抗うつ剤内 服） 腰痛、坐骨神経痛治療、PTSDの後遺症からくる左手関節の捻挫が痛むこ とがあり、湿布や補装具などで固定するなどしている アトピー性皮膚炎 両眼の縁辺りのまぶたが点眼液などで荒れやすい 乾燥などによる眼球癒着、内反症	男	50代
反応が悪くなってきた（聴覚） 唾液が出ない 癒着で目が開かない	男	80代
結膜の炎症、角膜混濁の悪化 アフタ性潰瘍 片頭痛、てんかん	男	50代
骨粗しょう症、貧血症 結膜炎、癒着 運動不足、脳梗塞の後遺症（軽度） 喉のひりひり感が常にある 眼が痛いと言や体まで痛い 副腎に異常あり、貧血 手足の指先の硬化 咽頭部の炎症、声がれ 泌尿器の炎症 運動不足、関節痛 喉の異常感	女	60代
昨年9月から顔に湿疹ができ、ステロイド系の軟膏でよくはなるが繰り返 す。目じりのかぶれた状態も続いており、原因を探すためパッチテストを している。目じりのかぶれは10か月以上改善されず、その後あざになっ て残るかどうかわからない不安 顔に湿疹ができ、その後あざになり、ドクターより治らないと告げられシ ョックを受けている。とても目立つので気になる 口角炎	女	60代
口唇ヘルペス 側弯形成不全	女	50代
緑内障、高眼圧症、角膜白濁	女	50代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■B票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑥－1 主たる介助者の健康状態 詳細」

（1. たいへん良好 2. まあ良好 3. やや悪い 4. たいへん悪い）

区分	内 容	性別	年代
1	自分自身で体調管理をしている	男	80代
1	食事、睡眠をしっかりとする	男	80代
1	特に病気もなく良好	女	80代
1	沢山の協力者理解者に恵まれている為	男	50代
1	若く持病がないため	女	50代
1	皆若いので元気ですが、コロナの予防接種では熱を出し大変でした	女	50代
2	皆が助けてくれるから	女	70代
2	出来ることはしてもらいが、手伝うのが当然と思っている	女	70代
2	悪いというほどでもないと思う	女	70代
2	介護を必要としない	女	60代
2	コロナが少し落ち着き実家に久しぶりに（2年ぶり）帰ることができました	男	30代
2	食事、運動、休養に気を付けている。コロナでストレスがあったのか1回熱を出して寝込んでしまった。その後精神面にも気をつけて生活する様にしている	女	40代
2	気を付けているので	女	40代
2	介護の負担はあまり感じていない	男	60代
2	介護の負担はあまり感じていないが将来のことが不安になる事がある	男	60代
2	定期検診を受けている	男	80代
2	腰ひざ等痛みはあるが、日常生活の大きな障害はない	女	70代
2	食欲も適度で生活も変わりなし	女	80代
2	食事と運動に気を付けている	女	70代
2	沢山の協力者理解者に恵まれている為	男	50代
2	仕事での疲労	女	50代
2	ヘルパーさんに託せる時間も人も増えてきたので、自分ひとりで全てを見る状態が少なくなった為	男	20代
2	加齢による体力の衰え	女	40代
2	娘が安定した生活をしてきているので自分も活力がわいてくる	女	20代
2	寝込むことはなかった	女	20代
3	主人の付き添いで病院に長時間いる	男	70代
3	高齢	男	90代
3	天疱瘡診断 2020年9月～に対してステロイドパルス療法が続いている	男	70代
3	コロナに気を付けているつもりですが不安が色々つきません。夜よく眠れません	女	70代
3	コロナ禍、精神的に重く、何とか生活している感じです	男	30代

3	コロナの収束が見通せず心配が絶えません。3回目ワクチンも副反応あり、これから先続くと思うと心配です。蔓延防止が続き地域活動ができない状態でした	男	30代
3	仕事が忙しい	男	30代
3	介助者がいないので負担が増えた。でもしごとは増えて時間も余裕もない	男	40代
3	11月末膀胱がんが判明して入院手術をした	女	70代
3	前立腺、膀胱に出血があり手術したので術後の体調がすっきりしなかった	女	70代
3	ストレス	男	70代
3	コロナ禍でマスク着用、言葉で生活が成り立っているのに互いに聞き取りづらくストレス。アルコール消毒使用による皮膚炎	男	70代
3	付き添っている時間が増え、気が休まる暇がなく、体調が悪い	男	70代
3	毎日の母と父の介護の関わりで精神的にもいっぱいです	女	80代
3	常に介護が必要なため	女	70代
3	自身も障害があり悪化している	男	50代
3	介護負担増による疲労蓄積	男	50代
3	更年期にかかり、心身ともにしんどい時期です	男	20代
4	足腰悪く、歩くのがつらい	男	70代
4	体調がよくない	男	70代
4	眼も見えにくく、足腰も大変悪く、医者にも通っている	男	70代
4	間質性肺炎で呼吸が苦しい。まだ酸素ボンベまでいかない。緊急時にボタンを押すと電話につながり、病院にも連絡できる。	女	70代
4	介護疲れ	女	50代
4	妻の介護と仕事の両立が大変	女	50代
4	足の調子が悪い為	女	80代
4	お互いに聞き取れなくてコミュニケーションが取れずストレスです	女	80代
4	介助者本人も耳と足が悪く、娘が行っていない間が大変	女	80代
4	常に介護が必要なため	男	80代
4	夫の入院手術施設入所などの介護疲れや本人の心筋梗塞、脊椎圧迫骨折症状、円背による食欲不振、体力低下、ストレス。多忙のため休養を取りつつもかなり疲労している	男	50代
4	今年の9月に股関節の骨折、手術リハビリを続けてきた夫が終末期を過ごすための遠方の老人ホーム入所し、その際の荷作り作業の過労などで腰椎部の圧迫骨折を起こした事による激痛があった	男	50代
4	体調がよくない	男	80代
4	視覚障害の進行	男	50代
4	母の老化	女	50代

注) 内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■B票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑦－1 介護をしていく中で、困ったこと」

- （１．精神面に関するもの　２．肉体面に関するもの　３．生活面に関するもの　４．経済面に関するもの
５．その他）

区分	内 容	性別	年代
1	コロナで病院以外は出かけることが少なくなり、家の中ばかりでストレスもたまり、気分が晴れない気がする	男	60代
1	コロナで病院以外は出かけることがなくなり、楽しみがない気がする	男	60代
1	時々精神的に不安定になることがある	女	70代
1	イライラすることが多くなった	女	70代
1	話を聞いてくれない	女	80代
1	心も時間も余裕なくなり疲労困憊	男	50代
1	親本人自身の管理状態が大変なうえに子供の面倒もみていくのに不安を感じるようになってきた	男	20代
1	当事者も親も互いに歳をとり、共に主張することが増えて、ぶつかることも多くなった。	男	20代
2	一緒に暮らしていないので毎日のコンタクトレンズ交換に行くのが大変	女	70代
2	母の視力の低下が進んでいるようで外出が減っている	女	80代
2	歩行困難（ふらつく、歩みが遅い）	女	70代
2	身体がだんだん悪くなる	女	70代
2	体調が今一つ良くない時に、いつも通りのサポートが出来なかった	女	70代
2	視力の改善が見られない	女	70代
2	全く見えなくなってしまったこと	男	80代
2	介護者自身の障害の悪化により出来ることが減った	男	50代
2	母の老化	女	50代
2	加齢による体力の衰え	女	40代
3	買い物など送迎が必要な時、必ずできるとは限らない	女	70代
3	今年4月に某病院にて羊膜移植してから視力が前より悪くなり、世話をする回数が増え大変だ	女	80代
3	健康被害者の目が見えにくくなっていき、サポートしなくてはいけないことが増えた	男	40代
3	主として介護をするようになったため	女	70代
3	感染予防に気を付ける作業が増えたので	男	70代
3	料理を作ること	女	70代
3	毎日、色々な事で急に電話があり、行かないといけないことが多い	女	80代
3	母が体調がしんどいと言うことが増えて、月に何度か行かなければならなくなりました	女	80代
3	本人が自分のことをしなくなったので、周りがしなければならなくなることが増えた	女	80代

3	夫の介護施設入所でプライベートの時間を確保し様子を見ていた最中、4月6日に突発的に体調悪化し救急を受診した	男	50代
3	夫が認知的身体的に自立能力が低下し、家事介護家計などに追われ多忙。遺産相続問題なども発生し、疲労が蓄積	男	50代
3	コロナ禍で感染対策に相当気を遣った	男	20代
4	介護にかかる金銭面がきびしい	女	50代
4	夫が在宅期間、多方面での直接介助や人間関係の悪化、腰椎圧迫骨折による激痛により10月後半から12月後半まで2か月間リハビリ入院、費用負担も増えた	男	50代
5	何もかも手助けが多くなった	男	70代
5	様々に介護の再検討を重ねた。できることをやる。できないことを捨てる。	女	70代
5	66日間の入院に際してどちらが介護者であるかわからない状況下におかれた	女	70代
5	入院手術があったため	女	70代
5	急な用事の際、すぐに変わりの介護者が見つからなかった	女	70代
5	常に介護が必要なため	男	80代
5	代りがいないこと	男	80代

注) 内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■B票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑦－４ 介護をしていく中で困ったことの解決方法」

内 容	性別	年代
夫に代わってもらった	女	70 代
地域の高齢者支援センターのケアマネージャーと介護士に相談をし、本人へ負担が余りかからないようにしました。	女	80 代
介護者（娘）自身の生活もあり、親の私を常に介護となると負担が大きくなり大変だと思う	女	80 代
上司に相談し解決している	男	80 代
看護師、上司に相談にのってもらった	男	80 代
夫が入院中は障害者本人の生活のサポートにつきスケジュール化できた。ケアマネが介護保険の中での手配等	女	70 代
子供達に相談し、サポート不足を補う。ケアマネに相談し介護保険で短時間ながらヘルパーを派遣してもらった	女	70 代
相談内容としては特にない。健康状況を告げているのみ	女	80 代
公的制度	女	80 代
身内の者に頼んだり、公的な介護制度を利用した	女	70 代
遺産相続問題は知人や親せきのアドバイス、行政書士にも事情を聴き必要手続きができた。夫の老人ホーム入居も公的支援の連携、尽力により夫の収入内での利用料支払いの目処がたった	男	50 代
以前から痛めていた胸椎圧迫骨折に加えての腰椎圧迫骨折による激痛や体幹部の筋力低下でふらつき症状があったので、約 2 か月間リハビリ病院で入院、集中的に歩行訓練、心理ケア、休息による骨折部の治癒が図れたので、痛みの軽減、日常生活を送るための筋力アップができた。	男	50 代
とりあえずストレス、不安、不満を人に話していく	男	50 代
特に何も考えない。気にしない	女	50 代
皆さんも同じ思いをされてると共感しあえたので、少し気分が落ち着きました。	男	20 代
話せる人が居ると気分的に助かる	男	20 代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■B票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑦－5 介護をしていく中で困ったことの解決すると考えられる方法」

内 容	性別	年代
他にコンタクトレンズを交換してあげる人が必要	女	70 代
コロナが落ち着けばみんなの行動も変わると思う	男	60 代
コロナが収まり、治療薬ができればいいかなあと思う	男	60 代
コロナの収束	女	60 代
視力改善、同居する	女	80 代
診断 9 か月、月一回通院中	女	70 代
高齢化が進むので（双方 70 代）挑戦する意思を持つ	女	70 代
視力の回復	男	70 代
わからない	男	40 代
まだ何とか大丈夫です	女	70 代
良くなる病気ではないから、娘に手伝ってもらっているようにしている	女	70 代
新たなサービスを入れる	女	70 代
わからない	女	50 代
お金をかける	女	70 代
刺激しないようにすること	女	70 代
技術の進歩	女	70 代
解決はしていないが何とか毎日クリアしている	女	80 代
家族資産である賃貸住宅をリフォーム売却するかしないと経済的工面方法がないので、健康被害者が実家に戻る形で同居する予定	男	50 代
副作用被害者の視力の回復。経済的にも無理があるため出来ることが少ない	男	50 代
治療法がないので不安。副作用被害者の視力の回復。経済的にも不安	男	50 代
副作用被害者の視力の回復により介護者の負担も減る	男	50 代
国の定めた法を検討し直し、主人も該当出来ればありがたい	男	50 代
訪問リハビリ等々の充実など	女	40 代
気持ち的には楽になったが建設的な解決には程遠い。福祉の仕事をする若い方がいないので、今支援して下さっている方も親とともに年齢を重ねていくので、先の不安がある	男	20 代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■B票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑧－1 主たる介護者を支えるようなもの」

（1. 家族 2. 知人・友人 3. ヘルパー・ボランティア 4. 患者会 5. 公的な機関・制度
6. 趣味・外出など 7. その他）

区分	内 容	性別	年代
1	家族に相談	女	70 代
1	夫に依頼	女	70 代
1	程度問題であるが夫婦が視力（弱視、老眼）に恵まれている	女	70 代
1	幸いにして闘病 28 年間本人の意欲的な生活態度	女	70 代
1	子供達に相談し、サポート不足を補う。ケアマネに相談し介護保険で短時間ながらヘルパーを派遣してもらった	女	70 代
1	家族	男	70 代
1	娘達が愚痴を聞いてくれる	男	70 代
1	子供が代わりに行ってくれている	女	80 代
1	父、娘、孫と交代で見守っています。	女	80 代
1	一部の親戚や担当ケアマネージャー、息子などからそれぞれの問題解決時のアドバイス、支援があった	男	50 代
1	普段受診している整形外科主治医による配慮のおかげで入院時集中的に日常生活上、最低限必要な筋力回復指導を受けられた。退院後もケアマネージャー、ホームヘルパー派遣、訪問リハビリ訓練継続、自宅内の転倒防止対策も介護保険や医療保険利用をしている	男	50 代
1	副作用被害者の生きて頑張っている姿	男	50 代
1	長女の結婚が決まったこと	女	50 代
1.2	友人、親族	女	70 代
2	友人とのおしゃべり	男	60 代
2	友人との交流	女	70 代
2	知人などが代わりに行ってくれた	女	80 代
2	友人、知人に恵まれている	男	50 代
2	友人との食事	女	40 代
2	友達と愚痴を言い合い解決できた	女	20 代
2.3	ヘルパーさん、友人	女	20 代
2	4 月より勤務している職場の人間関係が楽しく、おしゃべりやリモート飲み会をしていると聞いています	女	50 代
2	友人との談話	女	50 代
3	要介護支援 2 になりヘルパーさんに家の中の掃除等していただいている	女	80 代
3	ケアマネージャー、緊急連絡ボタンで少し安心できるようになった	女	70 代
3	介護保険でのヘルパー手配	女	70 代
3	ホームヘルパーさん、デイの職員の方々	男	20 代
4	患者の会で病院や介護施設の情報交換をした	女	70 代
4	気持ちの上で楽になるのは、当事者を持つ親同士の会話	男	20 代

5	障害者支援法、介護保険制度、某区の緊急介護人制度等の組み合わせで日常生活は円滑に進んでいる。コロナで出歩かないので自分で対応出来るも事多い。	女	70代
5	公的制度による恩恵を受けているので負担は少なくなっていると思う	女	70代
5	支援制度	女	80代
5	介護支援、援助	女	80代
5	公的サービス（ヘルパー派遣）	女	80代
5	公的制度	女	50代
6	趣味	女	50代
7	老々介護の厳しさ	女	70代
7	各サービス事業所病院等の情報交換	男	80代
7	上司からの助言	男	80代
7	仕事を持っていることが支えです	男	80代

注) 内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■B票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑨－２ 介護者の社会参加・社会活動等のきっかけ」

（１．家族 ２．知人・友人等 ３．患者団体、同好会等 ４．情報誌や広告等 ５．テレビ、ラジオ
６．インターネット ７．自発的な活動 ８．その他）

区分	内 容	性別	年代
1	親子でカーブスに10年ぐらい行っている（週2回程度）	女	40代
1	家族と旅行	女	50代
1	母の趣味に影響されて	女	50代
2	友人からの紹介	女	70代
3	コロナで中止されていた卓球を楽しむ会が再開	男	30代
7	以前から継続して行っている	女	70代
7	交流のため	女	80代
7	自分で見つけた	女	80代
7	コロナ禍で思うように外出が出来ないので家庭菜園を楽しむ （今年は雨が多く少し残念）	女	40代
7	以前から趣味（音楽）で活動していた	男	70代
7	若いころ生け花を習っていたので教室に行きました	男	30代
7	健康のため10年ぐらい続けている	女	40代
7	体力維持、ストレス解消のため	男	60代
7	老後の生活をエンジョイしたいから	女	70代
7	特にきっかけはない。今までの生活スタイル	女	80代
7	体力を保つため	女	70代
7	健康のため	女	70代
7	体力づくりとリフレッシュ	女	70代
7	元々ライブに行くのが好きだから	女	50代
8	長年行っている	女	70代
8	文字教室	女	70代
8	リフレッシュ	男	50代
8	健康の回復状況を見ながら活動再開した	女	70代
8	散歩、買い物	男	50代
8	オリンピックトーチランナーに（被害者が応募当選）なり1人 50mづつであったが良い思い出になったと喜んでいます。	女	50代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■B票（福祉サービスの利用状況についての調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑩－1 介護をしていく中で、新しい発見や気分転換などがはかれたこと」

- （１．コンサートや映画等の観賞やスポーツ観戦 ２．旅行、外出 ３．趣味 ４．患者団体等の活動
５．地域活動 ６．その他）

区分	内 容	性別	年代
2	よく一緒に旅行をしたり食事に行きおしゃべりを沢山する	女	70代
2	たまに近くの温泉に出かける	女	40代
2	副作用被害者の笑顔や一緒に外出散歩	男	50代
2	散歩	男	50代
2	一緒に出掛ける時間を作ることができること	女	50代
3	花を見たり、音楽鑑賞、テレビを見ることで気分転換につながった	男	80代
3	散歩で公園を通るときに季節ごとの草花を見て季節を感じることが気分転換になっている	女	70代
3	コロナ禍で制約があるが散歩、買い物をする	男	50代
6	老夫婦の支えあい	女	70代
6	新しい発見はこれと言っていないが、常にどれも気分転換になる	女	70代
6	友人たちとゴルフをしたり、談笑しているとき	女	70代
6	友達達とおしゃべりや運動をする	女	70代
6	友人との食事	女	40代
6	伯母の生活状態が以前よりわかるようになった	女	80代
6	料理がうまくなった	女	70代
6	入院前は体調不良のため在宅生活の継続が困難で前向きな心境になれなかったが、リハビリ入院、退院後の親戚宅での静養の気遣いがあり、体力回復してきた。	男	50代
6	友人たちと会うことで気分転換でき助けてもらった	男	50代
6	健康被害者からの感謝の言葉	男	50代
6	親（健康被害者）が人を頼らず（買い物以外）なんでも一人でするように安心です	女	50代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■ C票（1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「②－1 通院時に注意している点」

内 容	性別	年代
特に呼吸器や胃腸の具合が悪く通院が多く、子供かヘルパーに同行支援頼む	女	80 代
タクシーを利用している	女	70 代
以前は私一人で通院していたが、先のことを考え、私と同行ヘルパーさんからヘルパーさんと本人で通院するように移行しているところです	男	20 代
電車利用の時は駅員の誘導サポートを依頼することもある	男	50 代
妻の運転で通院同行する	男	80 代
盲導犬を利用している	女	60 代

注) 内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■ C票（1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「②－2 治療を受けるときに注意している点」

内 容	性別	年代
飲んではいけない薬を必ず伝える	女	70代
複数科を受診するため各担当医師の間で情報共有と治療方針の統一をお願い、確認している	男	50代
娘に任せてます	女	80代
良く知ってくださっている病院に行く	男	80代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■ C票（1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「②－3 治療を受けるときに困ったこと」

内 容	性別	年代
SJS について軽く見ている医師もいる	女	70 代
常に薬剤の処方について言われる	女	80 代
手術や治療を断られる	男	30 代
SJS の既往を聞いて診療（対応）できないといわれたことがある。投薬に慎重になりすぎる医師も感じられる。ワクチン接種の際、かなりリスクの説明をされて、もちろん決めるのは自分自身だが何が起きても対応できるかわからないなどと言われ決断を躊躇した	女	50 代
手の手術に際し、SJS の原因と推定される各種の鎮痛剤にアレルギー反応があり、医師が痛み止めを処方できない	女	70 代
何に反応するかがわからない	女	80 代
体力的に病院へ行くのが大変	女	80 代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■ C票（1 年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「②－4 その他注意している点」

内 容	性別	年代
以前より SJS を知っている医師、薬剤師は増えたと思います。	女	50 代
コロナワクチンを受けられない為、交通機関を利用するときは特に気を付けて手袋などをして出かける	女	40 代
今まで服用したことがない薬が処方される場合はその薬の副作用などを質問する	男	70 代
常に目薬を付ける必要がある	女	70 代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■ C票（1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「③－1 過去にあった困ったこと」

（1. 外出に関すること 2. 仕事に関すること 3. 日常生活に関すること 4. その他）

区分	内 容	性別	年代
1	コロナの影響でイベントが中止になったり、仕事が自宅待機になったりと行動の制限があった	男	50代
1	買い物や散歩などで外出する際に介助者が必要なこと	女	70代
1	買い物の際、盲導犬が入れない店がある	女	60代
3	眼があきづらく白っぽく見える	女	70代
3	キッチン洗剤の移し替えて残ったものをコップに入れ、間違えて飲んでしまい、救急車で運ばれた。火傷、角で頭部や足をぶつける	女	70代
3	症状が安定しない	女	60代
3	高齢の両親と自分自身の日常生活	女	50代
3	音声チックの音が大きいのと回数が増えた	男	20代
3	歳をかさねるごとに記憶力も衰え、勘も鈍り、家の中でも方向がわからなくなる事が多くなった。物（家具）にぶつかったりする	男	70代
3	歳をかさねるごとに記憶力も衰え、勘も鈍り、家の中	男	60代
3	常に介護、介助が必要なため	男	80代
3	日常生活全般において	男	50代
3	視力低下とそれに伴う日常生活への支障	女	50代
4	昨年、父親が亡くなり、色々と忙しかったため、体も心も疲れている	男	60代
4	一年前、羊膜移植手術を受けましたがまぶたが下がり視力もかなり落ち、先生は目の中に血管が入りだんだん見えなくなるとの事で心配です	女	80代
4	12月20日主人が亡くなりました	女	70代
4	肺移植手術後、全身の筋力低下で一時は寝たきりに。現在もりハビリ中。悪性リンパ腫の発症	男	50代
4	痙攣が多くなってきた	女	40代
4	昨年後半から手根管症候群を発症し、痛みが激しく、結局今年になって手術をした。痛みは除かれたが痺れが残っている	女	70代
4	コロナ感染の不安	女	50代
4	視力の回復が見られず、イライラすることが多くなった	女	70代
4	一人暮らしなので、急な体調変化時、ヘルパーさんを頼むのが難しかった	女	80代
4	消化器系の痛み	女	60代
4	身体が思うように動かない	女	80代
4	両親の入所入院介護等での同行ヘルパー利用頻度が急増し公費負担による支援時間を超えるほどになり切迫感を感じ自身も体調不良を感じる	男	50代

4	眼の状態が悪化、痛みかゆみなどの不快感。呼吸の苦しさが増した	男	50 代
4	コロナワクチンの不安、感染の不安、専門医はどなたかになるのか。	女	60 代
4	視力の低下が著しい。顔の皮膚炎が治らない。	女	60 代
4	コロナウイルス、コロナワクチンの副反応	女	50 代

注) 内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■ C票（1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「③－4 解決策（解決した方）」

（1. 心身機能 2. 身体構造 3. 活動 4. 参加 5. 環境因子 6. その他）

区分	内 容	性別	年代
1	直接的な解決はないが、気分は楽になる	男	20 代
1	SJS 自体が重症のアレルギー反応なのでコロナワクチンの副反応が心配	女	50 代
2	1 日入院して治った	女	70 代
3	カウンセリングを受けた	女	70 代
5	家事等、嫁の来宅、ヘルパーの派遣等をしてもらい切り抜けた	女	70 代
5	身内の者やヘルパーの方に同伴してもらうことで解決できた	女	70 代
6	どんなことでもすぐ対応している	男	80 代
6	ヘルパーさんに同伴していただいた	女	80 代
6	アプリの使い方を教わりました（iPad）	男	60 代
6	サービス提供窓口の紹介	女	50 代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■ C票（1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「③－5 解決策（解決していない方）」

（1. 心身機能 2. 身体構造 3. 活動 4. 参加 5. 環境因子 6. その他）

区分	内 容	性別	年代
1	自分で注意するしかない	女	70 代
1	わからない	女	40 代
1	我慢する	女	50 代
2	年々状態が悪くなっていくので無理だと思います	女	70 代
2	体重が増減なくそのままの状態なのでもう少し減らしたい	男	20 代
2	全盲になってしまった今、ぼんやりでも良いから見えるようになればと思います	男	70 代
2	視力の回復	女	70 代
5	施設入所しかないのか。自分は一人暮らしを望むけれど、親をどうするか。入所対象ではないし、本人たちもあまり希望していない	女	50 代
5	with コロナが進み行動の制限が大幅に解除されないと難しい	男	50 代
5	既存の公的地域福祉サービス制度内では同行ヘルパーでも居宅ヘルパーにも頼めないような事が多く、知人で信頼できるボランティアにしか頼めない事も多いが頻繁には頼めず、家庭内の財産管理やプライバシーサポートについての公的サービスの設置を強く望む	男	50 代
5	視力の回復や、空気の良いところへの引っ越しなど	男	50 代
5	コロナで専門医に受診できないため、専門医を見つけること。	女	60 代
5	盲導犬への理解を広める	女	60 代
6	次から次へとやる事が出てくるため、それが少しずつ終わっていけば少しは楽になる気がする	男	60 代
6	仕方のない事とのことでした	女	60 代
6	老化によるものかと思い、食事に気を付けています	女	60 代
6	解決できない	男	50 代
6	医療の進歩があれば	女	50 代

注) 内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■ C票（1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「④－1 満足度の理由」

（1. 満足 2. やや満足 3. やや不満 4. 不満）

区分	内 容	性別	年代
1	眼の調子も落ち着いており仕事もプライベートも楽しく過ごせているから	男	50代
1	各サービス事業所が連携して日常生活を支えてもらっている	男	80代
1	楽しいことがたくさんあるから	女	60代
2	家の中ではある程度動ける	女	70代
2	人と話したり、ヨガをしたりすることができるようになったから	女	70代
2	周囲の人たちが積極的に協力してくれる	男	70代
2	現状維持	男	30代
2	自分のことはだいたい出来るので、あまり不便ではない	男	60代
2	制限がありながらも仕事も日常生活も戻りつつあるから	男	50代
2	健康上の問題はあったが、まあまあの生活が維持できた	女	70代
2	外出する際、周囲に対して不安感や不便を感じることもあるがその他は特に不便さを感じずに過ごせたため	女	70代
2	食に関して食べたいものを自由に食べる	女	60代
2	コロナで外出がままならないので、それがなければ満足。アクリル板が前にあり困る。	女	50代
3	視力が悪くて精神的に辛くなっている	女	70代
3	目が不自由なことに満足できないため	男	60代
3	コロナで人に会えなくなった。外出（セミナー含む）もできない。	男	40代
3	コロナ禍で外出がままならない	女	20代
3	ADLの低下	男	50代
4	QOL、AOLが低いため	男	50代
4	親と折り合いが悪い	女	50代
4	眼が痛くて寝たきりのような日も多いから	女	50代
4	見えないから	男	70代
4	視力の改善が見られない	女	70代
4	視力が悪く日常生活を送るのに思い通りにならないことが多々ある。いつも緊張し、神経を張り詰めている	女	80代
4	障害を持っている自分が家庭のキーパーソンにならざるを得ず、既存の公的福祉サービスに無理をさせたり、不正を考えなければならぬほどに精神的に追い込まれ、人間関係信頼関係を悪化させている	男	50代
4	日々の体調が安定しない	男	50代
4	不平等と不公平（副作用救済制度、公的なコロナに対する事業給付金と情報不備）	女	60代
4	視覚障害	女	50代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■ C票（1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑤ 日常生活を満足するために一番やりたいこと」

内 容	性別	年代
外出する事にも勇気がいるため、少しずつ外出できるようになりたいと思う	男	60代
旅行（遠くなくても）が趣味でしたが同行してもらうのが難しく出かけられないです。	女	80代
親と別居	女	50代
セミナー受講	男	40代
あまり人に頼らず自立した生活を送りたい	男	80代
家族と温泉に行きたい	女	50代
世の中の制度や社会の不公平が少なくなるといいと思う	女	60代
上手くヘルパーを利用しきれしていない。気の合うヘルパーが少ない	女	60代
視支援眼鏡の試用	女	50代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■C票（1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑤－2 一番やりたいことを実現できるかどうか」

（1. 出来ると思う 2. やや出来ると思う 3. あまり出来ないと思う 4. 出来ないと思う）

区分	内 容	性別	年代
1	子供に相談して、音声器のある映画館が有るようなので行ってみたい	女	70代
1	コロナ前に一度行っているの、もう少し落ち着いたら行きたい	男	20代
1	安心して生活を送りたい	男	50代
1	少し体調が良くなってきたので	女	60代
1	趣味が生活の最優先だから	女	50代
2	なんとなく外出くらいはできるようになるのではないかと、旅行まではできないかもしれないけど	男	60代
2	コロナが落ち着いてほしいですね	男	50代
2	コロナの状況次第なのでよくわからない	男	40代
2	県内から少しずつ外出出来ると思うよう、ポジティブに考える	女	40代
2	寝込むほど体調が悪くなる事がなかった	男	20代
2	日常生活が通常に戻ればできると思う	男	80代
2	健康も回復し、コロナも収まると思うので	女	50代
2	子供達がイベントを考えてくれる	男	70代
2	移動する際の交通機関利用時にサポートしてくれる友人などの気が許せる人が同伴してくれれば実現できると思う	女	70代
2	問題を抱えた状態では本当に精神的身体的にも再起不能になってしまいそうなので、時間を見つけて現実から離れることも大切だと思う	男	50代
2	点字を習っていて少しずつ読めるようになったから	女	60代
3	コロナ禍で外出しにくい	女	70代
3	介護してくれる人のスケジュールと自分の都合がなかなか合わない。コロナ禍である	男	70代
3	体力の回復に時間がかかる。コロナ禍。	男	50代
3	社会状況（コロナ等）	男	30代
3	コロナが収まらないと実現できない	男	60代
3	コロナが落ち着かない	男	80代
3	体調がよくない。コロナへの不安がある	女	50代
3	コロナのため	女	80代
3	旅行先でのトイレや転倒の心配	女	80代
3	体調と経済的な面	男	50代
3	ADLの低下	男	50代
3	ヘルパーが少ない、事業所が限られる等。	女	60代
3	適応対象か不明	女	50代
4	コロナや体力が不安	女	60代
4	ケガ病にならない様に心掛けている	女	70代
4	体力と視力の低下	女	70代

4	家のことを自分がやっているので親の事を放っていいのかな。自分の事だけ考えていいのかな。親戚や周りの人たちに迷惑がかかるかな。と思う。	女	50 代
4	古い制度のきまりや古い考えがあると無理	女	60 代

注) 内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■ C票（1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑥ 日常生活で工夫したこと」

（1．生活環境、家屋等の構造の工夫 2．サービスの活用 3．補助器具等の活用 4．生活習慣の工夫
5．精神面の工夫 6．その他）

区分	内 容	性別	年代
1	段差がわかりづらいので印をつけている	男	60代
1	家で段差のあるところは目印をつけておく。危ないので軽い食器を使うようにしている	女	70代
1	ぶつかってケガをしない様にドアは必ず閉める様にしている。	女	60代
1	スイッチの場所を区別するための凸凹シールの貼り付け。液体の容量を図るためのボトル「さじかげん」の利用	女	50代
2	毎日がいっぱいいっぱい。相談員さんに相談しても解決策が見つからない	女	50代
2	スマホ、動画配信サービスなどを利用して室内で楽しむ	女	40代
2	宅配の食事を利用した	女	70代
3	見え方を補うために iPad、iPhone を積極的に活用しています	男	50代
4	消費期限の古いものはシールなど目印をつける。入れ物（ケースごと）分ける。	男	80代
4	柱、ドアにぶつかりけがをするので夏も長袖を着て手を保護する	女	80代
4	食に気をつけた。自然なもの	男	50代
6	日々、変化に合わせて工夫している為、たくさんありすぎて書けない	男	20代
6	工夫は色々としているつもりだ	女	60代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■ C票（1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑧ 必要な福祉サービスなどについてご意見、ご要望」

（1. 介護サービス（介助者関係） 2. 制度の充実 3. 施設面 4. その他）

区分	内 容	性別	年代
1	入院時にヘルパーさんなどと交代できるような支援（必ず付き添いがいるので）	男	20 代
1	介護サービス、福祉サービスの利用で一人暮らしを送っている。今の現状のままで生活がしたい。	男	80 代
2	金融機関、各種手続きの際、ATM の利用相手側で代筆してもらえない時とても困ります。視覚障害者は介護タクシーを利用できない問題。どうしてなのでしょう。ヘルパーの人員不足	女	50 代
2	親亡き後、暮らしていけるグループホームの支援者の人材不足が課題	男	20 代
2	コロナのため、契約している事務所のショートステイが中止のまま。親が体調悪くなった場合、どうしたらよいか不安	女	20 代
2	現時点での同行援護は仕事上での利用ができません。仕事での移動でも利用できるようにして頂きたい	男	50 代
2	利用時間（支給量）が少ない。自己負担分がないようにしてもらいたい	男	70 代
2	介護福祉と障害者福祉が独立している為、障害が配慮されないこと	女	70 代
2	経済的に困難なため支援を希望します。これから更に障害年金だけの生活は困難なため	男	50 代
2	1. サピエシステムは年2回くらい協力金を募っていますが、これらは国が負担すべきではないのか 2. 自営の仕事や通勤通学にも使えたらよいと思う（事故や事件が多いから） 3. 手当や日常生活用具の給付に地方差がある	女	60 代
2	機能訓練の期間を1年半以上に延長してほしい	女	50 代
4	障害者総合支援及び、介護保険制度の福祉サービスの仕組みがしばしば変わり理解しにくい	女	70 代
4	生活費の融資や給付金について知りたい	女	50 代
4	福祉サービスを受けるために必要な書類が多すぎる	女	70 代
4	既存の定年制の職業システムに留まらず、本人のやる気能力、障害程度に応じた職業訓練システムを公共施設に設置すべき。現行の障害者総合支援法内の居宅サービス制度では制度上の制約やマンパワー	男	50 代
4	何をするにも書類を提出しなければならないのが不便。急遽の予定に対応してもらえない	女	50 代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

■ C票（1年間取り組んできたサービス等の満足度を中心とした調査）からみた生活状況の概要

男女別・年代別の「⑨ 今必要な情報について具体的に知りたいこと」

- （1. 医療・福祉サービス 2. 年金 3. 趣味・娯楽 4. 住環境 5. 社会活動・就職 6. 経済面
7. その他）

区分	内 容	性別	年代
1	1人暮らしになったので先のことがわかりません。周りの人たちに助けてもらっていますが、不安で心細いです。ルーペを使って書いております。病気、けがをしない様に祈るばかりです。	女	70代
1	視覚障害者（SJS患者）がどのように日々生活しているのか。この冊子の記入、何とかならないでしょうか。個人的な内容が含まれるので、ヘルパーには頼みたくない。回答したくないとかではなく、他にメールでの回答等の方法はどうでしょうか。	女	50代
1	老後の住まい、一人になった場合、視覚障害者の老人ホームに入れるのか	男	40代
1	先端医療について	女	40代
1	治療に関すること	男	60代
1	サービスがあっても人手不足が心配です	男	20代
1	定年後の働き方	男	50代
4	IPSの治療など最新の医学情報が知りたい	女	50代
4	どのような情報があるかわからない	女	70代
5	PMDAが発行しているカードとは何ですか。どこで発行しているのでしょうか。又、SJSとはスチーブンス症候群の略語ですか	女	70代
5	就職については仕事に関して問題解決に向けて親身に相談にのってもらえる助言指示のできる人物の紹介。NPO活動など法人を立ち上げ起業するしかない様にも思っており、資料集めのやり方について知りたい。個人の引きこもりや鬱、無理のないトレーニング食生活について。	男	50代
7	サービス付高齢者住宅について	男	60代
7	症状が色々あるので、総合的に治療できる病院が地方にもあるのかどうかを知りたい。	女	60代
7	SJSに関する再生医療の情報	男	50代

注）内容につきましては、調査の趣旨に沿って要約または修正を行っています。

V 用語の解説

【用語の解説】

1 独立行政法人医薬品医療機器総合機構

概要

医薬品医療機器総合機構は、平成 13 年に閣議決定された特殊法人等整理合理化計画を受けて、国立医薬品食品衛生研究所医薬品医療機器審査センターと医薬品副作用被害救済・研究振興調査機構および財団法人医療機器センターの一部の業務を統合し、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づき平成 16 年 4 月 1 日に設立された。

当機構は、医薬品の副作用や生物由来製品を介した感染等による健康被害に対して、迅速な救済を図り（健康被害救済）、医薬品や医療機器等の品質、有効性および安全性について、治験前から承認までを一貫した体制で指導・審査し（承認審査）、市販後における安全性に関する情報の収集、分析、提供を行う（安全対策）ことを通じて、国民保健の向上に貢献することを目的としている。

名 称：独立行政法人 医薬品医療機器総合機構

Pharmaceuticals and Medical Devices Agency (PMDA)

設 立：平成 16 年 4 月 1 日

法人の種別：中期目標管理法人

2 医薬品副作用被害救済制度

創設：昭和 55 年 5 月 1 日

医薬品を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用により入院治療が必要な程度の疾病や障害等の健康被害を受けた方に対して各種の副作用救済給付を行い、被害者の迅速な救済を図ることを目的とし、医薬品医療機器総合機構法に基づく公的制度として設けられた。

救済給付に必要な費用は、医薬品の製造販売業者がその社会的責任に基づいて納付する拠出金が原資となっている。

3 保健福祉事業

保健福祉事業は、昭和 54 年 10 月に医薬品副作用被害救済基金（現医薬品医療機器総合機構）が設立される際、救済制度の目的が医薬品の副作用による健康被害の迅速な救済を図ることにあり、この目的の達成には、健康被害者について救済給付の支給以外に保健福祉事業を行う必要のある場合が考えられることから法制化された。

当初、事業内容としては、医薬品の副作用による健康被害の治療研究等が考えられていた。

具体的には、救済給付を行った死亡、障害等重篤の事例等について、早期診断、治療等に関する研究を行うことにより、救済給付の受給者及び今後発生する健康被害者の治療に役立てること。

根拠 独立行政法人医薬品医療機器総合機構法（平成 14 年 12 月 20 日 法律第 192 号）

第三条 独立行政法人医薬品医療機器総合機構（以下「機構」という。）は、医薬品の副作用又は生物由来製品を介した感染等による健康被害の迅速な救済を図り、並びに医薬品等の品質、有効性及び安全性の向上に資する審査等の業務を行い、もって国民保健の向上に資することを目的とする。

第四条～第十四条 略

第十五条 機構は、第三条の目的を達成するため、次の業務を行う。

一 医薬品の副作用による健康被害の救済に関する次に掲げる業務

イ 医薬品の副作用による疾病、障害又は死亡につき、医療費、医療手当、障害年金、障害児養育年金、遺族年金、遺族一時金及び葬祭料の給付（以下「副作用救済給付」という。）を行うこと。

ロ 次条第一項第一号及び第二号に掲げる給付の支給を受ける者並びに同項第三号に掲げる給付の支給を受ける者に養育される同号に規定する十八歳未満の者について保健福祉事業を行うこと。

ハ～ニ 略

二～五 略

2 略

4 ライ症候群【英字】（Reye's syndrome）

インフルエンザや水ぼうそう等のウイルス性疾患にかかった小児に、アスピリン等のサリチル酸系を投与すると、その後嘔吐、意識障害、けいれん等の急性症状を起こす。予後は悪く死亡率は高い。

5 SJS（スティーブンス・ジョンソン症候群【英字】（Stevens-Johnson syndrome））

皮膚粘膜眼症候群。皮膚粘膜等に発生する高熱性、炎症性の疾患。全身倦怠、食欲不振につづき結膜炎、口内炎、外陰部の炎症を伴う。気管支炎をおこすこともある。原因は不明であるが薬物、ウイルス等が考えられる。

6 QOL（生活の質）【英字】（quality of life）

一般に生活を物質的や技術的で量的側面からではなく、内容としての質的側面から捉え、生活者自身の満足感、幸福感、安心感、安定感等の諸要因のことをいう。医療、福祉、政策、環境等の広い分野で使われ、ADL、IADL、労働問題、情報保障、自己選択、自己決定、自己実現、障害や差別の改善等がある。生活環境を整え、健康で文化的な生活の向上を目指していて、価値観も含む。

7 ADL【英字】（activities of daily living）

日常生活動作の事。人間が毎日の生活を送るための基本的動作の事。

8 IADL【英字】（instrumental activities of daily living）

手段的日常生活動作の事。ADLが食事、入浴、排泄等の日常的の基本動作であるのに対し、IADLは電話の使い方、買い物、食事の支援、家事、洗濯、移動、外出、服薬の管理、金銭の管理の八項目で構成されておりADLで使用する動作を応用した動作が必要な活動を指す。

9 訪問介護（ホームヘルプ）

高齢者、障害者、難病患者等を対象に、家庭等にホームヘルパーを派遣し、入浴、排泄つ、食事等の介護、調理、洗濯、掃除等の家事や生活等に関する相談、助言等日常生活上の世話をを行うサービス。巡回型と滞在型がある。

10 訪問入浴介護

介護保険の給付対象となる居宅サービスの1つで、在宅の要介護者等の居宅を訪問して行われる入浴の介護のことを指す。

11 訪問看護

居宅で介護を受ける要介護者・要支援者に、看護師、准看護師、保健師、理学療法士、作業療法士等が訪問して、必要な診療の補助を行うことを指す。

12 訪問リハビリテーション

要介護者等の居宅において、心身の機能の維持回復を図り、日常生活の自立を助けるために行われる理学療法、作業療法、その他必要なりハビリテーションを指す。

13 居宅療養管理指導

医師、歯科医師、薬剤師等が利用者宅を訪問し、療養上の管理や指導を行う介護保険の居宅サービスのひとつ。

14 通所介護（デイサービス）

在宅の高齢者等に施設に通ってもらい、生活指導・機能訓練・食事・入浴・健康チェック等のさまざまなサービスを日帰りで提供するサービス。

15 通所リハビリテーション（デイケア）

精神症状や問題行動が激しい痴呆性老人を対象とするデイケアで、生活機能の回復への訓練や指導、家族に対する介護指導を行う。

1 6 短期入所（ショートステイ）

居宅で暮らす要介護者について、介護を行う者の疾病その他の理由により、老人短期入所施設、特別養護老人ホーム、障害者支援施設等の福祉施設に短期間入所させ入浴、排泄、食事等の介護その他の日常生活上の世話および機能訓練を行うことである。

1 7 移送サービス

交通機関の利用が難しい高齢者や障害者を対象に、運転・介助等を行う送迎サービス。

1 8 同行援護

障害者自立支援法の地域生活支援事業において、視覚障害者が外出する際、その障害者に同行し、移動に必要な情報の提供や移動の援護等を行うこと。

1 9 就労移行支援

就労を希望する 65 歳未満の障害者に対して、生産活動、職場体験その他の活動の機会の提供、その他の就職に必要な知識及び能力の向上の為に必要な訓練、求職活動に関する支援、その適性に応じた職場の開拓、就職後における職場への定着の為に必要な相談、その他の必要な支援を行うこと。

2 0 就労継続支援 A 型

障害により通常の事業所に雇用されることが困難であって、雇用契約に基づく就労が可能である者に対して行う雇用契約の締結等による就労の機会の提供および生産活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援事業のこと。

2 1 就労継続支援 B 型

障害により通常の事業所に雇用されることが困難であって、雇用契約に基づく就労が困難である者に対して行う就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援事業のこと。

VI 保健福祉事業の一環として実施する調査研究報告書(生活状況調査票)

保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書
(SJS 等用)
第4・四半期分（令和4年1月～令和4年3月）

調査票記入者氏名	本人との関係
----------	--------

提出方法

この保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書は、切り離さず基本情報及びA票（毎月記入用）とB票（四半期ごと記入用）とC票（年1回3月末記入用）と併せて4月1日から4月10日の間に送達願います。

問い合わせ先 独立行政法人医薬品医療機器総合機構
健康被害救済部企画管理課
〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-3-2
TEL:03-3506-9460
FAX:03-3506-9439

記入例

1. 健康被害者情報

基本情報

(ふりがな) きこう たろう
氏 名 機構 太郎 性別 ☒ 男 ☐ 女

生年月日 大正
昭和
平成 30年00月00日

自 宅 住 所
(〒100-0013)
東京都千代田区霞が関0-00-0

[電 話 番 号 (00) 0000-0000]
[FAX番号 (00) 0000-0000]

2. 家族構成

同居家族全員を記入してください。

月末日現在

副作用被害者本人との続柄を お答え下さい。	年 齢	主に介護をしている方に○を 付けてください。
(記入例) 母	(記入例) 60	(記入例) 主に介護をしている
父	65	主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている

3. 障害の種類・程度

視 力 障 害

1 級

級

1. 健康被害者情報

基本情報

(ふりがな)

氏 名 _____ 性別 男 女

生年月日 大正 _____ 年 月 日
昭和 _____
平成 _____

自 宅 住 所
(〒 _____)

[電 話 番 号 (_____) _____]
[FAX番号 (_____) _____]

2. 家族構成

同居家族全員を記入してください。

3月末日現在

副作用被害者本人との続柄を お答え下さい。	年 齢	主に介護をしている方に○を 付けてください。
(記入例) 母	(記入例) 60	(記入例) 主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている

3. 障害の種類・程度

_____ 級
_____ 級

記入例

A 票

(S J S 等用)

生活状況調査票

毎月記入

月末日現在

答えられる範囲でお答え下さい。

(1. 点眼液の利用状況)

現在使用している点眼液はどれですか。

- | | | | | | |
|---------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|----------|--------------------------|--------------------------|
| ① ソフトサンティア | ☒ 右眼 | ☒ 左眼 | ② クラビット | ☐ 右眼 | ☐ 左眼 |
| ③ ヒアレイン | ☐ 右眼 | ☐ 左眼 | ④ フルメトロン | ☐ 右眼 | ☐ 左眼 |
| ⑤ 0.1%ヒアレインミニ | ☐ 右眼 | ☐ 左眼 | ⑥ リンデロン | ☐ 右眼 | ☐ 左眼 |
| ⑦ 0.3%ヒアレインミニ | ☐ 右眼 | ☐ 左眼 | ⑧ 血清点眼 | ☐ 右眼 | ☐ 左眼 |
| ⑨ その他眼科処方薬 (内服薬を含む) | | | | | |
| (処方薬 | | |) | ☐ 右眼 | ☐ 左眼 |
| (処方薬 | | |) | ☐ 右眼 | ☐ 左眼 |
| ⑩ 涙点プラグ | ☒ 右眼 | ☐ 左眼 | | | |

(2. 福祉サービス)

福祉サービスの利用状況についてお聞きします。

現在、受けている福祉サービスはどれですか。あてはまるものに○を付けて下さい。

(複数回答可)

- ① 障害者総合支援法に基づく福祉サービス
→ (3. 障害者総合支援法に基づく福祉サービス) へ
- ② 介護保険制度に基づく福祉サービス
→ (4. 介護保険制度に基づく福祉サービス) へ
- ③ ☒ 上記①, ②以外の福祉サービス

具体的にお書き下さい:

・遠距離の眼科に通う時の宿泊施設の利用 (ボランティア運営)

A票

(S J S 等用)

生活状況調査票

毎月記入

1 月末日現在

答えられる範囲でお答え下さい。

(1. 点眼液の利用状況)

現在使用している点眼液はどれですか。

- | | | | | | |
|---------------------|----|----|----------|----|----|
| ① ソフトサンティア | 右眼 | 左眼 | ② クラビット | 右眼 | 左眼 |
| ③ ヒアレイン | 右眼 | 左眼 | ④ フルメトロン | 右眼 | 左眼 |
| ⑤ 0.1%ヒアレインミニ | 右眼 | 左眼 | ⑥ リンデロン | 右眼 | 左眼 |
| ⑦ 0.3%ヒアレインミニ | 右眼 | 左眼 | ⑧ 血清点眼 | 右眼 | 左眼 |
| ⑨ その他眼科処方薬 (内服薬を含む) | | | | | |
| (処方薬 | | |) 右眼 | 左眼 | |
| (処方薬 | | |) 右眼 | 左眼 | |
| ⑩ 涙点プラグ | 右眼 | 左眼 | | | |

(2. 福祉サービス)

福祉サービスの利用状況についてお聞きます。

現在、受けている福祉サービスはどれですか。あてはまるものに○を付けて下さい。

(複数回答可)

- ① 障害者総合支援法に基づく福祉サービス
→ (3. 障害者総合支援法に基づく福祉サービス) へ
- ② 介護保険制度に基づく福祉サービス
→ (4. 介護保険制度に基づく福祉サービス) へ
- ③ 上記①, ②以外の福祉サービス

具体的にお書き下さい：

記入例

(3. 障害者総合支援法に基づく福祉サービス)

福祉サービスの利用状況についてお聞きます。
各項目の今月の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けて下さい。
(複数回答可)

① 同行援護 月に 0 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
受けているサービス内容	上記の理由 必要がない
② 就労移行支援 0 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
受けているサービス内容	上記の理由 必要がない
③ 就労継続支援A型 0 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
受けているサービス内容	上記の理由 必要がない
④ 就労継続支援B型 0 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
受けているサービス内容	上記の理由 必要がない
⑤ 上記以外のサービス 月に 0 回 (サービス名：)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
(サービス名：)	上記の理由 必要がない

次頁へ続く↓

(3. 障害者総合支援法に基づく福祉サービス)

福祉サービスの利用状況についてお聞きします。

各項目の今月の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けて下さい。

(複数回答可)

① 同行援護 月に 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
受けているサービス内容	上記の理由
② 就労移行支援 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
受けているサービス内容	上記の理由
③ 就労継続支援A型 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
受けているサービス内容	上記の理由
④ 就労継続支援B型 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
受けているサービス内容	上記の理由
⑤ 上記以外のサービス 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
(サービス名 :)	上記の理由

次頁へ続く↓

記入例

(4. 介護保険制度に基づく福祉サービス)

福祉サービスの利用状況についてお聞きします。

各項目の今月の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けて下さい。

(複数回答可)

① 訪問介護	月に 0 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
介護内容 1. 身体介護中心型 2. 生活援助中心型 3. 通院等乗降介助 4. その他 ()		上記の理由 必要がない
② 訪問入浴介護	月に 0 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
		上記の理由 必要がない
③ 訪問看護	月に 0 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
看護内容		上記の理由 必要がない
④ 訪問リハビリ	月に 0 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
リハビリ内容		上記の理由 施設のリハビリに通っている
⑤ 居宅療養管理指導	月に 0 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
指導内容		上記の理由 必要がない

次頁へ続く↓

(4. 介護保険制度に基づく福祉サービス)

福祉サービスの利用状況についてお聞きします。 各項目の今月の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けて下さい。 (複数回答可)	
① 訪問介護 月に 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
介護内容 1. 身体介護中心型 2. 生活援助中心型 3. 通院等乗降介助 4. その他 ()	上記の理由
② 訪問入浴介護 月に 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
	上記の理由
③ 訪問看護 月に 日 (回)	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
看護内容	上記の理由
④ 訪問リハビリ 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
リハビリ内容	上記の理由
⑤ 居宅療養管理指導 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
指導内容	上記の理由

次頁へ続く↓

記入例

⑥ 通所介護 月に 8 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
介護内容 入浴 食事介助	上記の理由 職員が親切である
⑦ 通所リハビリ 月に 8 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
リハビリ内容 運動機能を訓練	上記の理由 効果が現れない
⑧ 短期入所 月に 0 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
入所内容 1. 短期入所療養介護 2. 短期入所生活介護 (ショートステイ) 3. その他 ()	上記の理由 必要がない
⑨ 送迎サービス 月に 8 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
サービス内容 施設への送迎	上記の理由 月に利用できる回数を増やしてほしい
⑩ 上記以外の福祉サービス 月に 0 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・②・・・・③・・・・④ ⑤
サービス内容:	上記の理由 どのようなサービスがあるかわからない

⑥ 通所介護 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・・・②・・・・・・③・・・・・・④ ⑤
介護内容	上記の理由
⑦ 通所リハビリ 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・・・②・・・・・・③・・・・・・④ ⑤
リハビリ内容	上記の理由
⑧ 短期入所 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・・・②・・・・・・③・・・・・・④ ⑤
入所内容 1. 短期入所療養介護 2. 短期入所生活介護 (ショートステイ) 3. その他 ()	上記の理由
⑨ 送迎サービス 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・・・②・・・・・・③・・・・・・④ ⑤
サービス内容	上記の理由
⑩ 上記以外の福祉サービス 月に 回	満足 やや満足 やや不満 不満 利用していない ①・・・・・・②・・・・・・③・・・・・・④ ⑤
サービス内容：	上記の理由

記入例

答えられる範囲でお答えください。

(5. SJS 専門医への診察回数の状況)

現在、月に何回 S J S 専門医の診察のために通院していますか。

※さかさまつげやドライアイについても診療の必要があると思われませんが

それらは除いて、SJS 専門医に受診した回数を回答ください。

- ① 月に2回以上
- ② 月に1回程度
- ③ 2ヶ月に1回程度
- ④ 3ヶ月に1回程度
- ⑤ 半年に1回程度
- ⑥ 1年に1回程度
- ⑦ その他 (回程度)
- ⑧ 行けていない。

(6. SJS 専門医への通院に係る交通費の状況)

S J S 専門医の診察で通院される際の1回往復交通費であてはまるものに○を付けて下さい。

※さかさまつげやドライアイについても診療の必要があると思われませんが

それらは除いて、SJS 専門医に受診した回数を回答ください。

- ① 1,000 円未満
- ② 1,000 円～10,000 円
- ③ 10,000 円～30,000 円
- ④ 30,000 円～50,000 円
- ⑤ 50,000 円以上
- ⑥ その他 (円)

(7. 入院有無の状況)

今月、S J Sに係る治療にて入院をされましたか。

- ① はい
- ② いいえ
- ③ その他 ()

答えられる範囲でお答えください。

(5 . SJS 専門医への診察回数の状況)

現在、月に何回 S J S 専門医の診察のために通院していますか。

※さかさまつげやドライアイについても診療の必要があると思われますが

それらは除いて、SJS 専門医に受診した回数を回答ください。

- ① 月に2回以上
- ② 月に1回程度
- ③ 2ヶ月に1回程度
- ④ 3ヶ月に1回程度
- ⑤ 半年に1回程度
- ⑥ 1年に1回程度
- ⑦ その他 (回程度)
- ⑧ 行けていない。

(6 . SJS 専門医への通院に係る交通費の状況)

S J S 専門医の診察で通院される際の1回往復交通費であてはまるものに○を付けて下さい。

※さかさまつげやドライアイについても診療の必要があると思われますが

それらは除いて、SJS 専門医に受診した回数を回答ください。

- ① 1,000 円未満
- ② 1,000 円～10,000 円
- ③ 10,000 円～30,000 円
- ④ 30,000 円～50,000 円
- ⑤ 50,000 円以上
- ⑥ その他 (円)

(7 . 入院有無の状況)

今月、S J Sに係る治療にて入院をされましたか。

- ① はい
- ② いいえ
- ③ その他 ()

記入例

(S J S 等用)

B票

生活状況調査票

4半期毎記入

期	月～	月分	平成	年	月末日現在
---	----	----	----	---	-------

答えられる範囲でお答えください。

(日常生活)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答え下さい。

(いずれか1つに○を付けてください。)

- ① 健康被害を受けた本人
 2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
 3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
 4. 介護者が回答

① 健康被害者が過去3ヶ月間に外出しましたか。(いずれか1つに○を付けて下さい。)

1. ほぼ毎日 2. 週に4から5回 3. 週に2から3回 ④ 月に2から3回
 5. まったく外出していない

①-1 外出された方にお聞きます。

主に誰の介助を受けて外出しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)

1. 介助なし 2. 配偶者 3. 親 ④ 子供 5. その他の家族
 6. 親戚 7. ホームヘルパー 8. 隣人・知人 9. 雇人
 10. ボランティア 11. その他 ()

② 外出するうえで、または、外出しようとするうえで、困ることや不満に思うことはありますか。

1. ない
 ② ある

②-1 上記②で「ある。」とお答えいただいた方にお聞きます。

困ること又は不満に思うことの具体的なものは何ですか。

(該当するもの全てに○を付けてください。)

1. 介助者がいない
 ② 経費がかかる
 3. 人の目が気にかかる
 ④ 人と話をすることが困難
 5. 外出に必要な情報が得られない
 ⑥ 電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便
 7. 道路や駅などの公共の場所の利用が不便
 8. 利用する建物の設備(階段、トイレ、エレベーター等)の利用が不便
 ⑨ 人の混雑や車に身の危険を感じる
 10. 駅などにおける人間関係のトラブル
 11. その他 ()

次頁へ続く↓

B票

生活状況調査票

4半期毎記入

Ⅳ期	1月～3月分	令和3年3月末日現在
----	--------	------------

答えられる範囲でお答えください。

(日常生活)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答え下さい。

(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

① 健康被害者が過去3ヶ月間に外出しましたか。(いずれか1つに○を付けて下さい。)

1. ほぼ毎日
2. 週に4から5回
3. 週に2から3回
4. 月に2から3回
5. まったく外出していない

①-1 外出された方にお聞きます。

主に誰の介助を受けて外出しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)

1. 介助なし
2. 配偶者
3. 親
4. 子供
5. その他の家族
6. 親戚
7. ホームヘルパー
8. 隣人・知人
9. 雇人
10. ボランティア
11. その他 ()

② 外出するうえで、または、外出しようとするうえで、困ることや不満に思うことはありますか。

1. ない
2. ある

②-1 上記②で「ある。」とお答えいただいた方にお聞きます。

困ること又は不満に思うことの具体的なものは何ですか。

(該当するもの全てに○を付けてください。)

1. 介助者がいない
2. 経費がかかる
3. 人の目が気にかかる
4. 人と話をすることが困難
5. 外出に必要な情報が得られない
6. 電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便
7. 道路や駅などの公共の場所の利用が不便
8. 利用する建物の設備(階段、トイレ、エレベーター等)の利用が不便
9. 人の混雑や車に身の危険を感じる
10. 駅などにおける人間関係のトラブル
11. その他 ()

次頁へ続く↓

記入例

次頁に続く ↓

②－２ 外出するうえで工夫したことは何ですか。（該当するもの全てに○を付けてください。） 【外出前の準備について】 １．予め、交通機関（時刻や乗り換えなど）や経路について調べておく ２．介助者を依頼する（同行支援・行動支援など） ３．コースを事前に決めておく ４．その他（ ）
【服装・持ち物について】（該当するもの全てに○を付けてください。） １．目立つ服装をした ２．目の保護のためサングラス、帽子を着用した ３．白杖の使用 ４．両手が使えるよう、リュックサックを使用した ５．その他（ ）
【移動手段について】（該当するもの全てに○を付けてください。） １．自家用車を利用（家族、友人・知人による送迎） ２．介護タクシーを利用 ３．公共交通機関を利用 ４．その他（ ）
【上記以外に外出するうえで何か工夫したことがありましたらお書きください。】
③ 健康被害者が過去３ヶ月間に余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加（活動）などをしましたか。 １．まったくしていない ２．参加（活動）した
③－１ まったくしていないとお答えになった方にお聞きます。 余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加（活動）をしなかった理由は何ですか。（該当するもの１つに○を付けて下さい。） １．介助者がいなかった ２．時間的・経済的余裕がなかった ３．体力的に余裕がなかった ４．その他（ ）
③－２ 参加（活動）したとお答えになった方にお聞きます。 余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加（活動）をするきっかけについてお書きください。
③－３ 参加（活動）した方にお聞きます。そればどのような内容でしたか。 （該当するもの全てに○を付けてください。） １．コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学 ２．スポーツ教室、大会などへの参加 ３．旅行・キャンプ・つりなどの活動 ４．趣味の同好会活動 ５．ボランティアなどの社会活動 ６．障害者団体の活動 ７．地域活動 ８．パソコンを利用した社会参加 ９．友達との遊び １０．その他（ ）

次頁に続く↓

記入例

次頁に続く↓

記入例

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。
(いずれか1つに○をつけてください。)

1. 健康被害を受けた人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

◎ 日常生活についてお聞きします。
(各項目の過去3ヶ月間の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。)

◎-1 ものが見えにくいために、新聞や本を読むことはどのくらい不自由ですか。	まったく 不自由 はない あまり 不自由 はない とても 不自由 見えにくい のでやめた ①.....②.....◎③.....④
◎-2 目や、目のまわりの痛みや不快感の程度はどのくらいですか。	まったく ない かすかに ある 中くらい ある かなり ある ①.....◎②.....③.....④
◎-3 ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがありますか。	ない ある ①.....◎②
◎-4 物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがありますか。	ない ある ◎①.....②

◎-5 呼吸器領域に関して、診断を受けていますか。
(該当するもの全てに○をつけてください。)

1. 閉塞性細気管支炎
2. 気管支喘息
3. 肺気腫
4. ◎気管支炎
5. その他 ()

◎-6 呼吸器に関する症状はございますか。(該当するもの全てに○をつけてください。)

1. ◎咳、たん
2. 息切れ
3. 酸素の使用
4. その他 ()

次頁に続く↓

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。 (いずれか1つに○をつけてください。) 1. 健康被害を受けた人 2. 本人の意向を聞いて介護者が記入 3. 本人の意向をくみとり介護者が記入 4. 介護者が回答									
⑤ 日常生活についてお聞きます。 (各項目の過去3ヶ月間の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。)									
⑤-1 ものが見えにくいために、新聞や本を読むことはどのくらい不自由ですか。	<table border="0"> <tr> <td>まったく 不自由 はない</td> <td>あまり 不自由 はない</td> <td>とても 不自由</td> <td>見えにくい のでやめた</td> </tr> <tr> <td>①</td> <td>②</td> <td>③</td> <td>④</td> </tr> </table>	まったく 不自由 はない	あまり 不自由 はない	とても 不自由	見えにくい のでやめた	①	②	③	④
まったく 不自由 はない	あまり 不自由 はない	とても 不自由	見えにくい のでやめた						
①	②	③	④						
⑤-2 目や、目のまわりの痛みや不快の程度はどのくらいですか。	<table border="0"> <tr> <td>まったく ない</td> <td>かすかに ある</td> <td>中くらい ある</td> <td>かなり ある</td> </tr> <tr> <td>①</td> <td>②</td> <td>③</td> <td>④</td> </tr> </table>	まったく ない	かすかに ある	中くらい ある	かなり ある	①	②	③	④
まったく ない	かすかに ある	中くらい ある	かなり ある						
①	②	③	④						
⑤-3 ものが見えにくいために、物事を思いどおりにやりとげられないことがありますか。	<table border="0"> <tr> <td>ない</td> <td>ある</td> </tr> <tr> <td>①</td> <td>②</td> </tr> </table>	ない	ある	①	②				
ない	ある								
①	②								
⑤-4 物事を思いどおりにやりとげられないために、イライラすることがありますか。	<table border="0"> <tr> <td>ない</td> <td>ある</td> </tr> <tr> <td>①</td> <td>②</td> </tr> </table>	ない	ある	①	②				
ない	ある								
①	②								
⑤-5 呼吸器領域に関して、診断を受けていますか。 (該当するもの全てに○をつけてください。) 1. 閉塞性細気管支炎 2. 気管支喘息 3. 肺気腫 4. 気管支炎 5. その他 ()									
⑤-6 呼吸器に関する症状はございますか。(該当するもの全てに○をつけてください。) 1. 咳、たん 2. 息切れ 3. 酸素の使用 4. その他 ()									

次頁に続く↓

記入例

⑤ ー 7 視力・呼吸器以外の状況はございますか。（該当するもの全てに○をつけてください。）

【皮膚や爪に関する症状】

1. 皮膚のかゆみ、乾燥
2. 瘡痕が残る
- ③ 3. 爪の変更、剥離
4. その他（ ）

【内臓機能に関する症状】

1. 高血圧
- ② 2. 粘膜不全（粘膜部分からの出血等）
3. 心肺機能の低下・異常
4. 肝機能の低下・異常
5. 腎機能の低下・異常
6. その他（ ）

【聴覚に関する症状】

- ① 1. 音声が聞き取りにくい（難聴）
2. その他（ ）

【眼科領域（視力障害以外）に関する症状】

- ① 1. さかさまつげ
2. ドライアイ（涙が出ないなど）
3. 角膜の炎症
4. その他（ ）

【口腔に関する症状】

1. 口内炎
2. 味覚障害
- ③ 3. 口の中が乾く（乾きやすい）
4. その他（ ）

【精神的な症状】

1. 不安障害
- ② 2. 睡眠障害
3. うつ
4. その他（ ）

【視力以外の症状で上記に掲げたほかにごございましたら、お書きください。】

次頁へ続く ↓

【皮膚や爪に関する症状】

- 2

1. 高血压

- 2

1. 音声聞き取りにくい (難聴)

- 2

1. さかさまつげ

- 2

1. 口内炎

- 2

1. 不安障害

- 2

次頁へ続く↓

記入例

(主たる介護者の状況)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。

(いずれか1つに○を付けてください。)

- ① 主として介護をしている配偶者
 2. 主として介護をしている親
 3. 主として介護をしている兄弟姉妹
 4. その他 ()

⑥ お答えいただいた方の健康状態について
 (3ヶ月間のあなたの状況に最も良く当てはまる
 数字を1つ選んで○を付けてください。)

たいへん まあ やや たいへん
 良好 良好 悪い 悪い
 ①.....②.....③.....④

⑥-1 その理由は何ですか。

常に介護が必要なため

⑦ この1年間に介護をしていく中で、
 困ったことが、

① 増えた 2. 減った
 3. 変わらない 4. 困ったことはない

⑦-1 困ったことがあった方にお聞きます。それはどんなことですか。

急な用事の際、すぐに代わりの介護者が見つからなかった

⑦-2 誰かに相談しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)(複数回答可)

※選択肢1, 2, 3, 11を選択する場合は、カッコの中のアルファベットに○を付けてください。

1. 親 (a 父親 b 母親) 2. 配偶者 (a 夫 b 妻)
 3. 子供 (a 息子 b 娘 c 娘の夫 d 息子の妻)
 4. 兄弟姉妹 5. 祖父母 6. 友人・知人 7. 会社の上司・同僚
 8. 学校の先生 9. 医師 10. 看護師・保健師
 11. 公的機関の職員等 (a 身体障害者更生相談所 b 福祉事務所 c 市(区)役所 d 民生委員
 e 身体障害者相談員)
 12. 医薬品医療機器総合機構(PMDA)の保健福祉相談窓口
 13. 障害者の団体(親、家族の会を含む)
 14. 障害者相談支援センター(相談支援事業者を含む)※1 15. 地域包括支援センター※2
 16. その他 ()
 17. 相談する人はいない

※1: 障害者相談支援センターとは、在宅や地域で生活する障害のある方やその家族のための相談窓口で、各市区町村に設置されている。

※2: 介護保険法で定められた、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関で、各市区町村に設置されている。

次頁へ続く↓

(主たる介護者の状況)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。

(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 主として介護をしている配偶者
2. 主として介護をしている親
3. 主として介護をしている兄弟姉妹
4. その他 ()

⑥ お答えいただいた方の健康状態について
(3ヶ月間のあなたの状況に最も良く当てはまる
数字を1つ選んで○を付けてください。)

たいへん 良好	まあ 良好	やや 悪い	たいへん 悪い
①.....	②.....	③.....	④

⑥-1 その理由は何ですか。

⑦ この1年間に介護をしていく中で、
困ったことが、

- | | |
|----------|-------------|
| 1. 増えた | 2. 減った |
| 3. 変わらない | 4. 困ったことはない |

⑦-1 困ったことがあった方にお聞きします。それはどんなことですか。

⑦-2 誰かに相談しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)(複数回答可)

※選択肢1, 2, 3, 11を選択する場合は、カッコの中のアルファベットに○を付けてください。

- | | |
|--|------------------|
| 1. 親 (a 父親 b 母親) | 2. 配偶者 (a 夫 b 妻) |
| 3. 子供 (a 息子 b 娘 c 娘の夫 d 息子の妻) | |
| 4. 兄弟姉妹 | 5. 祖父母 |
| 6. 友人・知人 | 7. 会社の上司・同僚 |
| 8. 学校の先生 | 9. 医師 |
| 10. 看護師・保健師 | |
| 11. 公的機関の職員等 (a 身体障害者更生相談所 b 福祉事務所 c 市(区)役所 d 民生委員 e 身体障害者相談員) | |
| 12. 医薬品医療機器総合機構(PMDA)の保健福祉相談窓口 | |
| 13. 障害者の団体(親、家族の会を含む) | |
| 14. 障害者相談支援センター(相談支援事業者を含む)※1 | 15. 地域包括支援センター※2 |
| 16. その他 () | |
| 17. 相談する人はいない | |

※1: 障害者相談支援センターとは、在宅や地域で生活する障害のある方やその家族のための相談窓口で、各市区町村に設置されている。

※2: 介護保険法で定められた、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関で、各市区町村に設置されている。

次頁へ続く↓

記入例

⑦-3 解決策はありましたか。	①. 解決した	2. していない
⑦-4 解決したと答えた方にお聞きします。それは、どのような方法で解決しましたか。		
身内の者に頼んだり、公的な介護制度を利用した		
⑦-5 していないと答えた方にお聞きします。それはどのような方法で解決できると思いますか。		
⑧ 主たる介護者を支えるようなものがありましたか。 (公的制度、友人・知人、ボランティア等)	①. あった	2. なかった
⑧-1 それは具体的にどのようなものですか。		
患者の会で病院や介護施設の情報交換をした		
⑨ 介護者等が過去3ヶ月間に余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加(活動)などをしましたか。		
①. まったくしていない		
2. 参加(活動)した		
⑨-1 まったくしていないとお答えになった方にお聞きします。 余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加(活動)をしなかった理由は何ですか。 (該当するもの1つに○を付けて下さい)		
1. 時間的・経済的余裕がなかった		
②. 体力的に余裕がなかった		
3. その他 ()		
⑨-2 参加(活動)したとお答えになった方にお聞きします。 余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加(活動)をするきっかけについてお書きください。		
⑨-3 参加(活動)した方にお聞きします。それはどのような内容でしたか。 (該当するもの全てに○を付けてください。)		
1. コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学		
2. スポーツ教室、大会などへの参加		
3. 旅行・キャンプ・つりなどの活動		
4. 趣味の同好会活動		
5. ボランティアなどの社会活動		
6. 障害者団体の活動		
7. 地域活動		
8. パソコンを利用した社会参加		
9. 友達との遊び		
10. その他 ()		
⑩介護をしてく中で、新しい発見や気分転換などはありましたか。	①. あった	2. なかった
⑩-1 あったと答えた方にお聞きします。それはどのようなこと又はどのようなときですか。		
散歩で公園を通る時に、季節ごとの草花を見て季節を感じられることが、気分転換になっている		

記入例

(SJS等用)

C票

生活状況調査票

年1回3月末記入

3月末日現在

答えられる範囲でお答えください。

(治療状況)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

① 健康被害を受けた本人
 2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
 3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
 4. 介護者が回答

① 健康被害を受けた方の治療状況 (SJS等、副作用による健康被害に関する治療についてお答え下さい。)	① 入院中 (いつから入院していますか： から) ② 通院中 (往診含む) (月に 2回)
--	---

② 副作用の疾患以外で治療を受けるときに注意していることはありますか。

②-1 通院時に注意している点について、該当するもの全てに○をつけてください。

1. 事前に交通機関(時刻や乗り換え)やルートを確認しておく
 ② 通院時にはヘルパー等に同行を依頼する。(一人では外出しない)
 3. 家族などによる送迎(公共交通機関の利用を避ける) 4. 介護タクシーの利用
 5. その他

具体的に書きください：

②-2 治療を受けるときに注意している点について、該当するもの全てに○をつけてください。

① 既往歴(SJSであることなど)を告げる 2. お薬手帳を持参
 3. 自らが受けている医療について分からないことは、医師、薬剤師、看護師などの医療スタッフに聞くようにしている
 ④ その他

具体的に書きください：

PMDAが発行しているカードを見せる

②-3 治療を受けるときに、何か困ったことはありましたか。

① SJSについて、医師が理解していない(又はSJSを知らない)
 2. 薬剤の処方が難しい、または万が一副作用が生じた際に処置ができないと言われた。
 3. その他

具体的に書きください：

次頁へ続く↓

C票

生活状況調査票

年1回3月末記入

3月末日現在

答えられる範囲でお答えください。

(治療状況)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。) 1. 健康被害を受けた本人 2. 本人の意向を聞いて介護者が記入 3. 本人の意向をくみとり介護者が記入 4. 介護者が回答	
① 健康被害を受けた方の治療状況 (SJS等、副作用による健康被害に関する治療についてお答え下さい。)	① 入院中 (いつから入院していますか: から) ② 通院中(往診含む) (月に 回)
② 副作用の疾患以外で治療を受けるときに注意していることはありますか。	
②-1 通院時に注意している点について、該当するもの全てに○をつけてください。 1. 事前に交通機関(時刻や乗り換え)やルートを確認しておく 2. 通院時にはヘルパー等に同行を依頼する。(一人では外出しない) 3. 家族などによる送迎(公共交通機関の利用を避ける) 4. 介護タクシーの利用 5. その他 具体的にお書きください:	
②-2 治療を受けるときに注意している点について、該当するもの全てに○をつけてください。 1. 既往歴(SJSであることなど)を告げる 2. お薬手帳を持参 3. 自らが受けている医療について分からないことは、医師、薬剤師、看護師などの医療スタッフに聞くようにしている 4. その他 具体的にお書きください:	
②-3 治療を受けるときに、何か困ったことはありましたか。 1. SJSについて、医師が理解していない(又はSJSを知らない) 2. 薬剤の処方難しい、または万が一副作用が生じた際に処置ができないと言われた。 3. その他 具体的にお書きください:	

次頁へ続く↓

記入例

②-4 その他注意している点がございましたら、お書き下さい。

(日常生活)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

- ①. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

③ この1年間で困ったことが、

①. 増えた	2. 減った
3. 変わらない	4. 困ったことはない

③-1 困ったことがあった方にお聞きします。それはどんなことですか。

買い物や散歩などで外出する際に、介助者が必要なこと

③-2 誰かに相談しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)(複数回答可)
※選択肢1, 2, 3, 11を選択する場合は、カッコの中の7/7/7/7に○を付けてください。

1. 親 (a 父親 ☒ b 母親)
2. 配偶者 (a 夫 b 妻)
3. 子供 (a 息子 b 娘 c 娘の夫 d 息子の妻)
4. 兄弟姉妹
5. 祖父母
6. 友人・知人
7. 会社の上司・同僚
8. 学校の先生
9. 医師
10. 看護師・保健師
11. 公的機関の職員等 (a 身体障害者更生相談所 b 福祉事務所 c 市(区)役所 d 民生委員 e 身体障害者相談員)
- ☒ 12. 医薬品医療機器総合機構(PMDA)の保健福祉相談窓口
13. 障害者の団体(親、家族の会を含みます)
14. 障害者相談支援センター(相談支援事業者を含む)※1
15. 地域包括支援センター※2
16. その他 ()
17. 相談する人はいない

※1: 障害者相談支援センターとは、在宅や地域で生活する障害のある方やその家族のための相談窓口で、各市区町村に設置されている。

※2: 介護保険法で定められた、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関で、各市区町村に設置されている。

次頁へ続く↓

②-4 その他注意している点がございましたら、お書き下さい。

(日常生活)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

③ この1年間で困ったことが、	1. 増えた	2. 減った
	3. 変わらない	4. 困ったことはない

③-1 困ったことがあった方にお聞きします。それはどんなことですか。

③-2 誰かに相談しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)(複数回答可)
※選択肢1, 2, 3, 11を選択する場合は、カッコの中のアルファベットに○を付けてください。

1. 親 (a 父親 b 母親)
2. 配偶者 (a 夫 b 妻)
3. 子供 (a 息子 b 娘 c 娘の夫 d 息子の妻)
4. 兄弟姉妹
5. 祖父母
6. 友人・知人
7. 会社の上司・同僚
8. 学校の先生
9. 医師
10. 看護師・保健師
11. 公的機関の職員等 (a 身体障害者更生相談所 b 福祉事務所 c 市(区)役所 d 民生委員 e 身体障害者相談員)
12. 医薬品医療機器総合機構(PMDA)の保健福祉相談窓口
13. 障害者の団体(親、家族の会を含みます)
14. 障害者相談支援センター(相談支援事業者を含む)※1
15. 地域包括支援センター※2
16. その他 ()
17. 相談する人はいない

※1: 障害者相談支援センターとは、在宅や地域で生活する障害のある方やその家族のための相談窓口で、各市区町村に設置されている。

※2: 介護保険法で定められた、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関で、各市区町村に設置されている。

次頁へ続く↓

記入例

③-3 解決策はありましたか。	①. 解決した 2. していない
③-4 解決したと答えた方にお聞きします。それはどのような方法で解決しましたか。	
身内の者やヘルパーの方に同伴してもらったことで、解決できた	
③-5 していないと答えた方にお聞きします。それは、どのような方法で解決できると思いますか。	
④ 過去1年間の日常生活の満足度を教えてください。（最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。）	満足 やや満足 やや不満 不満 ①.....②.....③.....④
④-1 その満足度の理由は何ですか。	
外出する際、周囲に対して不安感や不便さを感じることもあるが、そのほかは特に不便さを感じずに過ごせたため	
⑤ 日常生活を満足するために、一番やりたいことは何ですか。最も良く当てはまるものを1つ選んで○を付けてください。	
1. コンサートや映画鑑賞、スポーツ観戦 2. 旅行・外出 ③. 趣味 4. 社会活動・団体活動（患者会の活動も含む） 5. その他	
具体的にお書きください：	
⑤-1 実現できそうですか。 （最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。）	出来る やや出来る あまり出来 出来ない と思う と思う ないと思う と思う ①.....②.....③.....④
⑤-2 その理由は何ですか。	
移動する際の交通機関利用時にサポートしてくれる友人などの気を許せる人が同伴してくれば、実現できると思う	
⑥ 日常生活で工夫したことがありましたらお書きください。	
・家で段差のあるところに目印をつけておく ・危ないので、軽い食器を使うようにしている	

次頁へ続く↓

③-3 解決策はありましたか。	1. 解決した 2. していない
③-4 解決したと答えた方にお聞きます。それはどのような方法で解決しましたか。	
③-5 していないと答えた方にお聞きます。それは、どのような方法で解決できると思いますか。	
④ 過去1年間の日常生活の満足度を教えてください。（最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。）	満足 やや満足 やや不満 不満 ①・……②・……③・……④
④-1 その満足度の理由は何ですか。	
⑤ 日常生活を満足するために、一番やりたいことは何ですか。最も良く当てはまるものを1つ選んで○を付けてください。 1. コンサートや映画鑑賞、スポーツ観戦 2. 旅行・外出 3. 趣味 4. 社会活動・団体活動（患者会の活動も含む） 5. その他 具体的に書きください：	
⑤-1 実現できそうですか。（最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。）	出来る やや出来る あまり出来 出来ない と思う と思う ないと思う と思う ①・……②・……③・……④
⑤-2 その理由は何ですか。	
⑥ 日常生活で工夫したことがありましたらお書きください。	

次頁へ続く↓

記入例

⑦ 健康被害者が今後やってみたい余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などについて、該当するもの全てに○を付けてください。（複数回答可）

- ☒ 1. コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学
- 2. スポーツ教室、大会などへの参加
- 3. 旅行・キャンプ・つりなどの活動
- 4. 趣味の同好会活動
- 5. ボランティアなどの社会活動
- 6. 障害者団体の活動
- 7. 地域活動
- 8. パソコンを利用した社会活動
- 9. 友達との遊び
- ☒ 10. その他（ スキューバダイビングなどのマリンスポーツ ）
- 11. 特にない

⑦-1 その情報はどこから得ますか。該当するもの全てに○を付けて下さい。（複数回答可）

- 1. 新聞
- 2. テレビ
- 3. ラジオ
- 4. 一般図書
- 5. 雑誌
- 6. 録音・点字図書
- 7. 自治体広報
- 8. インターネット・情報サイト
- ☒ 9. 家族・友人
- 10. その他

()

（福祉サービス）

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。（いずれか1つに○を付けてください。）

- ☒ 1. 健康被害を受けた本人
- 2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
- 3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
- 4. 介護者が回答

⑧ 必要な福祉サービスなどについてご意見、ご要望などがありましたら自由にお書きください。

福祉サービスを受けるために必要な書類が多すぎる

次頁へ続く↓

⑦ 健康被害者が今後やってみたい余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などについて、該当するもの全てに○を付けてください。（複数回答可）

1. コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学
2. スポーツ教室、大会などへの参加
3. 旅行・キャンプ・つりなどの活動
4. 趣味の同好会活動
5. ボランティアなどの社会活動
6. 障害者団体の活動
7. 地域活動
8. パソコンを利用した社会活動
9. 友達との遊び
10. その他（ ）
11. 特にない

⑦-1 その情報はどこから得ますか。該当するもの全てに○を付けて下さい。（複数回答可）

- | | |
|----------|------------------|
| 1. 新聞 | 2. テレビ |
| 3. ラジオ | 4. 一般図書 |
| 5. 雑誌 | 6. 録音・点字図書 |
| 7. 自治体広報 | 8. インターネット・情報サイト |
| 9. 家族・友人 | |
| 10. その他 | |
| (|) |

（福祉サービス）

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。（いずれか1つに○を付けてください。）

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

⑧ 必要な福祉サービスなどについてご意見、ご要望などがありましたら自由にお書きください。

次頁へ続く↓

記入例

(必要な情報)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

⑨ 今、必要な情報についてお聞かせください。(該当するもの全てに○を付けてください。また、その内容について具体的に知りたいことをお書きください。)(複数回答可)

1. 福祉サービス
2. 医療
3. 年金
4. 住まい
5. 就職
6. NPO活動など
7. 健康づくり
8. 趣味・娯楽
9. 相談・資産・運用
10. 学校教育・幼稚園・保育園
11. その他 ()
12. 特になし

◎具体的に知りたいこと。

治療に関する情報が知りたい

⑨-1 その情報はどこから得ますか。該当するもの全てに○を付けてください。(複数回答可)

- | | |
|-------------|------------------|
| 1. 新聞 | 2. テレビ |
| 3. ラジオ | 4. 一般図書 |
| 5. 雑誌 | 6. 録音・点字図書 |
| 7. 自治体広報 | 8. インターネット・情報サイト |
| 9. 家族・友人 | |
| 10. その他 () | |

(必要な情報)

◎以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 健康被害を受けた本人
2. 本人の意向を聞いて介護者が記入
3. 本人の意向をくみとり介護者が記入
4. 介護者が回答

⑨ 今、必要な情報についてお聞かせください。(該当するもの全てに○を付けてください。また、その内容について具体的に知りたいことをお書きください。)(複数回答可)

1. 福祉サービス
2. 医療
3. 年金
4. 住まい
5. 就職
6. NPO活動など
7. 健康づくり
8. 趣味・娯楽
9. 相談・資産・運用
10. 学校教育・幼稚園・保育園
11. その他 ()
12. 特にない

◎具体的に知りたいこと。

[

]

⑨-1 その情報はどこから得ますか。該当するもの全てに○を付けてください。(複数回答可)

- | | |
|-------------|------------------|
| 1. 新聞 | 2. テレビ |
| 3. ラジオ | 4. 一般図書 |
| 5. 雑誌 | 6. 録音・点字図書 |
| 7. 自治体広報 | 8. インターネット・情報サイト |
| 9. 家族・友人 | |
| 10. その他 () | |

※記入しないでください。

保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書
(ライ症候群等用)

第4・四半期分(令和4年1月～令和4年3月)

調査票記入者氏名	本人との関係
----------	--------

提出方法

この保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書は、切り離さず基本情報及びA票(毎月記入用)とB票(四半期ごと記入用)とC票(年1回3月末記入用)と併せて4月1日から4月10日の間に返送願います。

問い合わせ先 独立行政法人医薬品医療機器総合機構
健康被害救済部企画管理課
〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-3-2
TEL:03-3506-9460
FAX:03-3506-9439

1. 健康被害者情報
(ふりがな) 氏 名 _____ 性別 男 女

基本情報

大正 _____ 年 月 日
昭和 _____ 平成 _____
自 宅 住 所 _____
(〒 _____)
[電 話 番 号 (_____) _____]
[FAX番号 (_____) _____]

2. 家族構成
同居家族全員を記入してください。 3月末日現在

副作用被害者本人との続柄を お答え下さい。	年 齢	主に介護をしている方に○を 付けてください。
(記入例) 母	(記入例) 60	(記入例) 主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている

3. 障害の種類・程度

級 級

記入例

1. 健康被害者情報
(ふりがな) 氏 名 大正 昭和 平成 年 月 日 性別 男 女
自 宅 住 所 (〒 100-0013)
東京都千代田区千代田 0-0-0

2. 家族構成
同居家族全員を記入してください。 月末日現在

副作用被害者本人との続柄を お答え下さい。	年 齢	主に介護をしている方に○を 付けてください。
(記入例) 母	(記入例) 60	(記入例) 主に介護をしている
父	65	主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている
		主に介護をしている

3. 障害の種類・程度
視 力 障害

1 級 級

A票

毎月記入

生活状況調査票

1 月末日現在

(福祉サービス)

福祉サービスの利用状況についてお聞きます。

各項目の今月の健康被害者の状況に最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けて下さい。

(複数回答可)

①訪問介護	月に 日 (回)	満足 ①.....②.....③.....④.....⑤	やや満足 ②.....③.....④.....⑤	やや不満 ③.....④.....⑤	不満 ④.....⑤	利用していない ⑤
介護内容	上記の理由					
1. 身体介護中心型 2. 生活援助中心型 3. 通院等乗降介助 4. その他 []						
②訪問入浴介護	月に 日 (回)	満足 ①.....②.....③.....④.....⑤	やや満足 ②.....③.....④.....⑤	やや不満 ③.....④.....⑤	不満 ④.....⑤	利用していない ⑤
介護内容	上記の理由					
③訪問看護	月に 日 (回)	満足 ①.....②.....③.....④.....⑤	やや満足 ②.....③.....④.....⑤	やや不満 ③.....④.....⑤	不満 ④.....⑤	利用していない ⑤
看護内容	上記の理由					

④訪問リハビリ	月に 回	満足 ①.....②.....③.....④.....⑤	やや満足 ②.....③.....④.....⑤	やや不満 ③.....④.....⑤	不満 ④.....⑤	利用していない ⑤
リハビリ内容	上記の理由					
⑤居宅療養管理指導	月に 回	満足 ①.....②.....③.....④.....⑤	やや満足 ②.....③.....④.....⑤	やや不満 ③.....④.....⑤	不満 ④.....⑤	利用していない ⑤
指導内容	上記の理由					
⑥通所介護	月に 回	満足 ①.....②.....③.....④.....⑤	やや満足 ②.....③.....④.....⑤	やや不満 ③.....④.....⑤	不満 ④.....⑤	利用していない ⑤
介護内容	上記の理由					
⑦通所リハビリ	月に 回	満足 ①.....②.....③.....④.....⑤	やや満足 ②.....③.....④.....⑤	やや不満 ③.....④.....⑤	不満 ④.....⑤	利用していない ⑤
リハビリ内容	上記の理由					

次頁へ続く↓

生活状況調査票

B票

4半期毎記入

IV期	1月～3月分	令和3年3月末日現在
-----	--------	------------

答えられる範囲でお答えください。
(日常生活)

◎以下の質問に回答していただけた方についてお答え下さい。

(いずれか1つに○を付けてください。)

- 健康被害を受けた本人
- 本人の意向を聞いて介護者が記入
- 本人の意向をくみとり介護者が記入
- 介護者が回答

① 健康被害者が過去3ヶ月間に外出しましたか。(いずれか1つに○を付けて下さい。) (外出には通園・通学を含みます。以下の質問も同じ。)	1. ほぼ毎日 2. 週に4から5回 3. 週に2から3回 4. 月に2から3回 5. まったく外出していない
①-1 外出された方にお聞きします。 主に誰の介助を受けて外出しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)	1. 介助なし 2. 配偶者 3. 親 4. 子供 5. その他の家族 6. 親戚 7. ホームヘルパー 8. 隣人 9. 雇人 10. ボランティア 11. その他 ()
② 外出するうえで、または、外出しようとするうえで、困ることや不満に思うことはありませんか。 1. ない 2. ある	
②-1 困ることや不満に思うことがある。とお答えいただいた方にお聞きします。 (該当するもの全てに○を付けてください。)	1. 介助者がいない 2. 経費がかかる 3. 人の目が気にかかる 4. 人と話をすることが困難 5. 外出に必要な情報が得られない 6. 電車・バス・タクシーなどの乗物の利用が不便 7. 道路や駅などの公共の場所の利用が不便 8. 利用する建物の設備(階段、トイレ、エレベーター等)の利用が不便 9. 人の距離や車に身の危険を感じる 10. 駅などにおける人間関係のトラブル 11. その他 ()

②-2 外出するうえで工夫したことは何ですか。	
③ 健康被害者が過去3ヶ月間に余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加(活動)などを行いましたか。 1. まったくしていない 2. 参加(活動)した	
③-1 参加(活動)した方にお聞きします。それはどのような内容でしたか。 (該当するもの全てに○を付けてください。)	1. コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学 2. スポーツ観戦、大会などへの参加 3. 旅行・キャンプ・つりなどの活動 4. 趣味の同好会活動 5. ボランティアなどの社会活動 6. 障害者団体の活動 7. 地域活動 8. パソコンを利用した社会参加 9. 友達との遊び 10. その他 ()
④ 屋内での生活で工夫したことがありましたらお書きください。	

次頁に続く↓

(主たる介護者の状況)

⑥以下の質問に回答していただける方についてお答えください。
(いずれか1つに○を付けてください。)

1. 主として介護をしている配偶者
2. 主として介護をしている親
3. 主として介護をしている兄弟姉妹
4. その他 ()

⑦お答えいただいた方の健康状態について
(3ヶ月間のあなたの状況に最も長く当てはまる
数字を1つ選んで○を付けてください。)

たいへん 良好 良好 悪い 悪い 悪い
①.....②.....③.....④

⑧-1 その理由は何ですか。

この1年間に介護をしていく中で、

1. 増えた
2. 減った

困ったことが、

3. 変わらない
4. 困ったことはない

⑨-1 困ったことがあった方にお聞きします。それはどんなことですか。

⑨-2 誰かに相談しましたか。(該当するものに○を付けてください。)(複数回答可)
※選択肢1, 2, 3, 11を選択する場合は、カッコの中のアルファベットに○を付けてくだ
さい。

1. 親 (a 父親 b 母親)
2. 配偶者 (a 夫 b 妻)
3. 子供 (a 息子 b 娘 c 娘の夫 d 息子の妻)
4. 兄弟姉妹
5. 祖父母
6. 友人・知人
7. 会社の上司・同僚
8. 学校の先生
9. 医師
10. 看護師・保健師
11. 公的機関の職員等 (a 身体障害者更生相談所 b 福祉事務所 c 市 (区) 役所 d 民生委員
e 身体障害者相談員)
12. 医薬品医療機器総合機構 (PMDA) の保健福祉相談窓口
13. 障害者の団体 (親、家族の会を含む)
14. 障害者相談支援センター (相談支援事業者を含む) ※1
15. 地域包括支援センター※2
16. その他 ()
17. 相談する人はいない

※1: 障害者相談支援センターとは、在宅や地域で生活する障害のある方やその家族のための相談窓
口で、各市町村に設置されている。

※2: 介護保険法で定められた、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメ
ントなどを総合的に行う機関で、各市町村に設置されている。

⑦-3 解決策はありましたか。

1. 解決した
2. していない

⑦-4 解決したと答えた方にお聞きします。それは、どのような方法で解決しましたか。

⑦-5 していないと答えた方にお聞きします。それはどのような方法で解決できると思いますか。

⑧ 主たる介護者を支えるようなものがありましたか。
(公的制度、友人・知人、ボランティア等)

1. あった
2. なかった

⑧-1 それは具体的にどのようなものですか。

⑨ 介護者等が過去3ヶ月間に余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会参加 (活動) などをしてし
たか。

1. まったくしていない
2. 参加 (活動) した

⑨-1 参加 (活動) した方にお聞きします。それはどのような内容でしたか。
(該当するものに○を付けてください。)

1. コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学
2. スポーツ教室、大会などへの参加
3. 旅行・キャンプ・つりなどの活動
4. 趣味の同好会活動
5. ボランティアなどの社会活動
6. 障害者団体の活動
7. 地域活動
8. パソコンを利用した社会参加
9. 友達との遊び
10. その他 ()

⑩介護をしていく中で、新しい発見や気分転換などが
はかれましたか。

1. あった
2. なかった

⑩-1 あったと答えた方にお聞きします。それはどのようなこと又はどのようなときですか。

この報告書は、調査対象者が送られる範囲で回答し、切り離さず生活状況調査票A票（毎月記入用）、B票（四半期毎記入用）及びC票（年1回3月末記入用）と併せて、4月1日から4月12日までの間に提出してください。

記入例

231

生活状況調査票

C票

年1回3月末記入

3月末日現在

答えられる範囲でお答えください。
(治療状況)

⑥以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)	
1. 健康被害を受けた本人 2. 本人の意向を聞いて介護者が記入 3. 本人の意向をくみとり介護者が記入 4. 介護者が回答	
① 健康被害を受けた方の治療状況	① 入院中 (いつから入院していますか： 月 日 から 月 日 回) ② 通院中 (往診含む)
② 副作用の疾患以外で治療を受けるときに注意していることはありますか。	
②-1 通院時に注意している点について、該当するもの全てに○を付けてください。 1. 事前に交通機関 (時刻や乗り換え) やルートを確認しておく 2. 通院時にはヘルパー等同行を依頼する (一人では外出しない) 3. 家族などによる送迎 (公共交通機関の利用を避ける) 4. 介護タクシーの利用 5. その他 【 具体的にお書きください： 】	
②-2 治療を受けるときに注意している点について、該当するもの全てに○を付けてください。 1. 既往歴を告げる 2. お薬手帳を持参 3. 自らが受けている医療について分からないことは、医師、薬剤師、看護師などの医療スタッフに聞くようにしている 4. その他 【 具体的にお書きください： 】	
②-3 その他注意している点	

(日常生活)

⑥以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)			
1. 健康被害を受けた本人 2. 本人の意向を聞いて介護者が記入 3. 本人の意向をくみとり介護者が記入 4. 介護者が回答			
③ この1年間で困ったことが、	1. 増えた 3. 変わらない	2. 減った 4. 困ったことはない	
③-1 困ったことがあった方にお聞きします。それはどんなことですか。			
③-2 誰かに相談しましたか。(該当するもの全てに○を付けてください。)(複数回答可) ※選択肢1, 2, 3, 11を選択する場合は、カッコの中の1つに○を付けてください。 1. 親 (a 父親 b 母親) 2. 配偶者 (a 夫 b 妻) 3. 子供 (a 息子 b 娘 c 娘の夫 d 息子の妻) 4. 兄弟姉妹 5. 祖父母 6. 友人・知人 7. 会社の上司・同僚 8. 学校の先生 9. 医師 10. 看護師・保健師 11. 公的機関の職員等 (a 身体障害者更生相談所 b 福祉事務所 c 市 (区) 役所 d 民生委員 e 身体障害者相談員) 12. 医薬品医療機器総合機構 (PMDA) の保健福祉相談窓口 13. 障害者の団体 (親、家族の会を含みます) 14. 障害者相談支援センター (相談支援事業者を含む) ※1 15. 地域包括支援センター※2 16. その他 () 17. 相談する人はいない ※1：障害者相談支援センターとは、在宅や地域で生活する障害のある方やその家族のための相談窓口で、各市区町村に設置されている。 ※2：介護保険法で定められた、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関で、各市区町村に設置されている。			
③-3 解決策はありましたか。	1. 解決した	2. していない	
③-4 解決したと答えた方にお聞きします。それはどのような方法で解決しましたか。			
③-5 していないと答えた方にお聞きします。それは、どのような方法で解決できていると思いますか。			

次頁へ続く↓

④ 過去1年間の日常生活の満足度を数えてください。(最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。)	満足 やや満足 やや不満 不満 ①・.....②・.....③・.....④
④-1 その満足度の理由は何ですか。	
⑤ 日常生活を満足するために、一番やりたいことは何ですか。最も良く当てはまるものを1つ選んで○を付けてください。	
1. コンサートや映画鑑賞、スポーツ観戦 2. 旅行・外出 3. 趣味 4. 社会活動・団体活動 (患者会の活動も含む) 5. その他 具体的に書きください:	
⑤-1 実現できそうですか。(最も良く当てはまる数字を1つ選んで○を付けてください。)	出来る やや出来る あまり出来 出来ない と思う と思う ないと思う と思う ①・.....②・.....③・.....④
⑤-2 その理由は何ですか。	
⑥ 日常生活で工夫したことがありますか。書きください。	
⑦ 健康被害者が今後やってみたい余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などについて、該当するものの全てに○を付けてください。(複数回答可)	1. コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学 2. スポーツ観戦、大会などへの参加 3. 旅行・キャンプ・つりなどの活動 4. 趣味の同好会活動 5. ボランティアなどの社会活動 6. 障害者団体の活動 7. 地域活動 8. パソコンを利用した社会活動 9. 友達との遊び 10. その他 () 11. 特になし
⑦-1 その情報はどこから得ますか。該当するもの全てに○を付けて下さい。(複数回答可)	1. 新聞 2. テレビ 3. ラジオ 4. 一般図書 5. 雑誌 6. 録音・点字図書 7. 自治体広報 8. インターネット・情報サイト 9. 家族・友人 10. その他 ()

(福祉サービス)	
⑥以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)	1. 健康被害を受けた本人 2. 本人の意向を聞いて介護者が記入 3. 本人の意向をくみとり介護者が記入 4. 介護者が回答
⑧ 必要な福祉サービスなどについてご意見、ご要望などがありましたら自由にお書きください。	
(必要な情報)	
⑥以下の質問に回答していただける方についてお答えください。(いずれか1つに○を付けてください。)	1. 健康被害を受けた本人 2. 本人の意向を聞いて介護者が記入 3. 本人の意向をくみとり介護者が記入 4. 介護者が回答
⑨ 今、必要な情報についてお聞かせください。(該当するもの全てに○を付けてください。また、その内容について具体的に知りたいことをお書きください。)(複数回答可)	1. 福祉サービス 2. 医療 3. 年金 4. 住まい 5. 就職 6. NPO活動など 7. 健康づくり 8. 趣味・娯楽 9. 相談・支援・運用 10. 学校教育・幼稚園・保育園 11. その他 () 12. 特になし ◎具体的に知りたいこと。
⑨-1 その情報はどこから得ますか。該当するもの全てに○を付けてください。(複数回答可)	1. 新聞 2. テレビ 3. ラジオ 4. 一般図書 5. 雑誌 6. 録音・点字図書 7. 自治体広報 8. インターネット・情報サイト 9. 家族・友人 10. その他 ()

記入要領
この報告書は、調査研究対象者が答えられる範囲で回答し、切り離さず、生活状況調査票A票（毎月記入用）、B票（四半期毎記入用）及びC票（年1回3月末記入用）と併せて、4月1日から4月12日までの間に提出してください。

記入例

生活状況調査票

3月末現在

1. 調査対象者

2. 調査対象者の氏名

3. 調査対象者の生年月日

4. 調査対象者の性別

5. 調査対象者の職業

6. 調査対象者の収入

7. 調査対象者の支出

8. 調査対象者の資産

9. 調査対象者の負債

10. 調査対象者のその他の事項

1. 調査対象者の氏名

2. 調査対象者の生年月日

3. 調査対象者の性別

4. 調査対象者の職業

5. 調査対象者の収入

6. 調査対象者の支出

7. 調査対象者の資産

8. 調査対象者の負債

9. 調査対象者のその他の事項

1. 調査対象者の氏名

2. 調査対象者の生年月日

3. 調査対象者の性別

4. 調査対象者の職業

5. 調査対象者の収入

6. 調査対象者の支出

7. 調査対象者の資産

8. 調査対象者の負債

9. 調査対象者のその他の事項

VII 健康状態報告書（診断書様式）

※記入しないでください。

健康状態報告書

提出方法

この健康状態報告書は10月1日から12月末日までの間に病院又は診療所で証明してください。

なお、保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書と併せて1月1日から1月10日の間に返送願います。

問い合わせ先 独立行政法人医薬品医療機器総合機構
健康被害救済部企画管理課
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-2
TEL 03-3506-9460
FAX 03-3506-9439

D票

(S J S 医師記入用)

年1回記入

健康状態報告書

患者氏名		男・女	生年月日	昭和 平成	年 月 日	カルテNo.
------	--	-----	------	----------	-------	--------

(測定日： 年 月 日)		
① 視 力 (視力測定の際の照度は200ルクスとします。)		
	裸 眼	矯 正
右 眼		
左 眼		
② 所 見 (必要なときは適宜図示してください。)		
前 眼 部 所 見	中 間 透 光 体 所 見	眼 底 所 見
右	右	右
左	左	左

③ 視 野 (傷病から視野障害を測定する必要があると認めた場合には測定してください。)	
左	右

④ QOL（生活の質）の改善のために医学的にできることについてご意見がありましたら具体的にお書きください。（眼科医の視点からのQOL改善について）

⑤ その他に呼吸機能障害、運動機能障害等の症状がある方の現況（眼科医の視点から）

令和 年 月 日

病院又は診療所の名称

診療担当科名
医 師 氏 名

所 在 地 〒

電 話 番 号

※記入しないでください。

健康状態報告書

提出方法

この健康状態報告書は10月1日から12月末日までの間に病院又は診療所で証明してください。

なお、保健福祉事業の一環として実施する調査研究事業報告書と併せて1月1日から1月10日の間に返送願います。

問い合わせ先 独立行政法人医薬品医療機器総合機構
健康被害救済部企画管理課
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-2
TEL 03-3506-9460
FAX 03-3506-9439

D票

(ライ症候群医師記入用)

年1回記入

健康状態報告書

患者氏名		男・女	生年月日	昭和 平成	年 月 日	カルテNo.
------	--	-----	------	----------	-------	--------

① 一般身体所見として特記すべき事項

② 知的障害に関わる所見

③ 神経学的所見

- 起立：可能 ・ 介助があれば可能 ・ 不可能
- 歩行：可能 ・ 介助があれば可能 ・ 不可能
- 四肢の運動機能：自発運動可能 ・ 自発運動不可能
- 深部腱反射：正常 ・ 亢進 ・ 低下
- 筋トーン：正常 ・ 亢進 ・ 低下
- その他の神経学的所見

④ 日常生活状況（現在入院中・入所中・その他）

ア 全般的状況について（家庭及び家庭以外の者と対人関係についても具体的に記載してください。）

イ 知的障害に関連した日常生活能力について（該当するものを選んで、いずれか1つを○で囲んでください。）ここで言う知的障害とは、病的体験・欠陥・痴呆・知能遅滞・性格変化等をいいます。

- (ア) 社会生活は普通にできる。
- (イ) 家庭内での日常生活は普通にできるが、社会生活はできない。
- (ロ) 家庭内での単純な日常生活はできるが、時に応じて介護が必要である。
- (エ) 身のまわりのことはかろうじてできるが、適当な介護が必要である。
- (オ) 身のまわりのことは全くできない。

ウ 運動機能障害に関連した日常生活能力について（該当するものを選んで、いずれか一つを○で囲んでください。）

- | | |
|------------------------------|--|
| ●食事 | ひとりでできる・介助があればできる・経管栄養等 |
| ●用便（月経）の始末 | ひとりでできる・介助があればできる・オムツ |
| ●入浴・洗面・衣服の着脱 | ひとりでできる・介助があればできる |
| ●簡単な買物 | ひとりでできる・介助があればできる・できない |
| ●家族との話 | 通じる ・少しは通じる ・通じない |
| ●家族以外の者との話 | 通じる ・少しは通じる ・通じない |
| ●刃物・火等の危険 | わかる ・少しはわかる ・わからない |
| ●戸外での危険（交通事故等）から身を守る | 守れる ・不十分ながら守れる・守れない |
| ●その他（ ） | |

⑤ QOL（生活の質）の改善のために医学的にできることについてご意見がありましたら具体的にお書きください。

令和 年 月 日

病院又は診療所の名称

診療担当科名
医 師 氏 名

所 在 地 〒

電 話 番 号

Ⅷ 自由欄に記載されたお悩み事項についての F A Q

自由欄に記載されたお悩み事項についてのFAQ

○介護関係

・ 仕事でとても忙しい上に、つかれて帰ってきても介助をしなくてははいけない。
⇒お仕事に加え、日々介助のご負担が重くかかっていることのご苦労をお察しいたします。あまりに負担が大きい場合、お一人で抱えず周囲のサポートを受けることをご検討されてはいかがでしょうか。まずは何が一番たいへんだと感じておられるか、整理してみることから始めてみるのも一つの方法かと思います。

・ 仕事の都合で介助できないことがある
・ 急な用事の際、すぐに代わりの介護者が見つからない。
・ 介護者の具合が悪い時（インフル等）でも頼ることができるサービスを教えてほしい。

⇒お仕事や急用、ご病気などで介助ができなくなるのは仕方のないことです。日頃からピンチヒッターを依頼する準備をなさっておくと、介助をなさる方のみならず、受ける方も安心のはずです。ご年齢や障害の程度に応じてサービスの枠が異なりますので、お住まいの自治体にお問い合わせください。

・ 私が利用出来る福祉サービスは主に同行援護であるが依頼等での利便性を良くしてほしい

⇒同行援護の依頼に際して利便性がよくないのですね。時間調整が難しい、あるいはヘルパーの手立てが容易でないといった内容でしょうか。事業所により利便性の差があるようです。具体的な内容について、自治体の障害担当窓口にご相談されてはいかがでしょうか。

・ ガイドヘルプサービスの充実や視力障害者に特に配慮した老令者住宅を充実してほしい。

⇒ご指摘の通り、ガイドヘルプサービスの充実はより一層進んでほしいところです。視力障害者に特に配慮した高齢者住宅についてですが、昨今、一般的な介護保険適用の高齢者施設に、視力障害者が入所されているケースは多いようです。近隣の施設に視力障害が入所されているか、情報収集されてみるのも良いかもしれません。

・ 介護について、どんなサービスを利用できるか情報がほしい

⇒介護については、介護保険の枠、あるいは障害者支援の枠において、外出支援（同行援護や移動支援など）・生活支援（身体介護や、洗濯掃除など家事援助）・施設介護（施設入所や短期入所、デイサービスやリハビリテーション）

など多彩なメニューが用意されています。何のサービスを希望されるかまず整理されてはいかがでしょうか。

- ・ 親が亡くなった後の調査協力本人に対しての支援について教えてほしい。
⇒社会福祉協議会で行なっている「日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）」や、各自治体で行なわれている障害者サービス「意思疎通支援」などを利用されてはいかがでしょうか。

【その他参考】

既に受給されている方もいらっしゃると思いますが、SJSが発症し後遺症が残った場合は、障害者認定を受けることをお勧めします。障害者認定には障害の程度によって段階があり、その段階によって障害基礎年金、障害厚生年金など、様々な保護を受けることができます。

代表的なものとして

- ・ 国民年金(障害基礎年金)
- ・ 厚生年金保険(障害厚生年金)
- ・ 医療費の軽減
- ・ 補装具の交付
- ・ 交通機関の割引

などがあります。また、他にも自治体によって受けられる保護もありますので、詳しくは各自治体までお問合せください。（SJS患者会HPから）

介護や介助を必要とされる場合、ご年齢やご状況により、障害福祉サービスや介護保険制度が利用できる場合があります。まずはお住まいの市区町村にご相談ください。代表的なサービスとしては、居宅介護（ホームヘルプ）、重度訪問介護、同行援護（視覚障害の方の外出の際の情報提供や介護）、短期入所（ショートステイ）などがあります。

- ・ 障害福祉サービス

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaishahukushi/service/naiyou.html

- ・ 介護保険サービス

<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000608309.pdf>

◆介護保険と障害福祉で同じサービスがある場合（例：ホームヘルプなど）、65歳以上の方は原則として介護保険サービスの利用が優先です。

○外出に対する対応

- ・ 旅行をサポートしてくれるようなサービスがほしい。
- ⇒移動支援サービスのほか、ボランティア団体でそのような企画をしていることもあるようです。一度ボランティアセンター等に相談されてはいかがでしょうか。

○日常生活に関すること

- ・ 手紙や公的機関からのお知らせ・通知の内容を確認することが難しい。
- ⇒公的機関からのお知らせについては、電子メールでも送信してもらうようご依頼されてはいかがでしょうか。電子メールであればコンピュータや電話機が読むことが可能になると考えます。

【その他参考】

少子高齢化対策として地域内で高齢者を支える地域包括ケアシステムがあります。高齢者が要介護になっても住み慣れた地域で過ごせるように、「住まい」「介護」「医療」「予防」「生活支援」といった必要なサービスを、地域一帯となって提供する体制を目指しています。2025年をメドに整備が進められていますが、この地域の中核機関として設置されているのが地域包括支援センターです。地域包括支援センターは、在宅介護支援センターの運営法人や社会福祉法人、社会福祉協議会、医療法人、民間企業、NPOなどが市町村から委託を受けて運営しています。各センターには、保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャーの3つの専門職、またはこれらに準じる者が必ず配置されています。「介護予防ケアマネジメント」「包括的・継続的ケアマネジメント」「総合相談」「権利擁護」の4つを業務の柱として、地域に住む高齢者に加え、その支援や介護に携わっている方々を支える役割を果たしています。地域包括支援センターは、前述の通り、高齢者のためのよろず相談所のような性格を持っています。例えば、「近所の一人暮らしのおじいちゃんの姿を最近、見ないんだけど」「お隣の老夫婦の家にゴミがたまって困る」といったように、地域住民からの相談も受け付けています。もちろん、要介護認定の申請や、介護サービスの手続き、介護サービスの事業所の紹介など、介護サービスにかんする最初の窓口としても機能しています。責任主体は各自治体になりますので、お住まいの市町村で設置の有無等を確認の上、ご活用下さい。（厚生労働省等のHPから）

- ⇒iPadを利用して意思ツールとして使うと便利。（調査研究の自由記載から）
- ⇒ラジオから日常の情報を得る。（調査研究の自由記載から）
- ⇒家で段差のあるところに目印をつけておく。身の回りに必要なものを揃える。（調査研究の自由記載から）
- ⇒危ないので軽い食器を使うようにしている。（調査研究の自由記載から）

⇒最近は家庭内でのA I スピーカー利用の応用で音声指示により家電リモコンでエアコン操作やネット動画視聴、地方の放送局の視聴などがとても容易になり、情報も入手しやすくなっている。（調査研究の自由記載から）

⇒食材を切る時に見やすくなる為、黒いまな板を使っている。（調査研究の自由記載から）

○経済的な不安

・ 就業していな為、一定の収入がなく障害者基礎年金や機構からの謝金だけで生活していくしかない。

⇒就労移行支援で訓練中のビジネスP Cスキルを生かして、企業内ヘルスキーパーへの就職をした。（調査研究の自由記載から）

⇒就業を希望される場合、障害者雇用などの制度を利用して、障害や体調への配慮を受けながら働くことができる場合があります。ハローワークの専門援助窓口や障害者就業・生活支援センターなどへご相談ください。

障害者雇用のために必要な障害者手帳の取得については主治医や各市区町村の窓口へご相談ください。

○その他

・ 映画で視力障害者用の解説（音声）サービス、プールでの助泳者派遣を行ってほしい。

⇒市区町村で行なっている、障害者向けの、意思疎通支援、移動支援サービスが利用できないか、ご確認されてはいかがでしょうか。

・ 将来、グループホームに入りたいけど無いです。簡単にはつくれない。

⇒おっしゃる通り、簡単にはグループホームは作れないと考えます。お住まいの市区町村にグループホームがない場合、近隣の市区町村にないか、確認されてはいかがでしょうか。

・ 視力障害者が受けられるサービスを教えてほしい。

⇒まずはお住まいの自治体にご相談ください。代表的なサービスとしては、居宅介護（ホームヘルプ）、重度訪問介護、同行援護（視覚障害の方の外出の際の情報提供や介護）、短期入所（ショートステイ）などがあります。

・ おなじ仲間がどうやって暮しているのか情報共有したい。

⇒患者会にご相談されてはいかがでしょうか。

（全体に対して：よろしければ「副作用被害救済制度保健福祉相談窓口」もご利用ください。患者様およびそのご家族からの精神的なケアや福祉面でのご相談を当機構の

精神保健福祉士または社会福祉士が承っています。
(0120-709-566) 平日 9 時～ 5 時